

近でやや厚くなる、肩部に稜を持つ、稜が退化して殆どない、口縁部内面に沈線を周回させたり段状を呈する、口縁部が単純である、の特徴をもつ。坏身（5-7）は、平坦で浅い、器肉が均一である、口縁がやや短く直線的に立ち上がり単純である、の特徴をもつ。高坏は、口縁部との境付近に稜を持つ坏部（5-8）と大きく広がり端部外面に平坦面を持ち、沈線がない脚部（5-9）である。蓋坏・高坏のこれらの特徴は、4号窯跡出土のそれとほぼ同じである。（5-10）は提瓶の肩部で、粘土紐を貼り付けた退化した把手を付けている。（5-11）は短頸壺の肩部で、外面にカキメを施す。（5-12）は壺の底部で、外面に範削りを施し底を平坦に仕上げている。（5-13, 14）は甕の胴部で、外面には格子状のタタキを、内面には当て具痕を施す。（5-15, 16）は横瓶と思われる底部片で、外面にはタタキの後に縦方向のカキメを、内面には当て具痕を施す。

(3) 6号窯跡

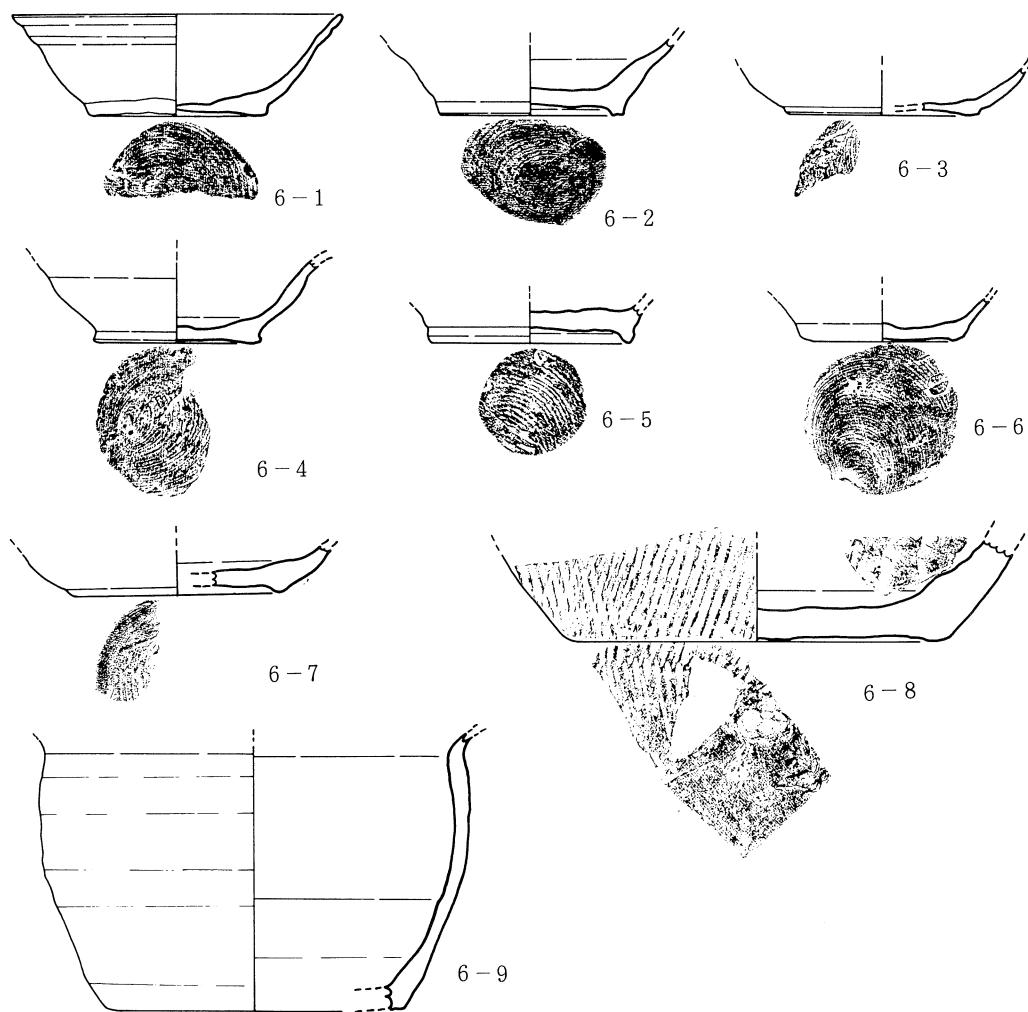
ア、現 状

本窯跡は、1号土壙前面の“灰原層”上に窯体上半部分の天井部、床面がほぼ完全な状態で検出された。つまり後で詳述する灰原調査区のB・C-5～9区で、北から南へ急速に落ち込む形で検出された“灰原層”的東端に位置を占める。天井部は崩落して残存長は短いが、4・5号窯跡に比して床面傾斜角度は急である。調査の過程で、湧水・降雨のために十分な調査をおこなえなかった。

イ、窯構造と層位

4・5号窯跡の発見に伴い、調査区を再編成したことは既に述べた。特に中央の排水路より北側に設定したB・C-5～9区で概ね共通した特徴が認められた。それは表土の直下に一様に7～15cmの厚みで遺物を伴う黒色炭化物層（後述する“2次堆積層内の灰原層”）の堆積があること、さらには、その下に周囲の崖段面の削平により客土されたとみられる黄褐色礫混合土層（後述する“搅乱層”）が認められる点である。これらの調査区で北から南へ急速に落ち込む形で検出された“灰原層”は既述した二つの層よりさらに何層かの堆積土層を経て認められるものである。

本窯跡はこれらの土層堆積状況を示す灰原調査区の東端部（C-5区）に位置する。検出時で既に天井は崩落していた。その北端部分は現地表面のレベルで検出され、そこから傾斜角度24～26.5°をもって南へ下降する。規模は床面残存長2.75m、床面最大幅1.5mを計る。床面幅は南端部で1.5m、北端部で1mを計り平面形は北に向かうにつれて徐々に狭まっていく。焚き口・燃焼部は表土より1.5m掘り下げたところで水没して、検出できなかった。床面の南端で直径1.2m程の半円状にずり落ちた箇所が認められたこと、さらに



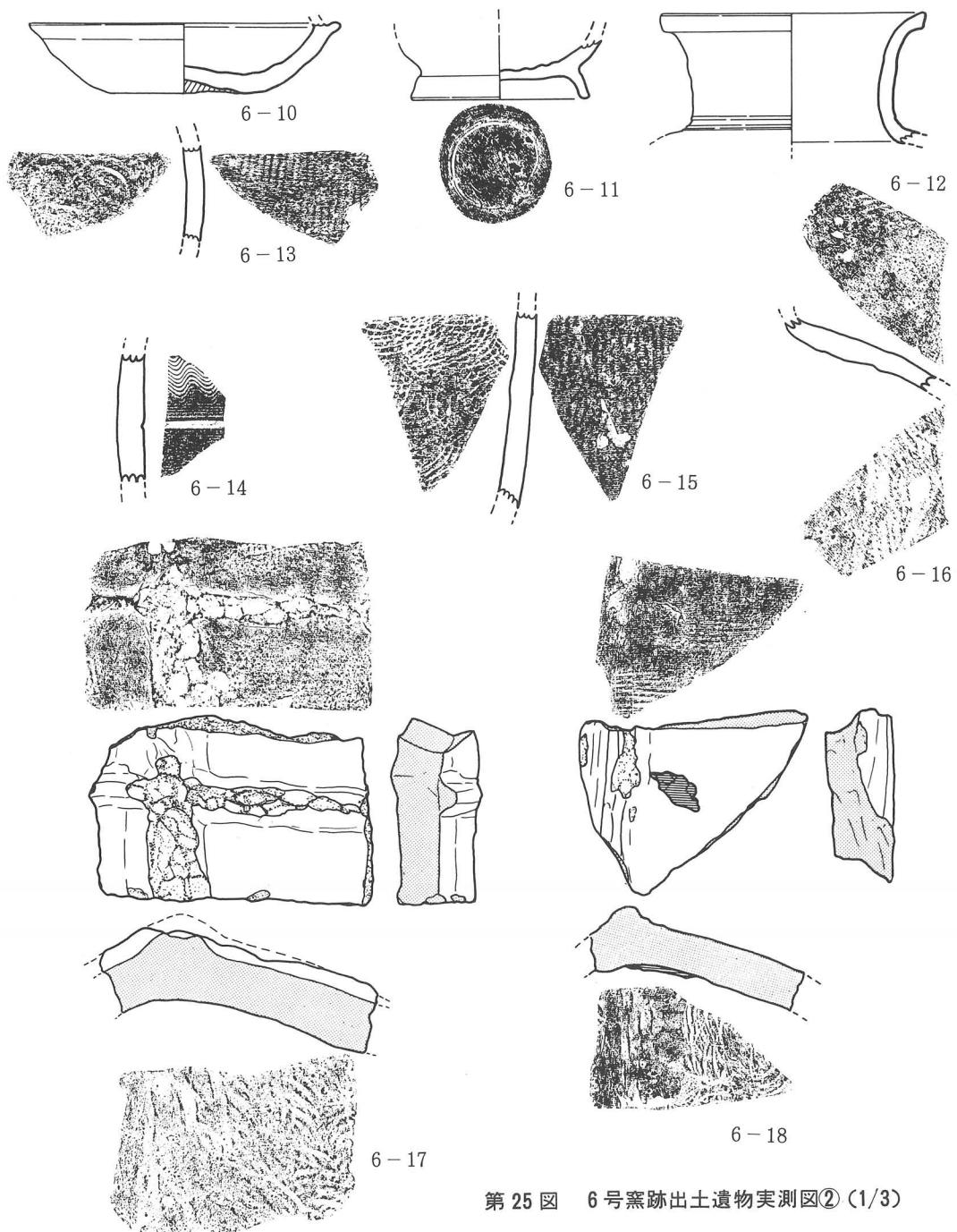
第24図 6号窯跡出土遺物実測図①(1/3)

水没箇所でも窯体片が確認されたことから、床面はさらに続いていると判断した。

主軸縦断面を観察すると、残存する床面の南端より北へ60cm行った地点で床面傾斜角度の変換が見られる。この部分の床面傾斜角度が19°であるのに対し、この点をすぎると24~26.5°となる。このことから、これが燃焼部と焼成部を画する傾斜変換点と考えることができよう（第23図）。

天井部

天井部は、還元状態を示す濃青灰色を呈する部分と暗赤褐色の部分とに分けられた。南側半分では崩落時そのままの状態で検出されたが、北側では崩落時に側壁が倒壊して



第25図 6号窯跡出土遺物実測図②(1/3)

転落したように天井部の上下が逆転していた。

床面の下層

床面の直下では熱変化を受けた層（暗赤褐色土）が最大7cmの厚みで窯体床面を包むよ

うにU字状に、またその下側には後述する“灰原より下の堆積土層”が認められた。つまり土層の観察によれば、地山の上に“灰原より下の堆積土層（明褐色土）”・“灰原層”が順次堆積した後、その東端に本窯跡は構築された。そしてその際、“灰原層”的一部を削平していることが分かった。

焼成部

主軸長2m、床面最大幅1.5m、床面傾斜角度24~26.5°を計る。床面は厚み7~10cmで一重であった。全体的に若干の側壁の立ち上がりをみることができる。

煙道部

本窯跡は残存する床面の北端部で、南側に比してその床面幅を狭めていた。しかし第23図に示すように、この部分では窯体床面はその傾斜を若干失って、これをU字状に包む熱変化を受けた暗赤褐色土、さらにその下の地山とが同じレベルで観察できた。このことは、北側の崖断面の削平に伴って本窯跡の煙道部分も消失したのではないかと考えることもできるが、詳細は不明である。

ウ、出土遺物

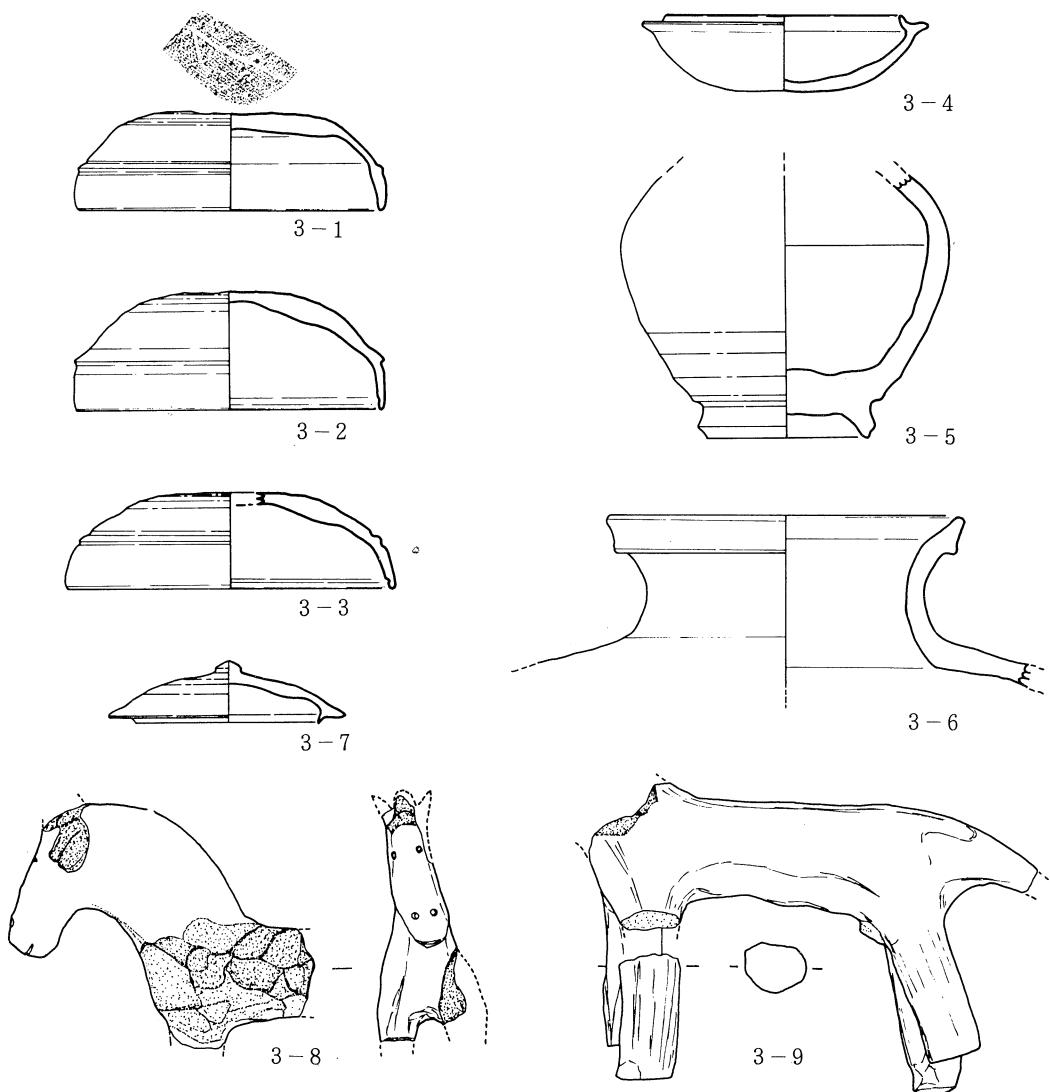
本窯跡から出土した遺物は破片で、壺身が1片、糸切り底の平底壺が5片、糸切り底の高台付壺が4片、甕が18片、壺と陶棺が各7片、鍋が1片、の計43片を数えた。このうち実測できたのは、糸切り底の平底壺・糸切り底の高台付壺・甕が各4点、壺と陶棺が各2点、壺身と鍋が各1点、の計18点であった。そして、密着で非二次の遺物は(6-1~4, 6, 14)の計6点、密着で二次の遺物は(6-9~13, 15, 16)の計7点で、浮きで非二次の遺物は(6-5, 7)の2点、浮きで二次の遺物は(6-8, 17, 18)の3点、であった(第24・25図)。しかしこのうち第25図に示す遺物は、それらの出土状態や下に述べる諸特徴から本窯跡本来の遺物ではないと判断した。

壺身(6-10)は立ち上がりが欠損しているが、4・5号窯跡出土のそれと同じ特徴を持つ。回転糸切り底の平底壺は、(6-1)が底部から口縁部まで残存しており、口径13cm、器高4cmを計る。底部はやや厚みのある台状を呈し、体部に若干の丸味を持ち、口縁端部がやや外反気味に立ち上がる。体部内外面に回転ナデを施す。(6-3, 4)は口縁部を欠損しているが、(6-1)と形態的・技法的に同じ特徴を持つ。(6-6)は底部から直線的に立ち上がると思われる回転糸切り底の平底壺である。回転糸切り底の高台付壺は、底部外周縁に断面三角形の低い高台を持ち若干の丸味を持ちながら立ち上がるものの(6-2, 5, 7)と外方に張り出す高くがっしりとした高台を底部に持ち内弯しながら立ち上がるものの(6-11)とに分かれる。(6-8)は外面に幅が広く粗い平行タタキを施す壺の

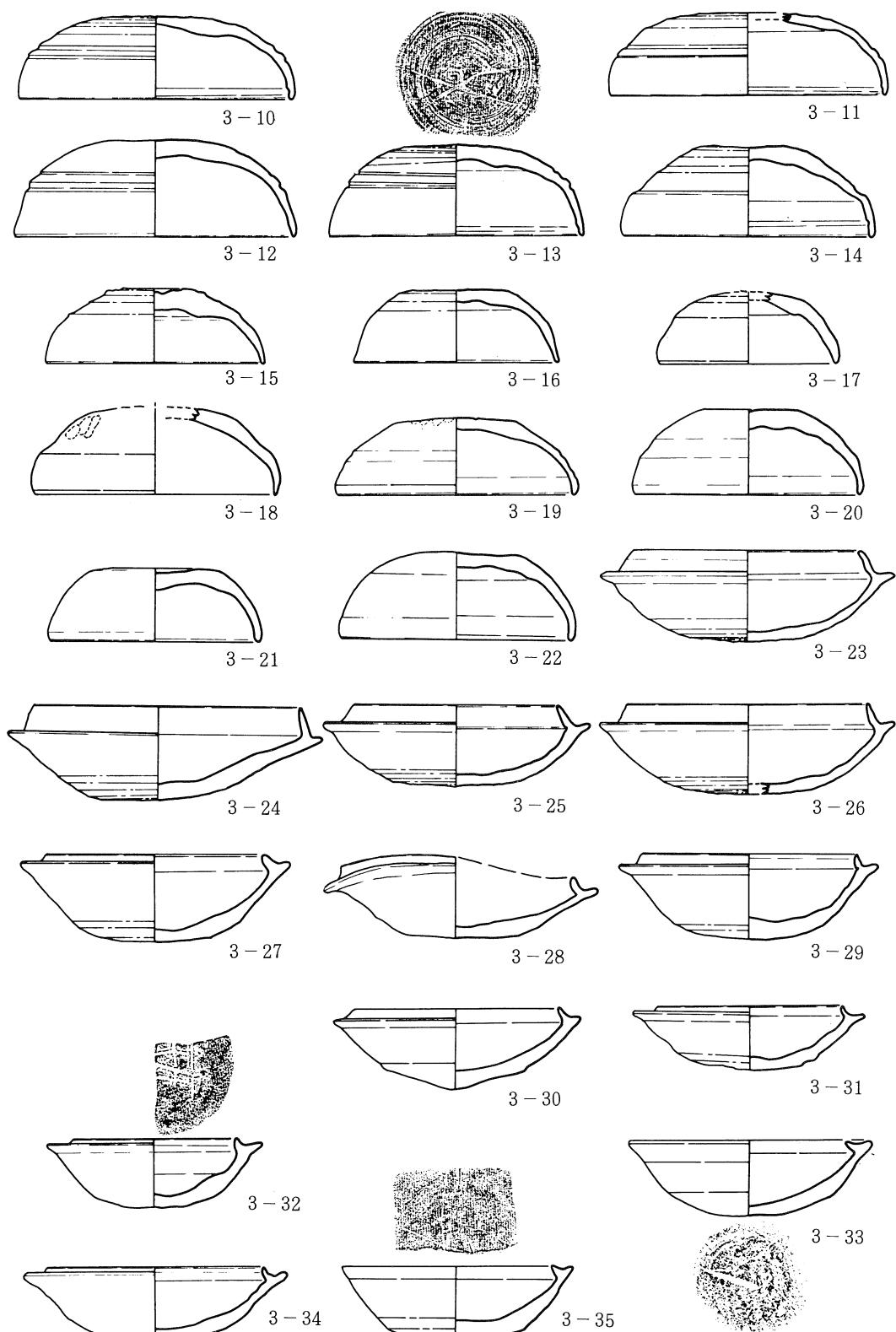


第26図 3号土壤実測図

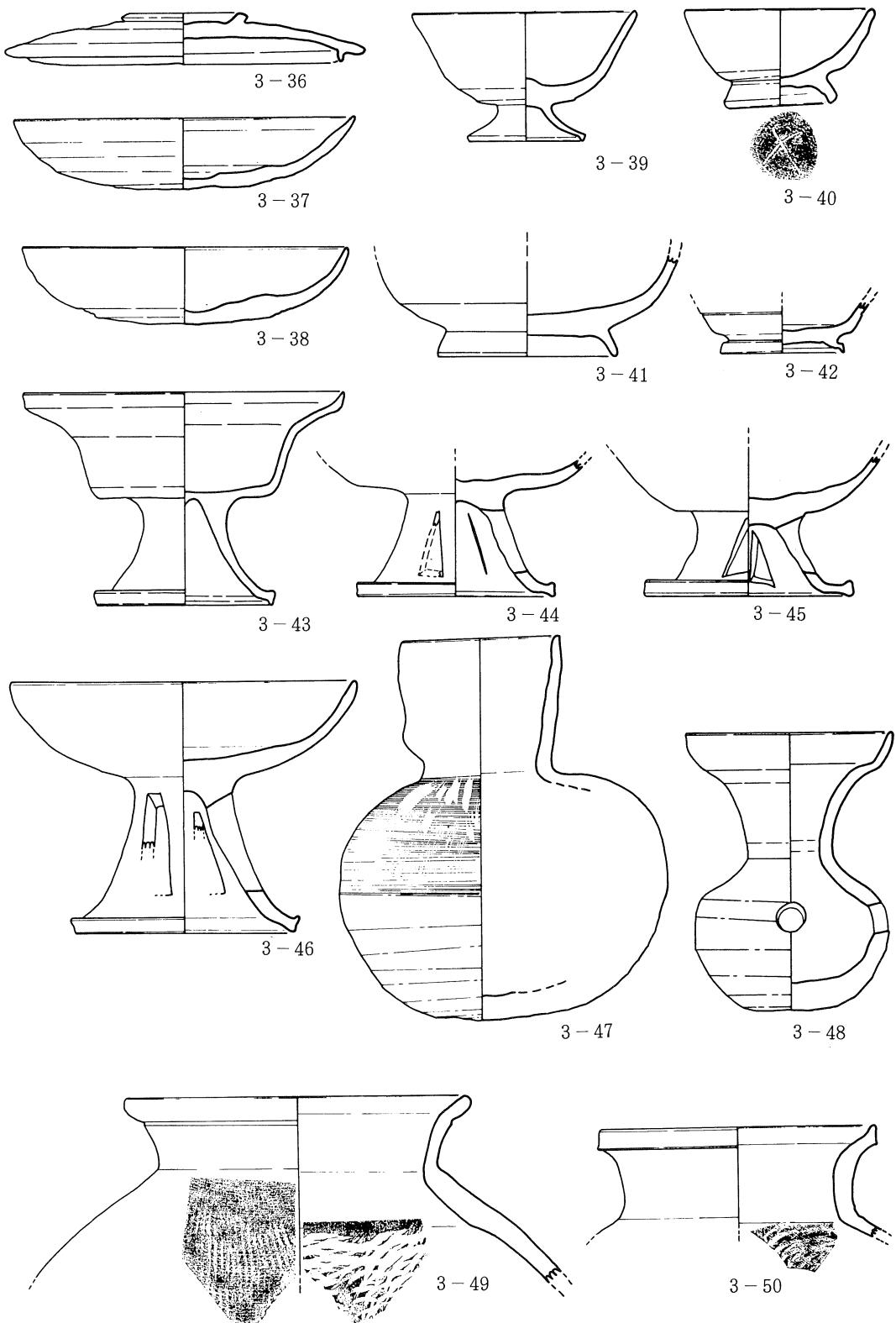
底部で、平底から外方に立ち上がる。(6-12)は、直立気味に立ち上がる頸部に外反する口縁部を持つ壺である。内外面に回転ナデを施す。(6-14)は甕の頸部で、一条の沈線の上に丁寧な波状文を施す。(6-13, 15, 16)は甕の肩・胴部で、外面に格子状のタタキが、内面に当て具痕が認められる。(6-17, 18)は陶棺の蓋で、軒の部分である。突帯状の稜を有するが二次焼成によりその一部が剥離している。外面に平行タタキが認められる。これ以外の陶棺片も全て二次焼成を受けており、流出した熔塊に熔着したものが多い。片面に砂粒が付着し、さらに器面が剥離しており、窯道具(焼き台)として用いられていた可能性が強い。鍋(6-9)は頸部から底部にかけて残存し、底部は平底と思われる。外面は



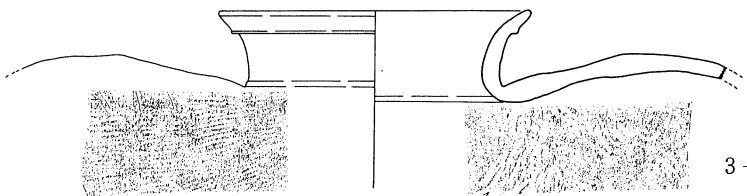
第27図 3号土壙出土遺物実測図①(1/3)



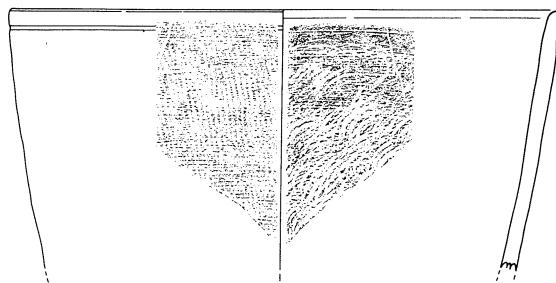
第28図 3号土壤出土遺物実測図②(1/3)



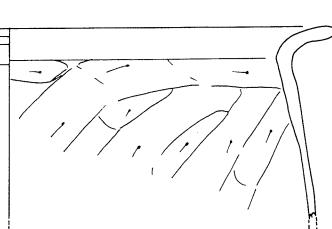
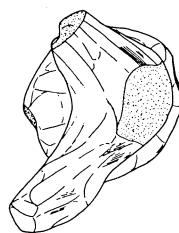
第29図 3号土壤遺物実測図③(1/3)



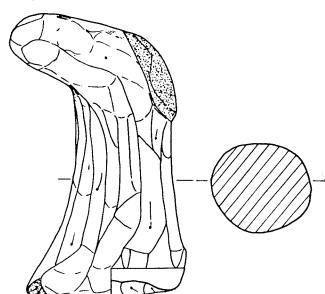
3-51



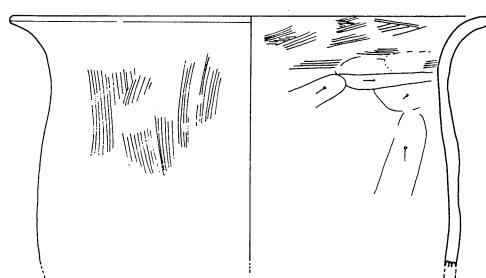
3-52



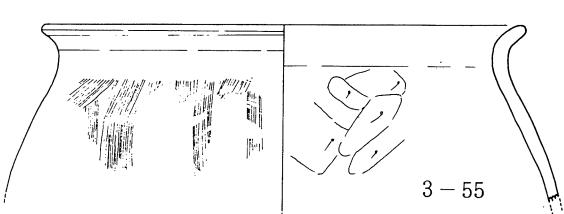
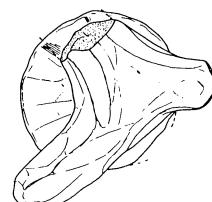
3-53



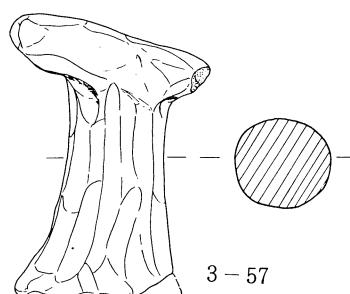
3-56



3-54



3-55



3-57

第30図 3号土壙出土遺物実測図④(1/5)

箇削りやナデが、内面はナデが施されている。

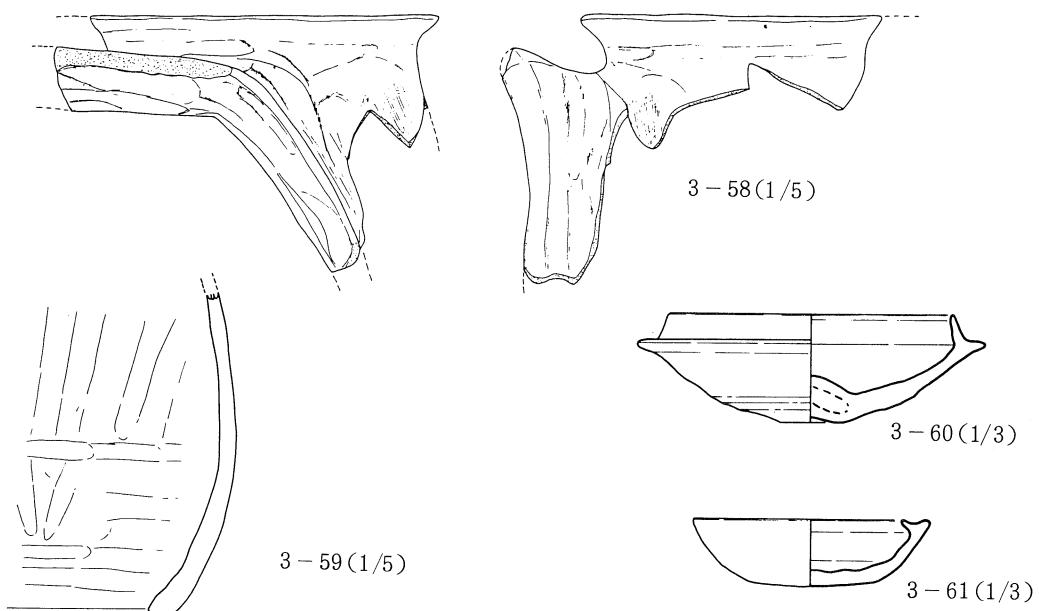
(4) 3号土壙

ア、現 状

既述のように、旧水田平坦面のすぐ北側の崖断面に多数の土器片（3-1, 2, 3）・窯体片・竈片・石を伴う黒色炭化物層の堆積が3ヶ所認められ、これを東から1・2・3号窯跡（土壙）と呼称したが、1・2号窯跡（土壙）はその後の調査及び検討により“灰原層”的一部であることが判明した。ここで紹介しようとする本土壙はこれらの西端に位置していたが、本土壙で認められた黒色炭化物層は、土壙内の東端部分に限られ長さ2.2m、厚み10～20cmを計るもので、他の土壙に比べて狭い範囲に限られていた。

イ、遺 構

調査の結果、本土壙は南北3.65m、東西7.2m、深さ1.5mの略方形を呈しており、土壙内には計5層の堆積層が認められた（第26図）。そして後で紹介するように各層毎に種々の遺物が出土したことから、生活関連の遺構と思われた。しかし土層堆積状況図を注意深く見ると、第1層（表土）・第2層（暗褐色土）・第3層（茶褐色土）が北から南の方向へ緩やかに堆積しているのに対して、第4層（暗茶褐色土）と第5層（黒色炭化物層）はその上面が削平されたような堆積状況を呈していた。また、地山面上で柱穴等のピット



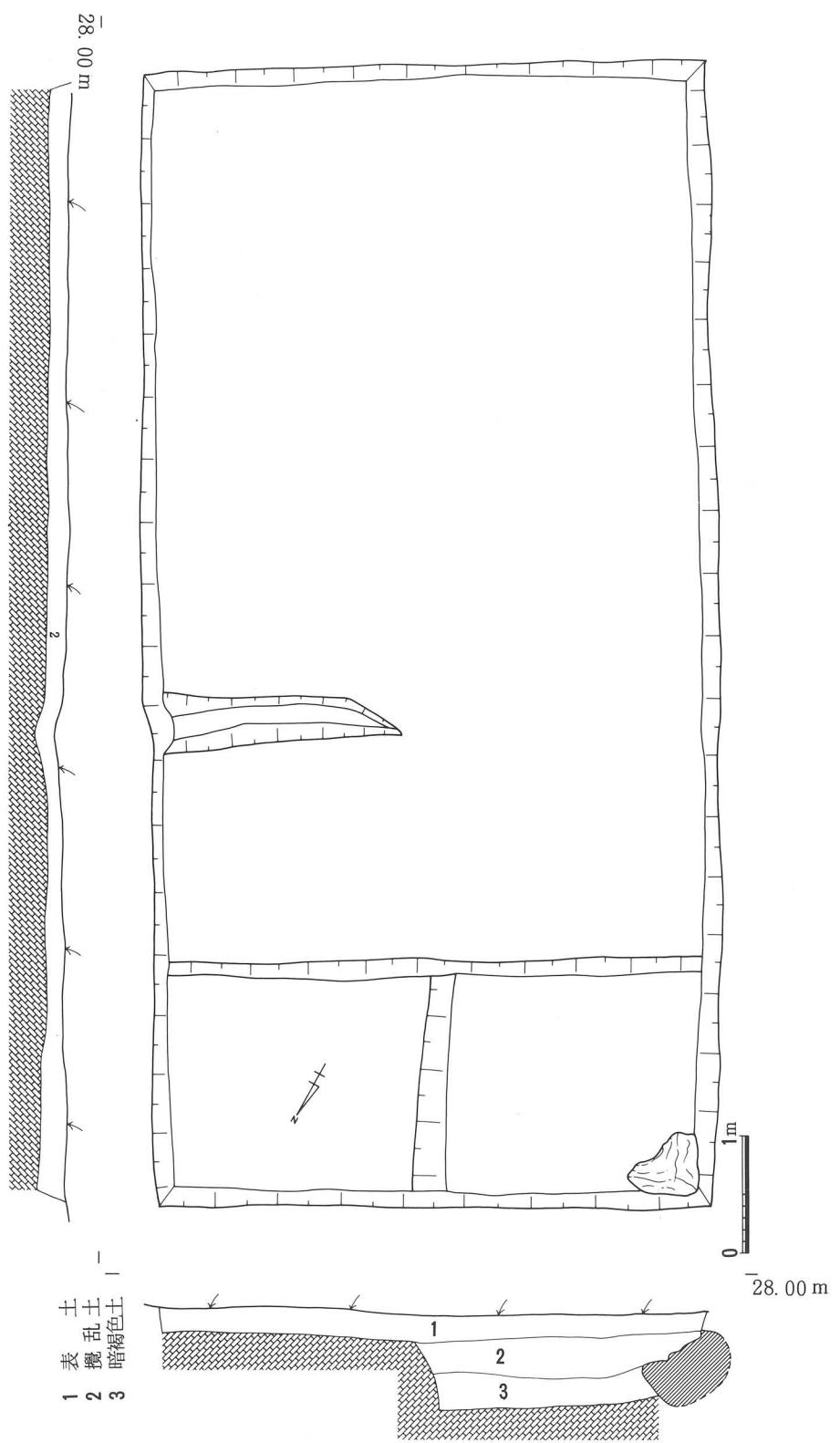
第31図 3号土壙出土遺物実測図⑤

は全く検出できなかつたし、遺物も地山面から浮いた状態で出土した。更に、本土壙は既述の5号窯跡の中軸延長線上の西側に位置する。これらのことから判然とはしないが、本土壙は住居跡等の生活関連の遺構ではなく、4・5号窯跡に関する粘土採掘壙とも考えられる。そして後世の削平などにより数層に亘って、埋められ若しくは堆積したと思われる。

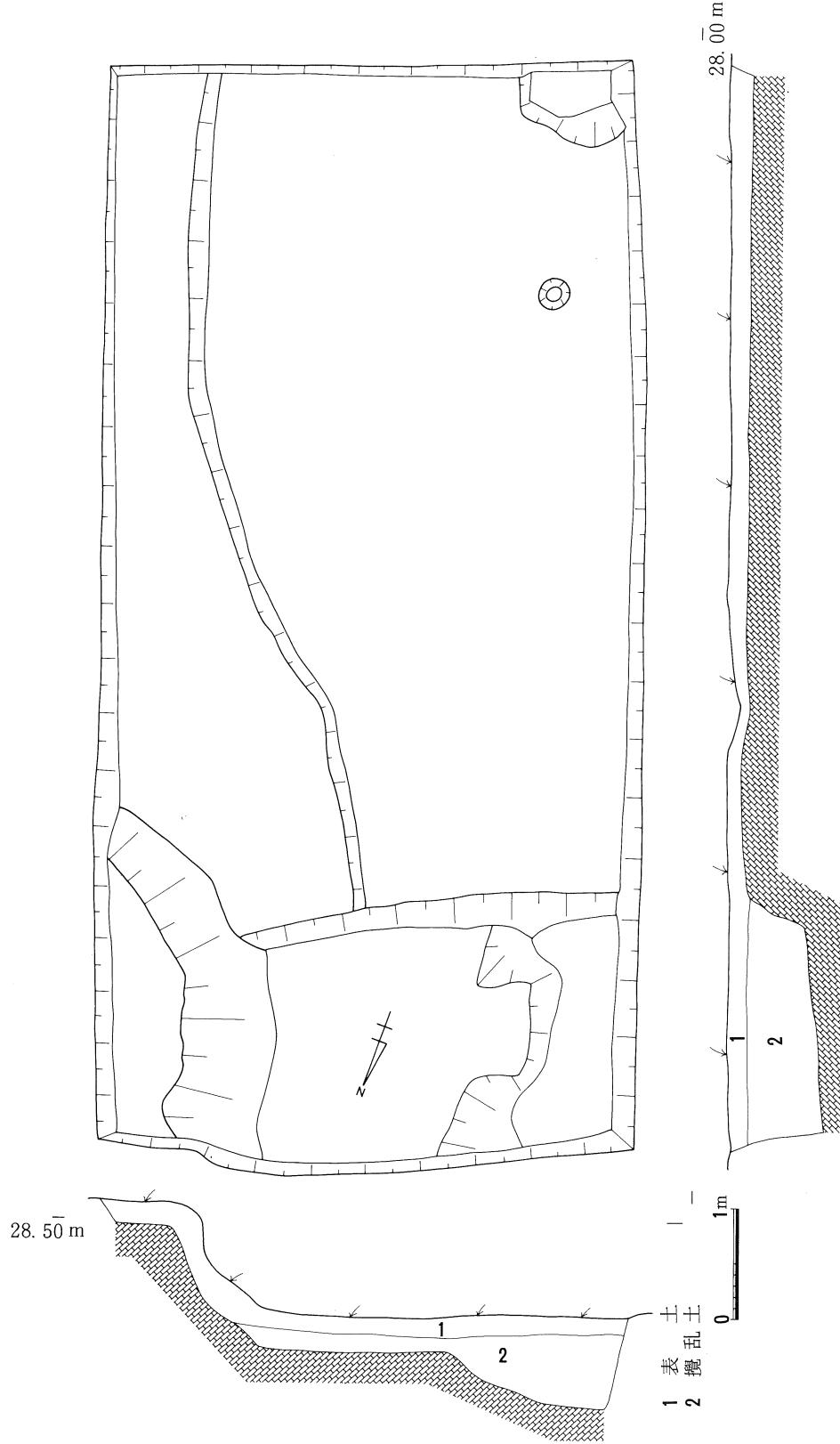
ウ、出土遺物

本土壙から出土した遺物のうち実測できたのは計61点を数え、その内訳は須恵器の壺蓋と壺身が各16点、輪状や擬宝珠のつまみが付き高さの低いかえりのある蓋が計2点、高壺・甕が各4点、高台付きの壺が3点、低脚壺が2点、皿・台付壺・長頸壺・魂・甕が各1点、土師器の甕が3点、竈が2点、土製支脚が2点、赤色塗彩の土馬が2点、であった（第27～31図）。この他に窯体片も数片伴出している。そして、崖面での表採が（3-1, 2, 3）の3点、第1層からの出土が（3-4, 5, 6）の計3点、第2層からの出土が（3-7, 8, 9）の計3点、第3層からの出土が（3-10～46, 48～59）の計49点、第4層からの出土が（3-47）の1点であった。このように土壙内の堆積土の各層から多種多様の遺物が出土した。

特に、第3層から多量に出土した遺物には次のような特徴が認められた。第1に、土師器の竈（3-58, 59）・土師器の甕（3-53～55）・土製支脚（3-56, 57）・須恵器の甕（3-52）といった、住居跡等の生活関連の遺跡から出土する遺物が多いことである。第2に、須恵器の壺蓋・壺身・高壺等の特徴を検討すると、4・5号窯跡と同じ特徴をもつもの（3-10～14, 23～26, 44～46）とそうでないもの（3-15～22, 27～35, 43）とに別れることである。後者は、壺蓋が口縁部は単純で稜は全くなく天井部に1条か2条の箇削りを施す口径8.2～11.2cm、器高3.4～4.1cmを計る小形のもの、壺身が立ち上がりと蓋受け部の高さがほぼ同じで底部に1条か2条の箇削りを施すか全くそれがない口径7.8～10.8cm、器高3.1～4.0cmを計る小形のもの、高壺が透しのない脚部にラッパ状に開く壺部を持つもの、の特徴を持つ。また他の器種でも、やや外方に張り出すがっしりした高台を持ち緩やかに内弯しながら立ち上がる壺（3-41）と底部外周縁に低い高台を有し直線的に口縁部に立ち上がると思われる壺（3-42）とが認められる。第3に、60×30cm～10×10cmの大きさの転石・礫が遺物と混在する形で多数出土していることである。第4に、第3層からの出土遺物のなかに第1層や第2層と接合するものが認められることである。例えば、（3-60）は第1層、第2層、第3層から出土した破片が接合した壺身である。また、（3-61）は第2層、第3層から出土した破片が接合した壺身である。この壺身は（3-27～35）と同様な特徴を持っている。更に、（3-9）は第2層から脚部が、第3層から胴部が各々出土している赤色塗彩の土師質の土馬である。そして胴部は輪状つまみが付きかえりのある蓋（3-36）と供伴していた。



第32図 A-1 区実測図



第33図 C-1区実測図

(5) 灰原調査区

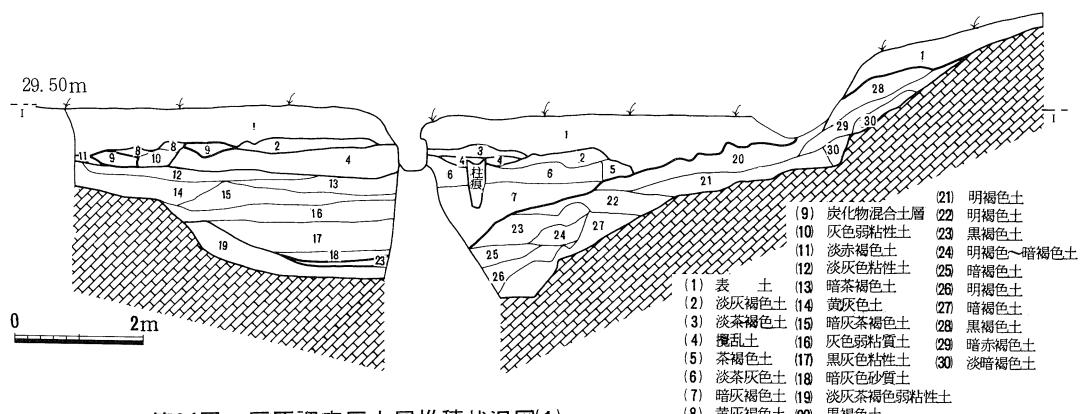
ア、現状

4・5号窯跡の南側の谷間は元々水田平坦地であり、東西南北の溝によって10枚の水田に区切られていた。また、この平坦地の西側奥と東側入口には各々小規模な溜池があった（第1図）。そして既述のようにこの旧水田平坦地を遺物散布地と考えて調査を開始したが、北側崖断面の遺構の発見に伴って調査区を再編成した（第2図）。また調査開始直後に、この水田の耕作土直下から広範囲の夥しい量の須恵器や窯体片を含んだ炭化物層（後述する“2次堆積層内の灰原層”）を検出したので、ここを灰原調査区とした。そして調査時には本調査区をA-5～13、A-11S～13S、B-5～13、C-5～13の各グリッドに分けて、東西方向に8本、南北方向に12本程の土層堆積状況図（セクション図）を作成しながら詳細に調査を実施した（袋とじ図①）。また本調査区の東端部にA-1区、C-1区を設けて調査したが（第32・33図），共に表土層の下はすぐ地山であり“灰原層”等は検出しなかった。遺物もC-1区の“表土層”から若干しか出土しなかった。

イ、層位

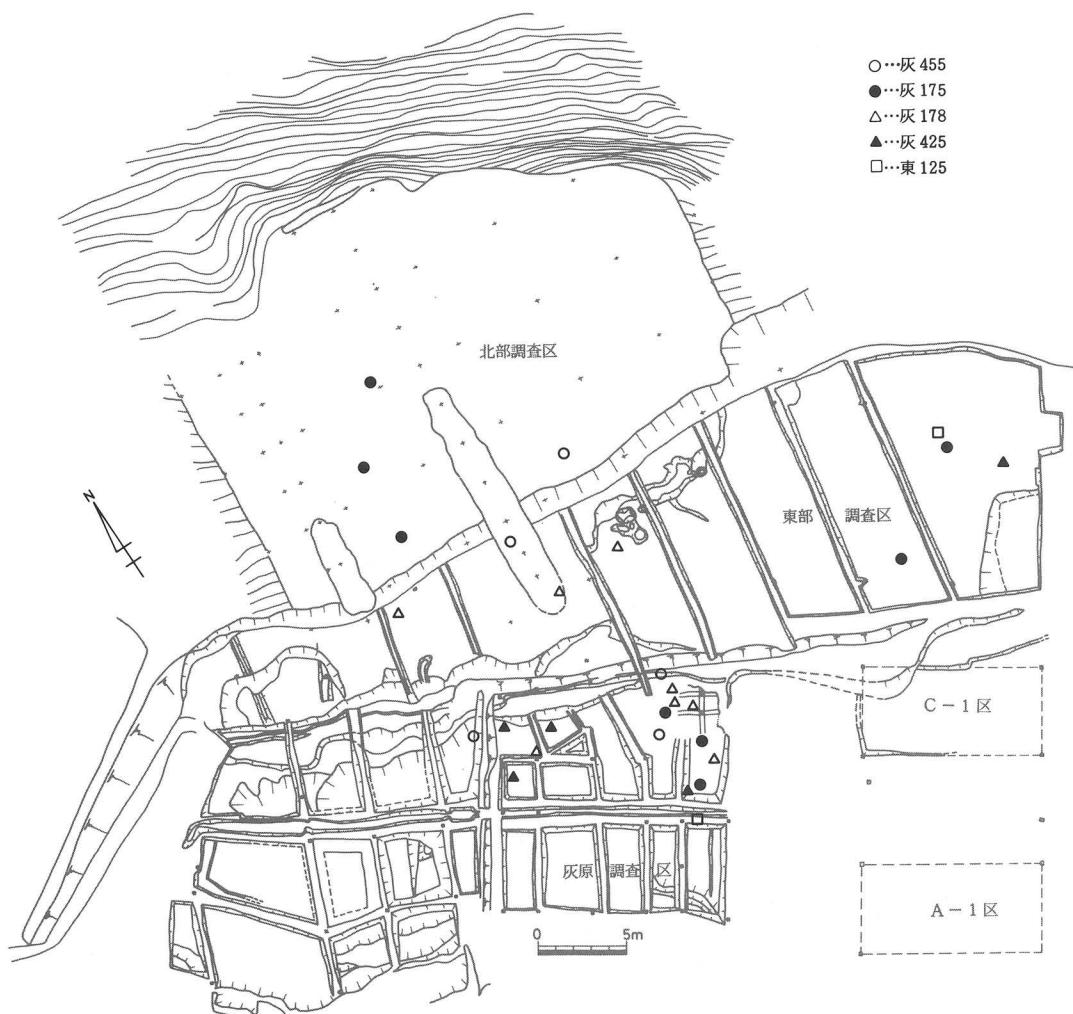
本調査区の調査時において堆積した土層を計40層以上に分けた。例えば、I-I'の土層堆積状況を見ていただきたい。調査時には、第34図に示すように計30層に分けて各層毎に遺物を取り上げた。しかし各土層の堆積状況を検討した結果、2層～4層、8層～11層は4層を間にして複雑な堆積状況を示すこと、5層～7層、12層～18層は均されたような堆積状況を示すこと、特に19層の上端が平らでありしかもそこが17層の上端にもなっていること、が分かった。

また各区とも多量の出土遺物があり、これらの出土状態の検討の結果以下に述べることが分かった。後でも述べるが、A-5～A-13区、A-11S～A-13S区の“灰原より下の堆積土層”から4・5号窯跡と同じ特徴を持つ蓋坏等の他に、回転糸切り底に高台が付

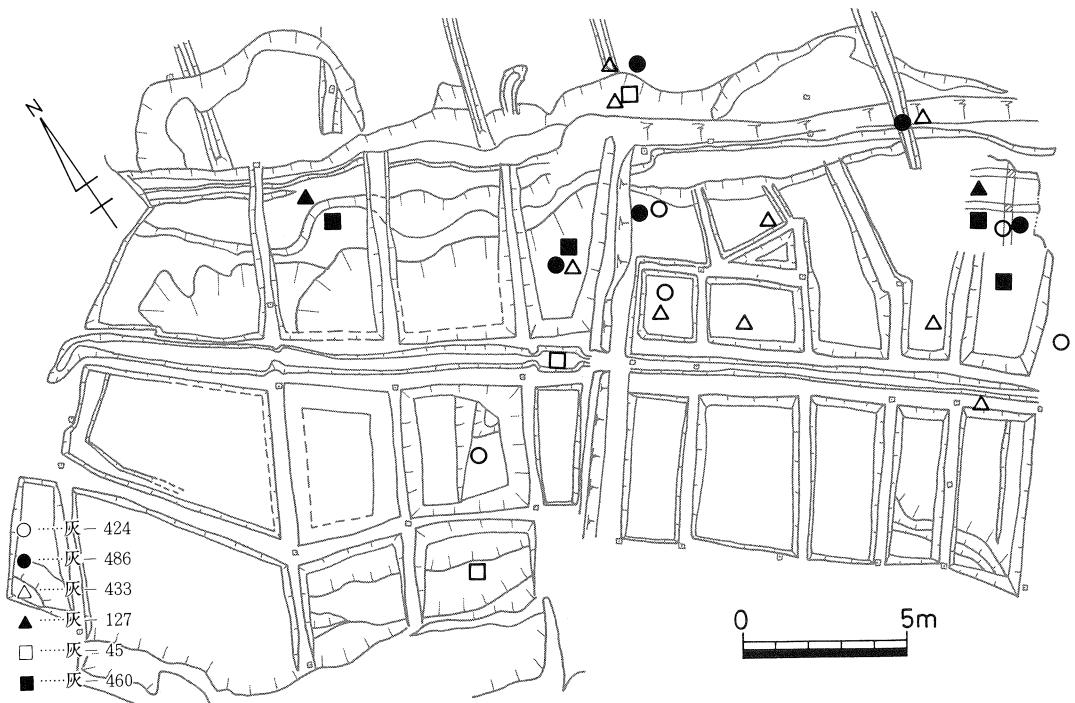


第34図 灰原調査区土層堆積状況図(1)

く坏が、またA-11S～A-13S区、A-10～A-13区、B-10～B-13区、C-10～A-13区の“灰原層”から4・5号窯跡と同じ特徴を持つ蓋坏・高坏・甕の他に、立ち上りと受け部の高さがほぼ同じ坏身が、さらにB-5～B-9区、C-5～C-9区の“灰原層”から4・5号窯跡と同じ特徴を持つ須恵器の他に、立ち上りと受け部の高さがほぼ同じ坏身、天井に輪状のつまみを付け口縁部内側に高さの低いかえりが付く坏蓋、坏部がなだらかに弯曲して口縁部に至り脚部の透しが線状の切り込みやそれがない高坏等が、各々出土している。一方、甕の口縁部についての接合関係を調べた結果、本調査区と後に述べる北部調査区、東部調査区から出土した破片が接合したり（第35図）、本調査区内でも層序に関係無く接合した例が多数認められた（第36図）。例えば、第35図の●（灰-175）は、本調査区のC-6区の“灰原層”，B・C-5区の“2次堆積層内の灰原層”と北部調査区



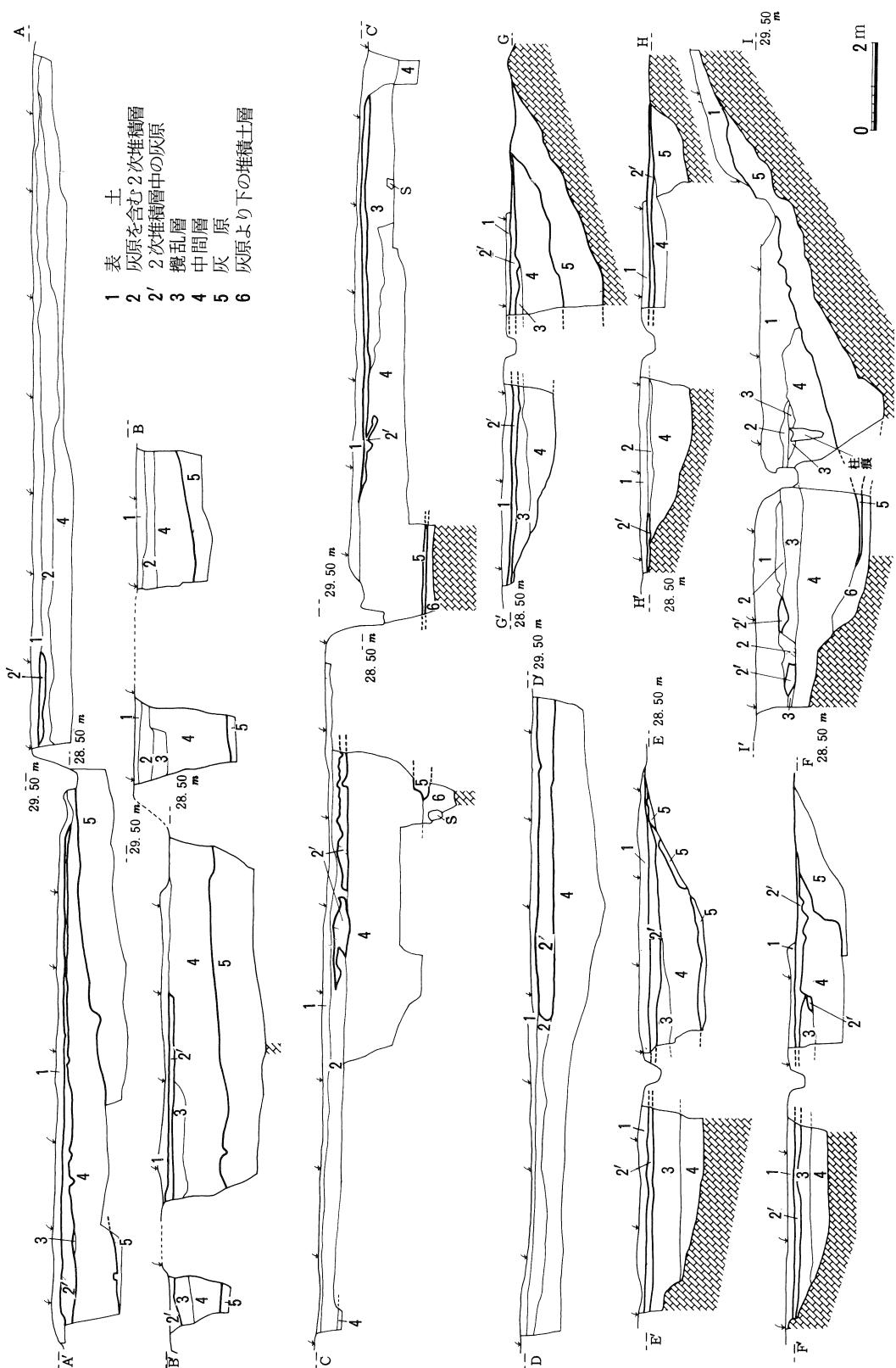
第35図 灰原・北部・東部調査区出土遺物接合関係図



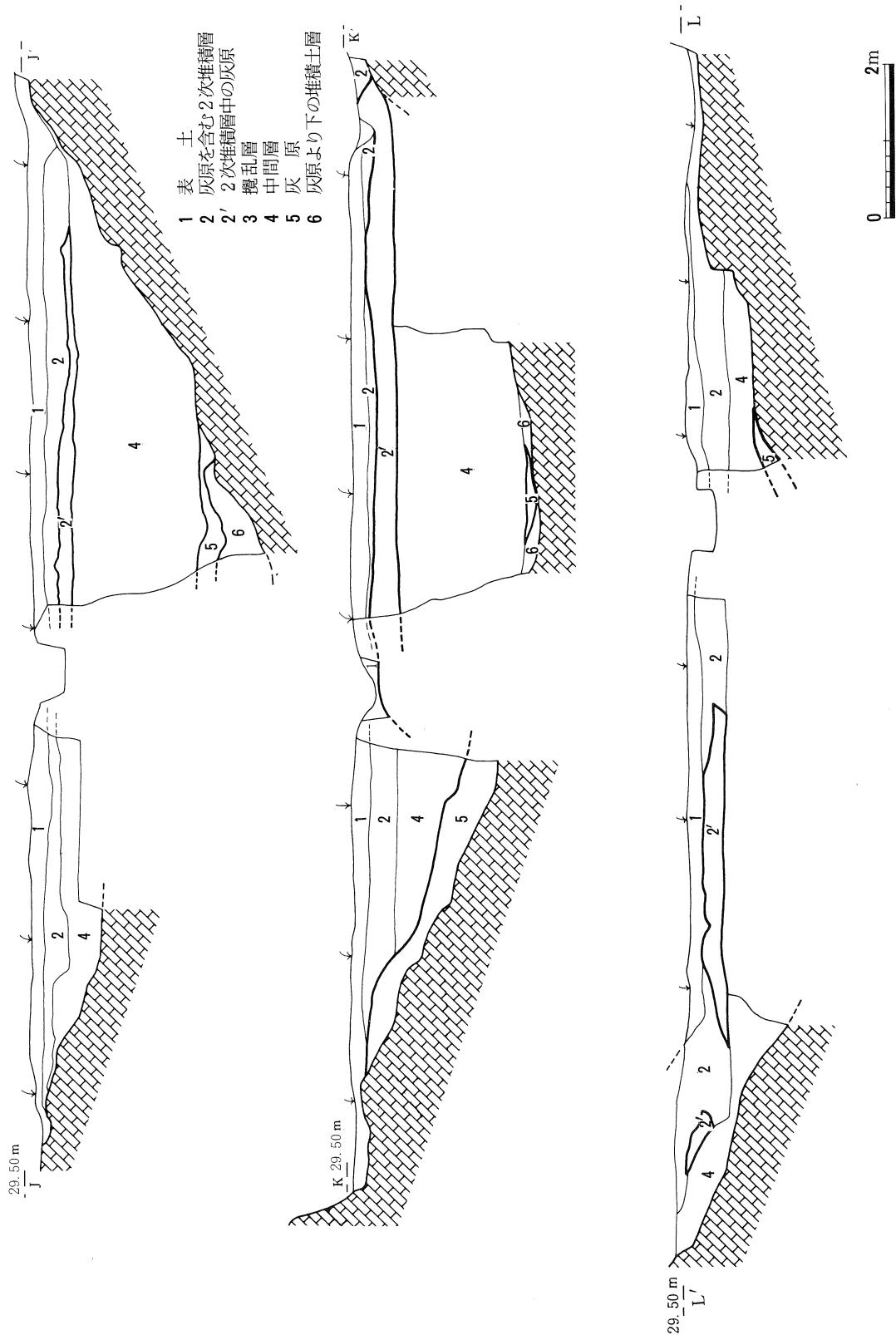
第36図 灰原調査区出土遺物接合関係図

のア-5区の第3層、イ-5区の第4層、ウ-5区の排水溝内の第1層と東部調査区のE-2区の明灰褐色土層、F-1～2区の第2層から出土した破片が接合したことを示す。また第36図の■（灰-460）は、C-12区の“灰原層”，B・C-10区の“灰原層”，B・C-5区の“中間層”，C-5区の“灰原層”から出土した破片が接合したことを示す。

これらから総合的に判断した結果、本調査区を中心とするこの“池ノ奥谷”はかなりの規模の削平・搅乱を受けており、“灰原層”もある程度の削平・搅乱を受けているのではないかと思われる。しかし、これらの削平・搅乱が何に起因するのかについては後で詳しく述べたいと思う。よって、計40層以上に分けた灰原調査区の堆積土層を「(1)表土(耕作土)層、(2)灰原を含む2次堆積層、(2')2次堆積層内の灰原層、(3)搅乱層、(4)中間層、(5)灰原層、(6)灰原より下の堆積土層」、の計7層にまとめて大過ないと思われる(第37・38図)。また土層堆積状況図についても、東西方向4本(A-A', B-B', C-C', D-D')、南北方向8本(E-E', F-F', G-G', H-H', I-I', J-J', K-K', L-L')に絞っても良いと判断して、ここでは計12本のセクション図を掲げた(第39図)。さらに水田中央部の東西溝と南北溝を利用して、灰原調査区を便宜的に4区に細分した。即ち、B-10～B-13区、C-10～C-13区をまとめて上段の北側区(以下、「上の北区」とする)、A-10～A-13区、A-11S～A-13S区を上段の南側区(以下、「上の南区」と



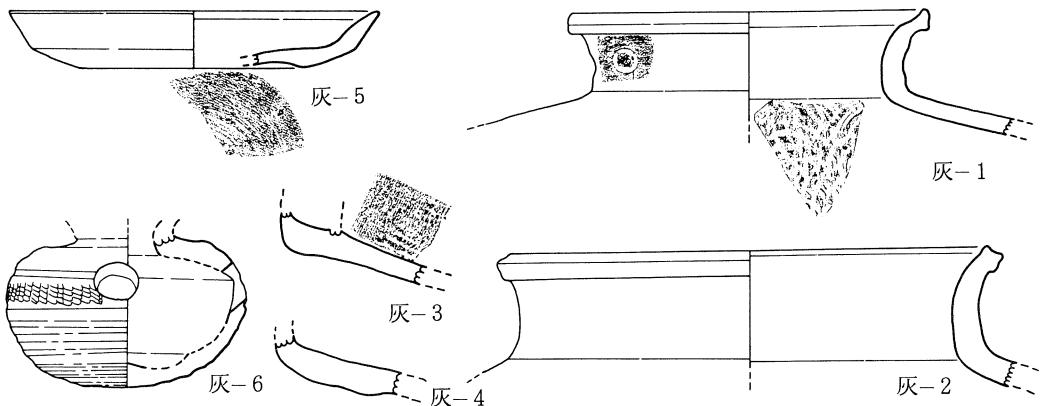
第37図 灰原調査区土層堆積状況図(2)



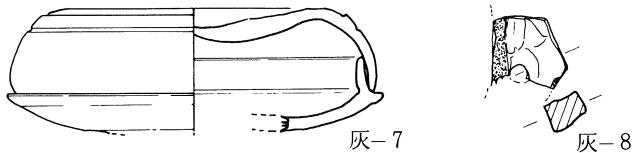
第38図 灰原調査区土層堆積状況図(3)



第39図 灰原調査区土層堆積状況(セクション)設定図



第40図 上の北区出土遺物実測図①(1/3)



第41図 上の北区出土遺物実測図②(1/3)

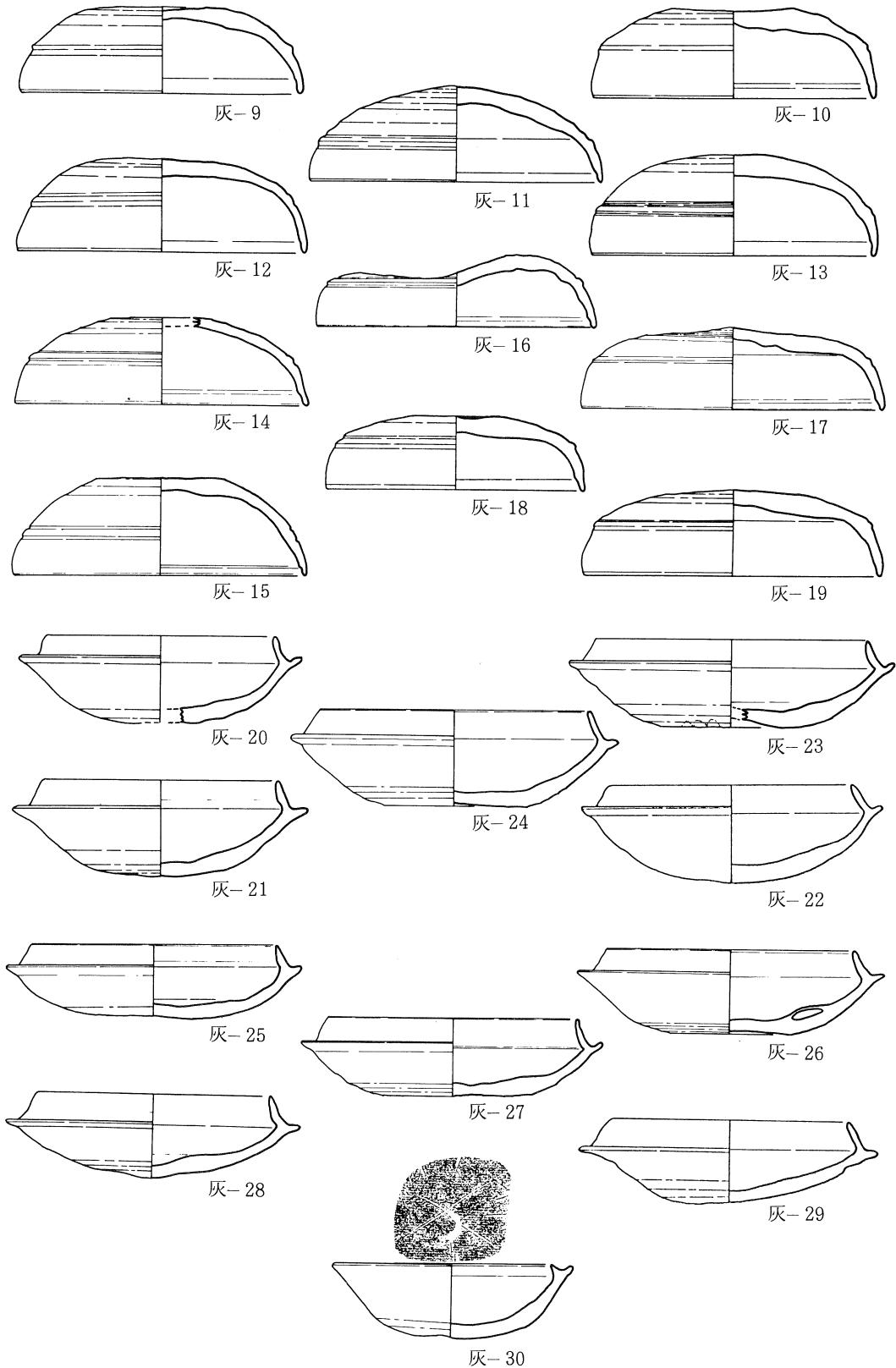
する), B-5~B-9区, C-5~C-9区をまとめて下段の北側区(以下、「下の北区」とする), A-5~A-9区を下段の南側区(以下、「下の南区」とする)の4区である。以下、各土層の堆積状況の概要を説明する。

A-A'

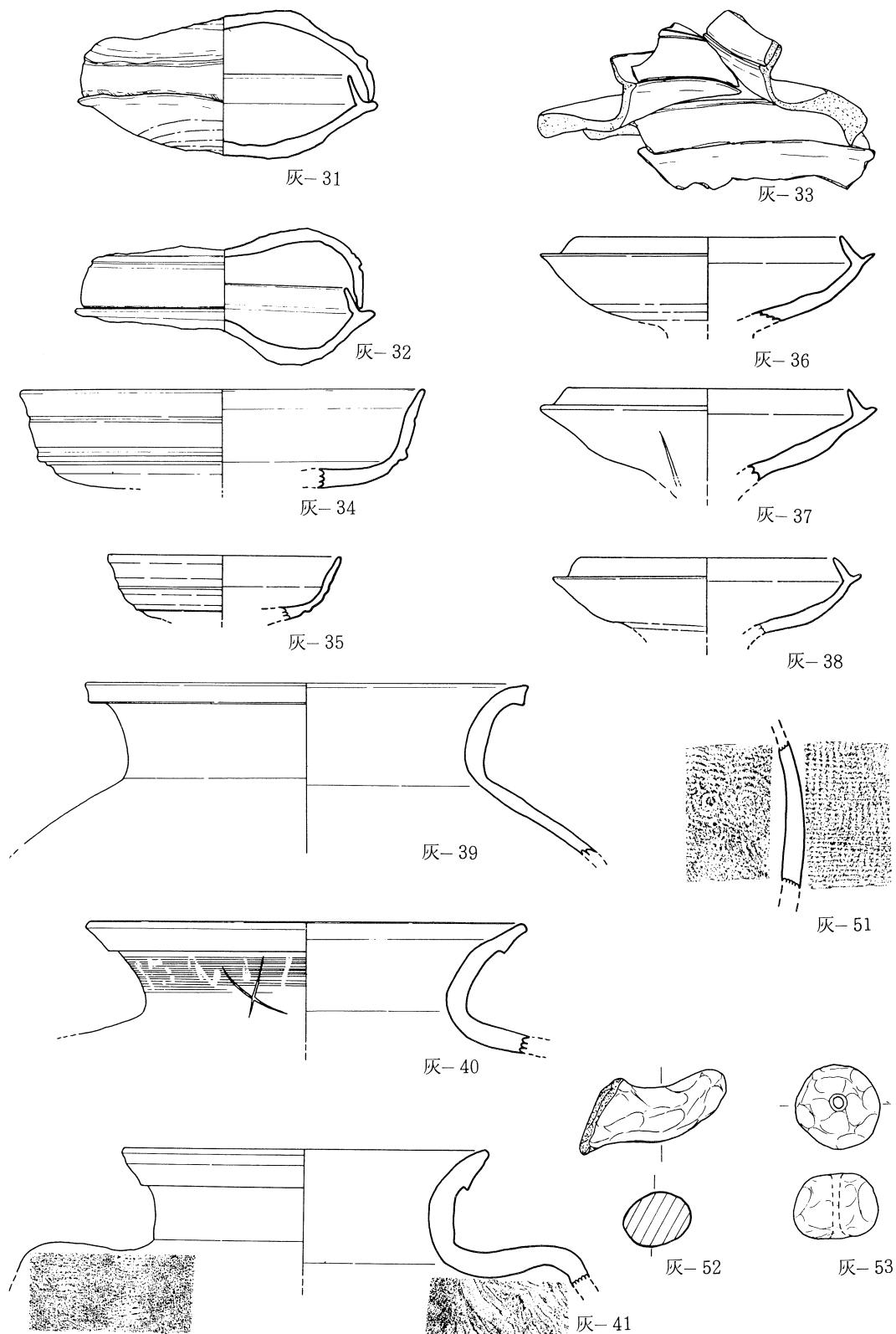
これは上の北区～下の北区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2')層、(3)層、(4)層、(5)層の順に堆積していたが、上の北区では、(2)層は一面に堆積していたが、(2')層は東端にしか認められなかった。(4)層も西側が薄く東側が厚い状況で堆積していた。しかし(3)層と(5)層は堆積していなかった。一方下の北区では、(2)層と(4)層は東側に行くほど厚く堆積していたが、(2)層は認められず、また(5)層は逆に薄くなりC-5区で消えていた。(3)層は東端で一部しか認められなかった。つまり、(2)層、(2')層、(4)層、(5)層の各層は西側から東側に流れ込んで堆積した状況を示していた。

B-B'

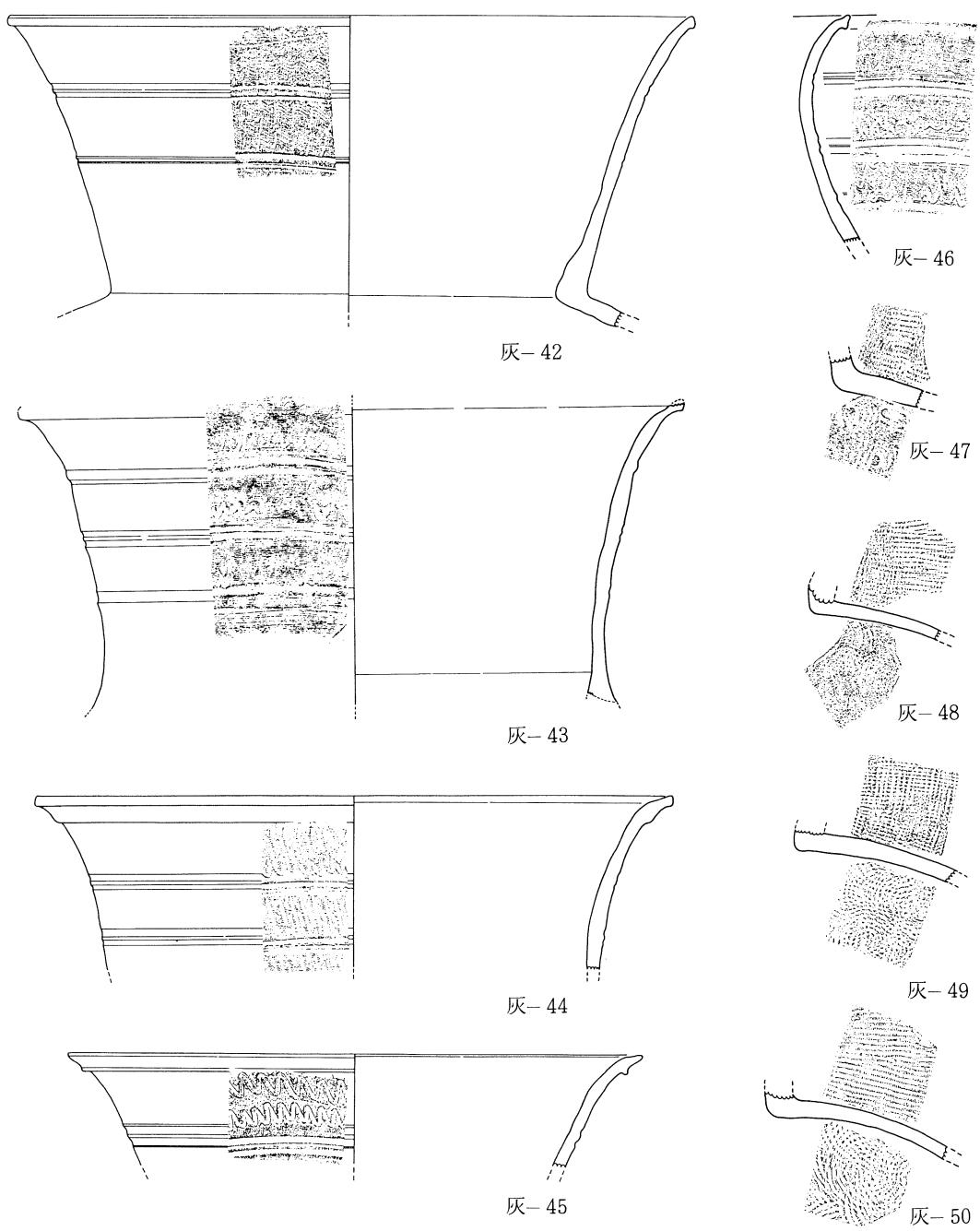
これも上の北区～下の北区の土層の堆積状況を示すが、B-6, 7, 11, 13区の土層の堆積状況は、調査時のセクションベルトの崩落のために観察することができなかった。上から(1)層、(2)層、(2')層、(3)層、(4)層、(5)層の順に堆積していたが、上の北区では(2)層は堆積していたが、(2')層は認められず、また(3)層は東端にしか認められなかった。更に(4)層はA-A'同様、西側が薄く東側が厚い状況で堆積していた。また(5)層はレベ



第42図 上の北区出土遺物実測図③(1/3)

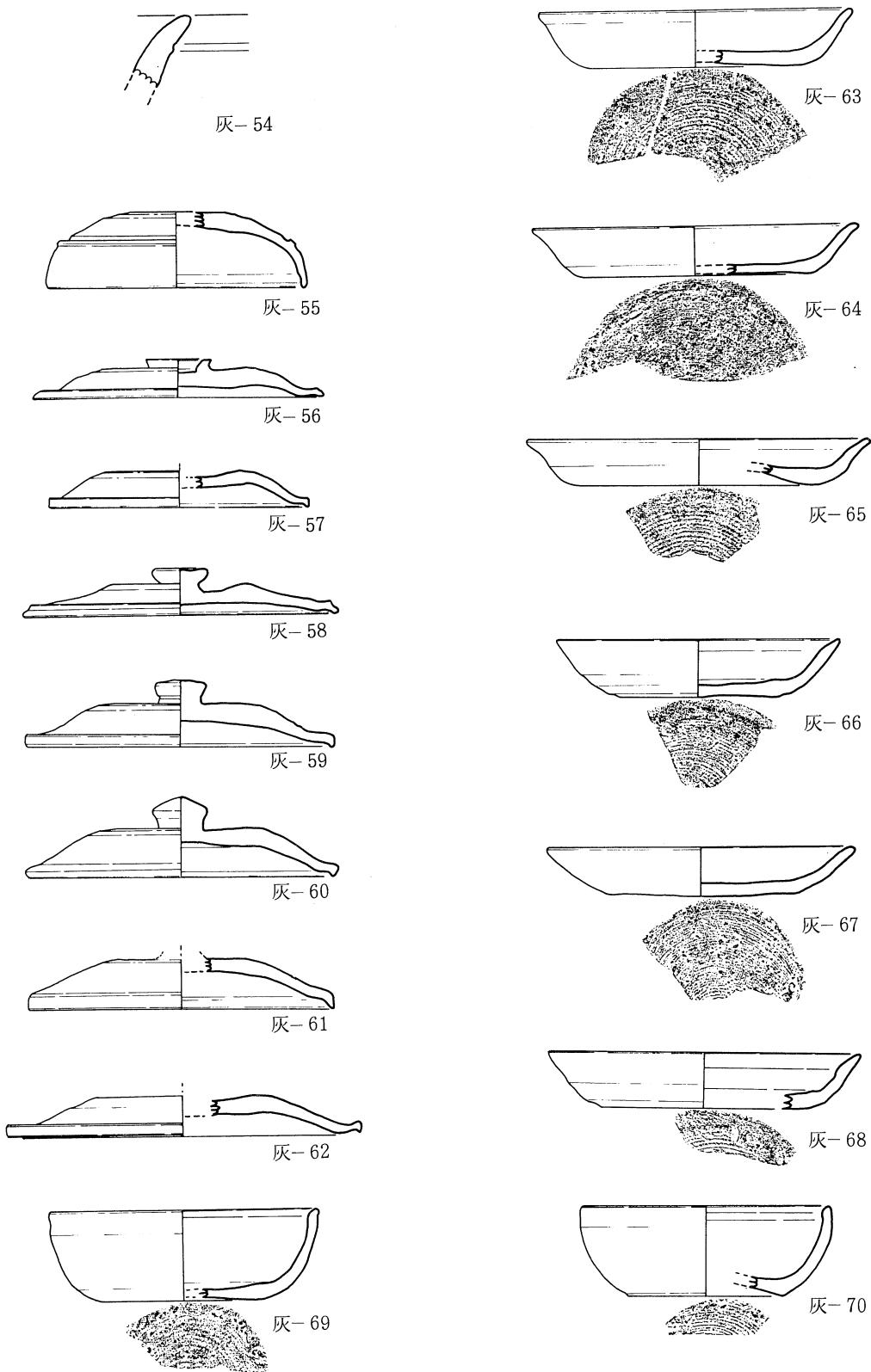


第43図 上の北区出土遺物実測図④ (1/3)

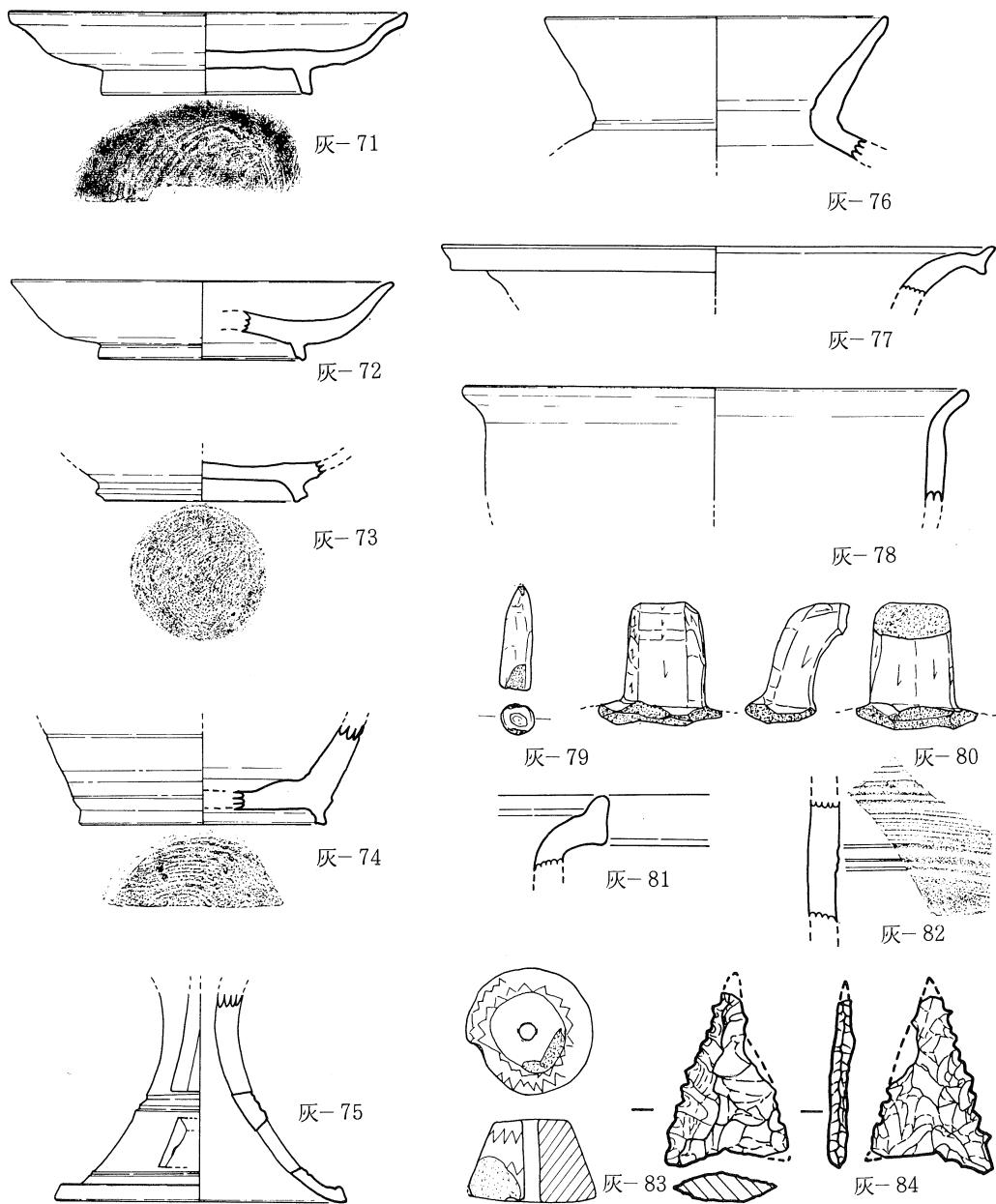


第44図 上の北区出土遺物実測図⑤ (1/5)

ル的に西側が高く東側が低い状況で堆積していた。一方下の北区では、(2')層と(3)層は途中から東側にかけて堆積していた。(4)層は上の北区とは逆に東側に行くほど薄く堆積していた。(5)層も東側に行くほど薄くなっている、一部で地山を確認した。つまり、(2)層、(2')層、(3)層、(5)層の各層はA-A' と同様な堆積状況を示していたが、(4)層は逆の堆積状況を示していた。



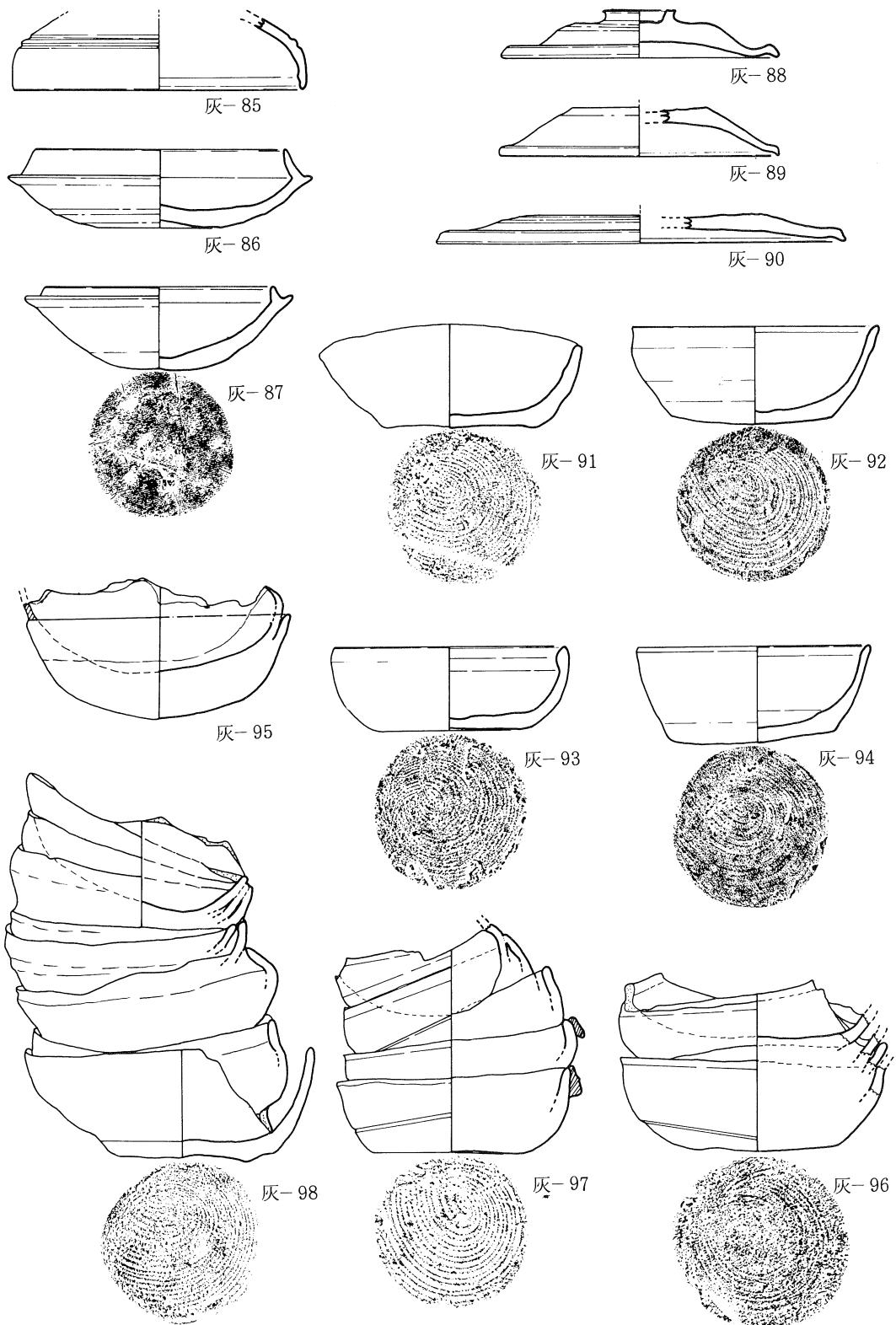
第45図 上の南区出土遺物実測図①(1/3)



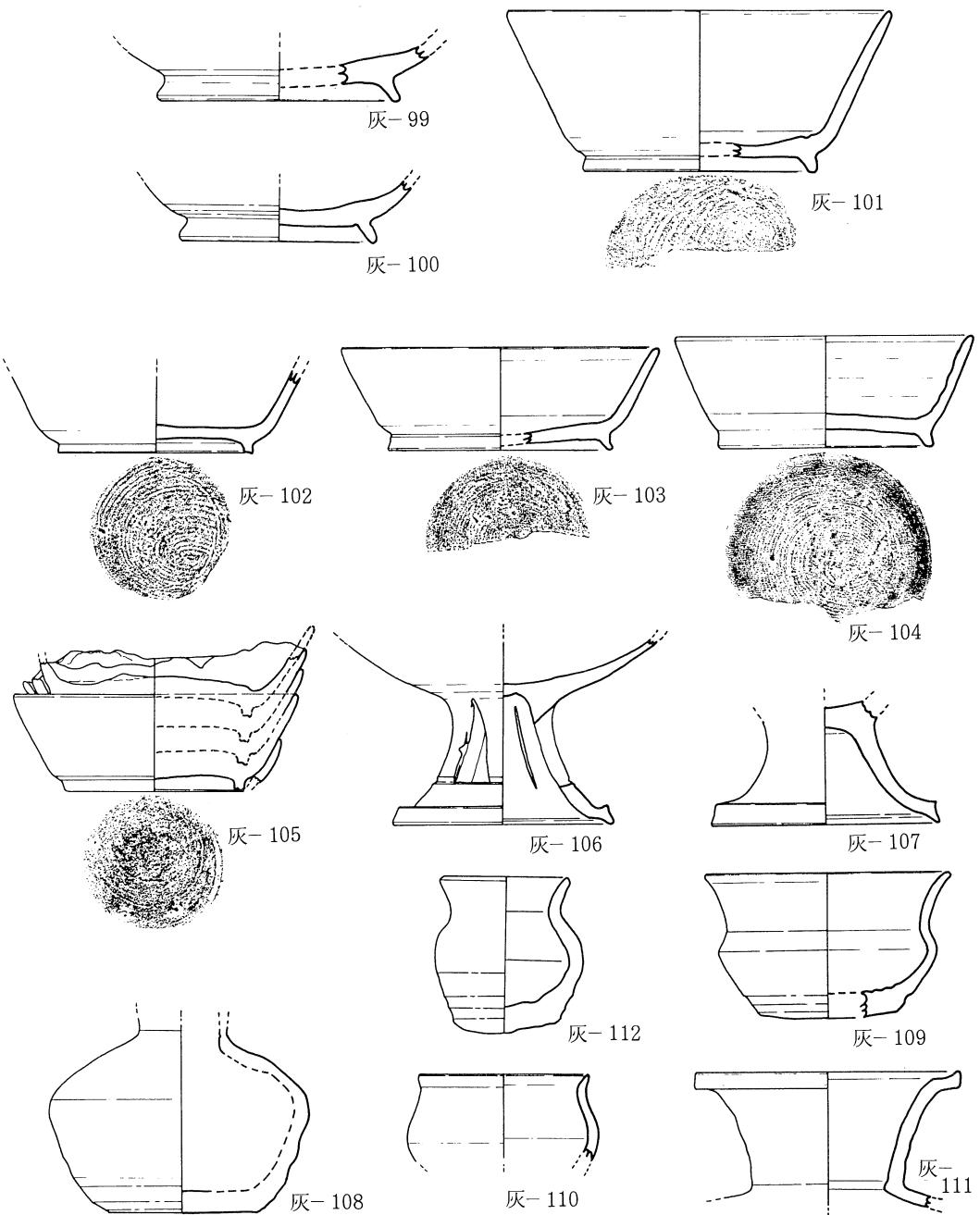
第46図 上の南区出土遺物実測図② (1/3)

C - C'

これは上の南区～下の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2')層、(3)層、(4)層、(5)層、(6)層の順に堆積していたが、上の南区では、(2)層と(2')層は複雑に堆積していたが、(3)層は認められなかった。(4)層はかなりの厚さをもって堆積していたが、(5)層は東端に一部しか認められなかった。(6)層はかなりの厚さをもって堆積しておりその下は地山であることが分かった。一方下の南区では、(2)層は認められ

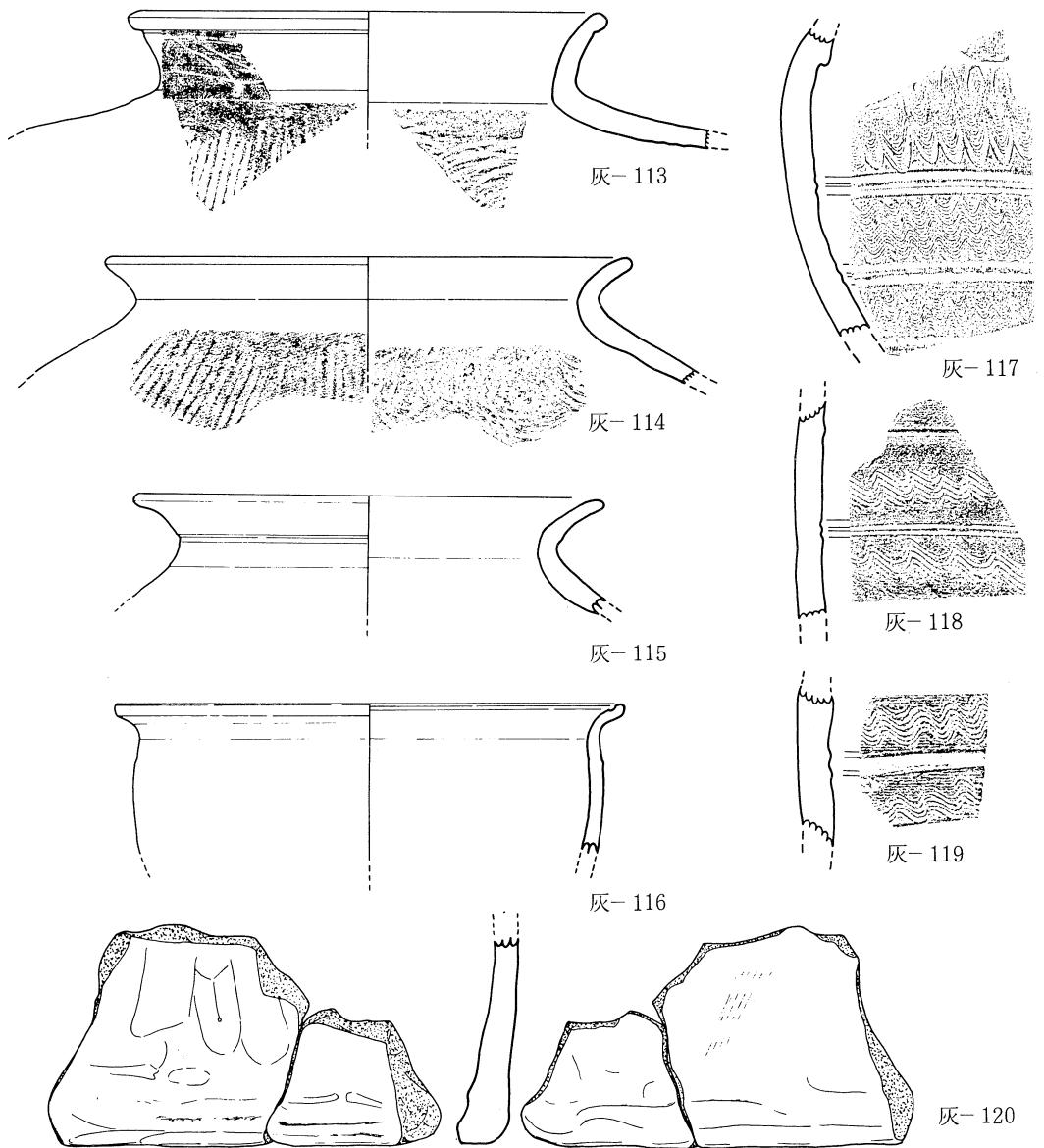


第47図 上の南区出土遺物実測図③(1/3)



第48図 上の南区出土遺物実測図④ (1/3)

なかったが、(2)層と(3)層は途中から東端にかけて堆積していた。(4)層はレベル的に西側が高く東側が低い状況で上の南区と同様にかなりの厚さをもって堆積していたが、途中で切られた状況を呈していた。また(5)層はA-A'・B-B'とは異なり非常に薄く堆積しており、その下に(6)層があることが分かった。(3)層と(4)層がかなり厚いこと、(5)層



第49図 上の南区出土遺物実測図⑤(1/3)

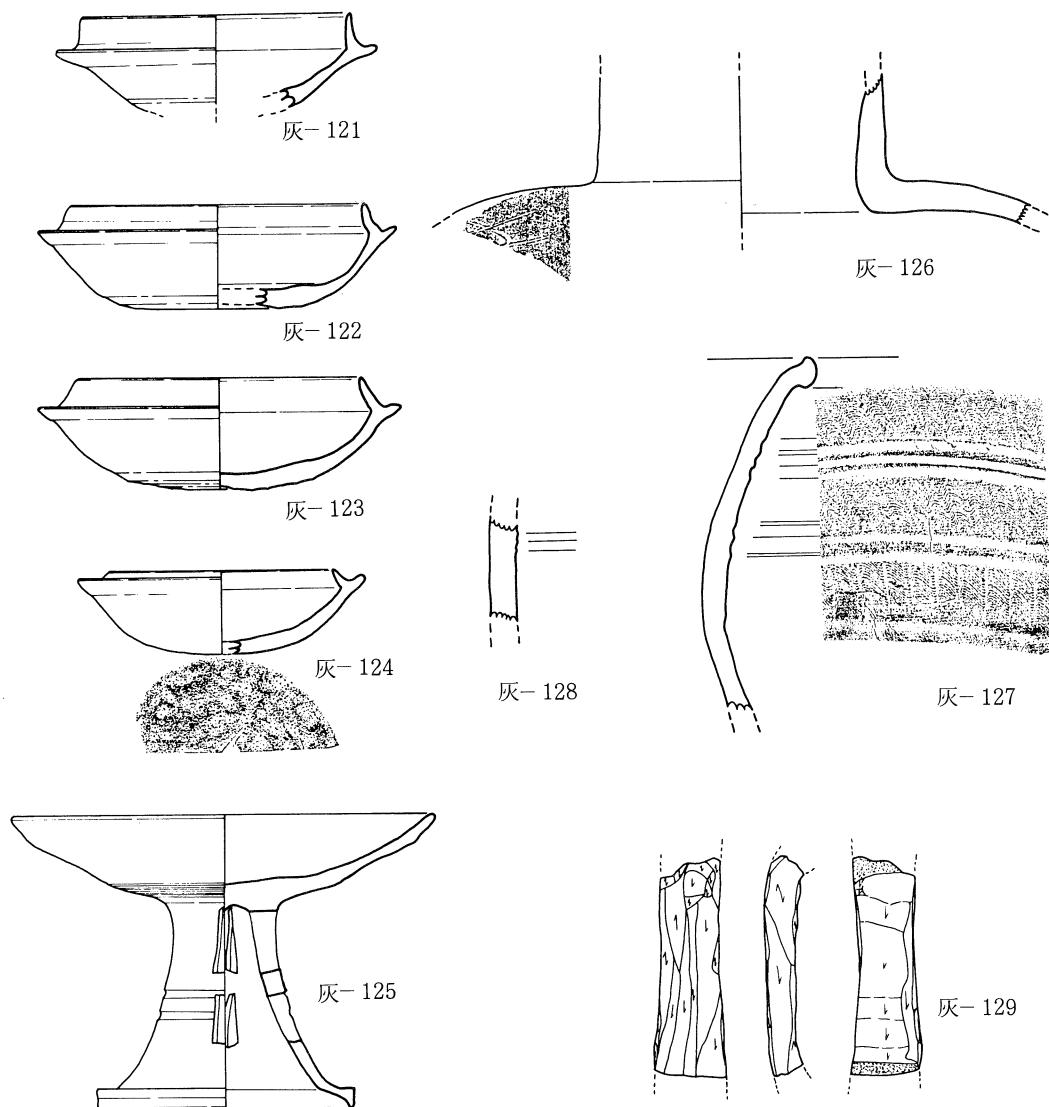
が非常に薄いことはA-A'・B-B'では見られなかったことである。

D-D'

これは上の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2')層、(4)層の順に堆積していたが、余り深く掘り下げていなかったために(5)層、(6)層は確認できなかった。(2')層はやはり東側に堆積していた。

E-E', F-F', G-G', H-H', I-I'

これらは下の北区～下の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2')層、

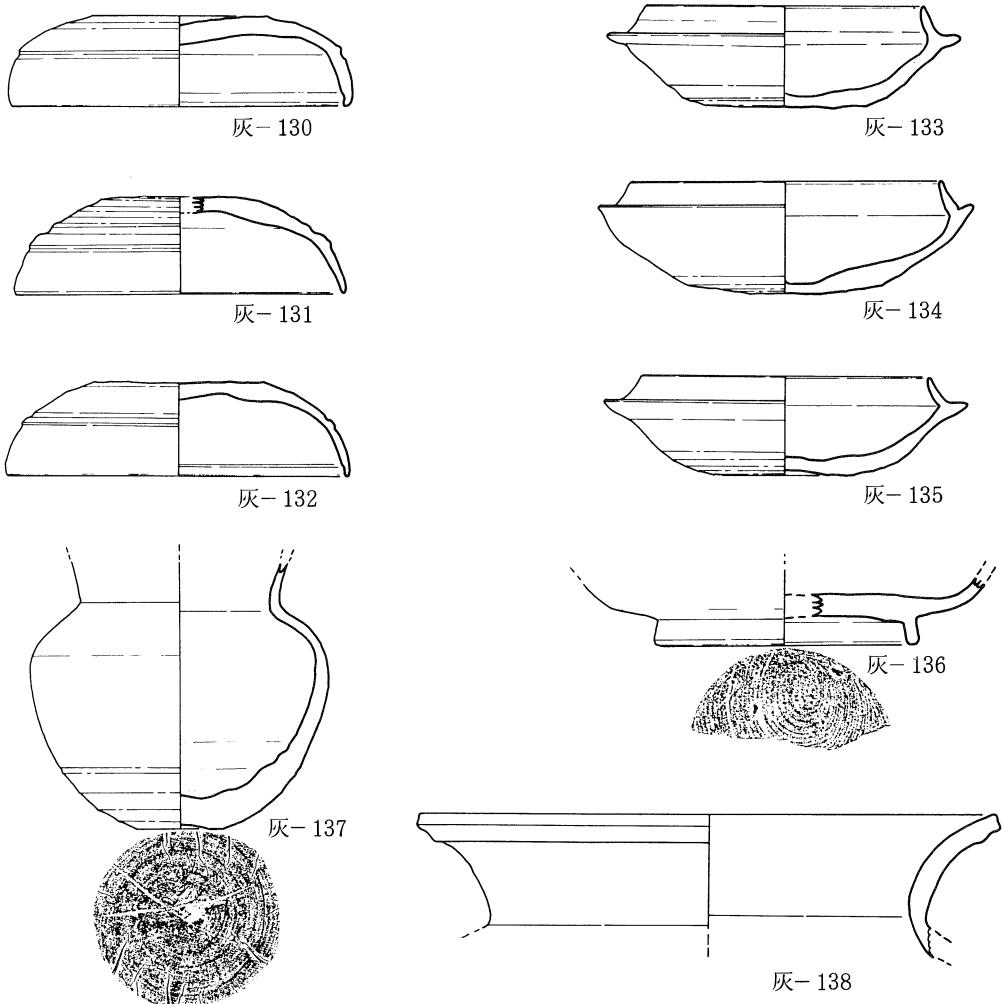


第50図 上の南区出土遺物実測図⑥(1/3)

(3)層、(4)層、(5)層、(6)層の順に堆積していたが、H-H'では(2')層が北側と南端の一部にしか認められず、また(3)層も認められなかった。他のE-E'・F-F'・G-G'・I-I'の(3)層が北区の途中から南端にかけてかなりの厚さをもって堆積していたとの対照的である。(5)層はいずれも北区から流れ込んだ状況で堆積していた。(6)層はI-I'にしか認められなかった。つまり、(5)層はいずれも4・5号窯跡に關係するものであると思われる。

J-J', K-K', L-L'

これらは上の北区～上の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2')層、



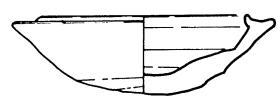
第51図 上の南区出土遺物実測図⑦(1/3)

(3)層、(4)層、(5)層、(6)層の順に堆積していたが、下の北区とは異なり上の北区には、(2')層は認められなかった。またK-K'・L-L'の上の北区では(5)層が認められたが、下の北区ほど厚くはなかった。さらに上の南区のかなりの下方で(5)層と(6)層が認められたが、これはC-C'の上の南区のそれと対応できると思われる。この(5)層は4・5号窯跡のものとは異なり、別の窯跡が本調査区の南側斜面に構築されていた可能性を示すものである。

以上、各土層の堆積状況の概要を説明した。次に、上の北区・上の南区・下の北区・下の南区・C-1区の各土層から出土した遺物の概要を説明したい。

ウ、出土遺物

各区とも多量の出土遺物があったが、これらのうち実測できたのは、上の北区で53点、



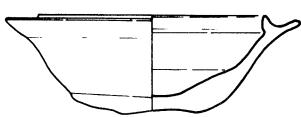
灰- 139



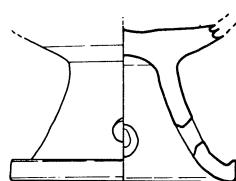
灰- 140



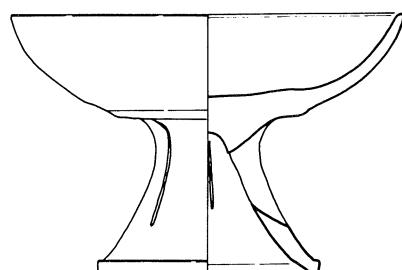
灰- 144



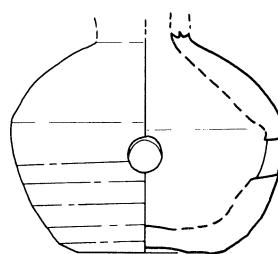
灰- 141



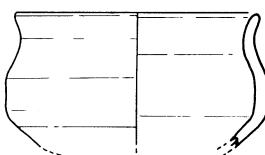
灰- 143



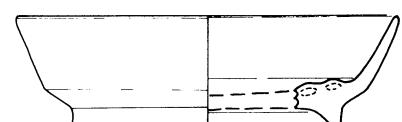
灰- 145



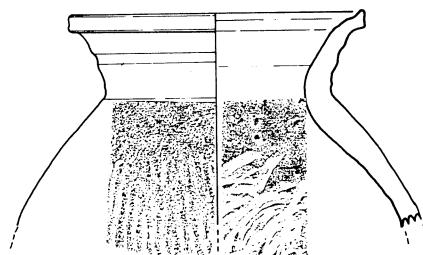
灰- 147



灰- 146



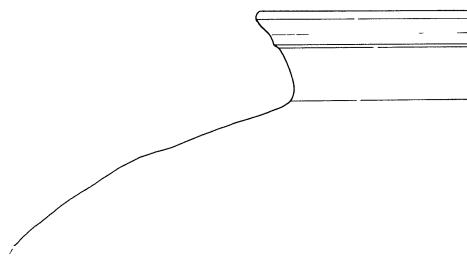
灰- 142



灰- 148

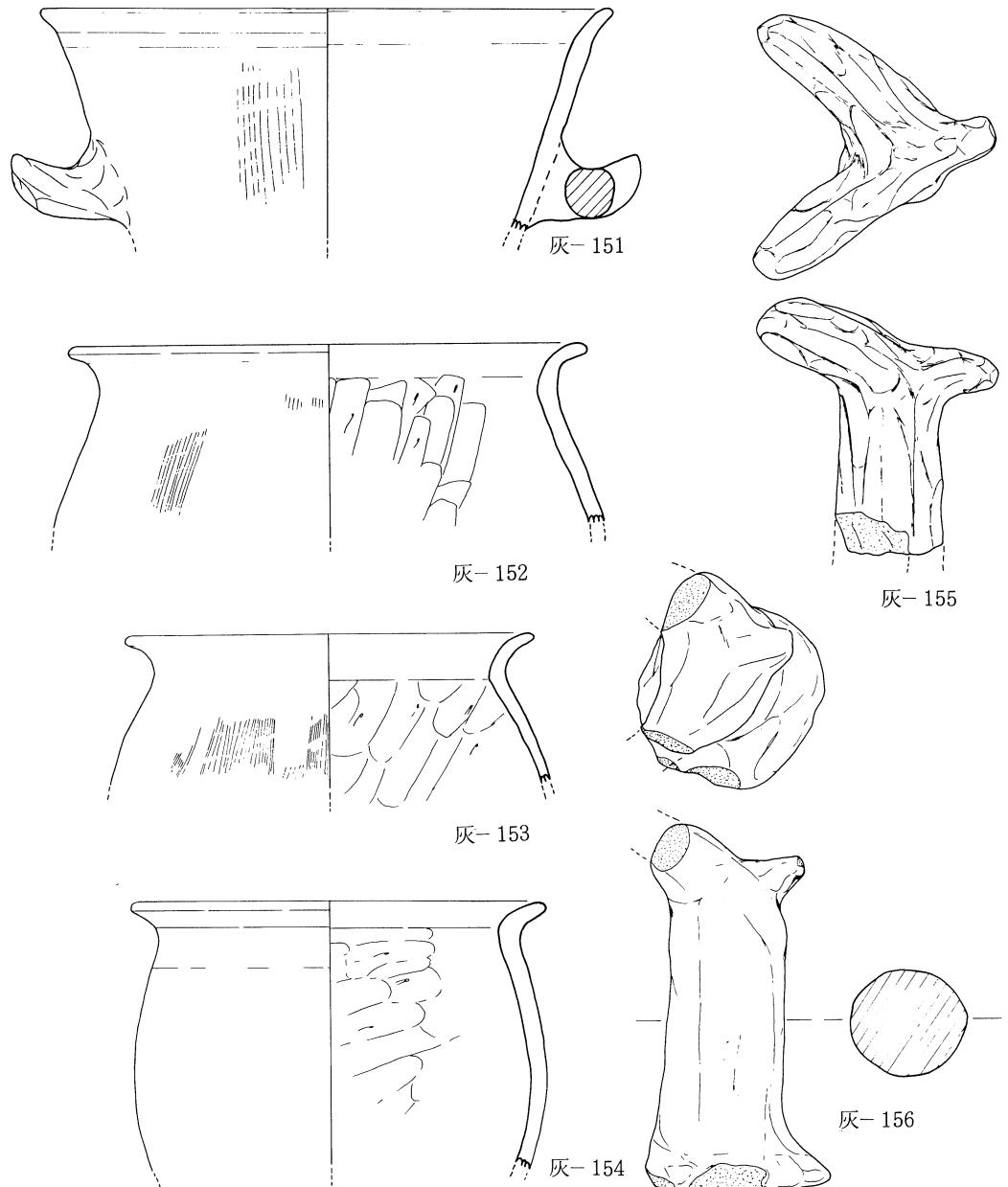


灰- 149



灰- 150 (1/4)

第52図 上の南区出土遺物実測図⑧(1/3)



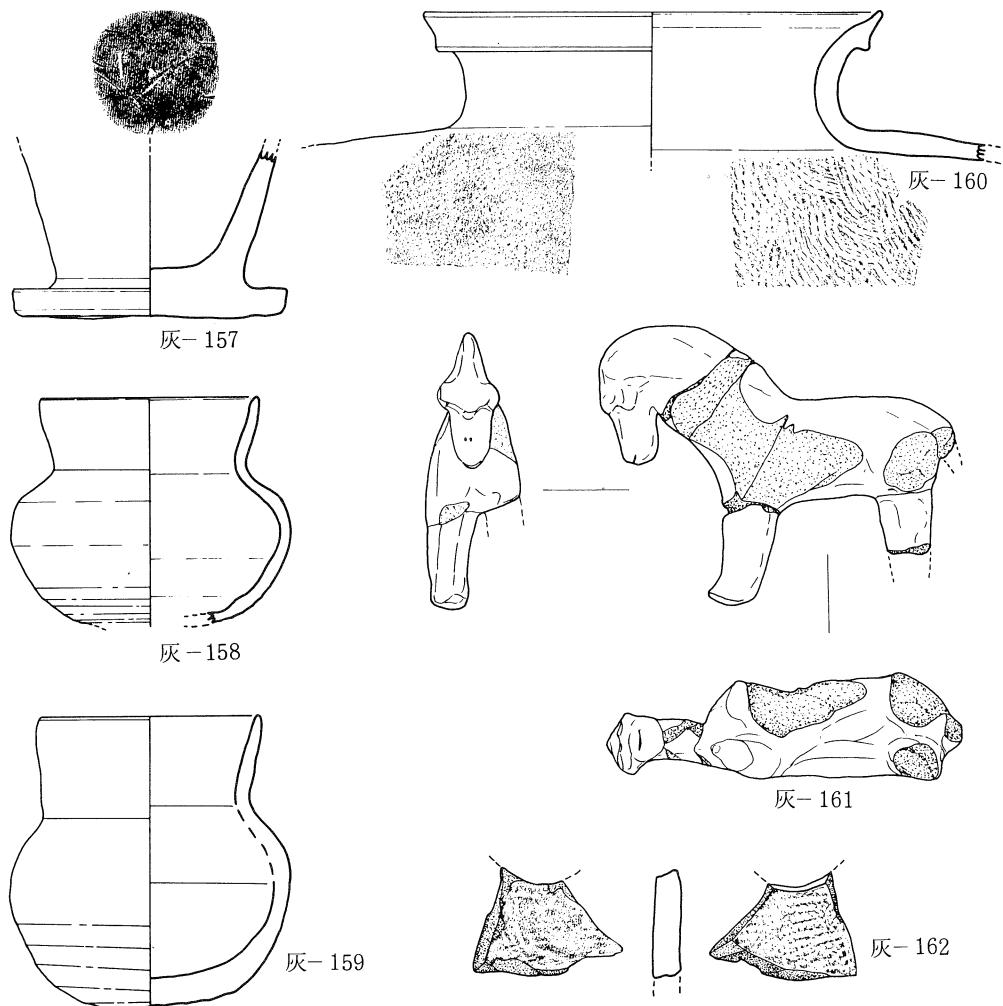
第53図 上の南区出土遺物実測図⑨ (1/4)

上の南区で 103 点、下の北区で 334 点、下の南区で 4 点、C-1 区で 4 点、の計 498 点であった。

上の北区

(1) 層と (3) 層では、出土遺物は 1 点もなかった。

(2) 層では、垂直気味に立ち上がる頸部に外反する口縁部を有し口縁端部は外側にやや

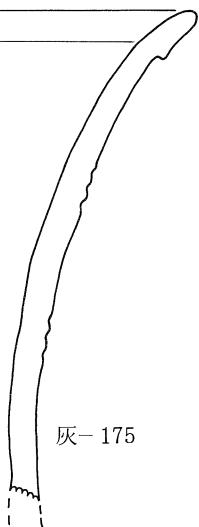
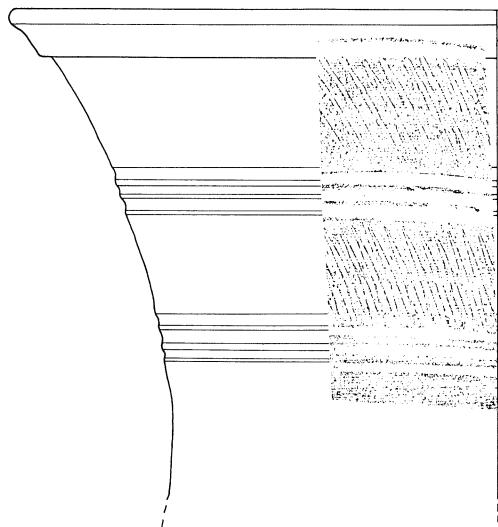
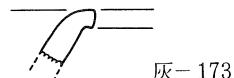
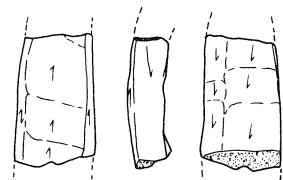
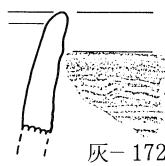
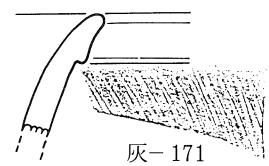
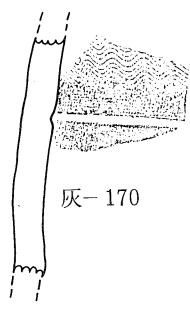
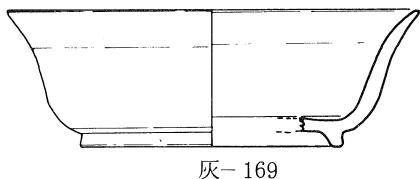
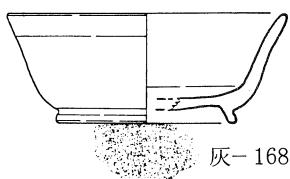
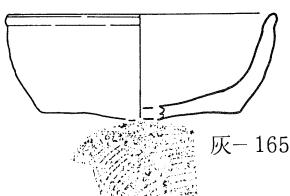
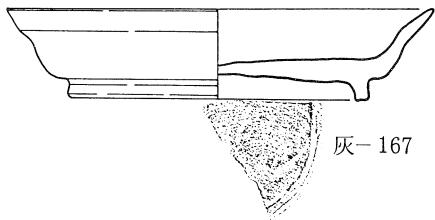
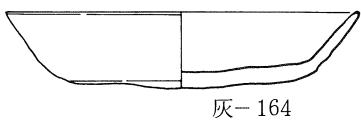
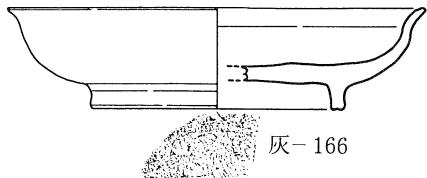
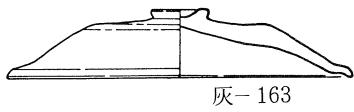


第54図 下の北区出土遺物実測図① (1/3)

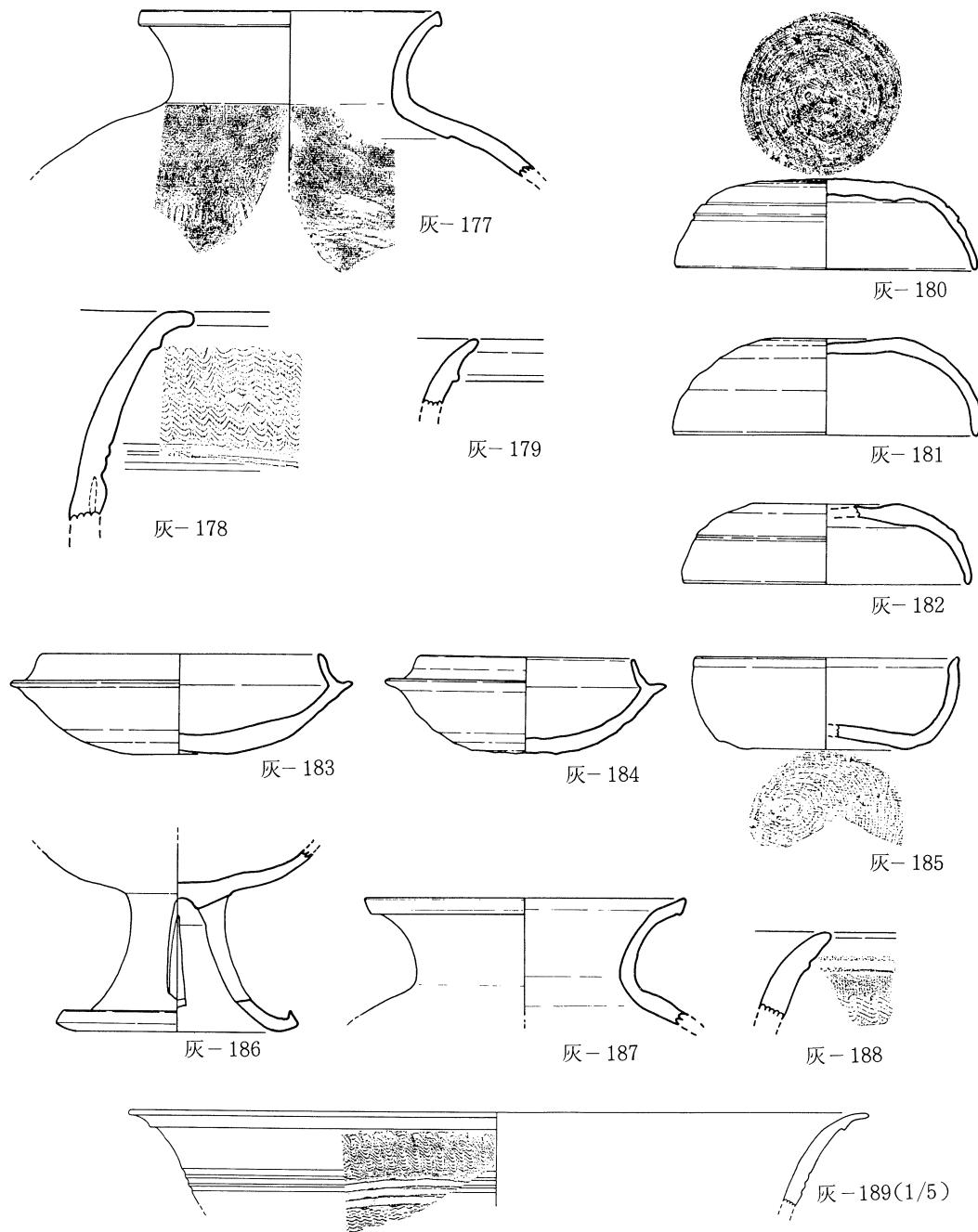
肥厚させ外面に平坦面を作り出す甕が4点(灰-1~4), (2')層では回転糸切りの底部に低い立ち上がりを有する皿が1点(灰-5), 頸部から上は欠損しているが、肩部に刺突文を施しその上下に沈線を周回させる玉葱状の体部を有し底部は丁寧な回転箆削りで仕上げる甕が1点(灰-6), であった(第40図)。

(4)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋と身が熔着した蓋坏のセットが1点(灰-7), 全面に箆削りや指ナデ等を施して五角形状に仕上げる把手が1点(灰-8), であった(第41図)。

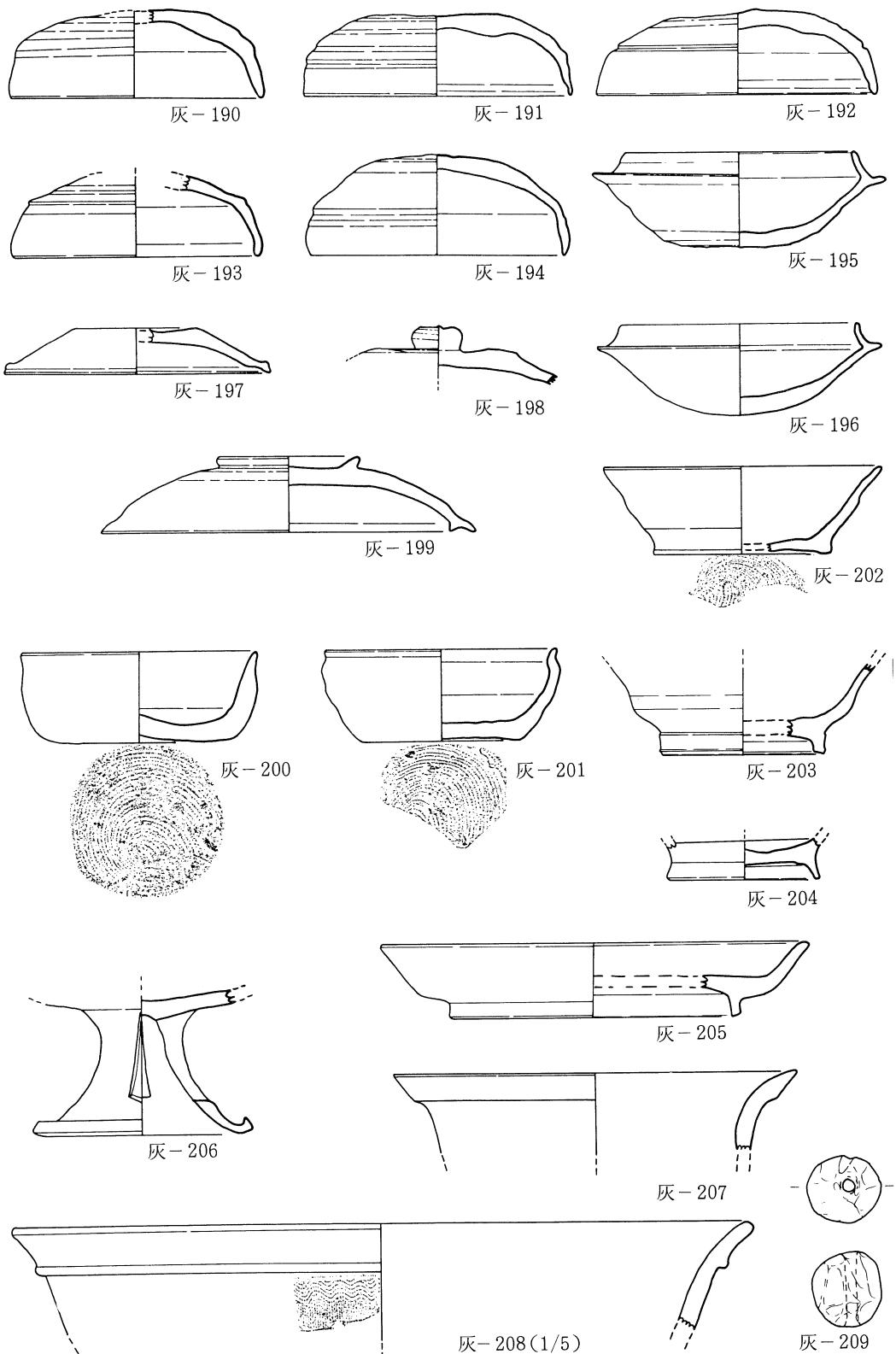
(5)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏蓋と坏身が計21点(灰-9~29), 立ち上がりと受け部の高さがほぼ同じ坏身が1点(灰-30), 4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋と身が熔着した蓋坏のセットが3点(灰-31~33), 4・5号窯跡と同様な特徴を持つ



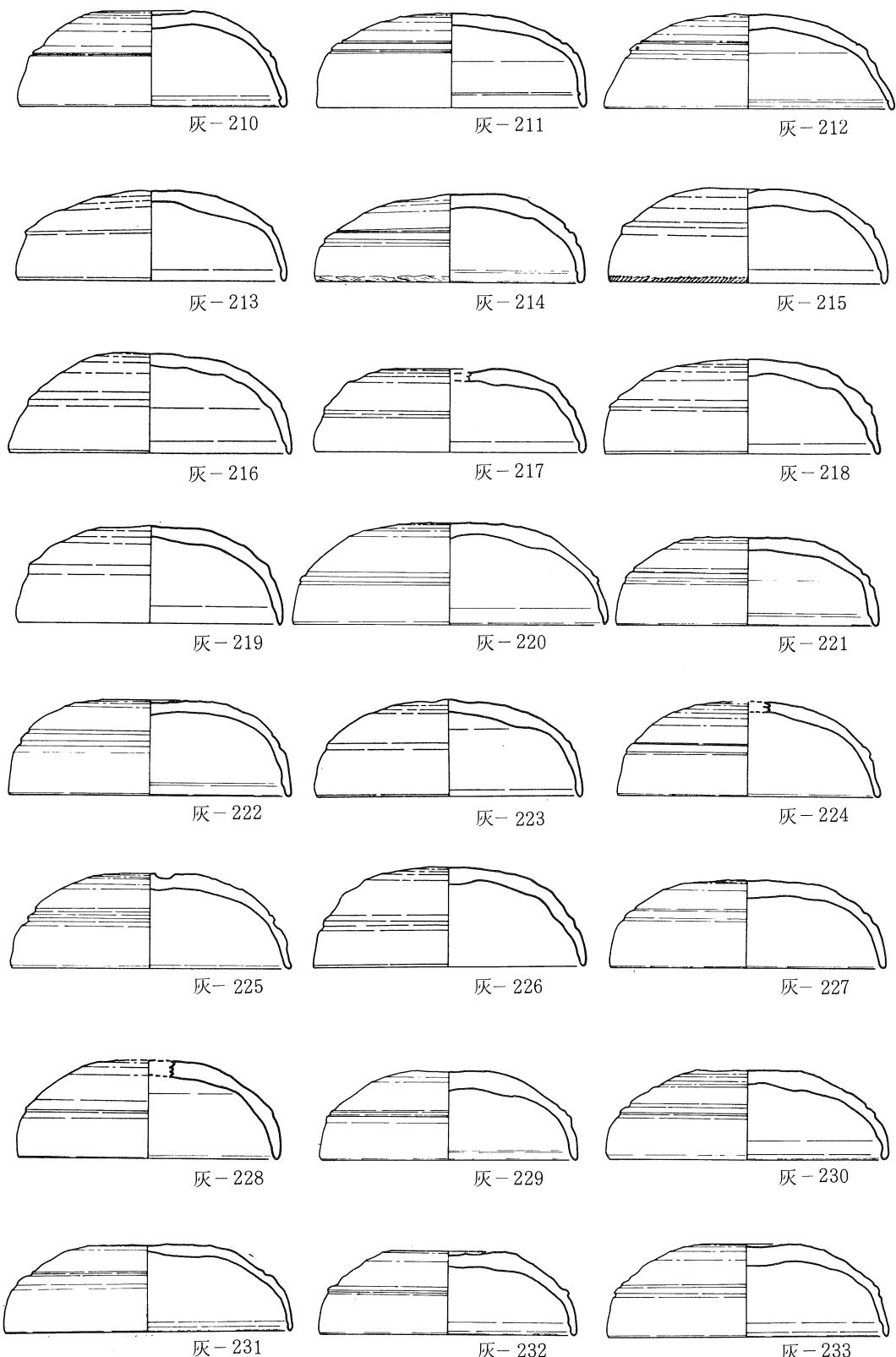
第55図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)



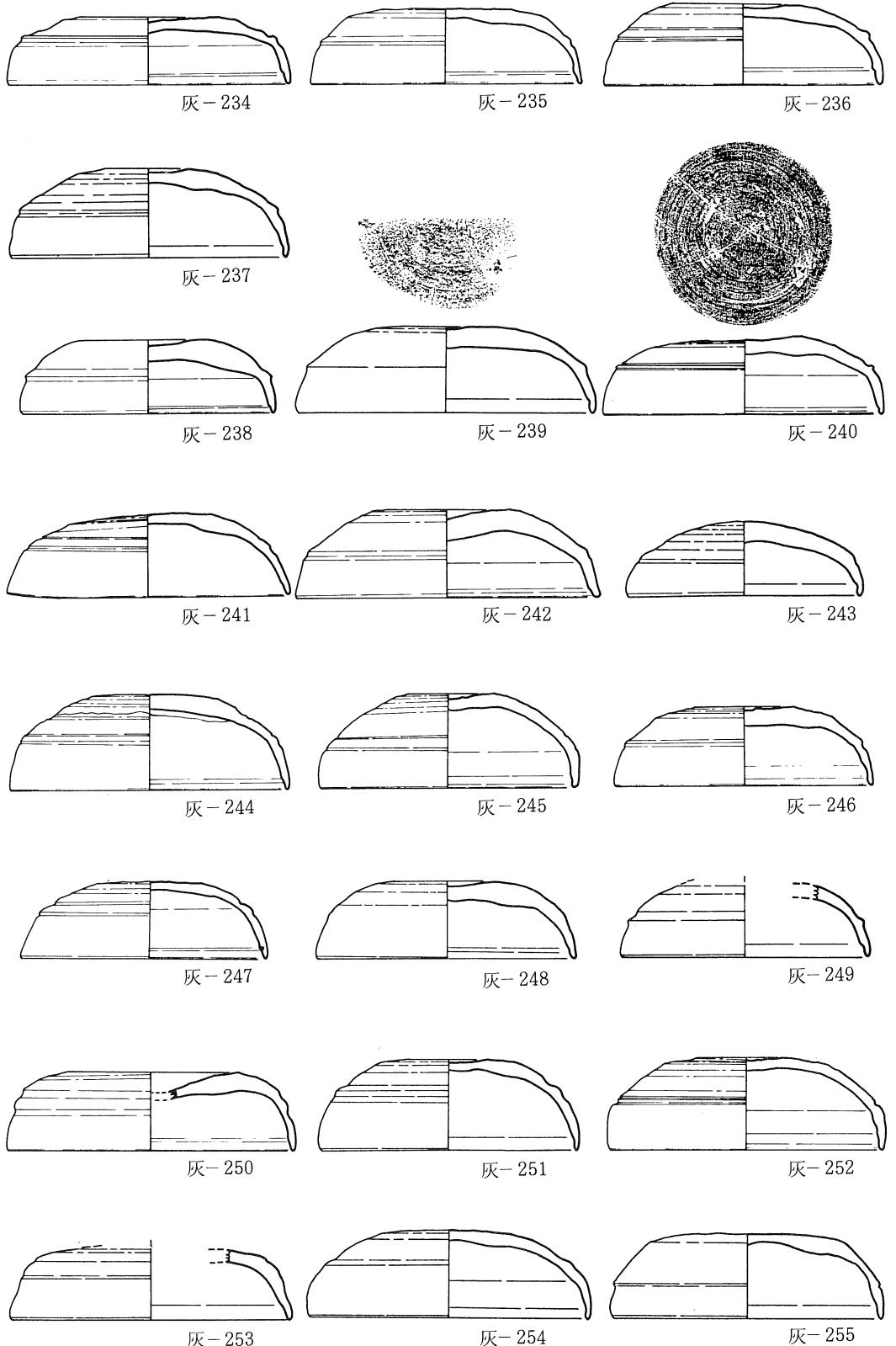
第56図 下の北区出土遺物実測図③ (1/3)



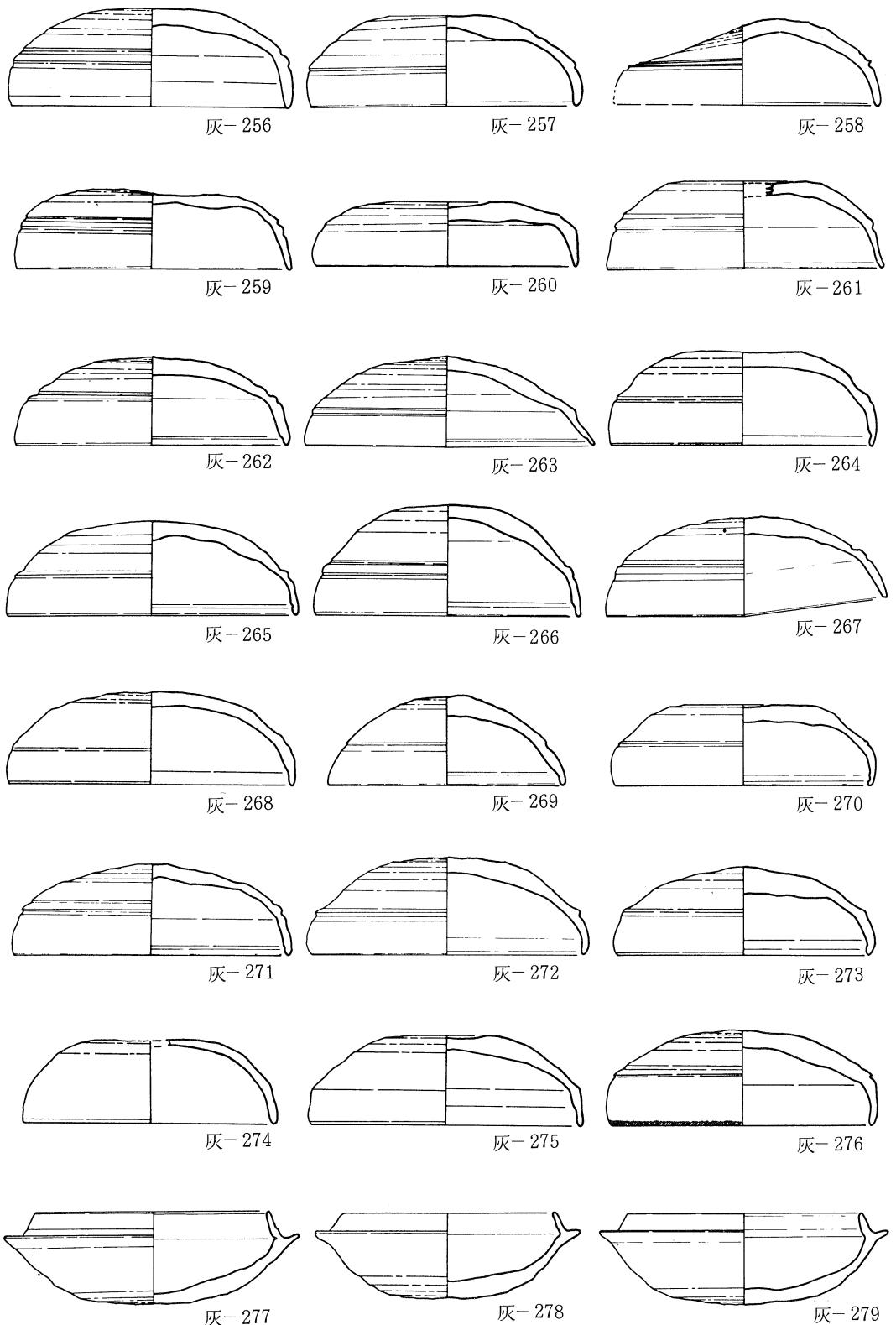
第57図 下の北区出土遺物実測図④(1/3)



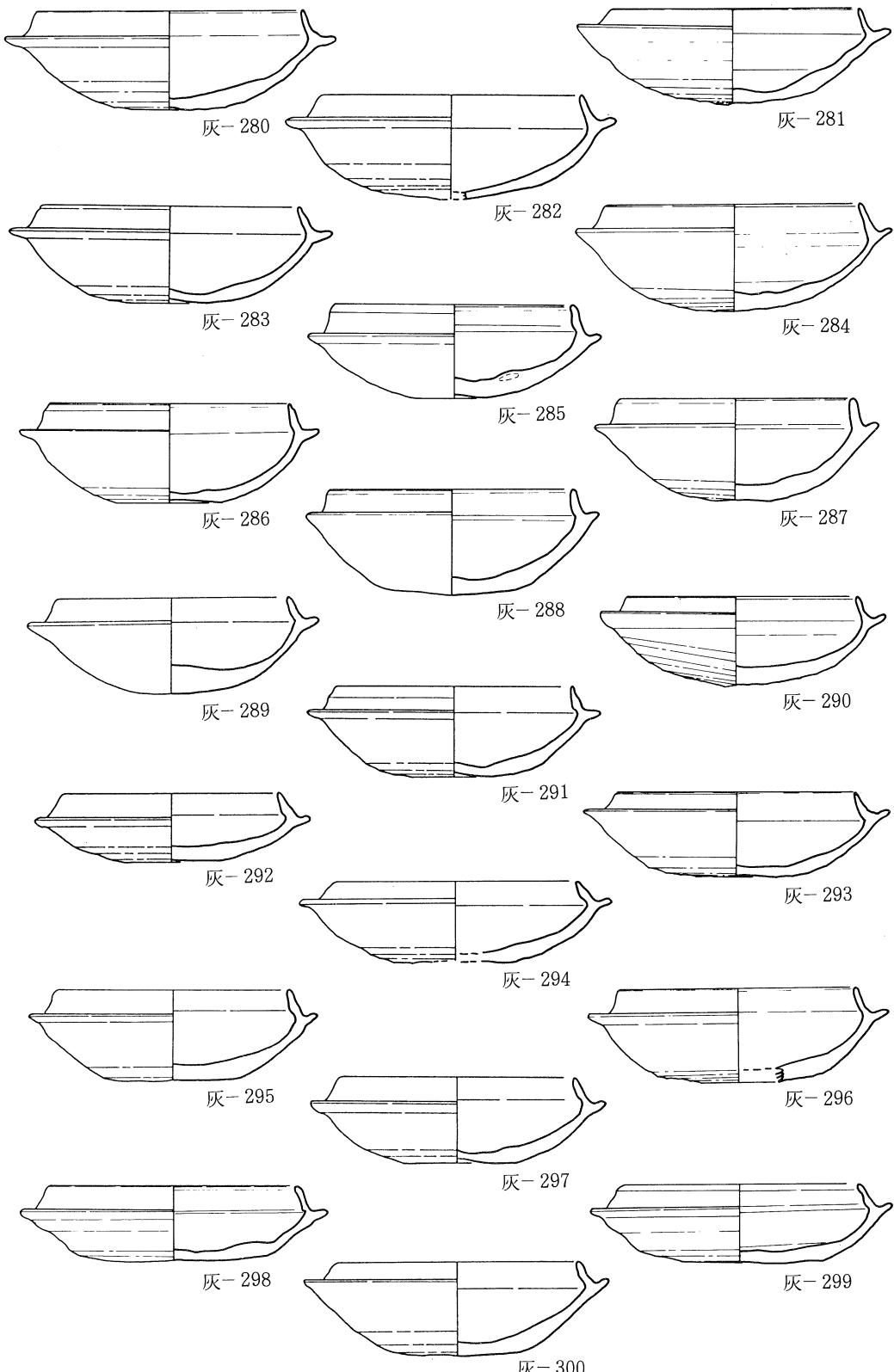
第58図 下の北区出土遺物実測図⑤(1/3)



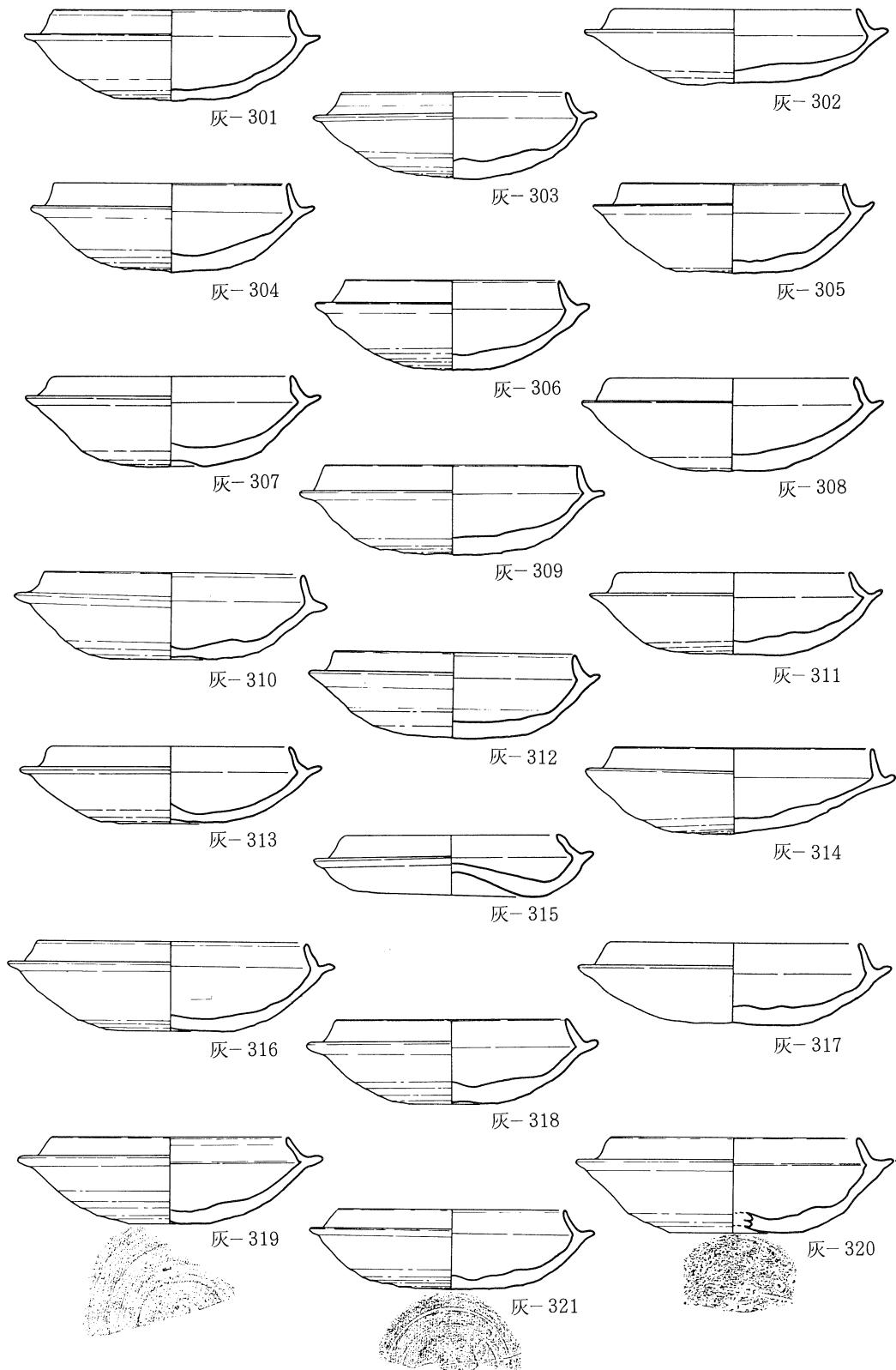
第59図 下の北区出土遺物実測図⑥(1/3)



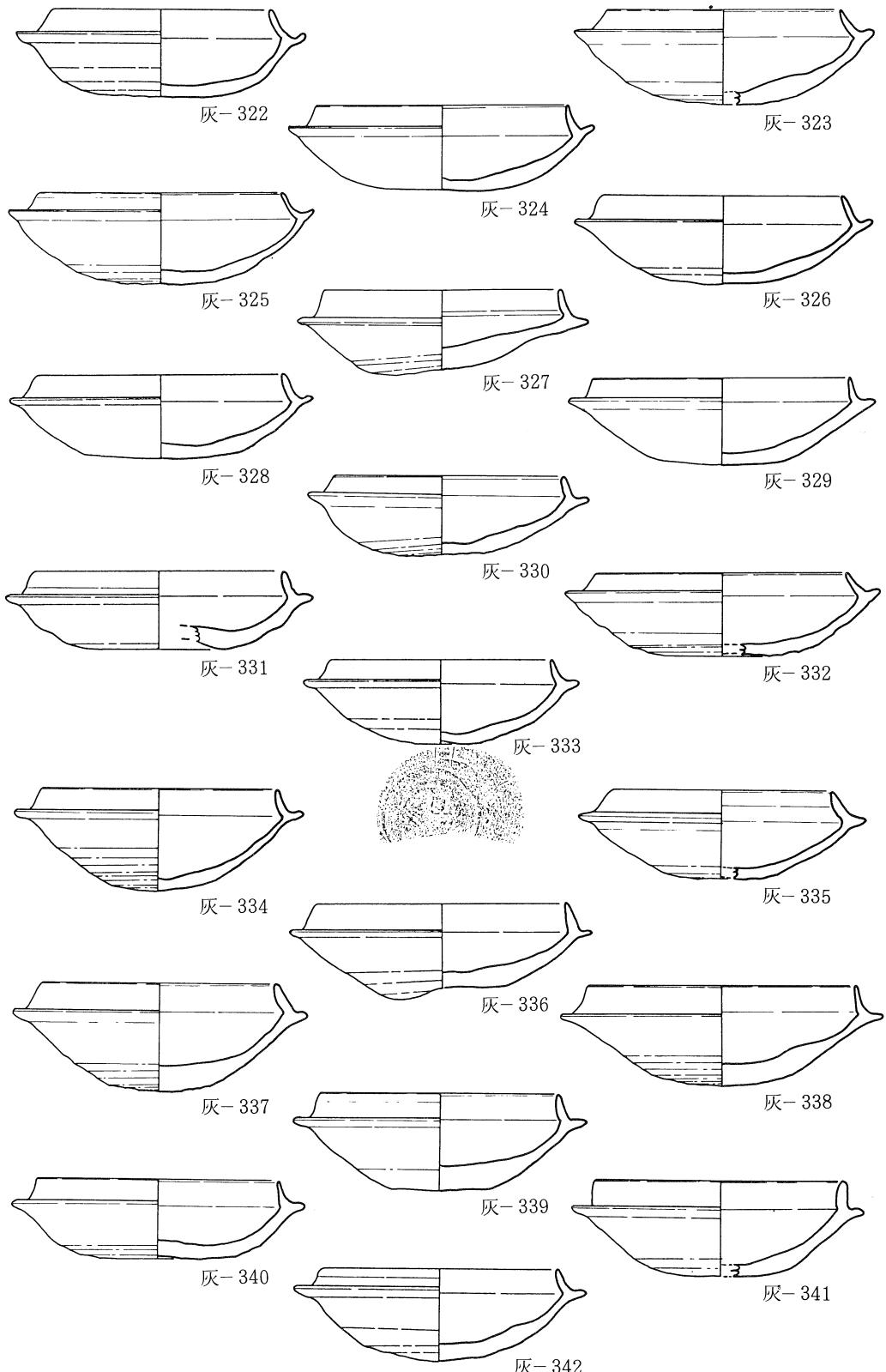
第60図 下の北区出土遺物実測図⑦ (1/3)



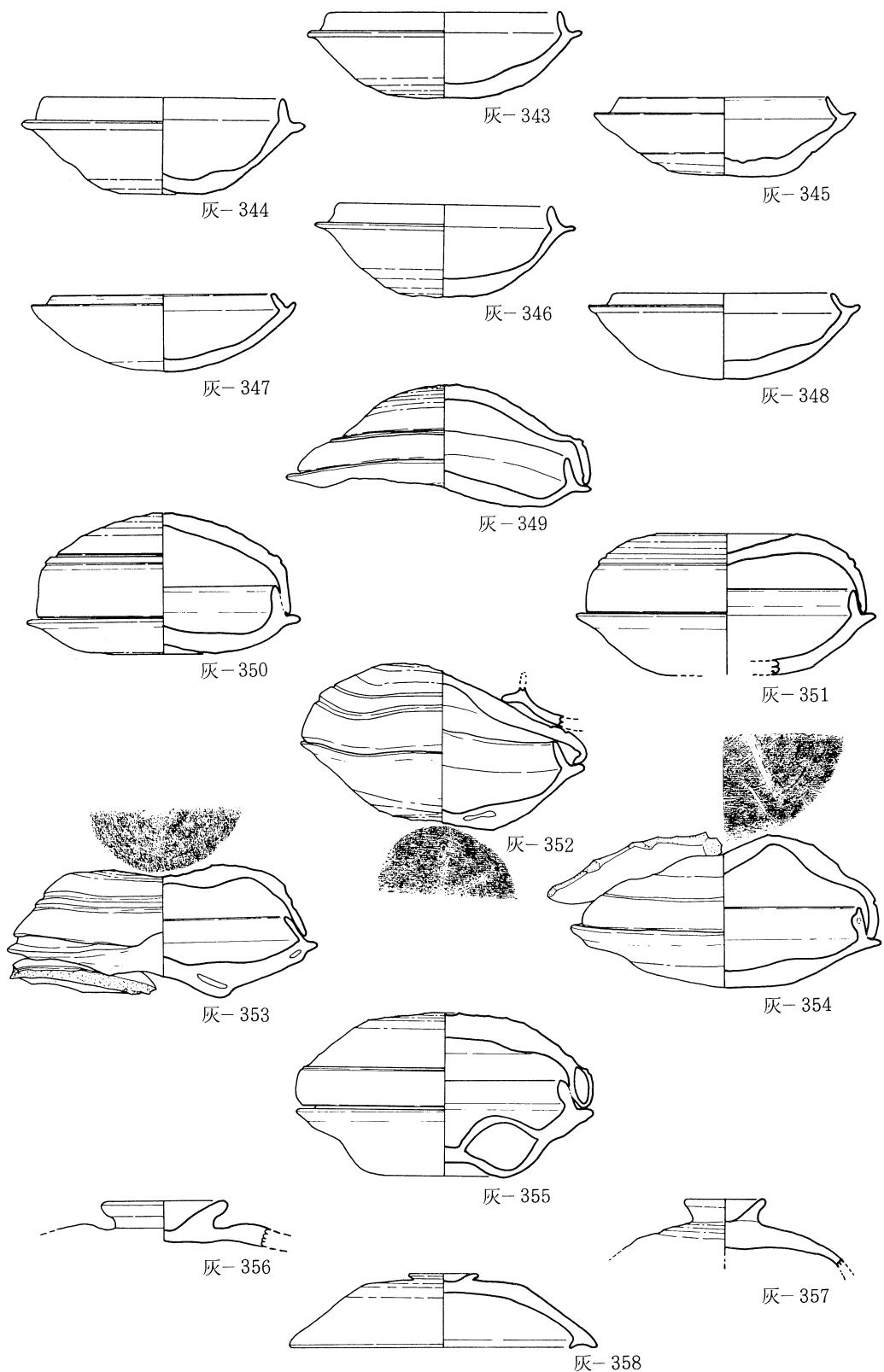
第61図 下の北区出土遺物実測図⑧(1/3)



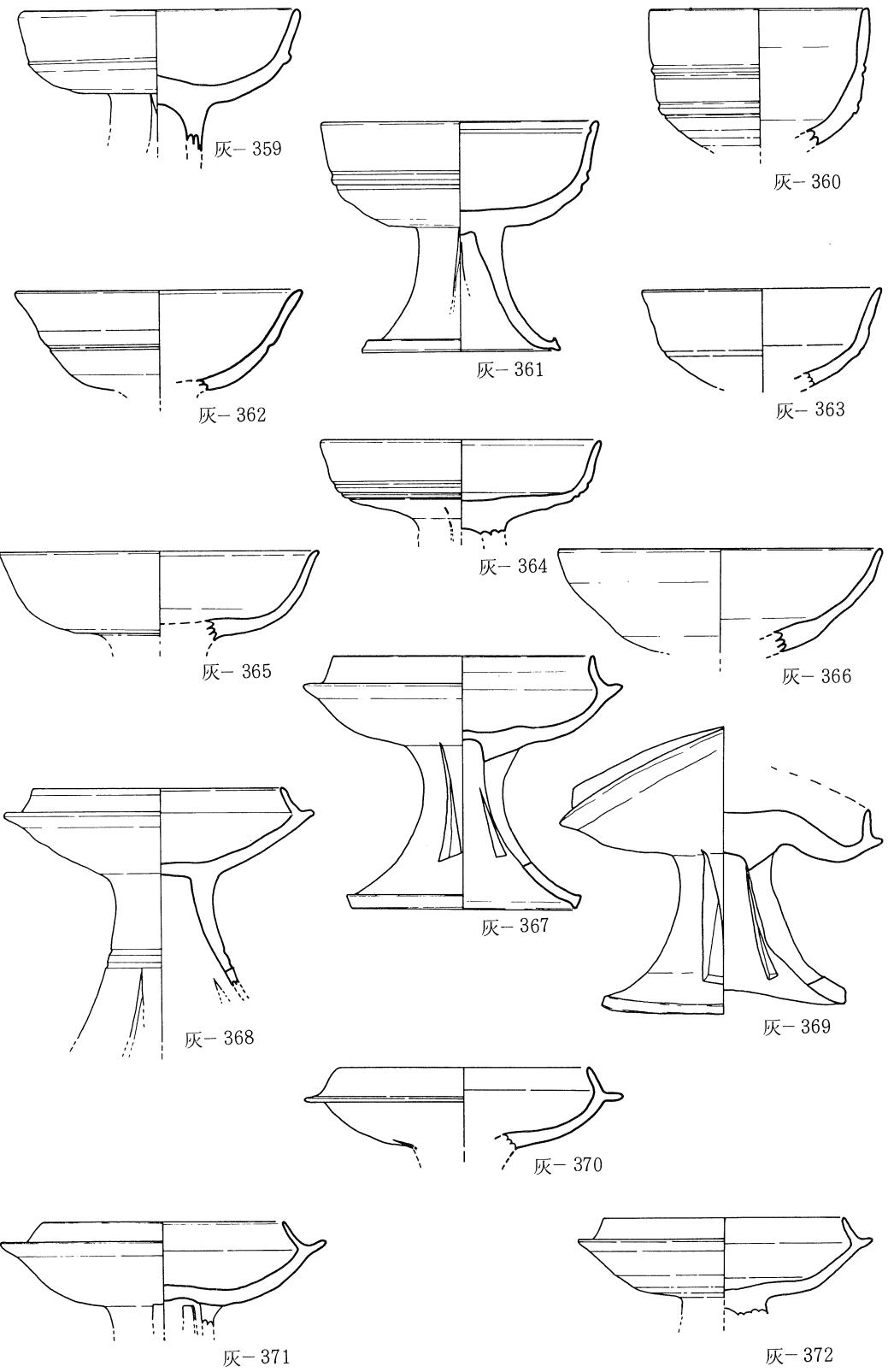
第62図 下の北区出土遺物実測図⑨(1/3)



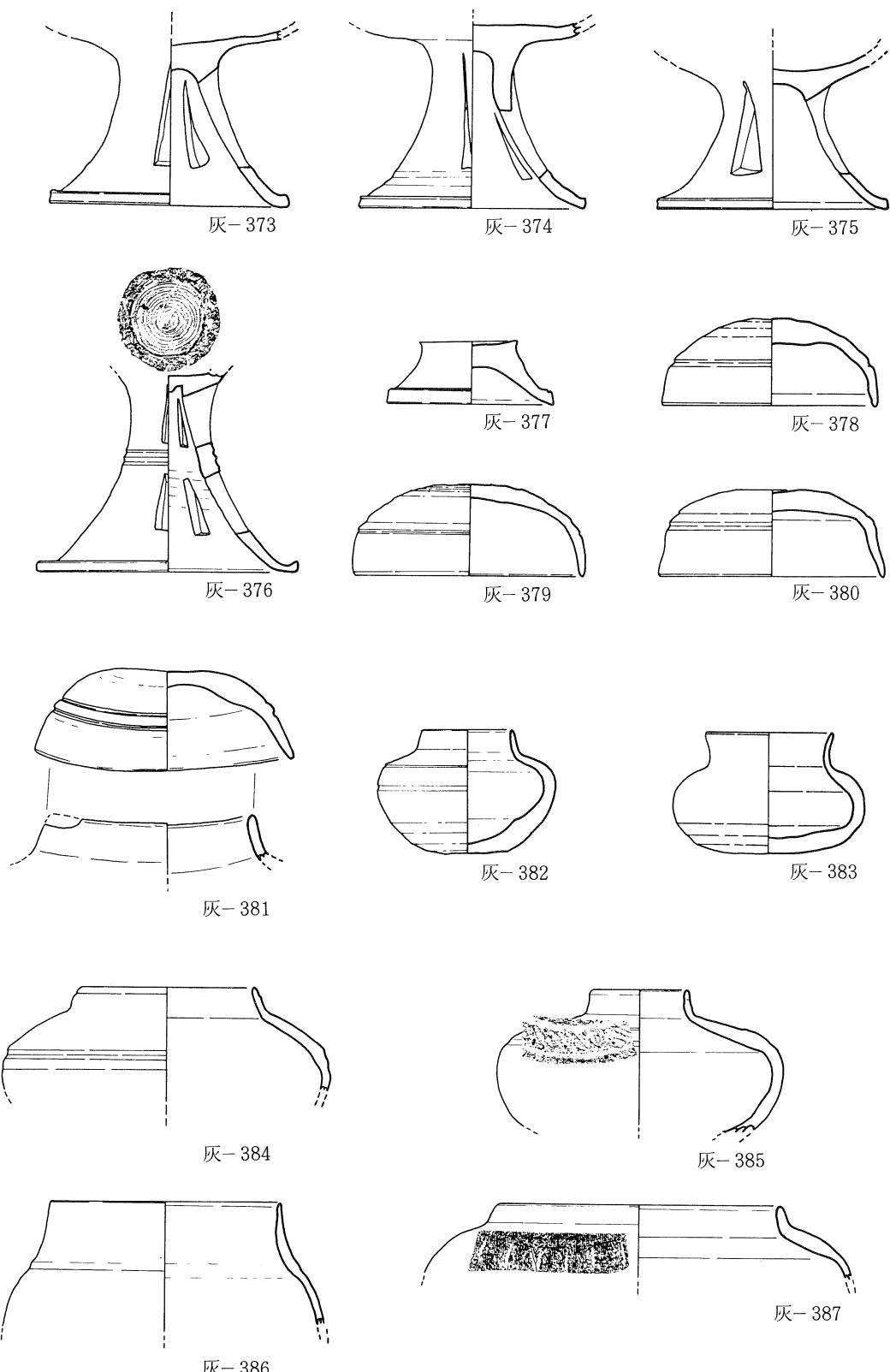
第63図 下の北区出土遺物実測図⑩(1/3)



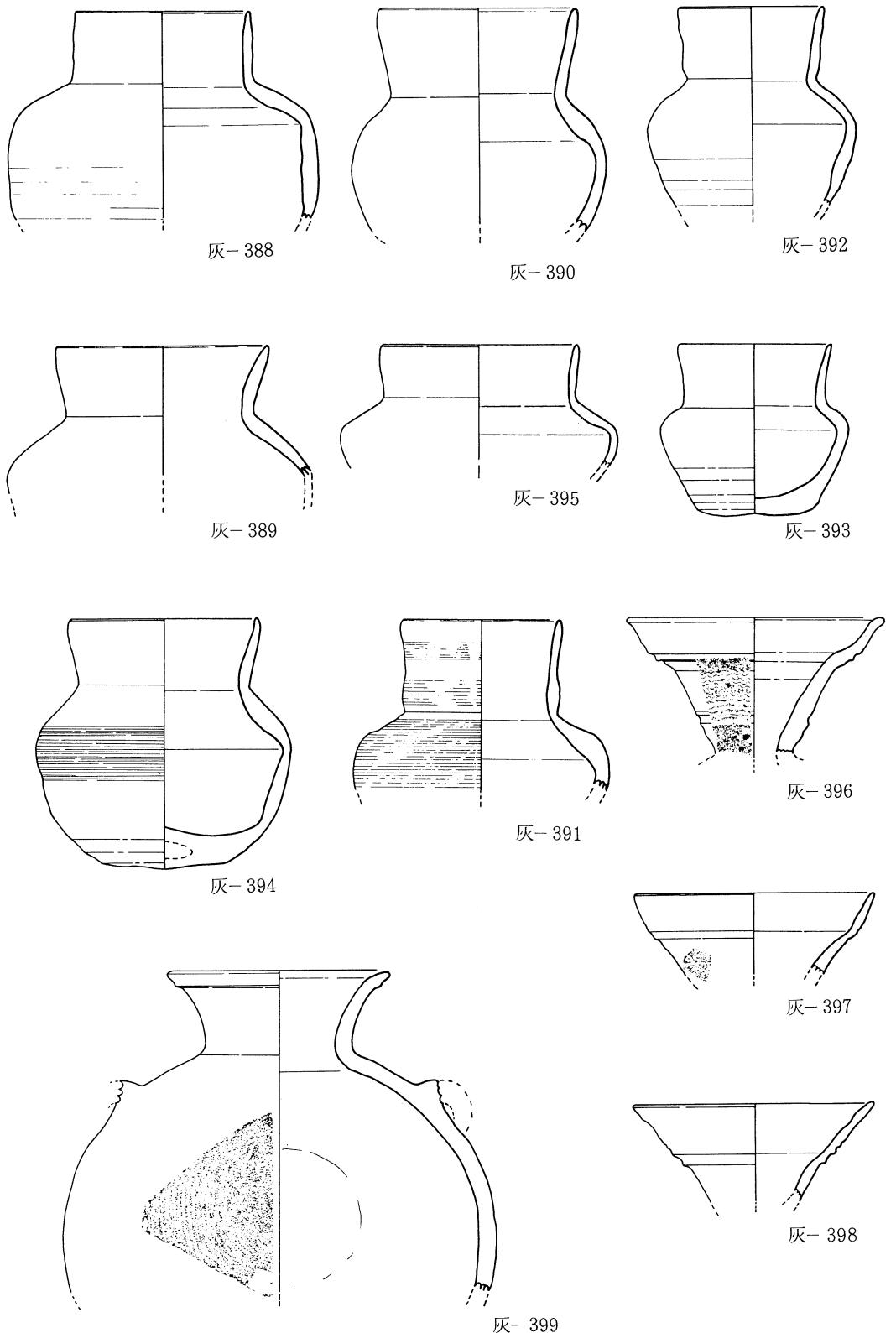
第64図 下の北区出土遺物実測図⑪(1/3)



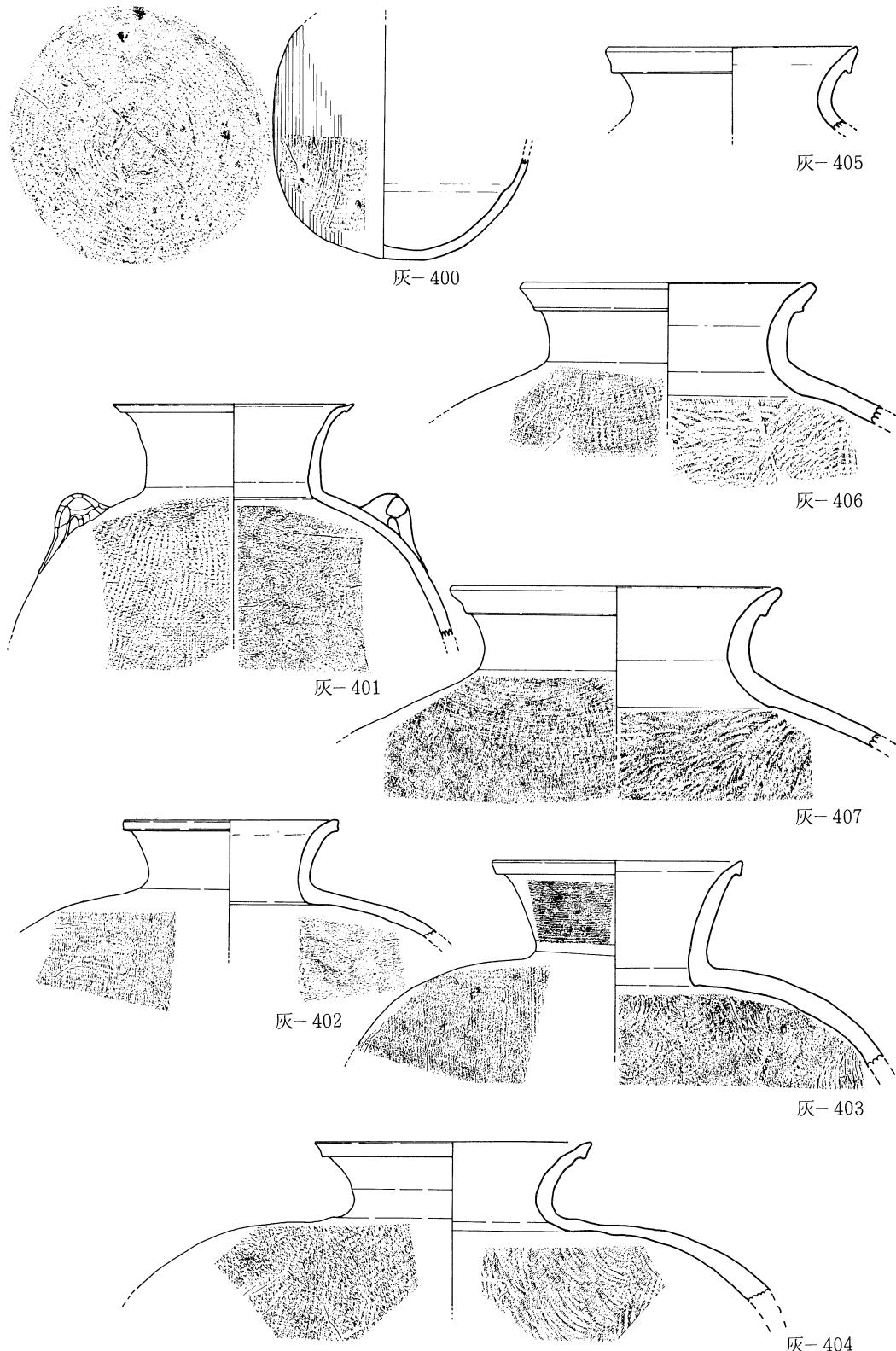
第65図 下の北区出土遺物実測図② (1/3)



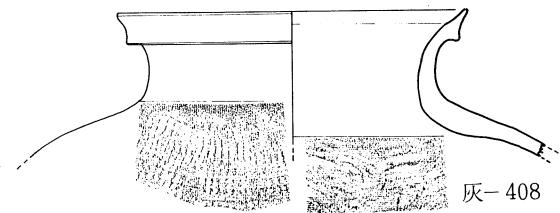
第66図 下の北区出土遺物実測図13 (1/3)



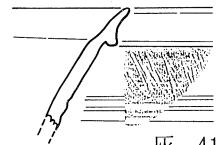
第67図 下の北区出土遺物実測図⑭ (1/3)



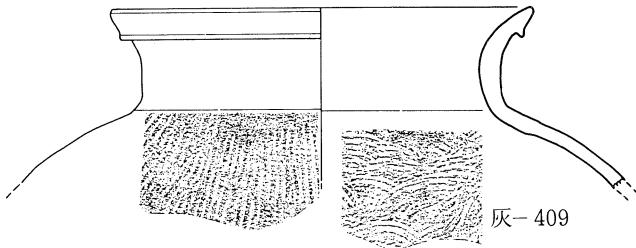
第68図 下の北区出土遺物実測図⑯ (1/4)



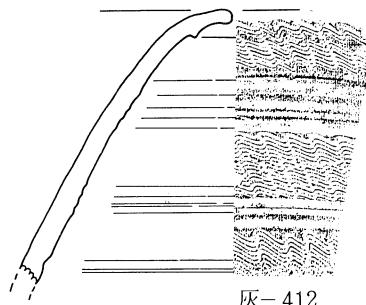
灰-408



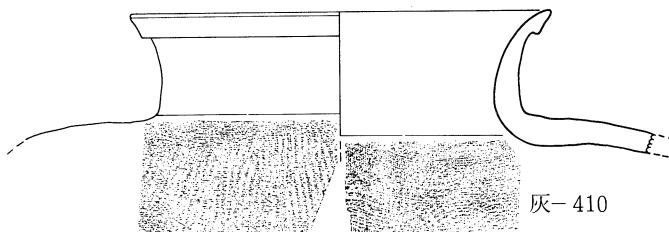
灰-411



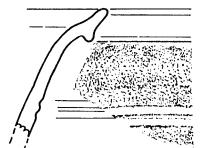
灰-409



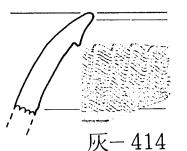
灰-412



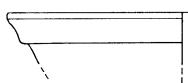
灰-410



灰-413



灰-414



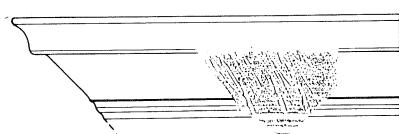
灰-415



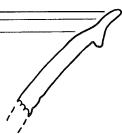
灰-416



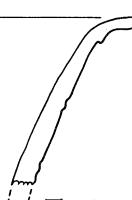
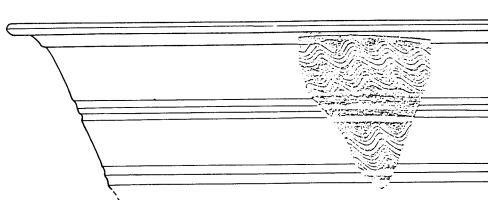
灰-417



灰-419

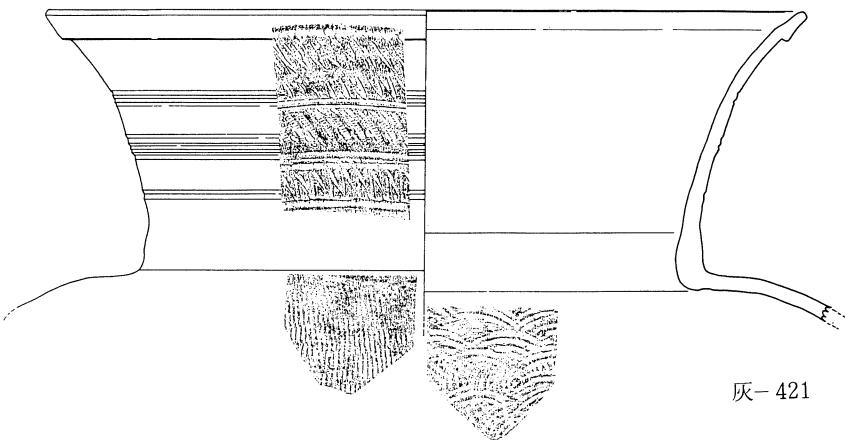


灰-418

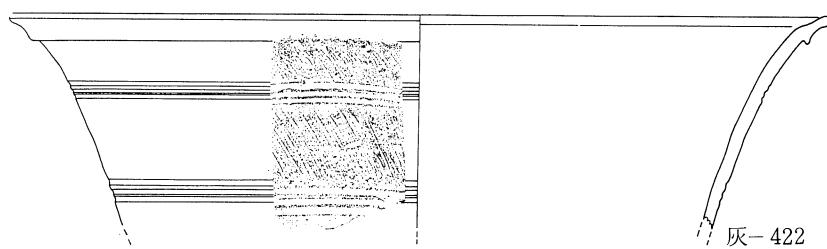


灰-420

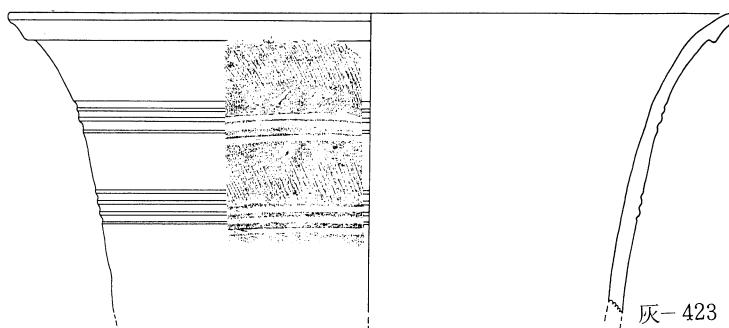
第69図 下の北区出土遺物実測図⑩(1/4)



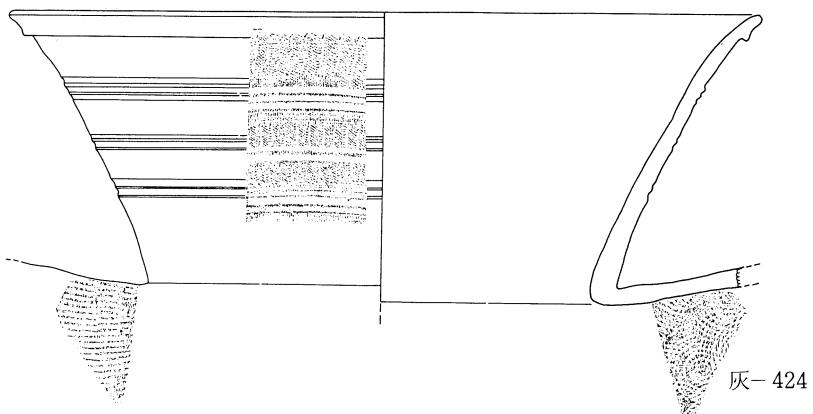
灰-421



灰-422

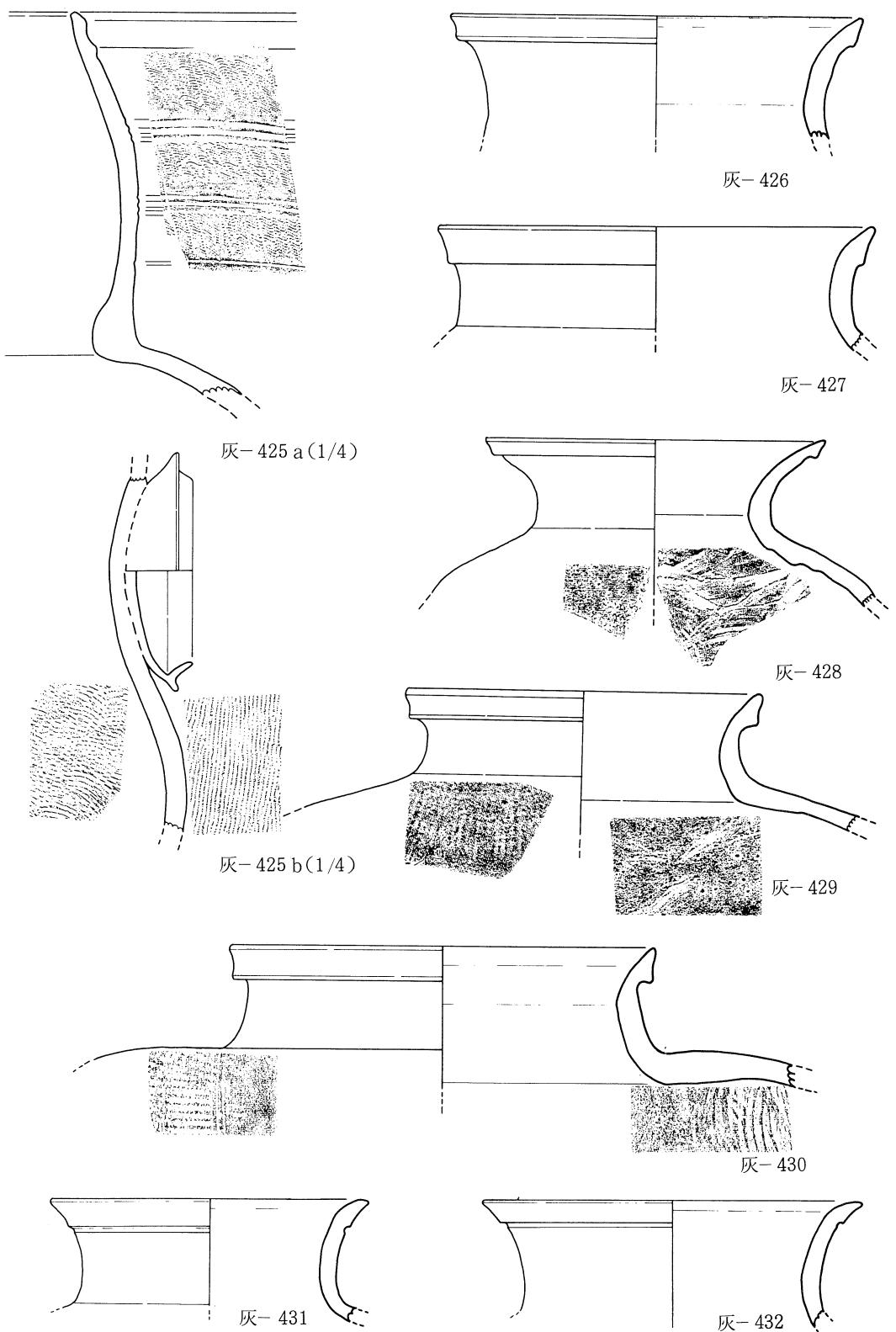


灰-423

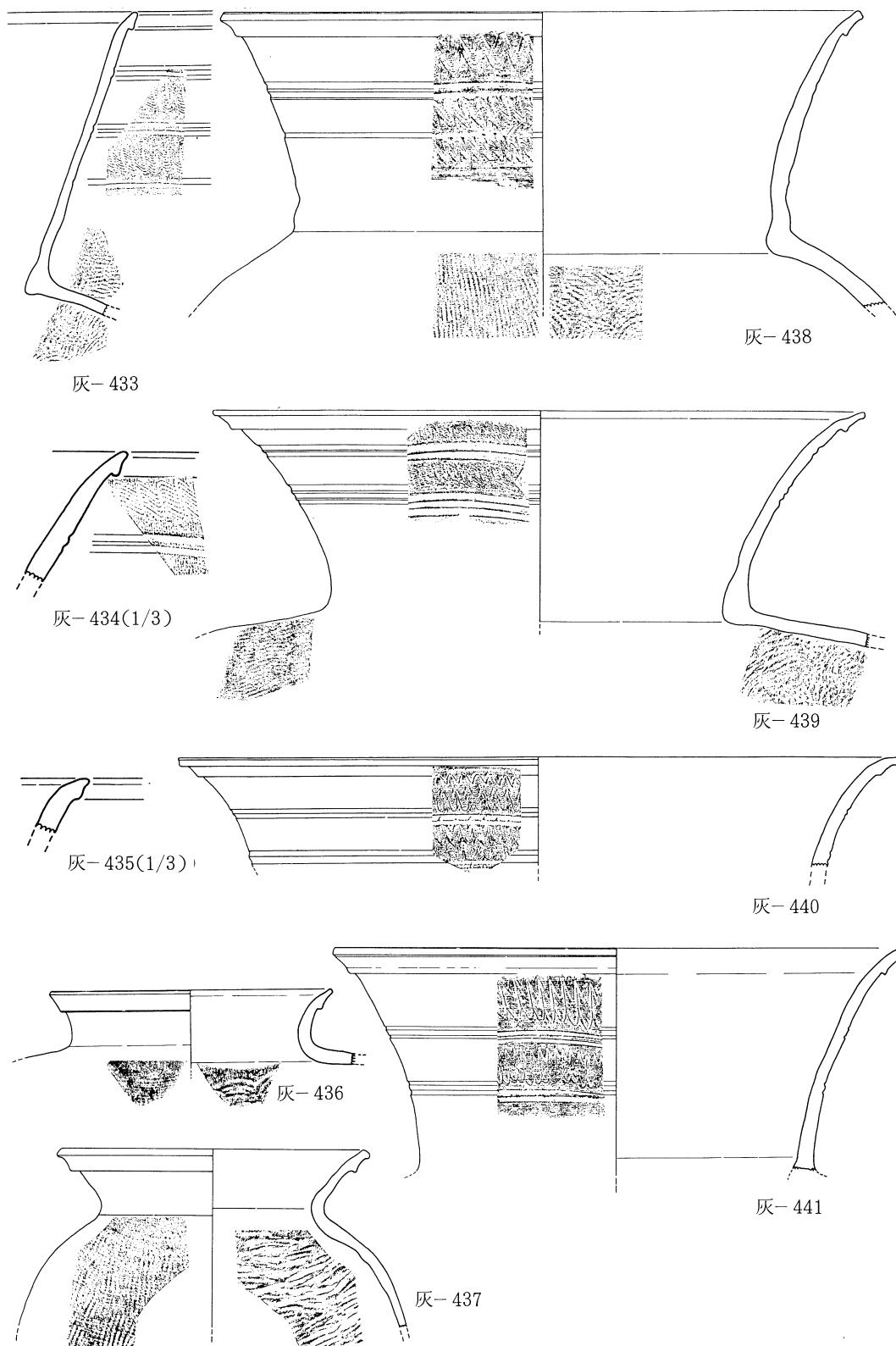


灰-424

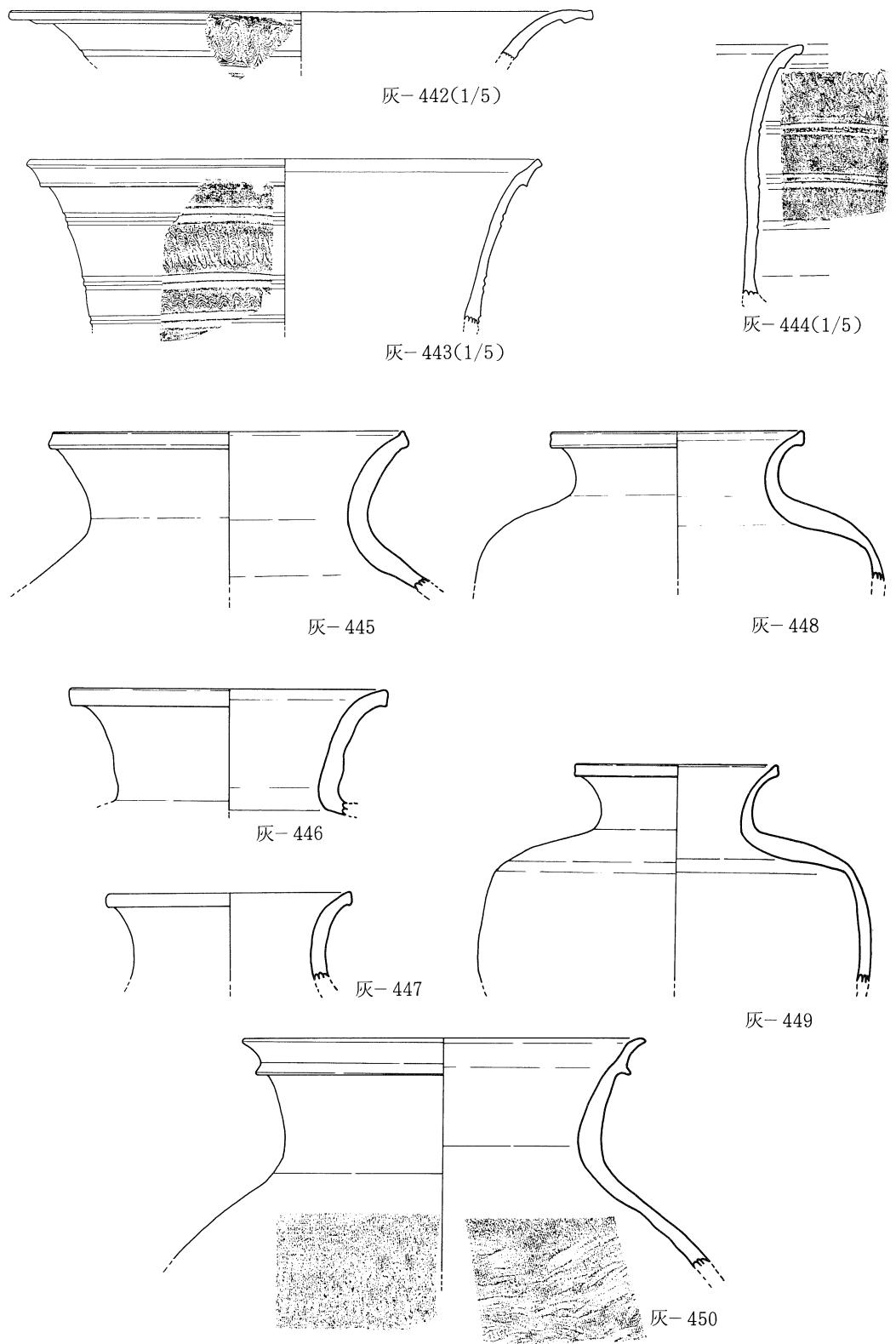
第70図 下の北区出土遺物実測図⑦ (1/5)



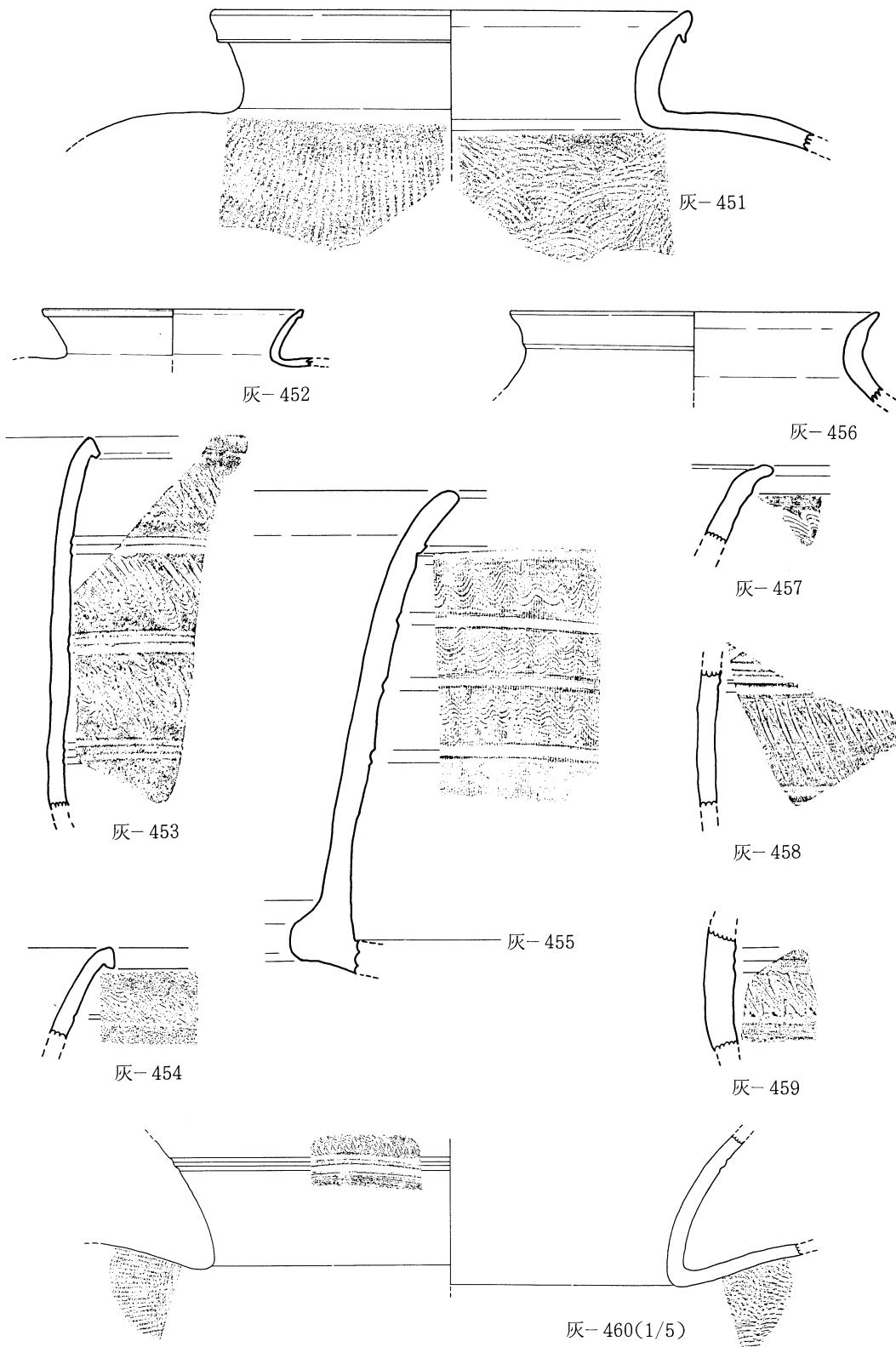
第71図 下の北区出土遺物実測図18 (1/3)



第72図 下の北区出土遺物実測図19 (1/5)



第73図 下の北区出土遺物実測図20 (1/3)



第74図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)

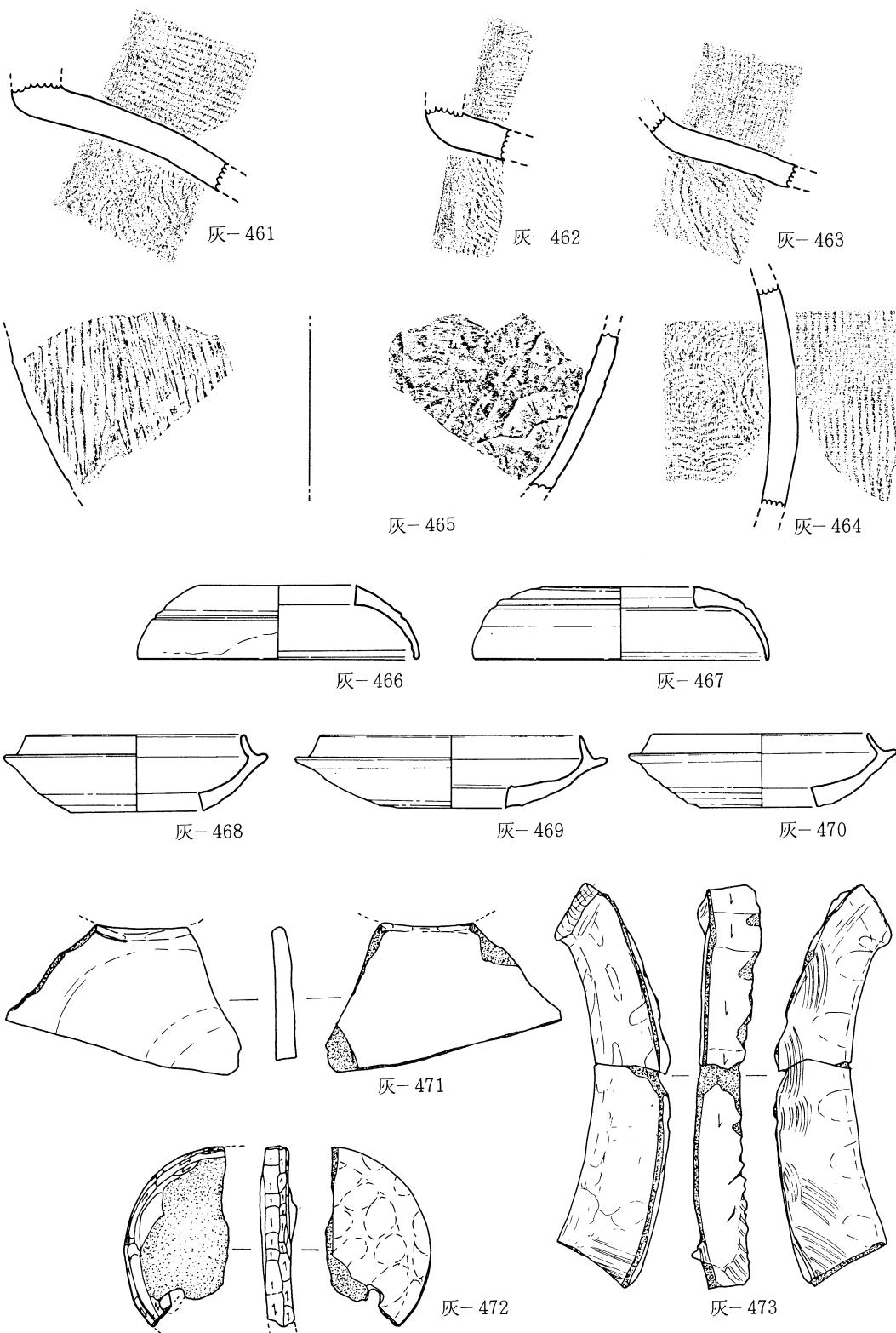
無蓋高坏（灰-34, 35）と有蓋高坏（灰-36～38）が計5点、4・5号窯跡や（灰-1～4）と同じ特徴を持つ甕が13点（灰-39～51），土師質の甕と思われる把手が1点（灰-52），土師質の土玉が1点（灰-53），であった（第42～44図）。

上の南区

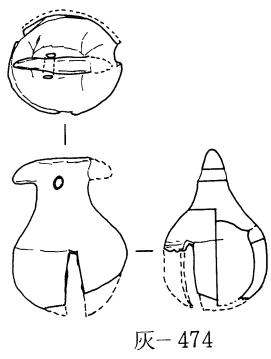
(3)層では出土遺物は1点もなかった。

(1)層では甕が1点（灰-54）であったが、小片のために詳細は不明である。（2）層では常滑焼きの甕が1点（灰-81）と須恵器の甕が1点（灰-82），（2）層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ环蓋が1点（灰-55），天井部が笠切りで口縁端部が短く直立し輪状や擬宝珠のつまみを付ける环蓋が4点（灰-57, 59, 61, 62），天井部が回転糸切りで同様な特徴を持つ环蓋が3点（灰-56, 58, 60），（灰-5）と同様な特徴を持つ皿が6点（灰-63～68），底部が回転糸切りで緩やかに内湾しながら立ち上り口縁端部が屈曲する坏が2点（灰-69, 70），やや外方に張り出しがっしりした高台を持ち底部が糸切りの坏が3点（灰-71～73），2段透しを持つ高坏の脚部（灰-75），底部外周縁に低い高台を有し底部を糸切りで切り離す壺（灰-74），頸部から直線的に口縁部に立ち上がる直口壺（灰-76），口縁部が急激に外反する鍋（灰-78），口縁部が外反し端部が上方に摘まみ上げられた甕（灰-77），器種不明のもの（灰-79），須恵器の把手（灰-80），石製紡錘車（灰-83），黒曜石製の石鏃（灰-84）が各1点，であった（第45・46図）。

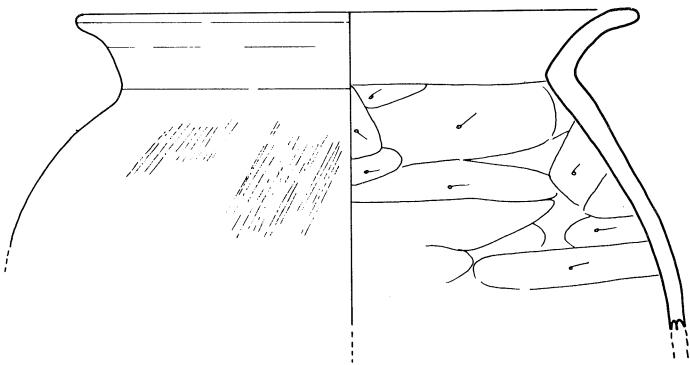
(4)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ环蓋と环身が2点（灰-85, 86），（灰-30）と形態的特徴が同じ环身が1点（灰-87），（灰-56, 58, 60）と同様な特徴を持つ环蓋が3点（灰-88～90），（灰-69, 70）と同様な特徴を持つ坏が4点（灰-91～94），底部が笠切り（灰-95）や回転糸切りで同上の特徴を持つ坏の重ね焼きのセットが4点（灰-95～98），（灰-71～73）と類似する高台を持つ坏が2点（灰-99, 100），（灰-74）と同様な特徴を持つ坏（灰-101～104）やこの特徴を有する坏の重ね焼きのセット（灰-105）が計5点，4・5号窯跡と同じ特徴を持つ高坏（灰-106）や透しのない高坏（灰-107）の脚部が計2点，底部が平坦な壺（灰-108），くの字に屈曲する頸部から外方に緩やかに立ち上がる口縁部を持つ広口壺（灰-109），同様な頸部から短く立ち上がる口縁部を持つ短頸壺（灰-110），同様な特徴を持つ小型壺（灰-112）や（4-43）と類似する壺の口縁部（灰-111）が各1点，くの字に屈曲する頸部から短く立ち上がり口縁部が単純なつくりの甕（灰-113～115）や甕の頸部片（灰-117～119）が計6点，（灰-78）と極似する鍋が1点（灰-116），それに土師質の甕の脚端部が1点（灰-120），であった（第47～49図）。



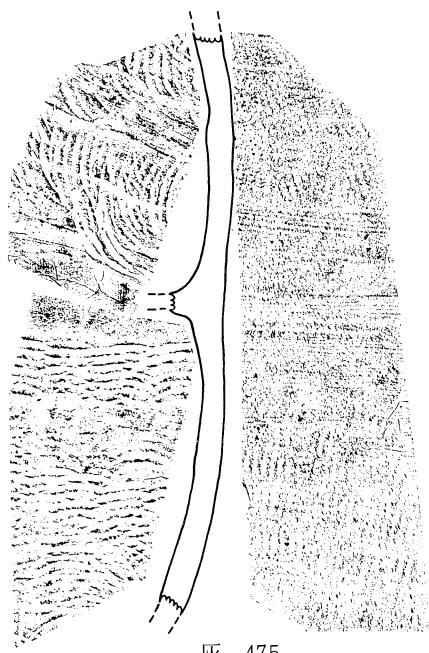
第75図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)



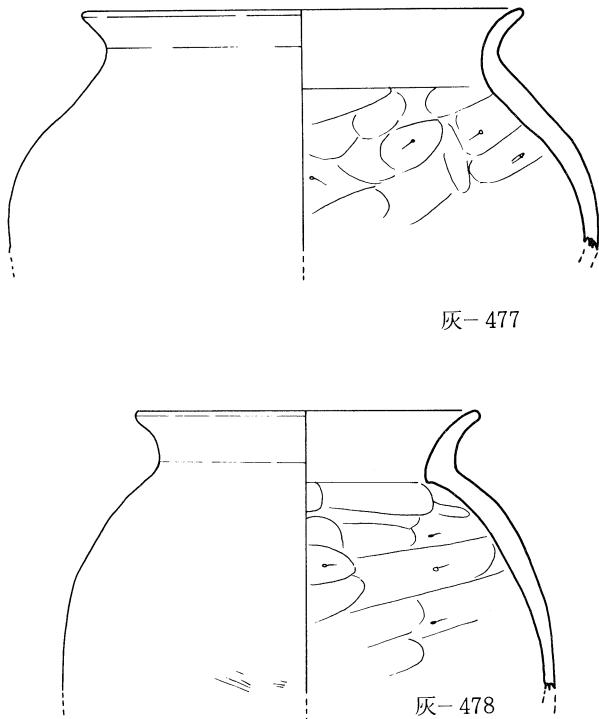
灰-474



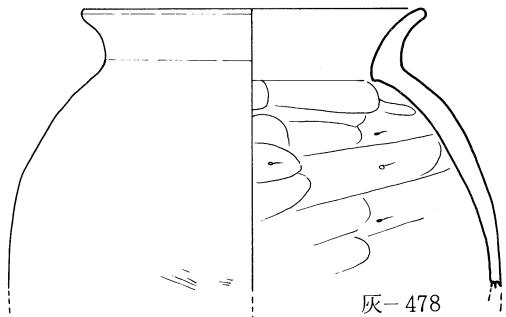
灰-476



灰-475



灰-477

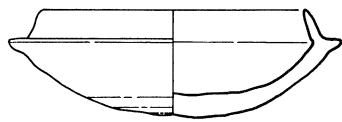


灰-478

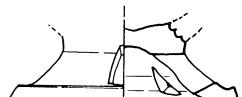
第76図 下の北区出土遺物実測図23(1/3)

(5)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壊身が3点(灰-121～123), (灰-30, 87)と同様な特徴を持つ壊身が1点(灰-124), (灰-75)と極似する脚部に底の浅い壊部を持つ高壊が1点(灰-125), 4・5号窯跡や(灰-42)等と同じ特徴を持つ甕が3点(灰-126～128), (灰-80)と同じ須恵質の把手が1点(灰-129), であった(第50図)。

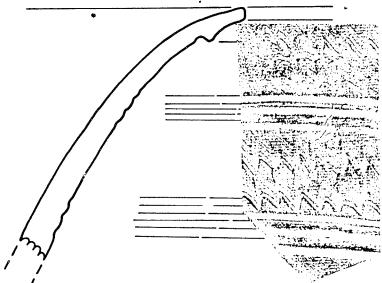
(6)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壊蓋と壊身が計6点(灰-130～135), (灰-71～73)と同様な特徴を持つ壊が1点(灰-136), 瓢削りの底部にくの字に屈曲する



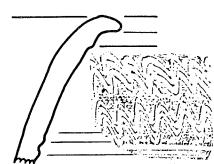
灰-479



灰-480



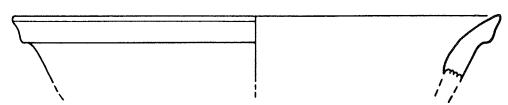
灰-481



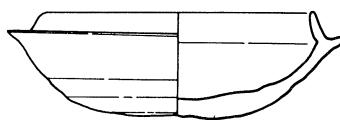
灰-482



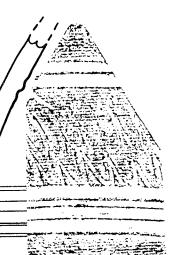
灰-483



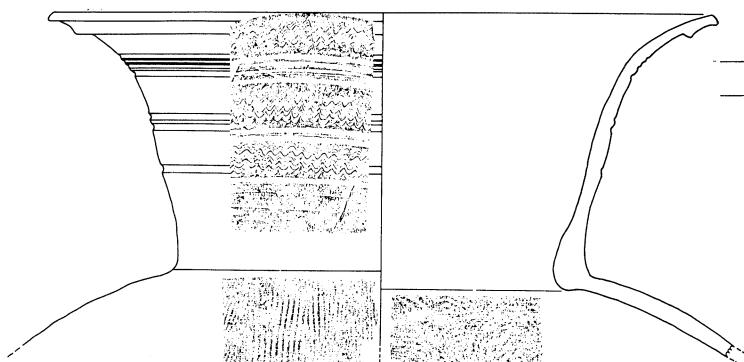
灰-484



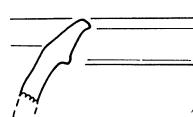
灰-485



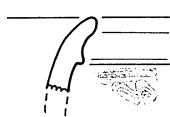
灰-489



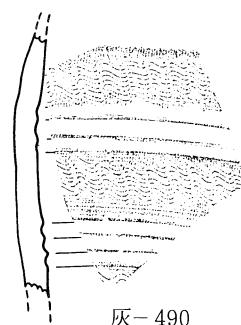
灰-486(1/5)



灰-487

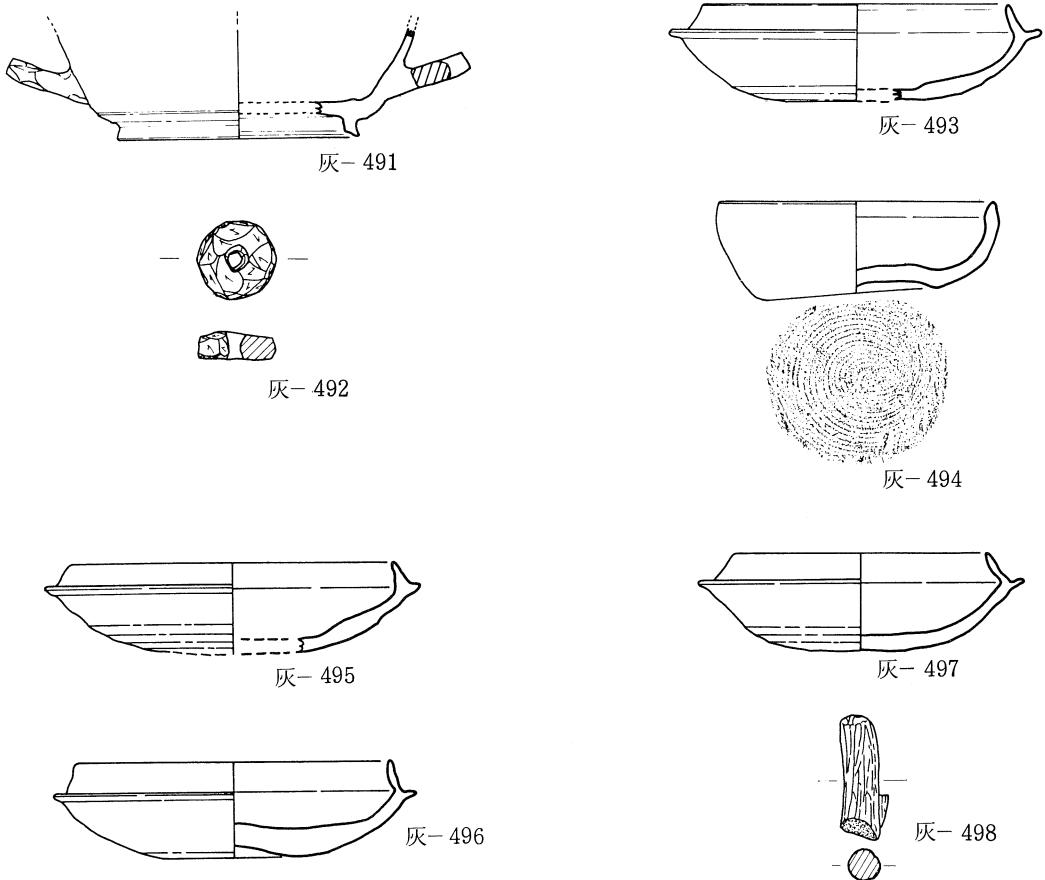


灰-488



灰-490

第77図 下の北区出土遺物実測図 ②(1/3)



第78図 下の南区・C-1区出土遺物実測図(1/3)

頸部を持つ壺が1点(灰-137), (灰-2)と同じ特徴を持つ甕の口縁部が1点(灰-138), であった(第51図)。

その他は流れ込みの土器群を指すが、(灰-124)と同じ特徴を持つ坏身(灰-139~141)や4・5号窯跡と同様な特徴を持つ高坏(灰-143~145)や甕(灰-148~150)が各3点、高台を持つ坏(灰-142)や短頸壺(灰-146)や底部が平坦な甕(灰-147)が各1点、この他に土師器の甕が1点(灰-151)と甕が3点(灰-152~154)、土師質の土製支脚が2点(灰-155, 156)、であった(第52・53図)。

下の北区

(1)層では擂鉢^うが1点(灰-157)、直口壺が2点(灰-158, 159)、甕が1点(灰-160)、須恵質の土馬が1点(灰-161)、円孔を持つ窯道具が1点(灰-162)、であった(第54図)。

(2)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つと思われる甕が3点(灰-177~179)、で

あった（第56図）。（2）層では（灰-88）と同じ壺蓋（灰-163）や（灰-63～68）と同じ皿（灰-164）や（灰-94）と同じ壺（灰-165）が各1点、（灰-71～73）と同じ特徴を持つ壺が4点（灰-166～169）、（4-43）と同じ甕口縁部（灰-173）や4・5号窯跡と同様な特徴を持つ甕が計6点（灰-170～175）、（灰-80, 129）と同一個体と思われる須恵質の把手が1点（灰-176），であった（第55図）。このうち、（灰-171）と（灰-175）は同一個体の可能性がある。

（3）層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ須恵器（灰-180～184, 186～189）の他に（灰-69）と同じ壺が1点（灰-185），であった（第56図）。（4）層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つと思われる壺蓋（灰-190～194）・壺身（灰-195, 196）・高壺（灰-206）・甕（灰-208）が計9点、6号窯跡と同様な特徴を持つ壺が1点（灰-202），（灰-185）等と同じ壺が2点（灰-200, 201），（灰-101～104, 166, 167）と同様な高台を持つ壺が3点（灰-203～205），甕の口縁部片（灰-207）や須恵質の小玉（灰-209）が各1点，であった（第57図）。

（5）層では多量の遺物が出土し、実測できたのは計269点に上った（第58～76図）。これらのうち、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ須恵器の他に、（灰-199）と同様なつまみを持つ壺蓋が3点（灰-356～358），透かしのない高壺の脚部が1点（灰-377），（6-8）と同一個体と思われる破片が1点（灰-465）等、明らかに時期が下がると思われる遺物もある程度認められた。

（6）層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壺身（灰-479）や甕（灰-481～483）の他に、高さは低いが明瞭な三角形透かしを三方に穿つ高壺の脚部（灰-480）や（灰-405）と同様な口縁部（灰-484）も認められた。また、その他は「排土中出土」等のように層位的に判断がつかなかったものであるが、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壺身（灰-485）や甕（灰-486～490）が計6点，であった（第77図）。

下の南区

（2'）層では（灰-203）と同じ高台が付き体部に把手が付く壺が1点（灰-491），須恵質の紡錘車が1点（灰-492），（6）層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壺身が1点（灰-493），（灰-201）と同じ壺が1点（灰-494），の計4点であった（第78図）。

C-1区

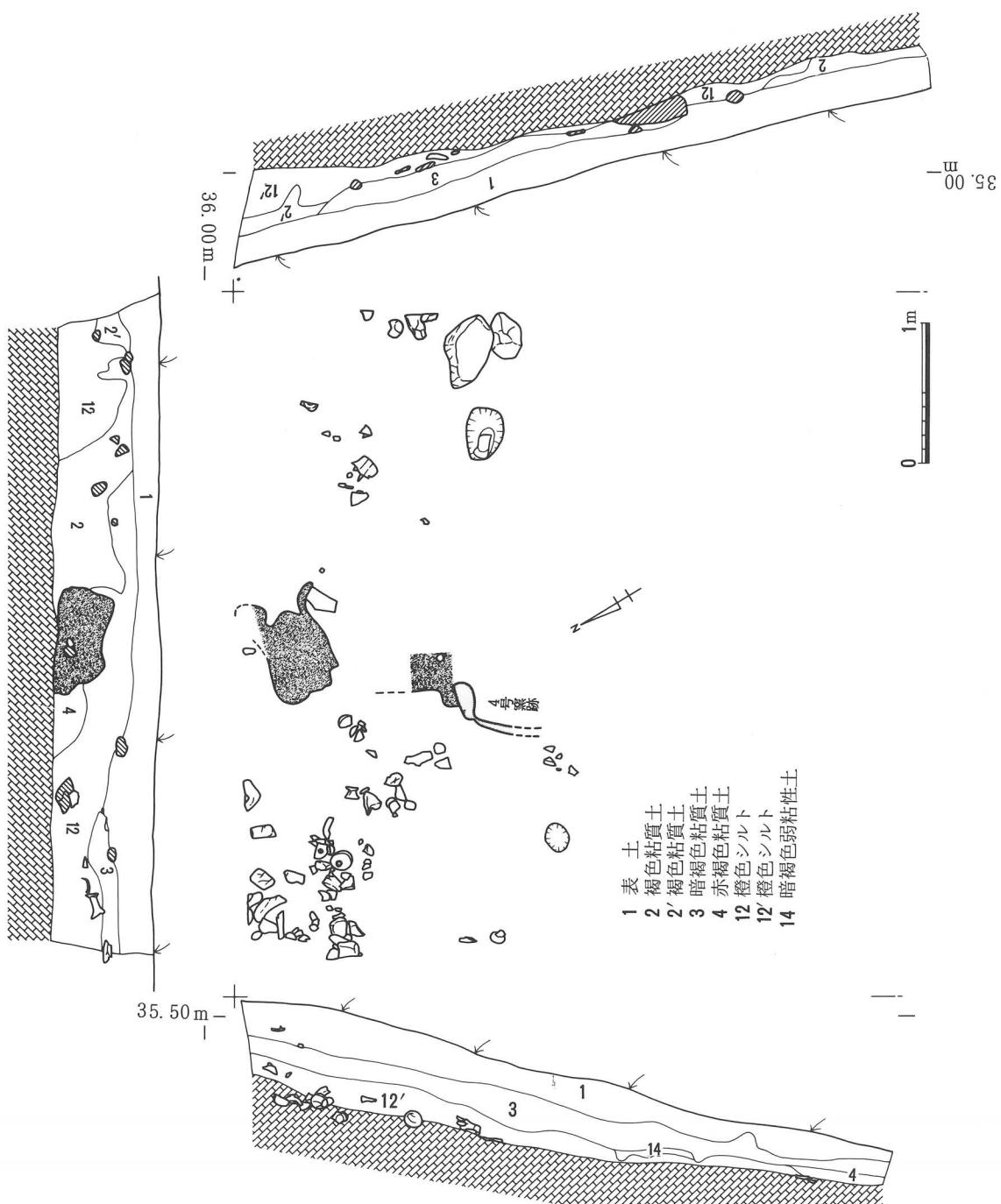
（1）層からのみ出土したが、このうち実測できたのは、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壺身が3点（灰-495～497）と器種不明が1点（灰-498），の計4点であった（第78図）。

(6) 北部調査区

本調査区は、4・5号窯跡北側に崖をもって画されている標高33.7～37.8mを計る緩斜面で、本窯跡群の精査に伴って周辺に遺構が認められ、多量の遺物が出土した。よって本調査区全体を 5×5 mのグリッドで覆い、南から北へア、イ、ウ…、東から西へ1、2、3…とし、各々をア-1区、イ-1区等と呼称した（第2図）。このうち、特に遺構・遺物を集中的に検出した箇所についての概要を述べる。



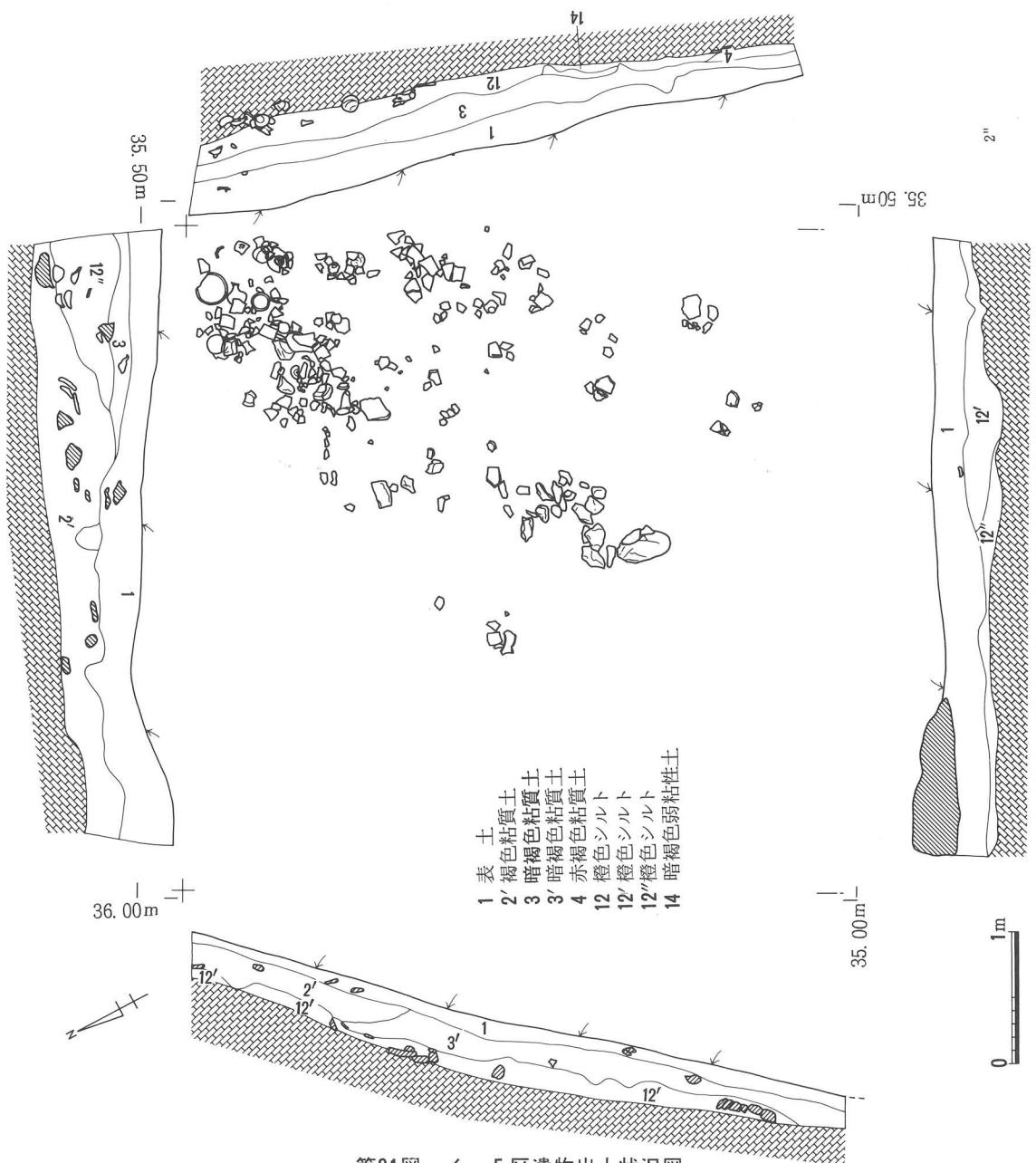
第79図 イ-3～5、ウ-4、5区遺物出土状況図



第80図 イー4区遺物出土状況図

ア, ア-4・5, イ-3~5, ウ-4・5区

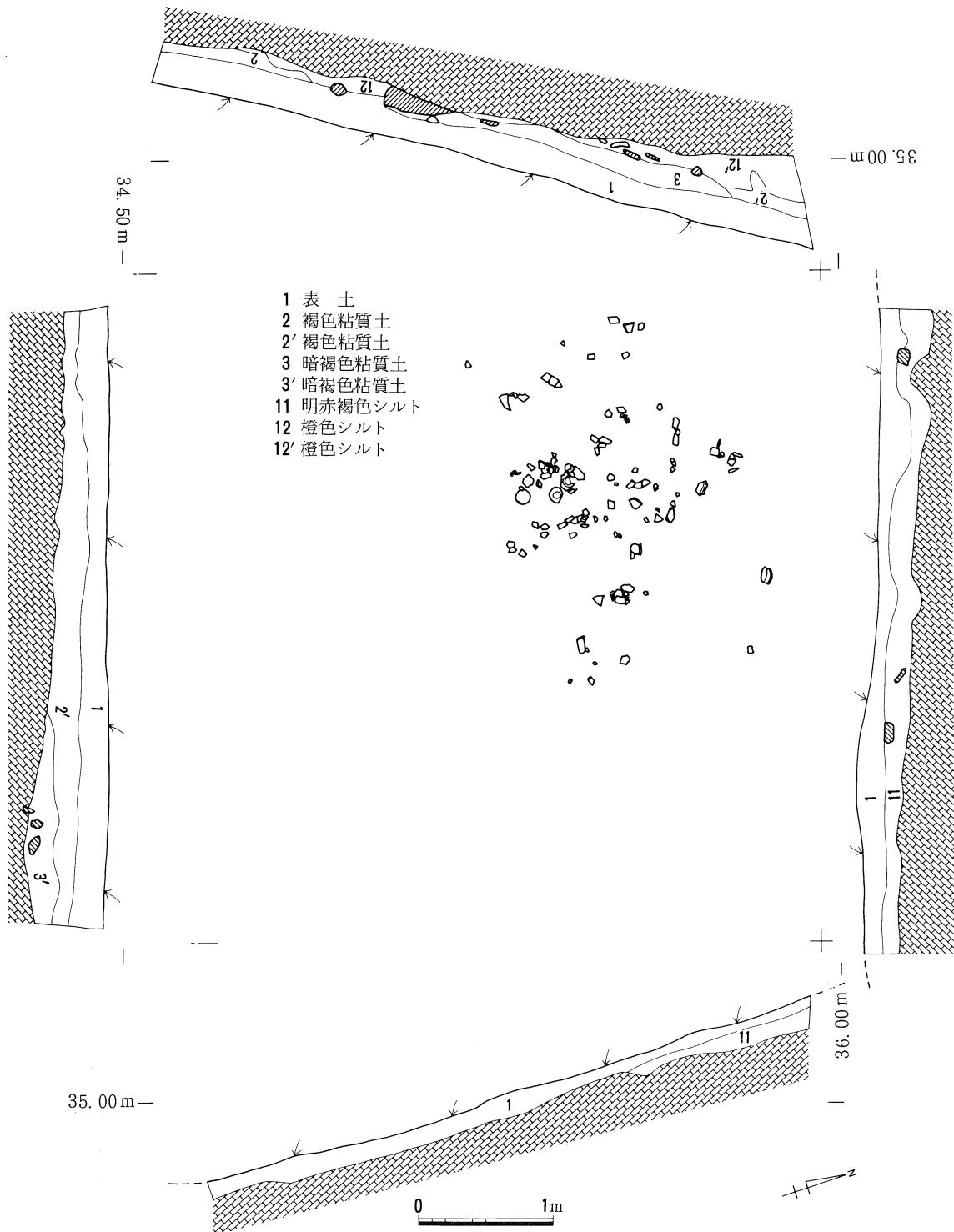
本区は4号窯跡の焼成部・煙道部・排水溝部分を指し、本窯跡関連の遺構以外はア-5区で焼土を1箇所検出ただけであった(袋とじ図①)。一方、4号窯跡のところで指摘したよ



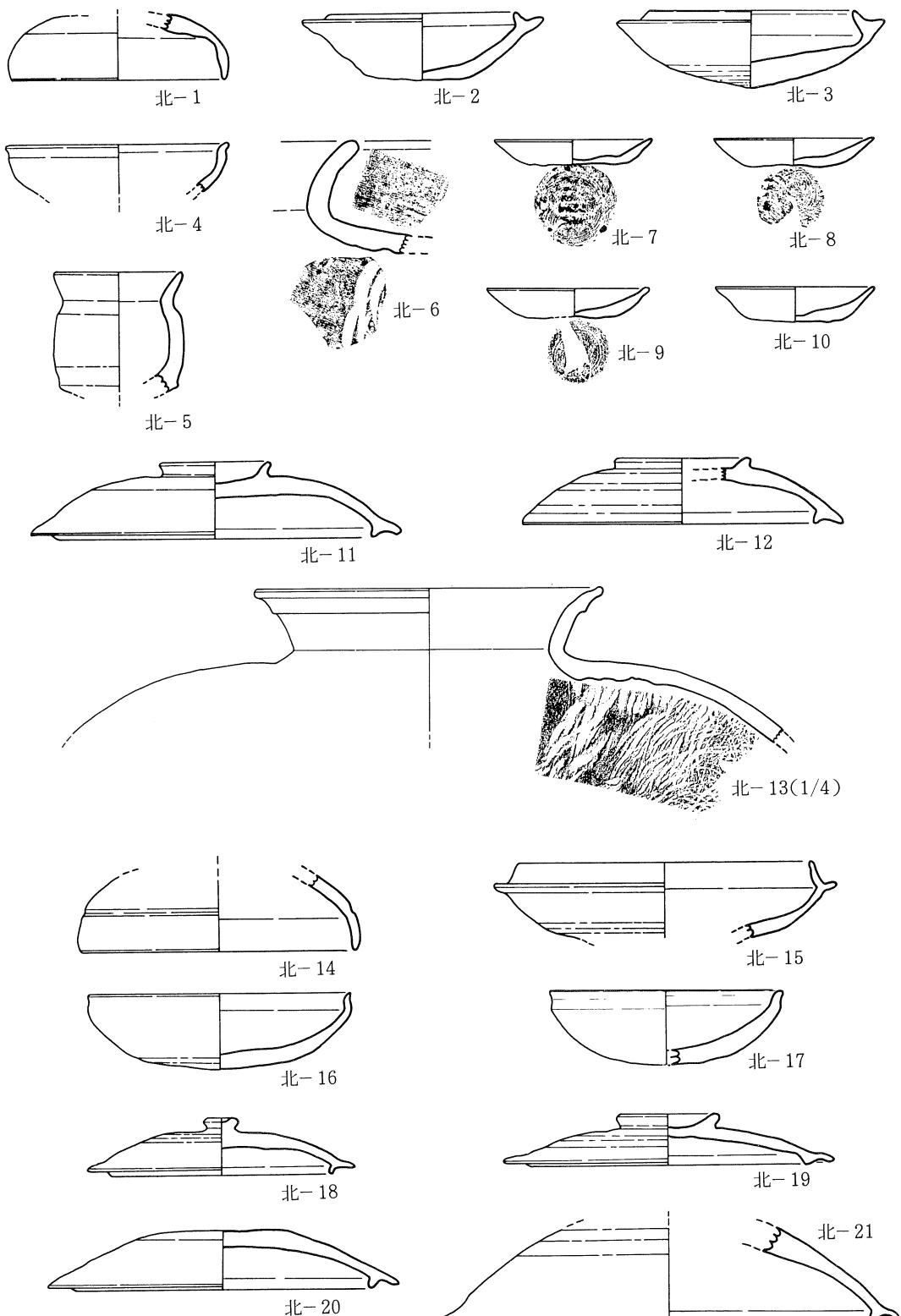
第81図 イー5区遺物出土状況図

うに、煙道部に本窯跡を壊すような形で楕円形の大穴が認められ、これが本窯跡の廃棄（若しくは放棄）後に穿たれたと仮定すれば、この大穴も一つの遺構となる。しかし大穴内の埋土から出土した遺物を見ると本窯跡と同様な特徴を持つものばかりであり（第95図）、大穴の性格は不明と言わざるを得ない。よって、ここでは一応紹介のみに留めておく。

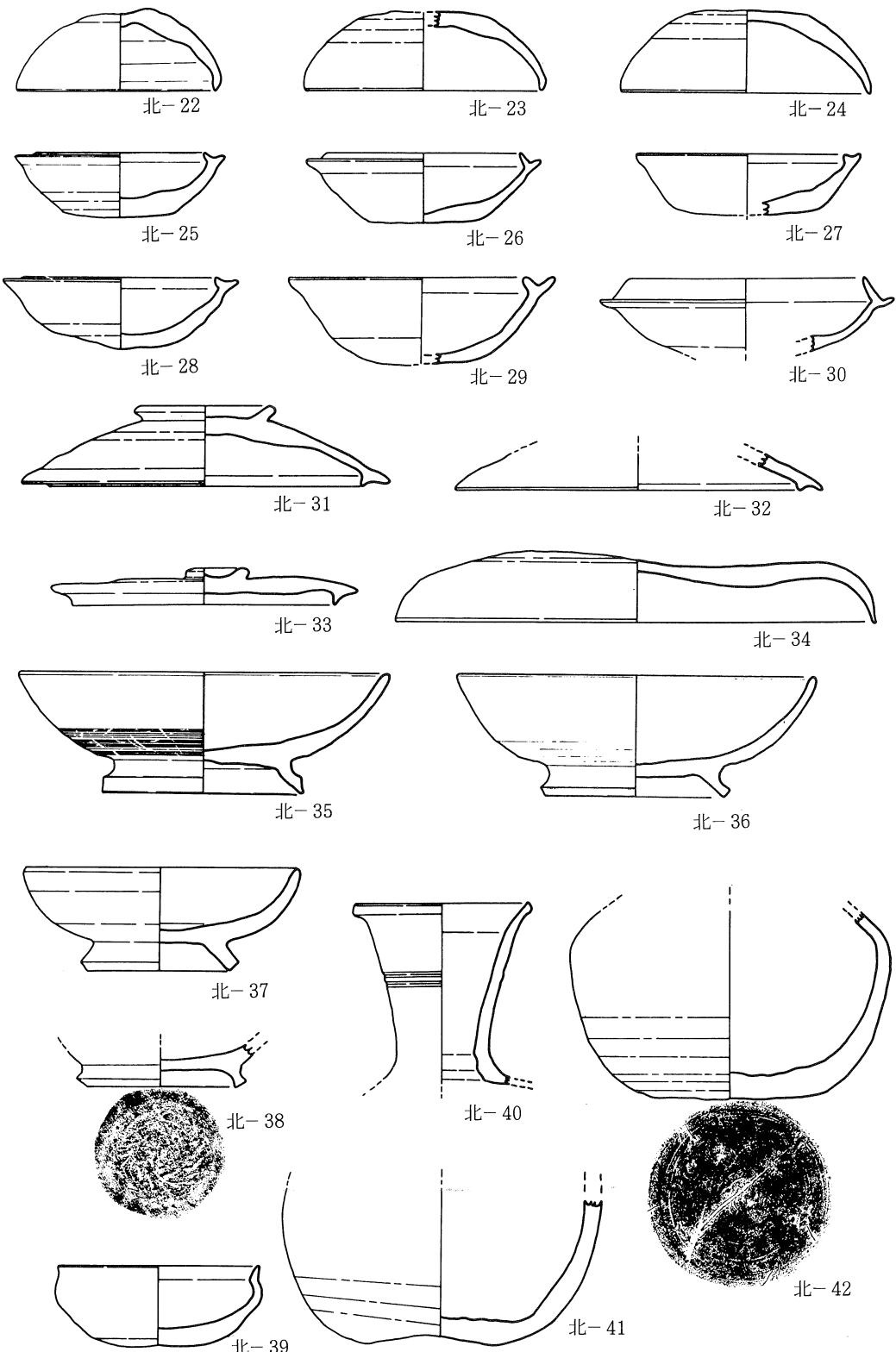
土層は第79～82図に示すように、第1層（表土）・第2層（褐色粘質土）・第6層（暗褐～黒褐色粘質土）・第4層（赤褐色粘質土）の順に堆積していた。このうち、第6



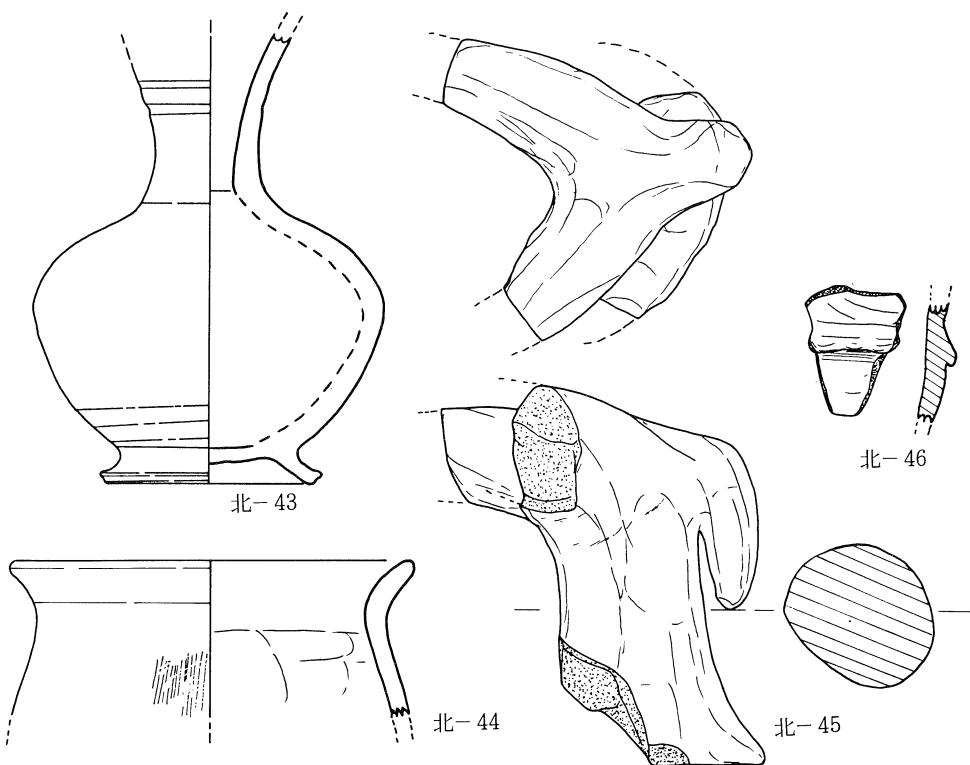
第82図 イー3区遺物出土状況図



第83図 アー4・5, イー3～5, ウー4・5区出土遺物実測図①(1/3)



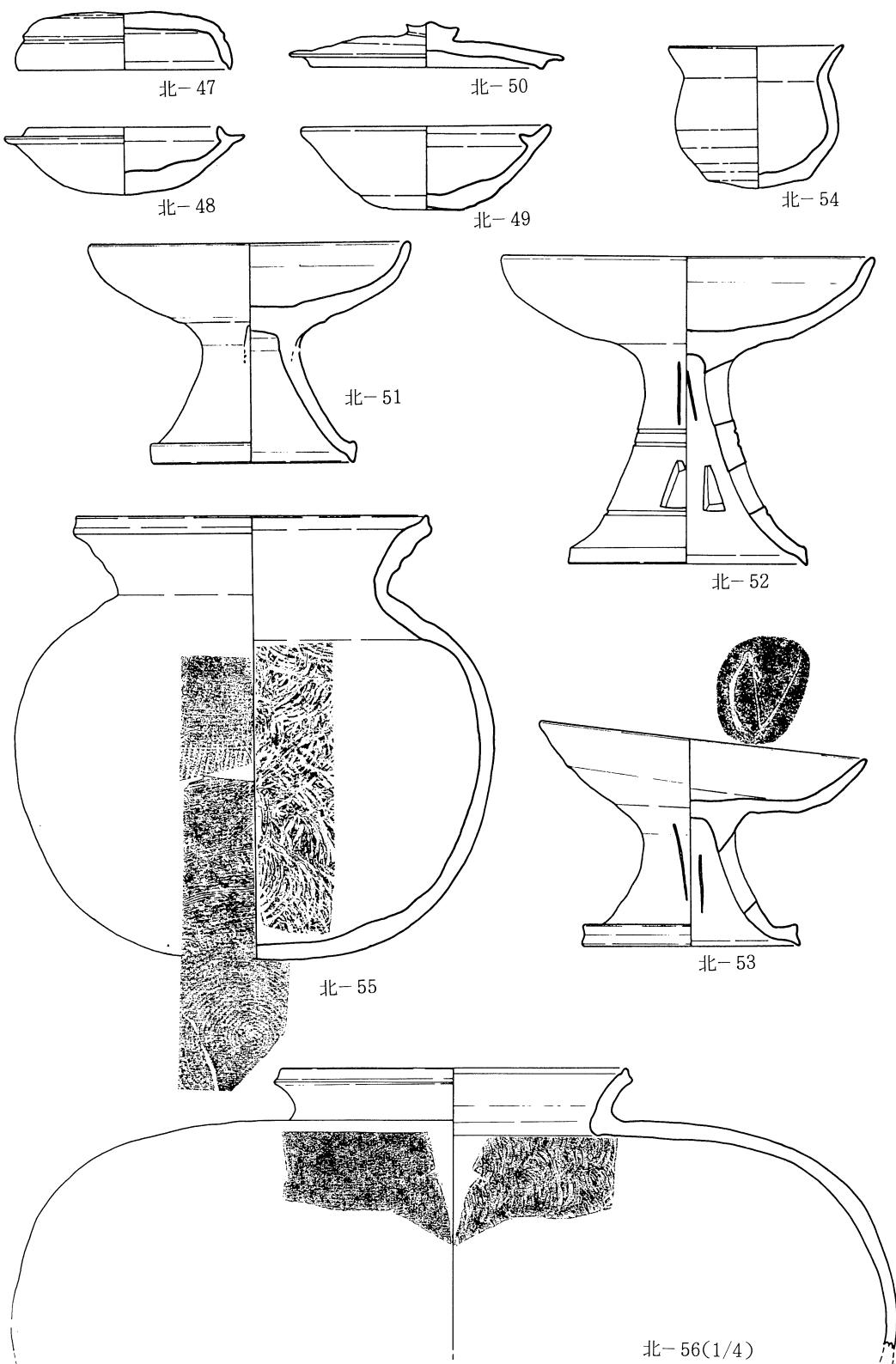
第84図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図②(1/3)



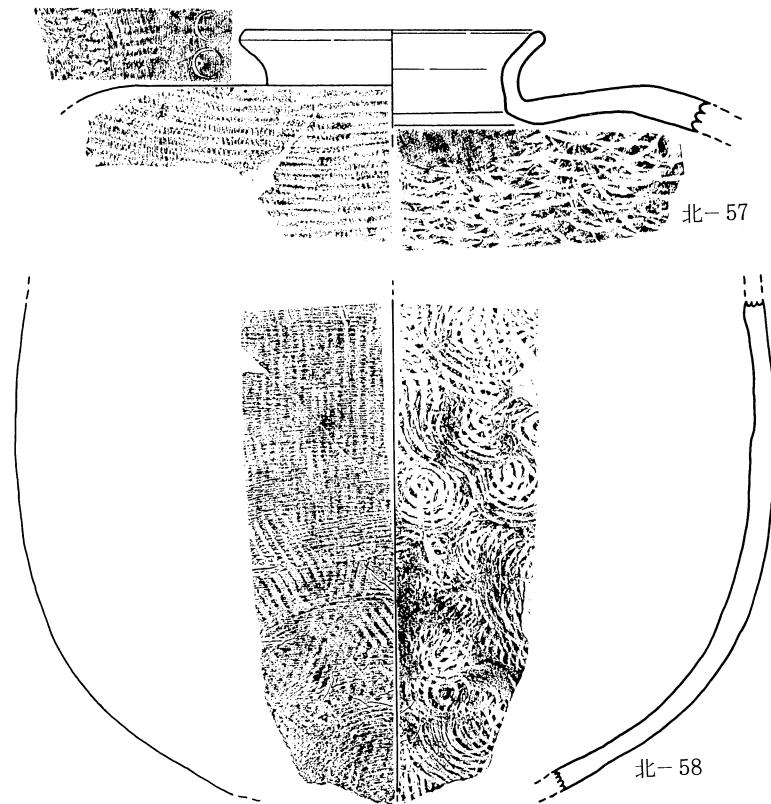
第85図 アー4・5、イー3~5、ウー4・5区出土遺物実測図③(1/3)

層は4号窯跡と排水溝を囲むように広い範囲に分布しており、その厚みは5~25cmを計った。また、排水溝を中心とする所で多種多量の遺物を検出した。

出土遺物をみると、第1層では4・5号窯跡と類似する特徴を持つ環蓋（北-1）や環身（北-3）の他に（灰-30）と同じ環身（北-2），（灰-69・70）と同じ口縁部を持つ环（北-4）等が出土した。この他に中世と思われる土師質土器が1箇所から重なった状態で出土しており、このうちの4点を掲げた（北-7~10）。第2層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋环（北-14・15）の他に（北-4）と同じ环（北-16・17），（灰-199）と同じ环蓋（北-18~21）が出土した（第83図）。第3層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ環身（北-30）の他に天井部の周辺に1条か2条の鎧削りを施し天頂部が鎧切り未調整でやや小形の環蓋（北-22~24），（北-2）と同じ環身（北-25~29），（北-18~21）と同じ環蓋（北-31~33），（北-16・17）と同じ环（北-39），（灰-99，100）と同じ环（北-35~38），土師器の甕（北-44）や土製支脚（北-45）等が出土した（第84~86図）。第4層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋环（北-59・69），高环（北-105~107・109）の他に，（北-22）や（北-25~29）と同じ蓋环（北-60~68，70~84），（北-18



第86図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図④(1/3)



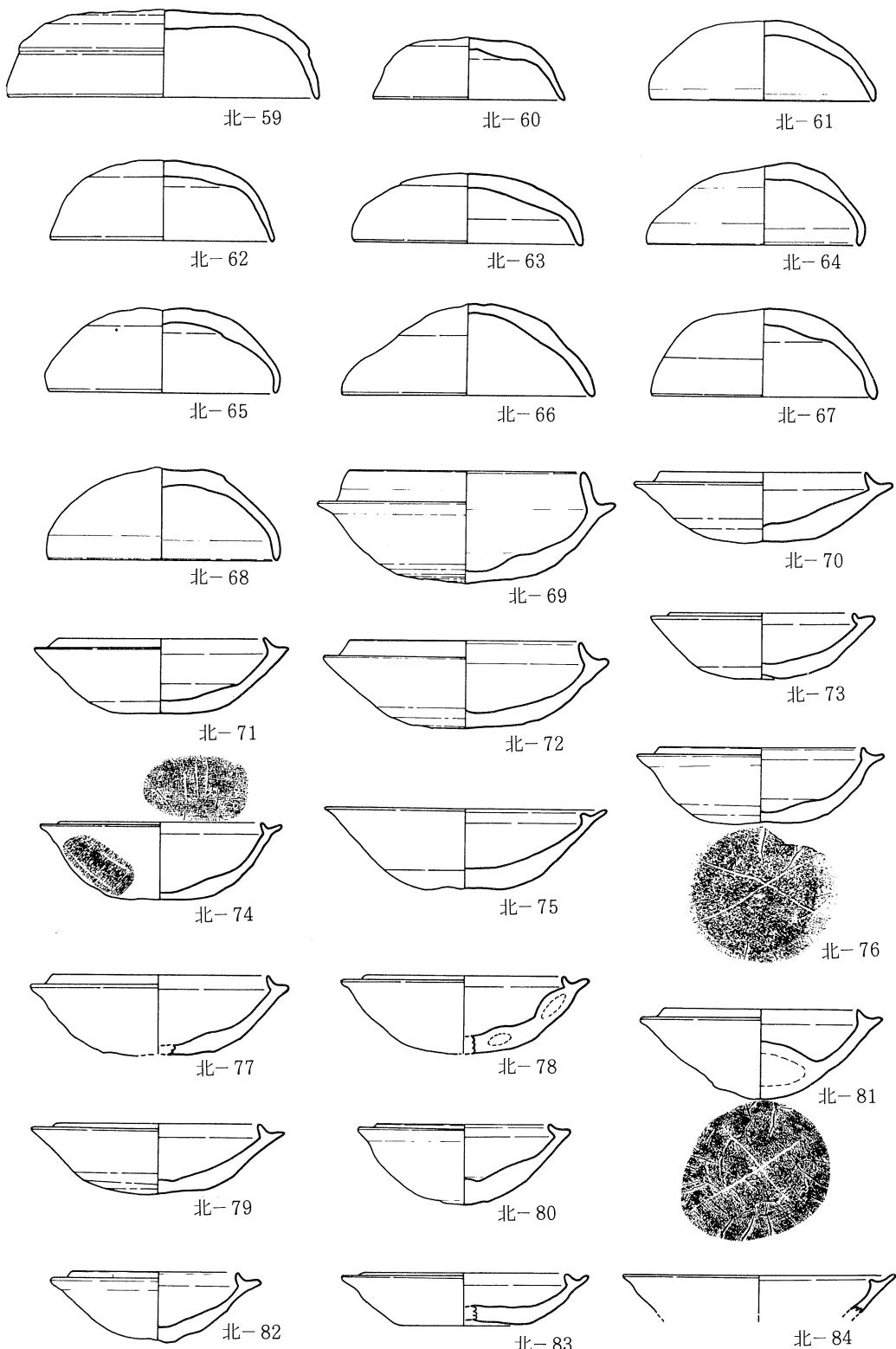
第87図 アー4・5, イー3～5, ウー4・5区出土遺物実測図⑤(1/3)

～21)と同じ壺蓋(北-85～92), (北-35～39)と同じ壺(北-93～104), (北-53)と類似する高壺(北-108・110～114)等の須恵器, 甕(北-130)等の土師器(北-130～136)が認められた(第88～93図)。第6層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ壺蓋(北-137)の他に(北-85)等と同じ蓋(北-143), (北-77)等と同じ壺身(北-138・142)等の須恵器, 土師器の竈片(北-139)が認められた(第94図)。

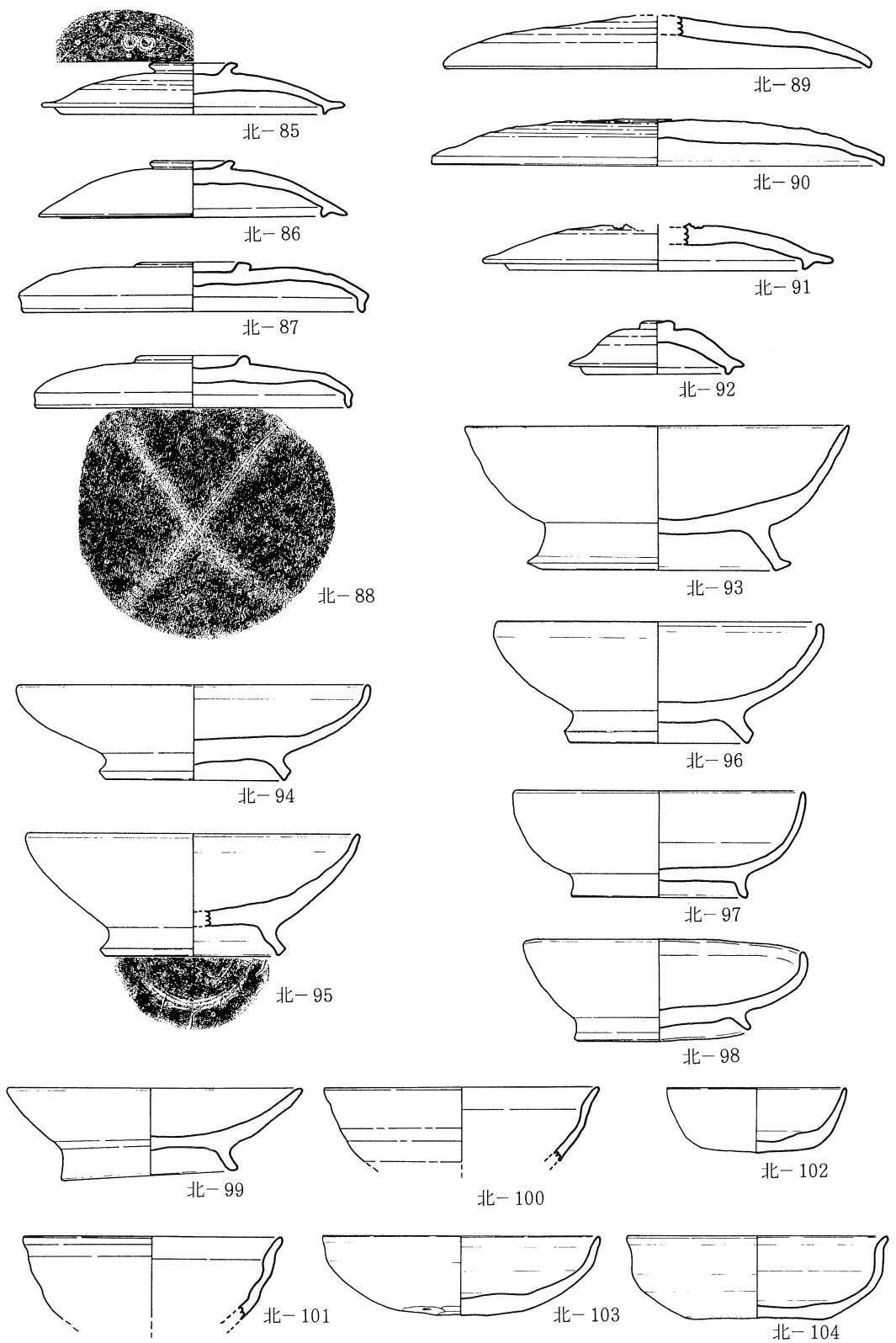
イ, アー2・3区

本区は4号窯跡の東側に位置を占め, すぐ南側の崖で東部地区のa・b区と接している。本区の遺構としては, 南端部分の第4層で竈が据付けの状態で検出されただけであった(第96・97図)。竈内の埋土は焼土, 炭, 黄・桃・灰色ブロックを含む暗赤褐色土で, 焚き口と思われる箇所では集中的に焼土が認められた(第101図)。本遺構は本調査区内でも数少ない“原位置”を保っていたものである。

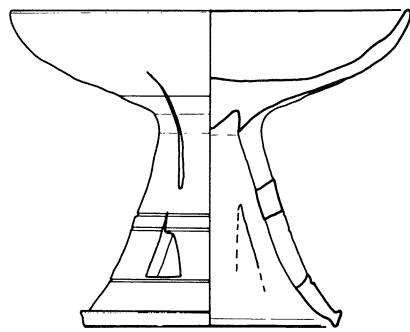
一方土層は, 既述のアー4・5, イー3～5, ウー4・5区と同じ層順で堆積していたが, 第6層を本区では第3層とした。そして第3・4層はほぼ全域に亘って認められた



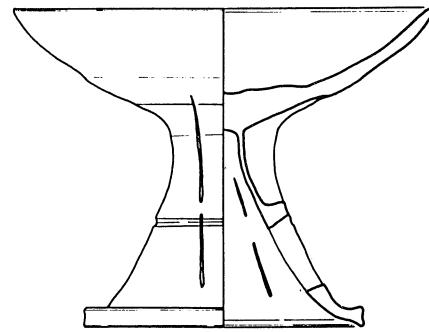
第88図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図⑥(1/3)



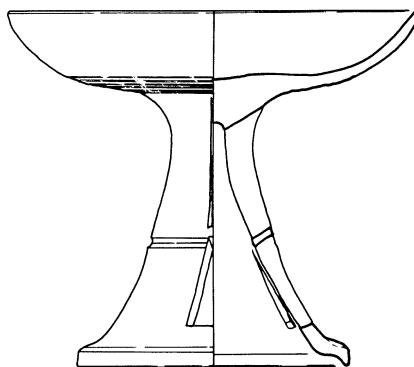
第89図 ア-4·5, イ-3~5, ウ-4·5区出土遺物実測図⑦(1/3)



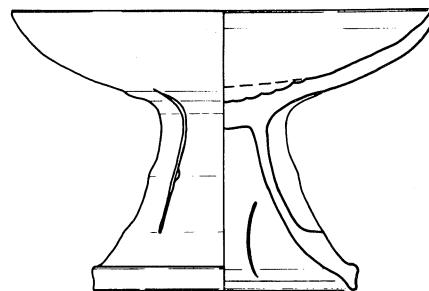
北- 105



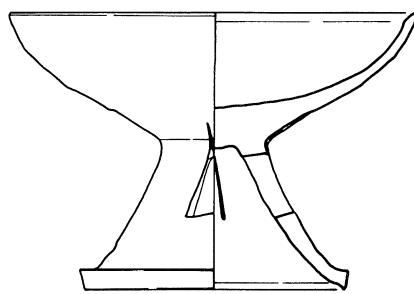
北- 106



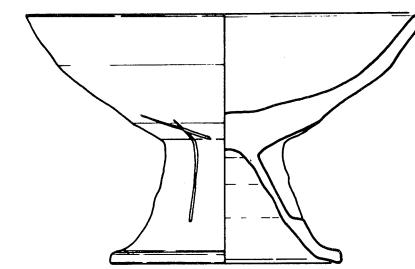
北- 107



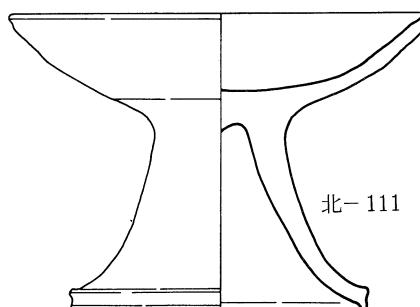
北- 108



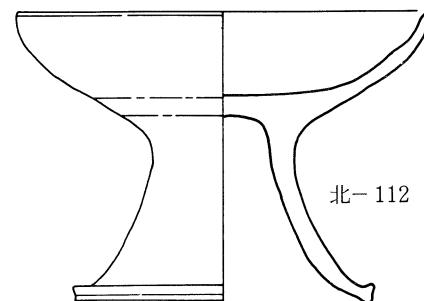
北- 109



北- 110

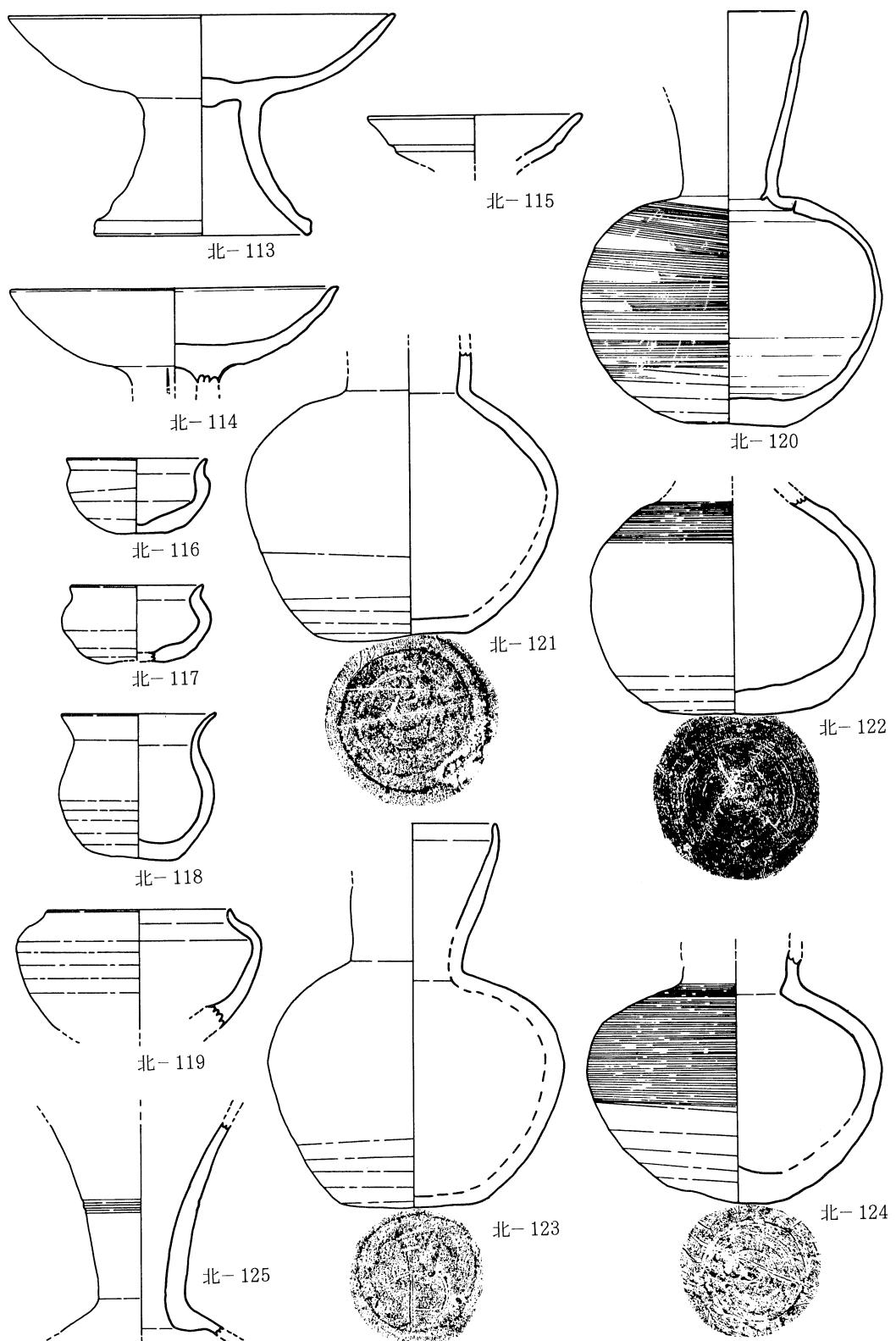


北- 111

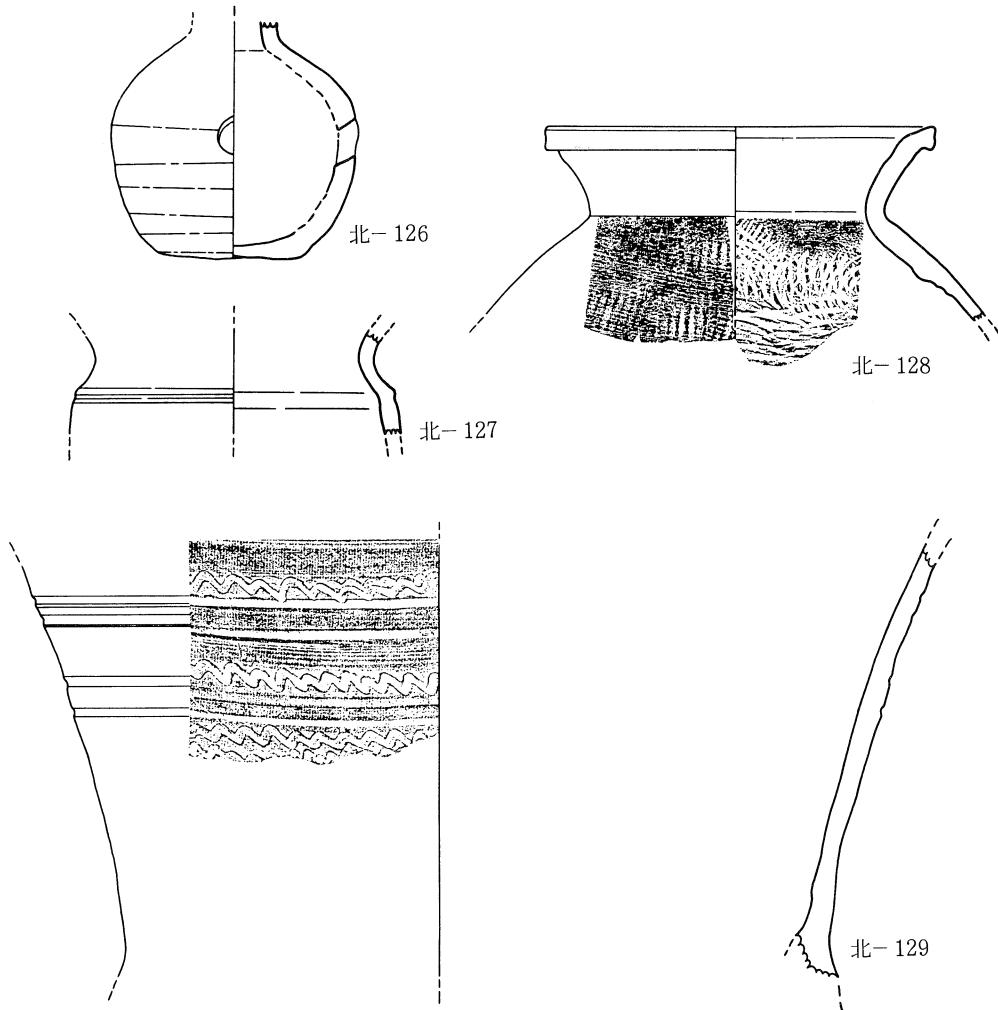


北- 112

第90図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図⑧(1/3)



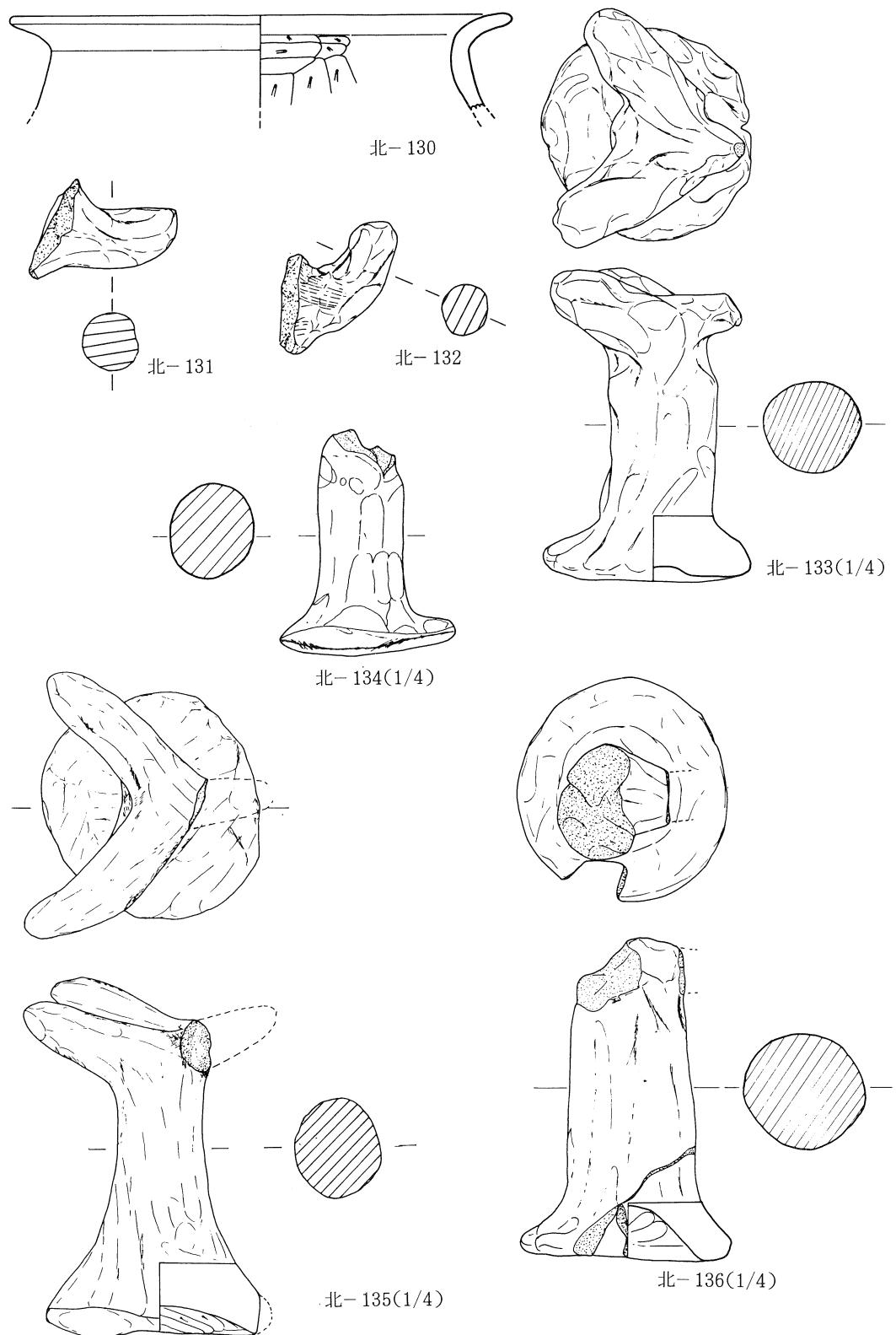
第91図 アー4・5 イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図⑨(1/3)



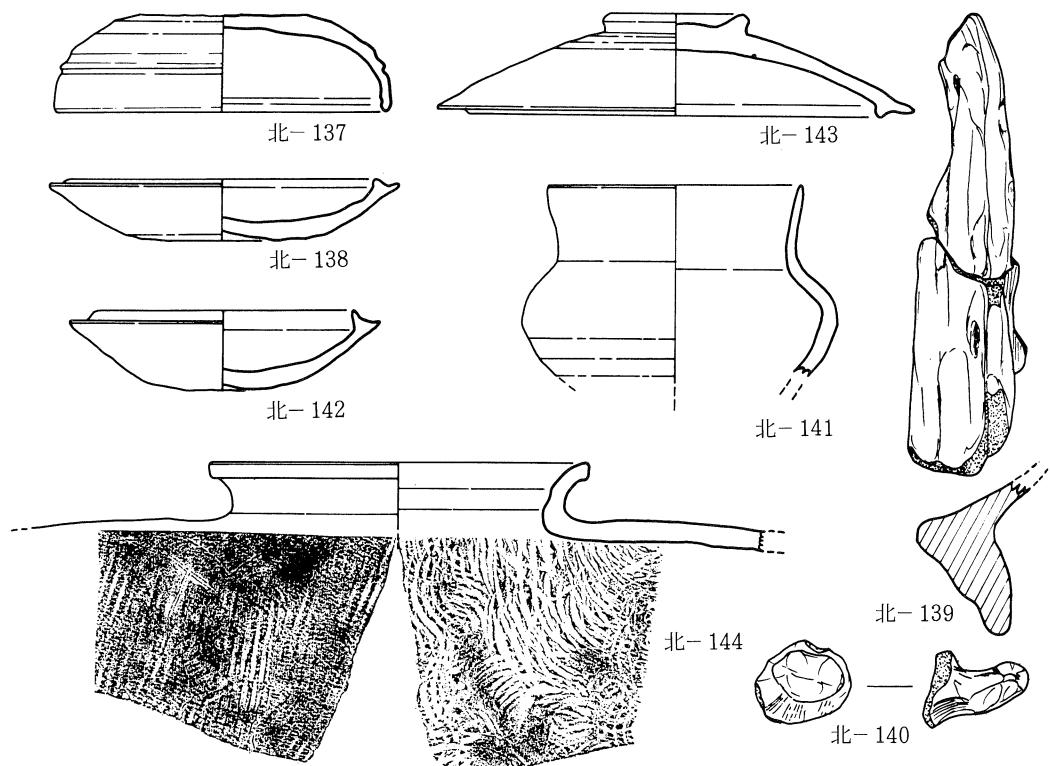
第92図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図⑩(1/3)

(第96・97図)。

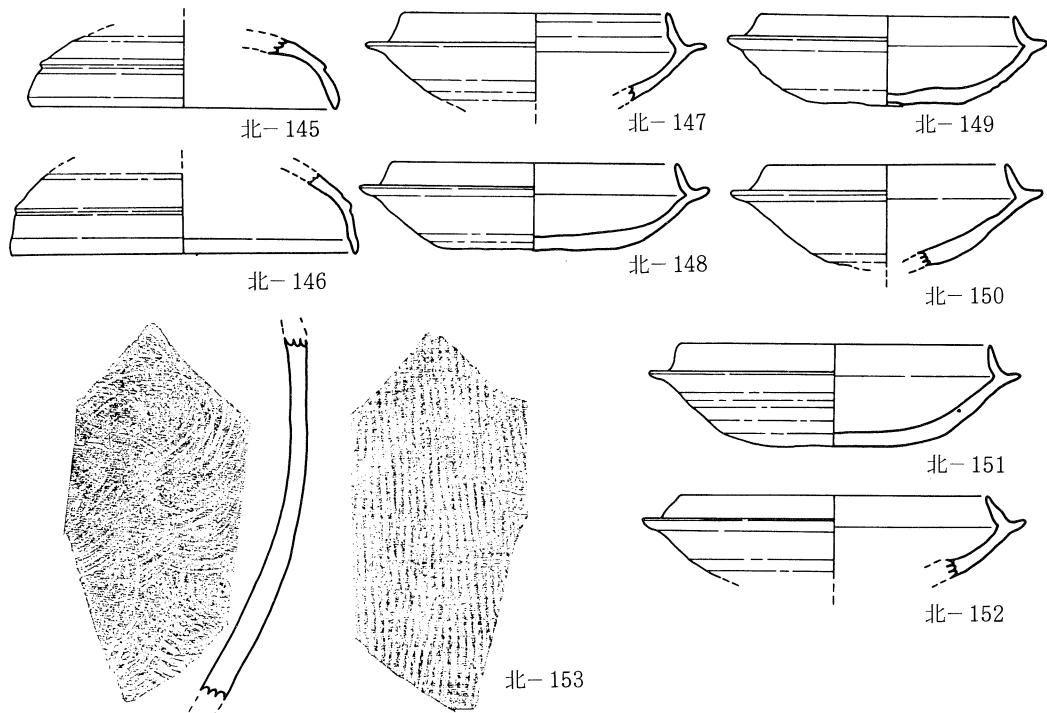
出土遺物をみると、第1層では陶棺と思われる破片（北-154）が認められた。第2層には遺物はなかった。第3層は最も多く遺物が出土した層位で、ア-2区では全面に亘って、ア-3区ではやや東側に偏在して出土した。4・5号窯跡と類似する特徴を持つ蓋坏（北-155~158・160）、（北-70~84）と同じ坏身（北-159・161），（灰-85~92）と同じ蓋（北-162~168），（北-93~104）と同じ坏（北-169~171），甕の頸部を再使用した窯道具（北-178）等の須恵器や甕（北-179）や鍋（北-180）等の土師器の他に、「寛永通宝」と読める古銭貨（北-184），黒曜石の石鏃（北-185）等、計31点が認められた（第98~100図）。据付けの竈（北-192）が出土した地山直上の第



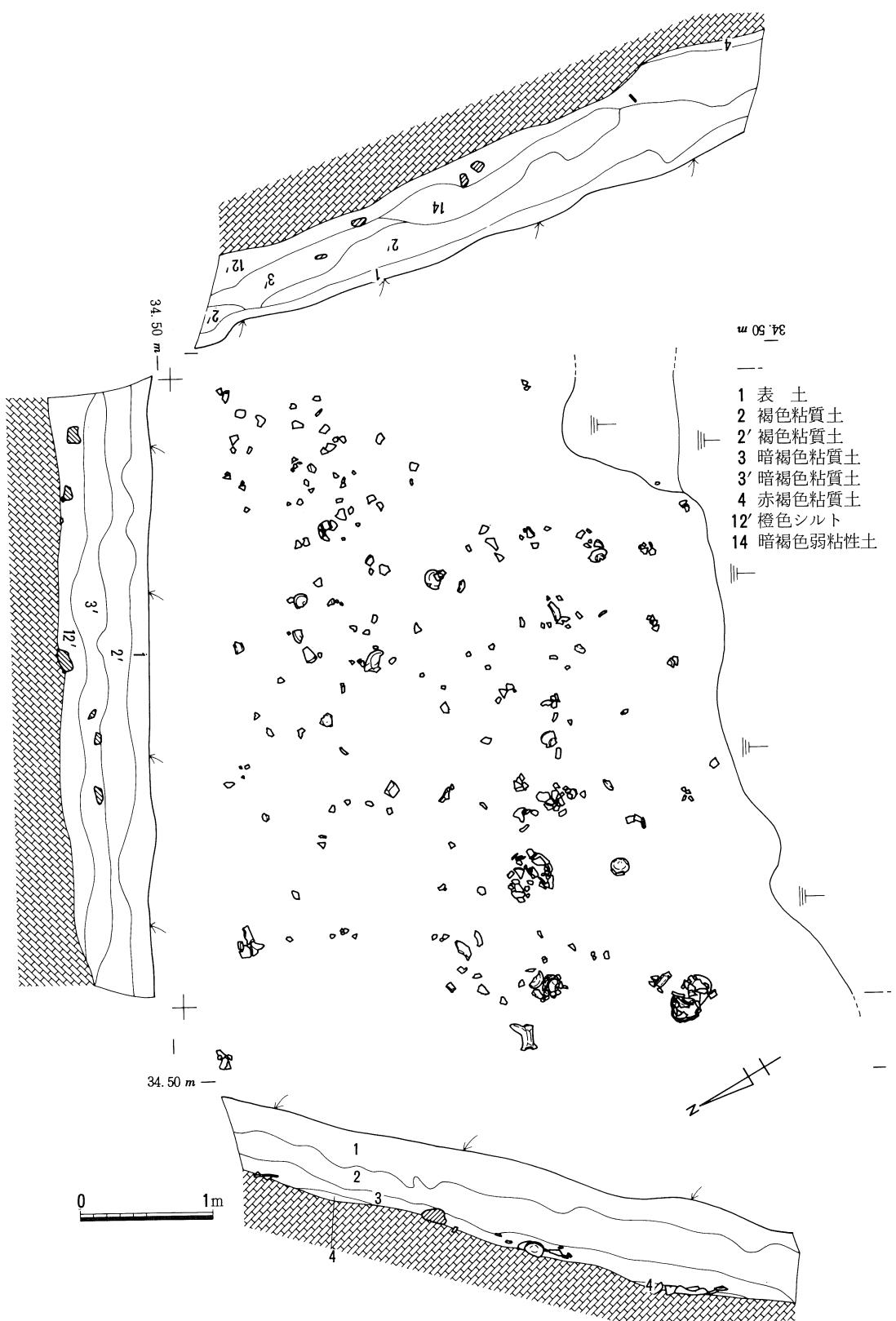
第93図 ア-4・5, イ-3~5, ウ-4・5区出土遺物実測図① (1/3)



第94図 ア-4・5, イ-3～5, ウ-4・5区出土遺物実測図⑫(1/3)



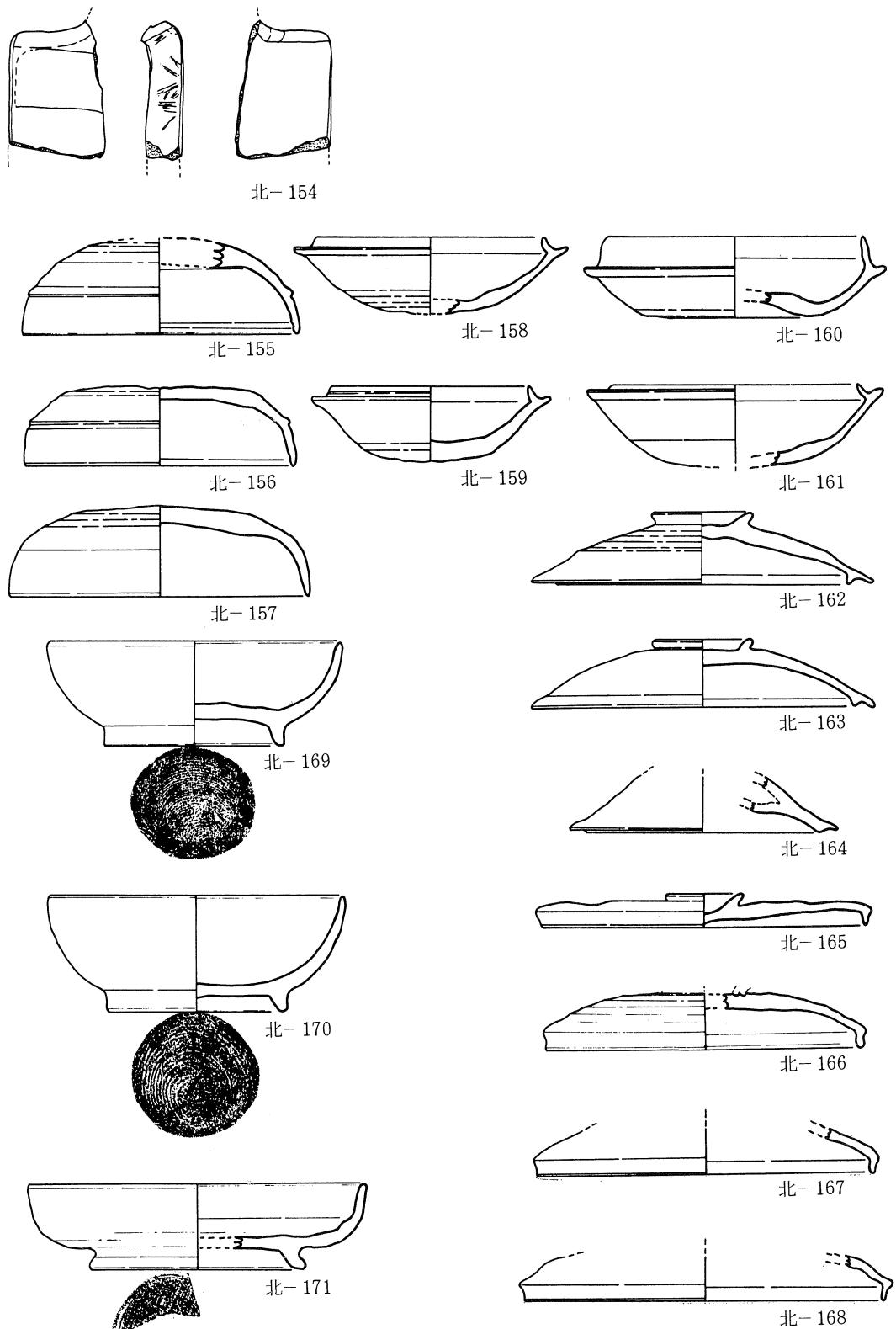
第95図 4号窯跡煙道部陥没内出土遺物実測図(1/3)



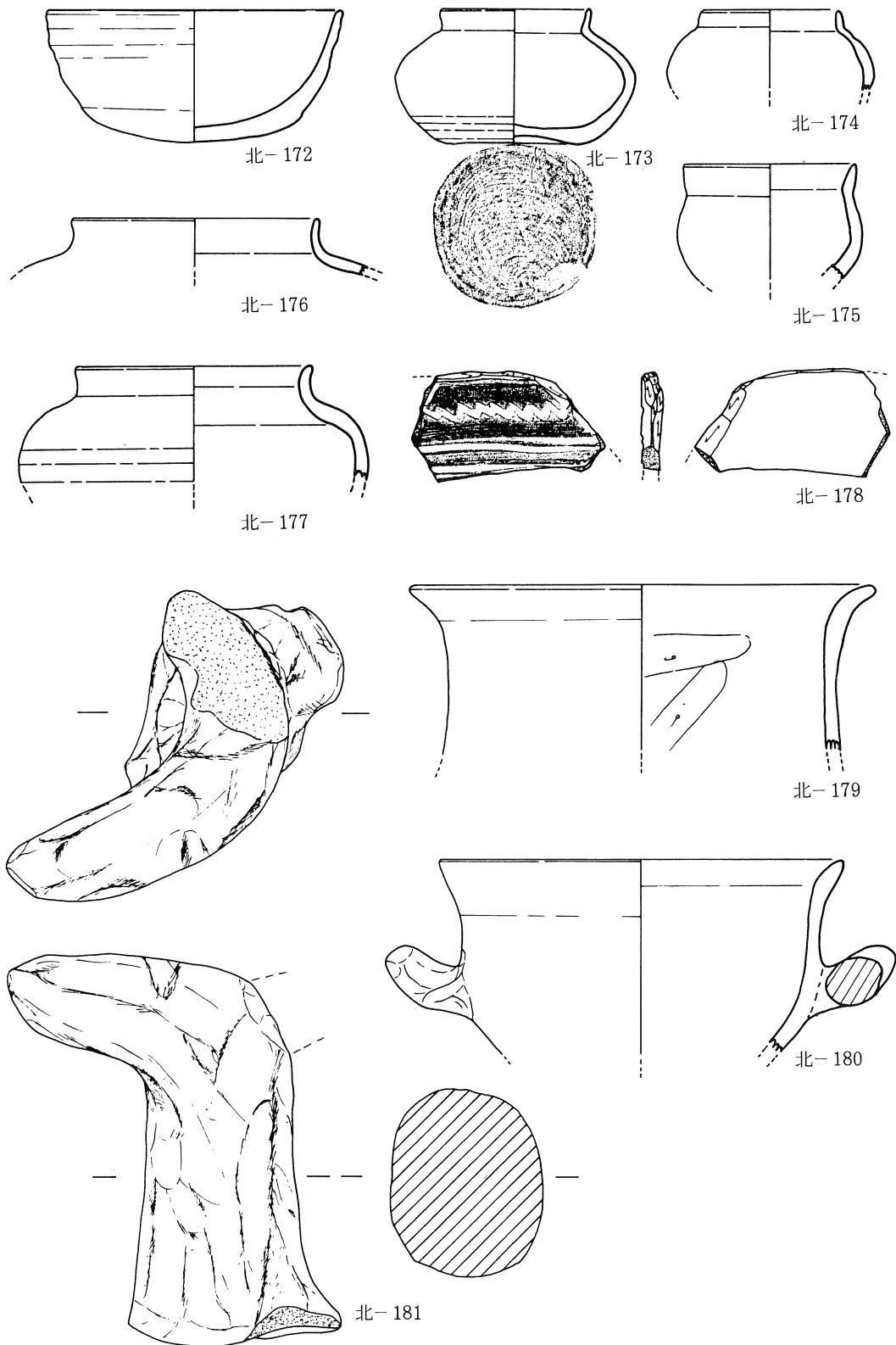
第96図 アー2区遺物出土状況図



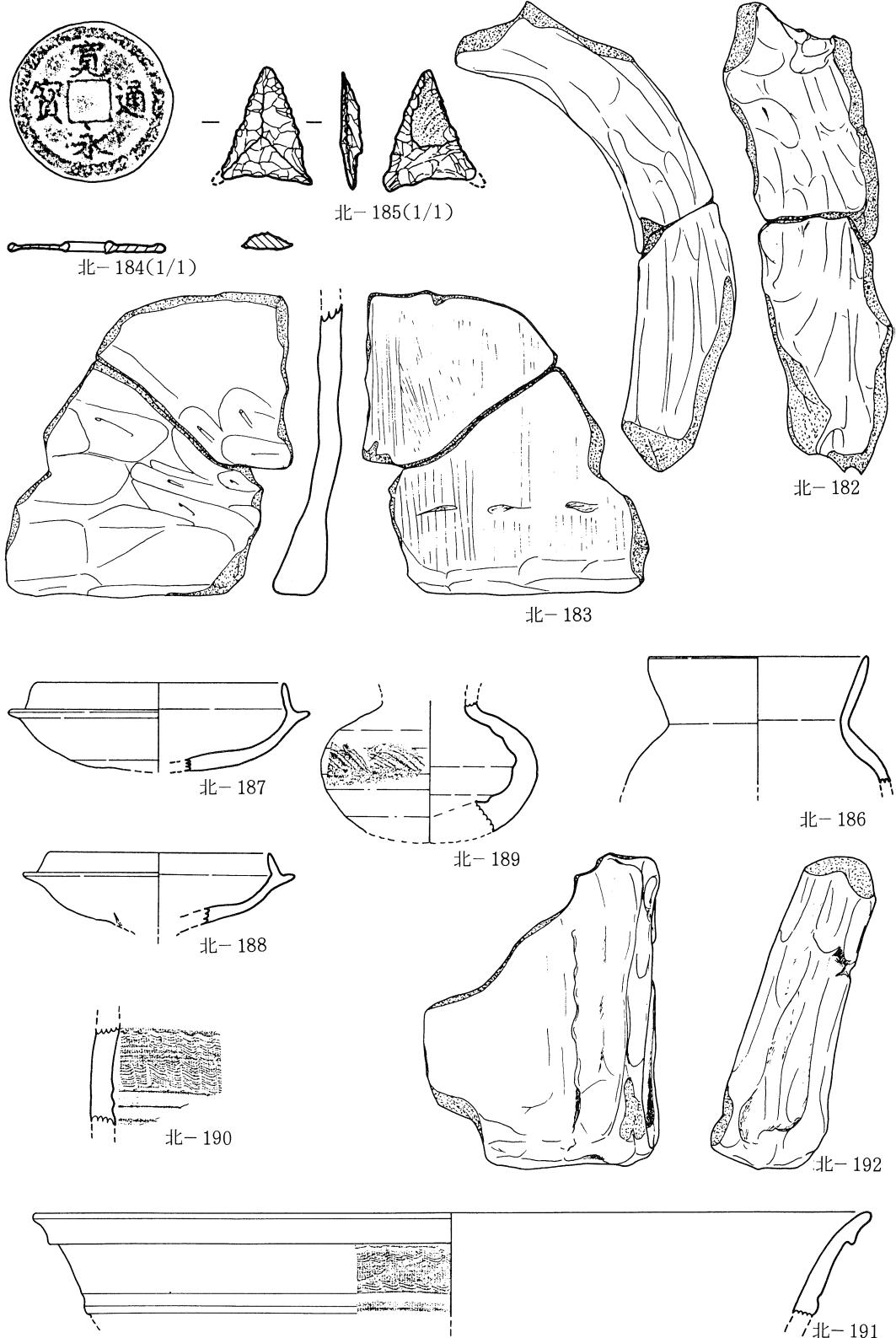
第97図 アー3区遺物出土状況図



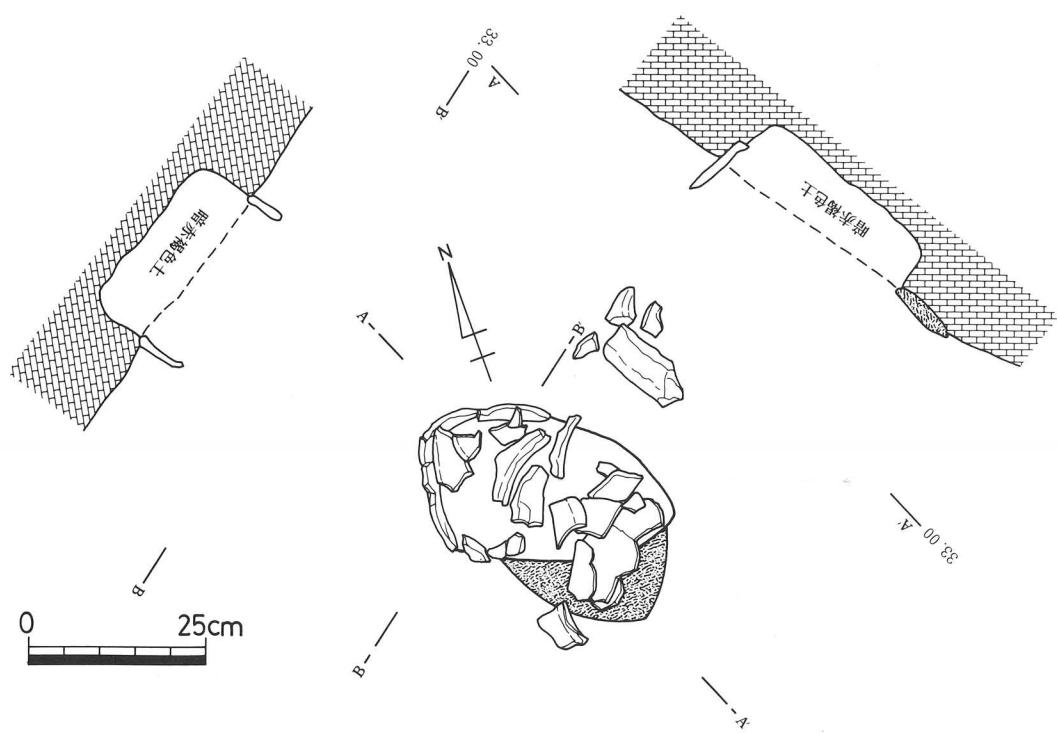
第98図 アー2・3区出土遺物実測図①(1/3)



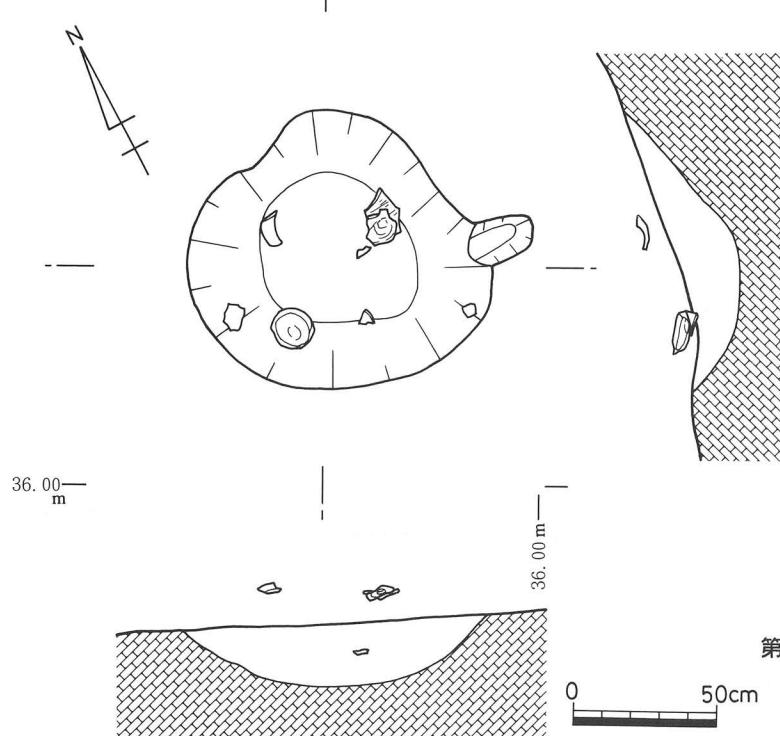
第99図 ア-2・3区出土遺物実測図②(1/3)



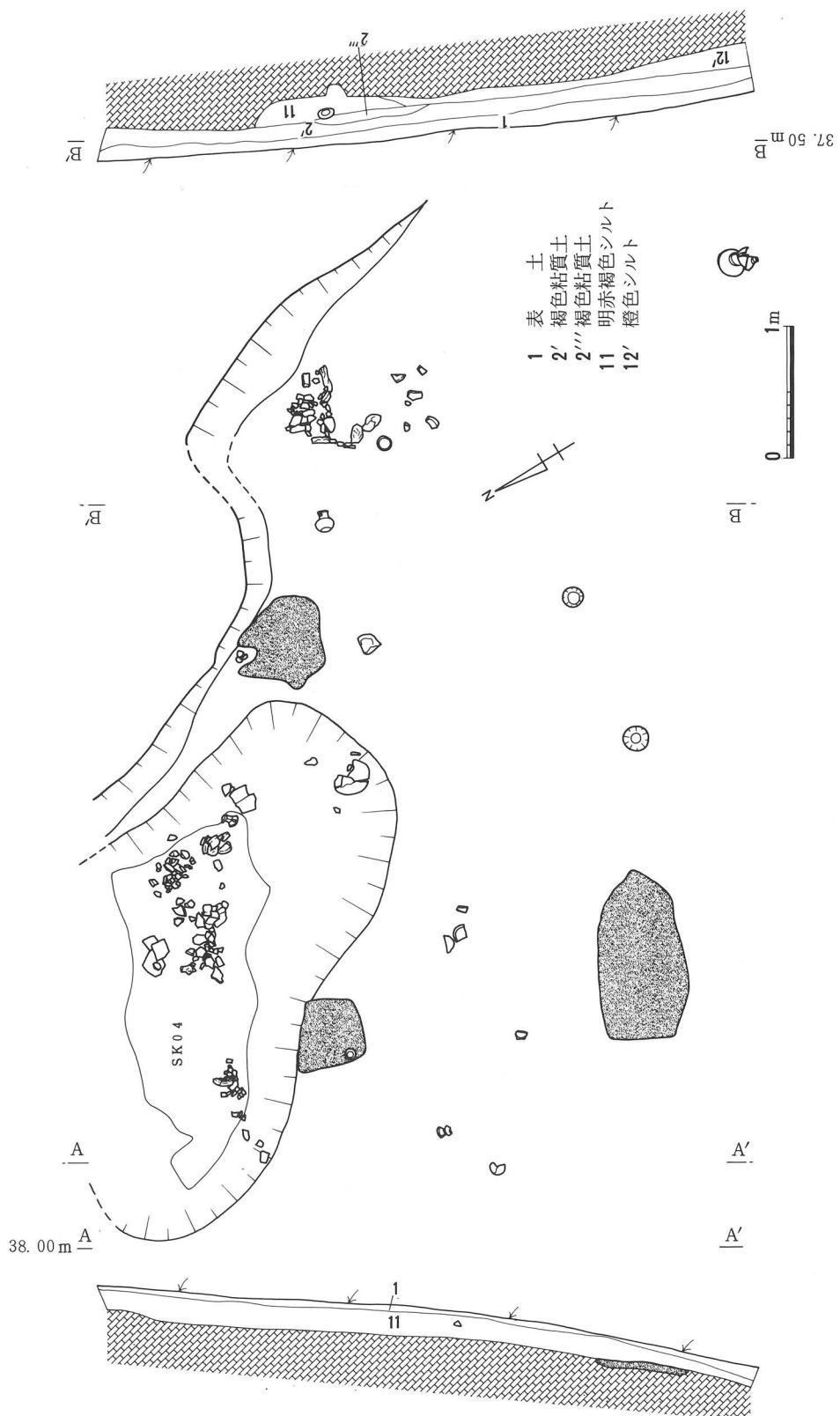
第 100 図 アー 2・3 区出土遺物実測図③(1/3)



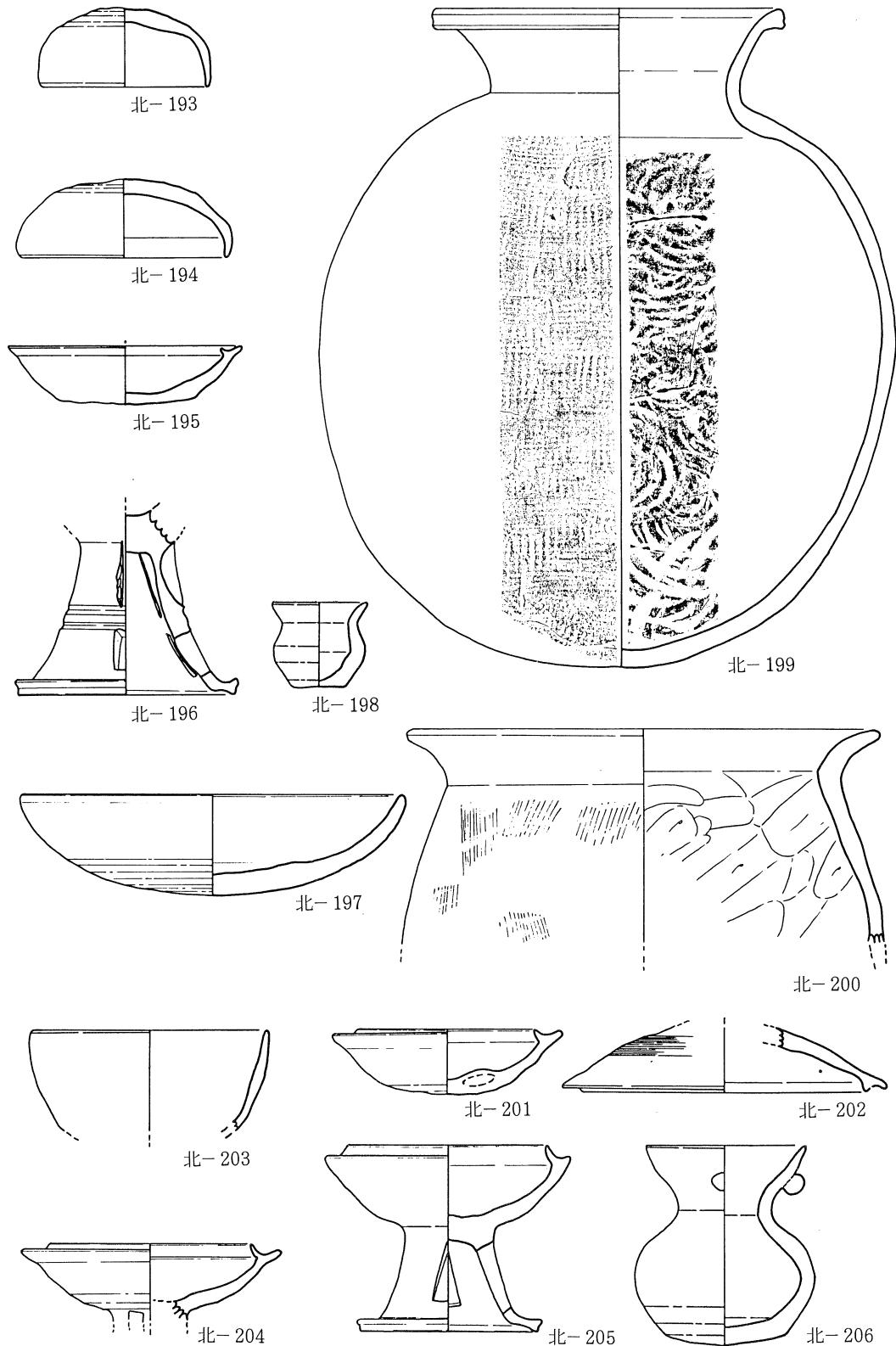
第 101 図 アー 2 区カマド実測図



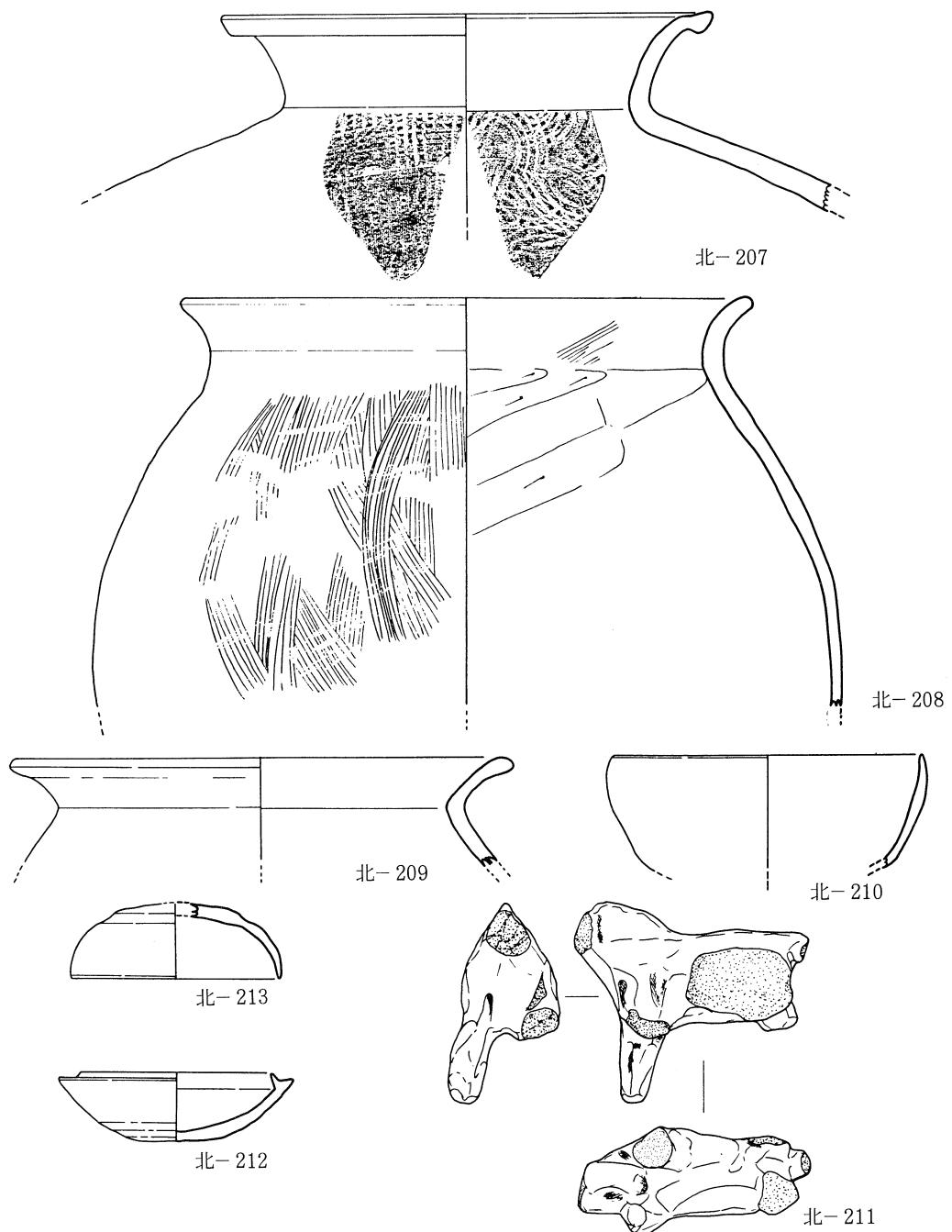
第 102 図 ウー 4 区
SK 02 実測図



第103図 エー3・4区遺物出土状況図



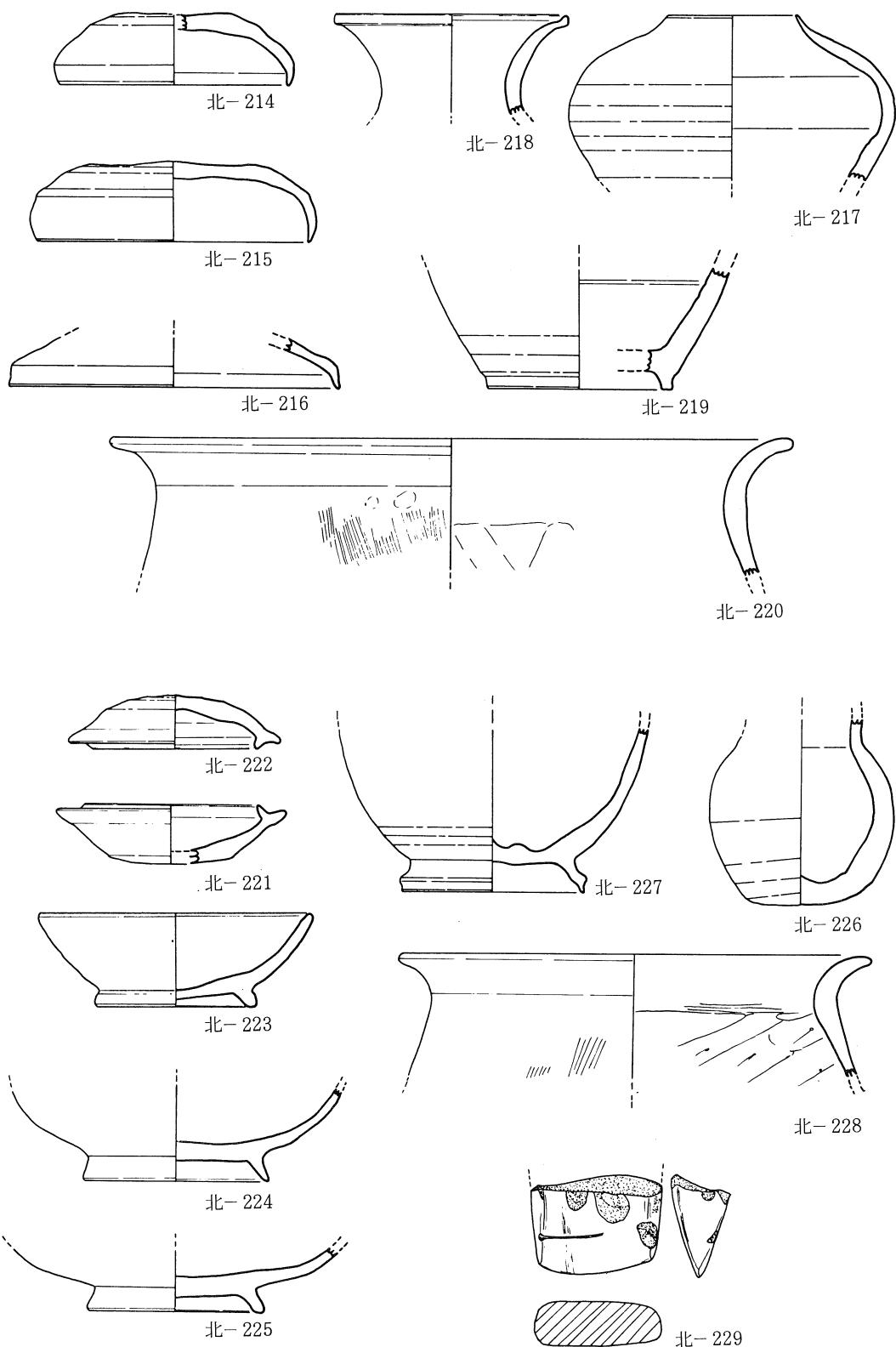
第 104 図 エ-3・4 区出土遺物実測図 (1/3)



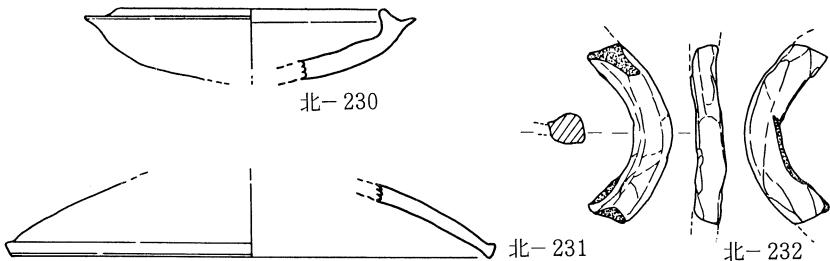
第 105 図 エ-3～5 区出土遺物実測図 (1/3)

4層では、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ須恵器（北-187～191）が認められた（第100図）。

また出土遺物の接合関係を検討した結果、本区出土の破片が他区出土のそれと接合したことが分かり、その遺物を第107図に掲げた。（北-230）は、4号窯跡の排水溝東側（イ



第 106 図 ア・イ-6, ウ-1・2 区出土遺物実測図 (1/3)



第 107 図 その他出土遺物実測図(1/3)

－3 区) の第 3 層出土の破片とア－2 区第 4 層出土のそれが接合した坏身である。(北－231) も排水溝内出土の破片とア－2 区第 4 層出土のそれが接合した蓋である。(北－232) はウ－2 区第 1 層出土の破片とア－3 区第 2 層出土のそれが接合した窯道具である。

ウ、ウ－4 区

4 号窯跡排水溝の北側に隣接する区で、第 3 層（褐色粘質土）面で径約 1.0 m、深さ約 20 cm を計る円形土壙（SK02）を 1 基検出し（第 102 図）、底には径 5 cm 程の炭と焼土を確認した。また浮いた状態で坏身や壺の小片が若干出土した。

エ、エ－3～5 区

本調査区の最北端に位置し、第 3 層（赤褐色粘質土）面で楕円形の土壙（SK04）を 1 基、その周辺で焼土を 3 箇所と柱穴と思われるピットを 2 穴程、検出した。土壙（SK04）は東西長約 4.3 m、推定南北長 2.9 m、深さ 10 cm 前後を計るもので、この中から以下に述べる遺物が出土した。そして、約 5.5 m の長さを持つ低い段が本土壙の右側から南東方向へ伸びていた。更に、厚み 7 cm 程の堅緻な焼土と少量の炭が本土壙の東端とこの段に挟まれる形で検出された。また本土壙の南端に接して別の焼土が、更にこの焼土から南へ約 2 m 離れたところにも別の焼土が認められた。そしてこの南端の焼土の周辺で径 7～9 cm、深さ 8～14 cm を計るピットを 2 穴検出した（第 103 図）。

本土壙内とその周辺から若干の遺物が出土しており、（北－60～68、70～84）と同じ蓋坏（北－194・195）、（北－105～107、109）と同じ高环（北－196）等の須恵器の他に土師器の甕（北－200）が土壙内より出土した（第 104 図）。土壙の周辺からは、上述と同様な須恵器の他に須恵質の土馬（北－211）などが出土した（第 104・105 図）。

オ、ウ－1・2 区

本区は本調査区の東北端に位置し、明確な遺構は検出できなかったが遺物が集中して出土した。第 1 層から（北－212）と同じ坏身（北－221）が出土した。第 2 層からは高台付きの坏（北－223～225）等の須恵器や土師器の甕（北－228）と共に蛤刃形磨製石斧（北－229）が出土している（第 106 図）。

カ、ア・イー6区

本区は5号窯跡煙道部の北側に当たり、第2層（褐色～暗褐色粘質土）下層で南北長約2.2m、厚み約10cmを計る不整形の焼土を検出した。ここからは大小の礫と共に短頸壺（北-217）が出土した（第106図）。

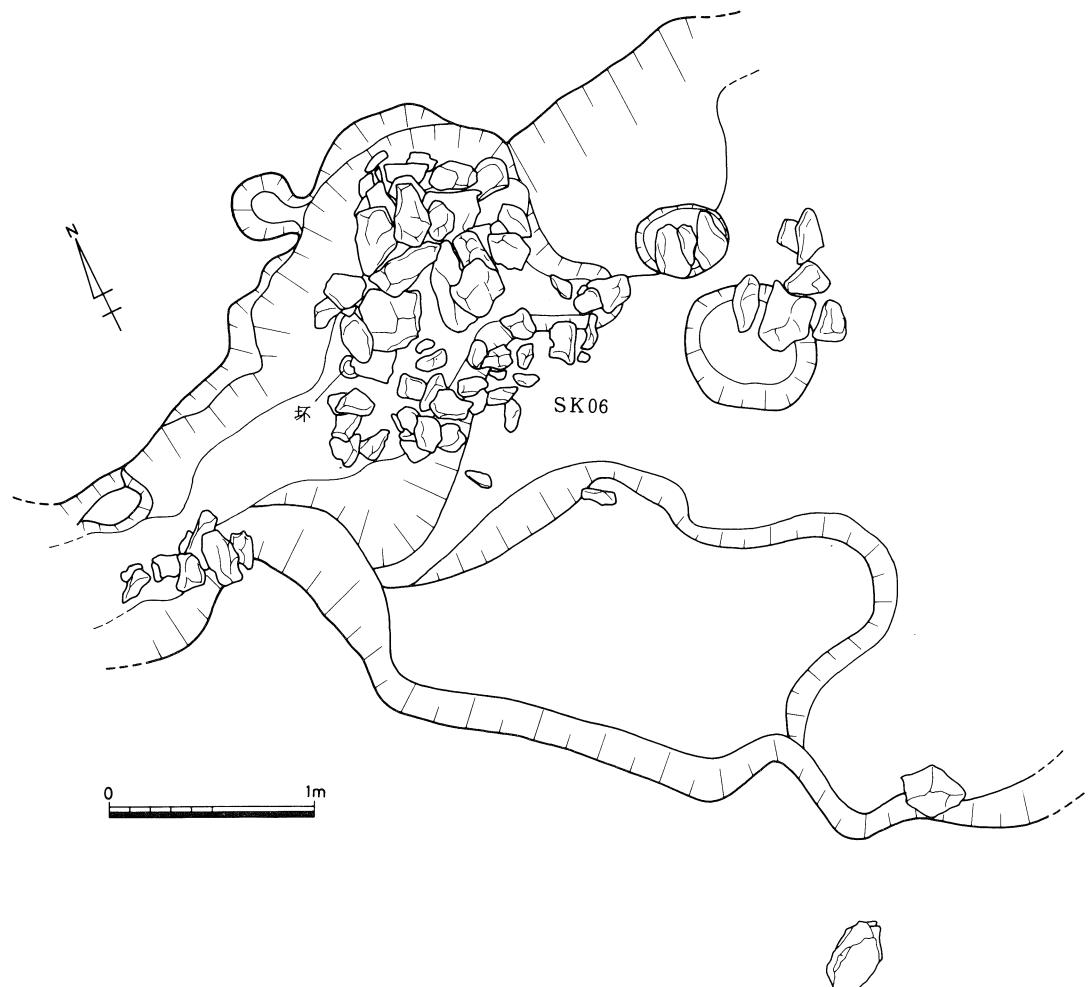
以上簡単であったが、北部調査区の概要を述べた。最後に若干のまとめをしておく。ア-2区第4層で土師質の竈が据付けの状態で出土し、同層出土の遺物も各々同じ特徴を持っていた。更に（北-230・231）が第4層に流れ込んだものとすれば、第4層は後世の攪乱を受けていないプライマリーな層と見なしても良い。更に遺物の出土状況や接合関係・器種関係を検討してみると、ア-2区の土師質の竈とエ-4区のSK04等が本調査区で攪乱されていない遺構と見なすことができ、殆どの層が攪乱を受けていた状況の中で重要なと思われる。何故ならば、ア-2区の第3層からは石鎌や古銭貨が、またウ-1区の第2層からは磨製石斧が出土した事実や、（北-230～232）の接合関係、各層毎の出土遺物の様相を検討して見ると、上述のように殆どの層が攪乱されたことが言えるのではないだろうか。

(7) 東部調査区

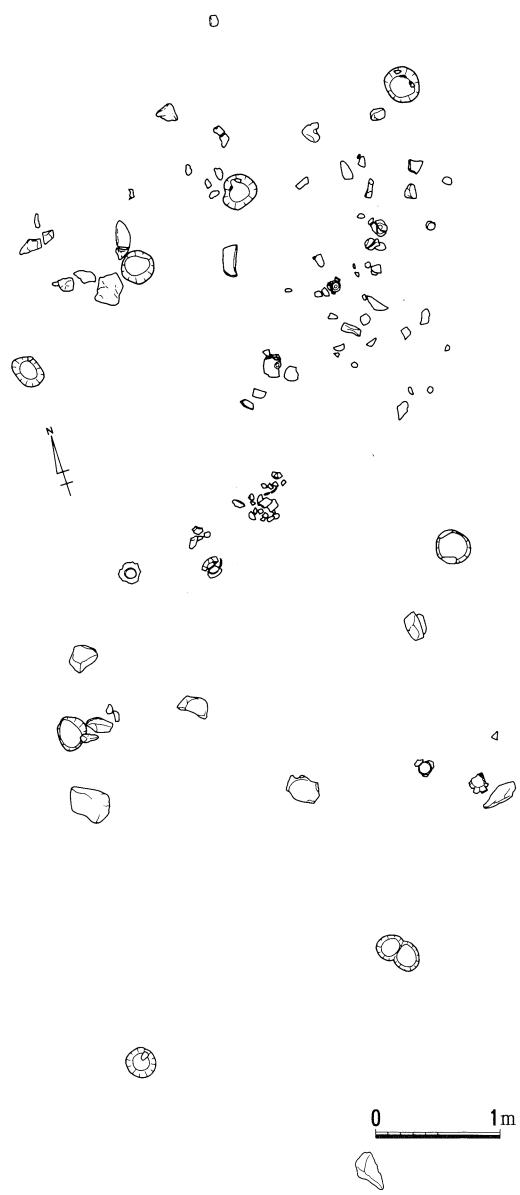
本調査区は4号窯跡の焚き口・燃焼部東側に位置しており、南北二つの崖により区画されている。そして八の字状に広がり、北から南へ緩やかな傾斜をなしている。既述のように、昭和61年度の調査で4号窯跡の焚き口・燃焼部の窯体規模が確認され中軸線が定まったことにより、これと平行に4.5m間隔で4本の畦を設け、西より東へa・b・c・d・e区に便宜的に区画した。各区の遺構・遺物についての概要を以下に述べる。

ア、a・b区

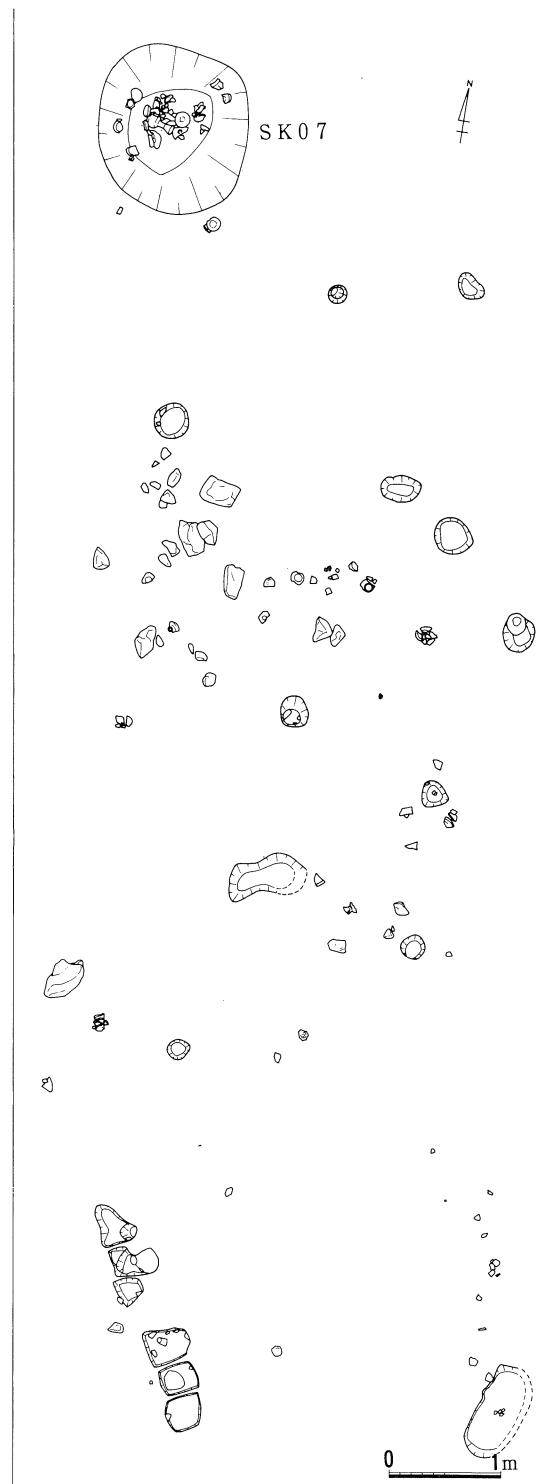
第1層（表土）、第2層（茶褐色土）、第3層（明褐色土）には遺構はなかったが、北側崖下端付近で非常に堅緻な黒褐色土が認められ、その前面で幅1.3×2.7m、深さ0.6mを計る不整形な溝状遺構を検出した（第108図）。そしてこの遺構内より高台付の壙（東-1・2）が、45×20cm～15×10cmの大きさの多数の礫と共に地山面より浮いた状態で出



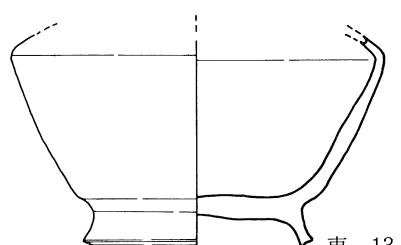
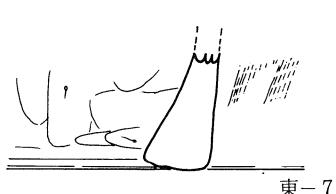
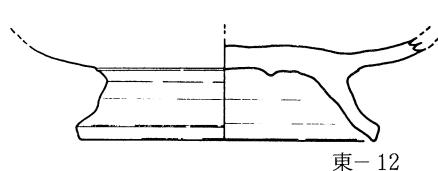
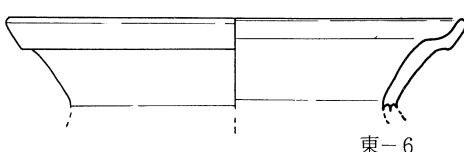
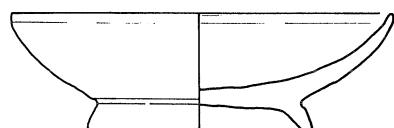
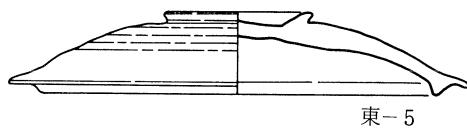
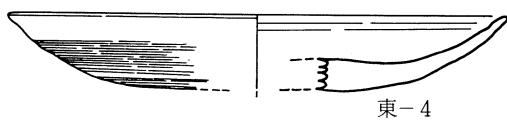
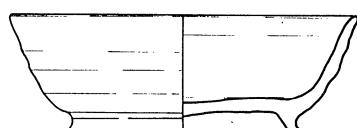
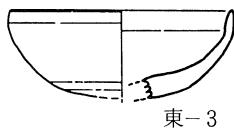
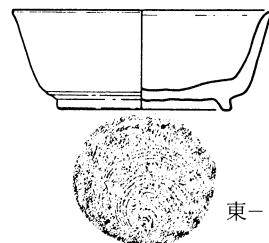
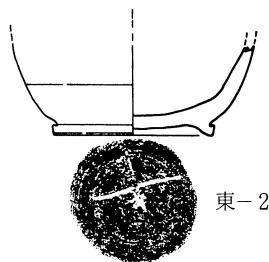
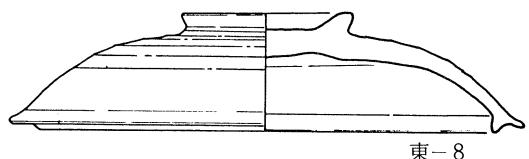
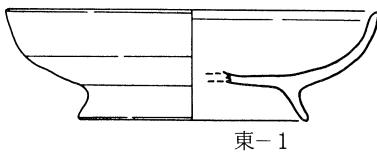
第108図 b区遺物出土状況図



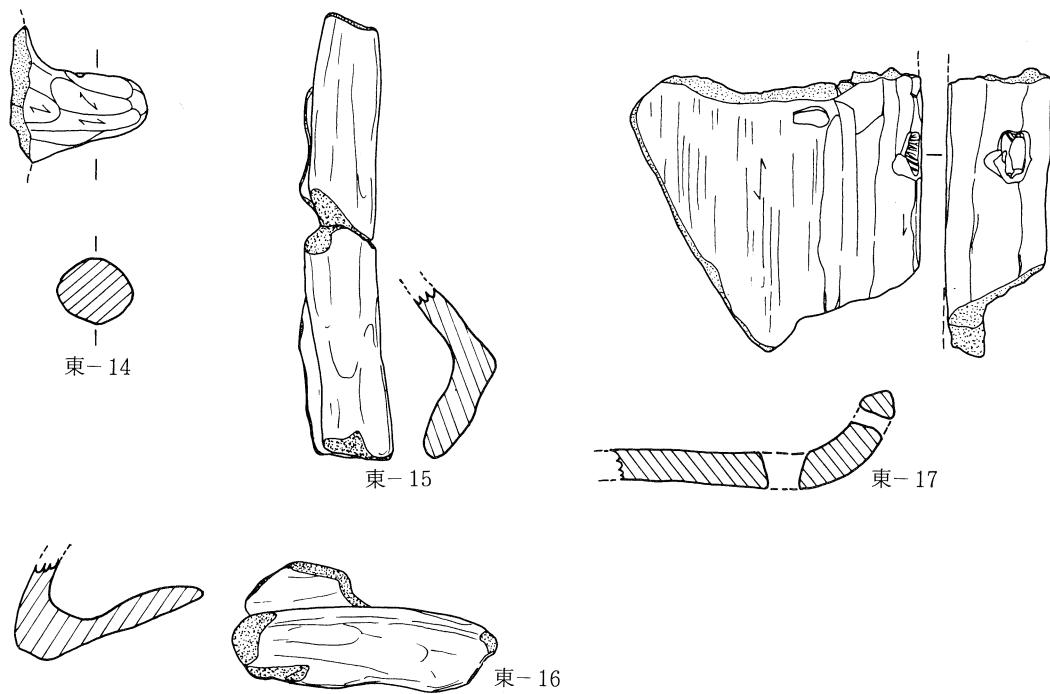
第 109 図 c 区遺物出土状況図



第 110 図 d 区遺物出土状況図



第 111 図 b・c 区出土遺物実測図 (1/3)



第 112 図 c 区出土遺物実測図 (1/3)

土した（第 111 図）。

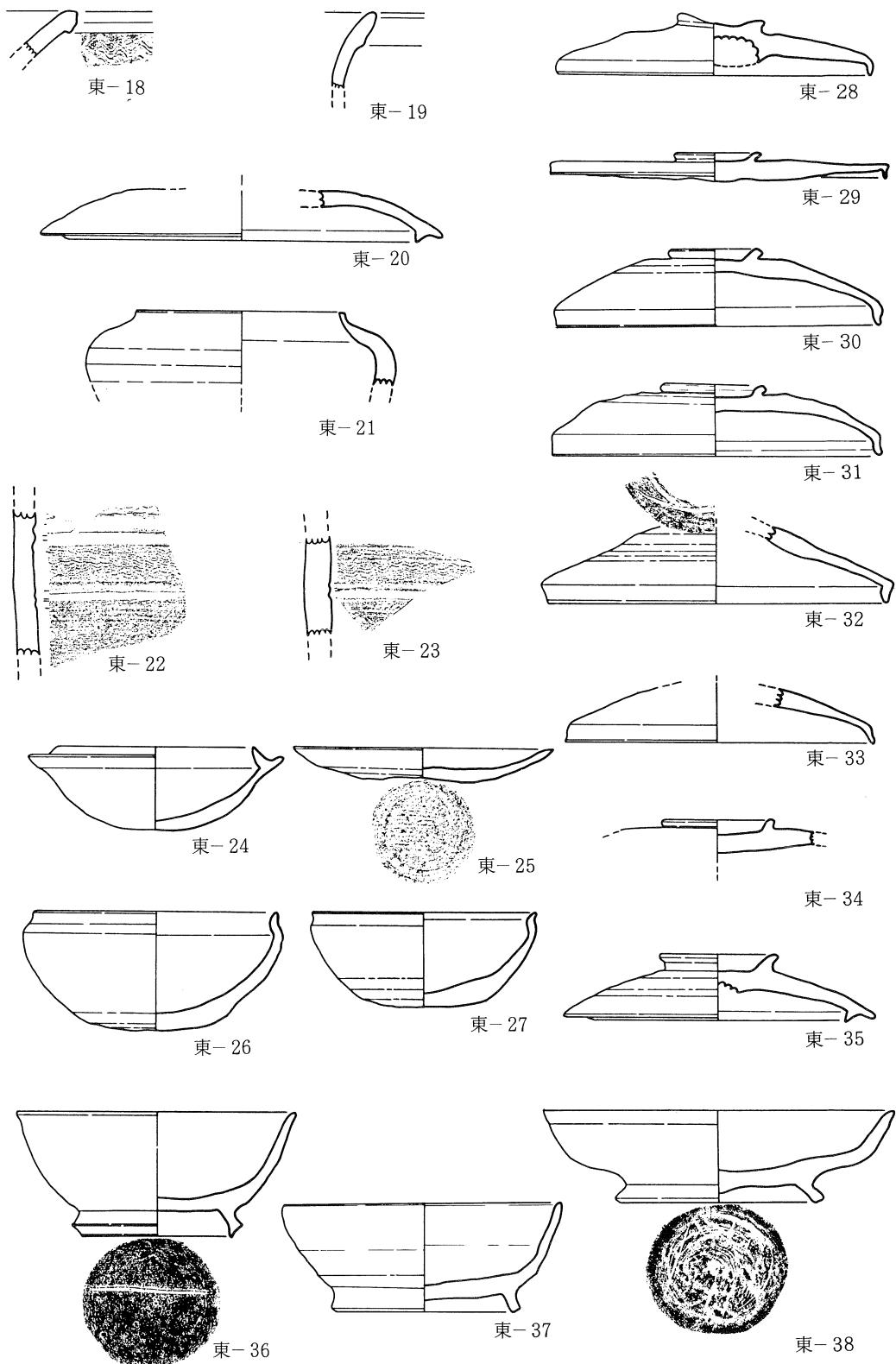
またこれらの礫はあたかも溝に蓋をする目的を持ってそこにおかれた状況を呈していた。
イ， c 区

第 1 層での出土遺物はなかったが、第 2 層（茶褐色土）では輪状つまみ付の蓋（東-5），竈（東-7）等数点が出土した（第 111 図）。第 3 層（明褐色土）面で北側に 4 穴、南側に 4 穴の柱穴と思われるピットを検出し、これと共に多量の遺物が出土した。北側のピットは径 20～28 cm，深さ 14～30 cm，柱心距離 1.0～1.5 m を計り、ほぼ一直線に並んでいた（第 109 図）。そして、このうちの 1 穴には窯体片が流入していた。しかしこれに対応するピットがなく、建物とすることはできなかった。そしてこの周辺には 20×25 cm～5×10 cm 大の礫が散在していた。また遺物はピットが並ぶ方向にはほぼ平行して出土し、これらの中には高台付の壙（東-9～12）等の須恵器の他に陶棺（東-17），竈（東-15・16）等が認められた（第 111・112 図）。

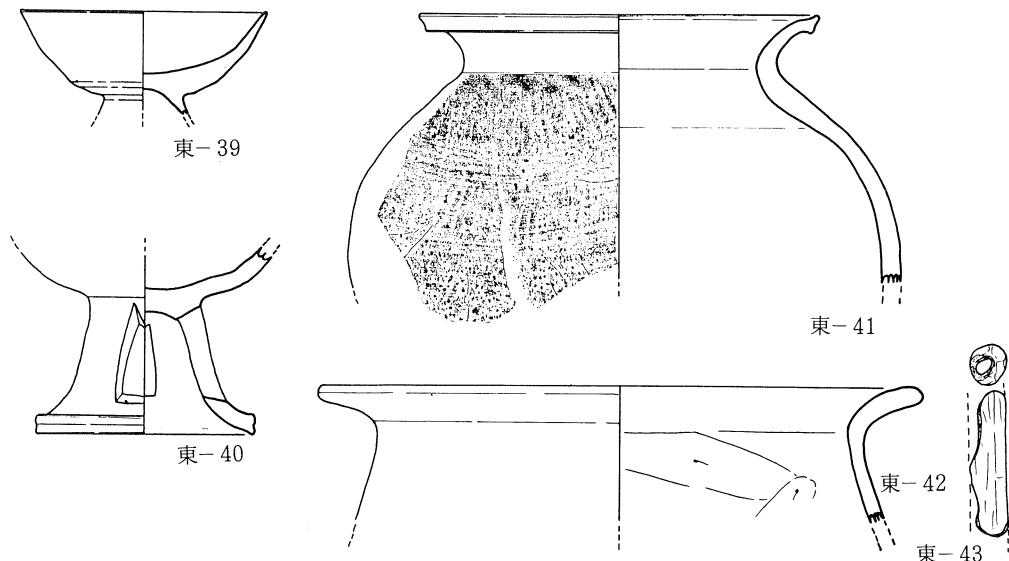
南側のピットは径 20～28 cm，深さ 11～17 cm を計るが、柱心距離が 2.3～3.4 m もあり相互の関連を窺うことはできなかった。また遺物も出土しなかった。

ウ， d 区

第 1 層・第 2 層（茶褐色土）には遺構がなく、遺物もかえりのある蓋（東-20），無頸壗



第 113 図 d 区出土遺物実測図① (1/3)



第 114 図 d 区出土遺物実測図② (1/3)

(東-21), 甕 (東-18・19・22・23) 等数点しか出土しなかった (第 113 図)。

第 3 層 (明褐色土) では遺構が認められ、遺物も多量に出土した。北隅では上端径約 1.0 m を計る円形の土壤 (SK 07) を検出した (第 110 図)。そして本土壤からは、环 (東-27), つまみ付の蓋 (東-28), 壺等の須恵器や土師器の甕等が出土した (第 113 図)。南端部では、不定形ながら三連結の穴を 2 箇所検出した。各々方形に近く大きさ $25 \times 25\text{cm}$ ~ $40 \times 30\text{cm}$, 深さ 9 ~ 17 cm を計り、一定していない。そして一度掘り込んだ後更に深く円形穴を穿った穴や、粘土を含む穴が、中には認められた。また、SK 07 とこの三連結の穴との間には、径 20 ~ 36 cm, 深さ 8 ~ 28 cm を計る柱穴と思われるピットが 10 穴程検出された (第 110 図)。しかし、各々の規模や柱心距離や対応の仕方などに一定した関係が見られず、建物とはなり得なかったが、多数の遺物が $35 \times 20\text{cm}$ ~ $10 \times 10\text{cm}$ 大の礫と共に出土した。その中につまみ付の蓋 (東-29・30・32・35), 环身 (東-24), 高环 (東-40), 土師器の甕 (東-42), 須恵質と思われる土錘 (東-43) 等が認められた (第 113・114 図)。

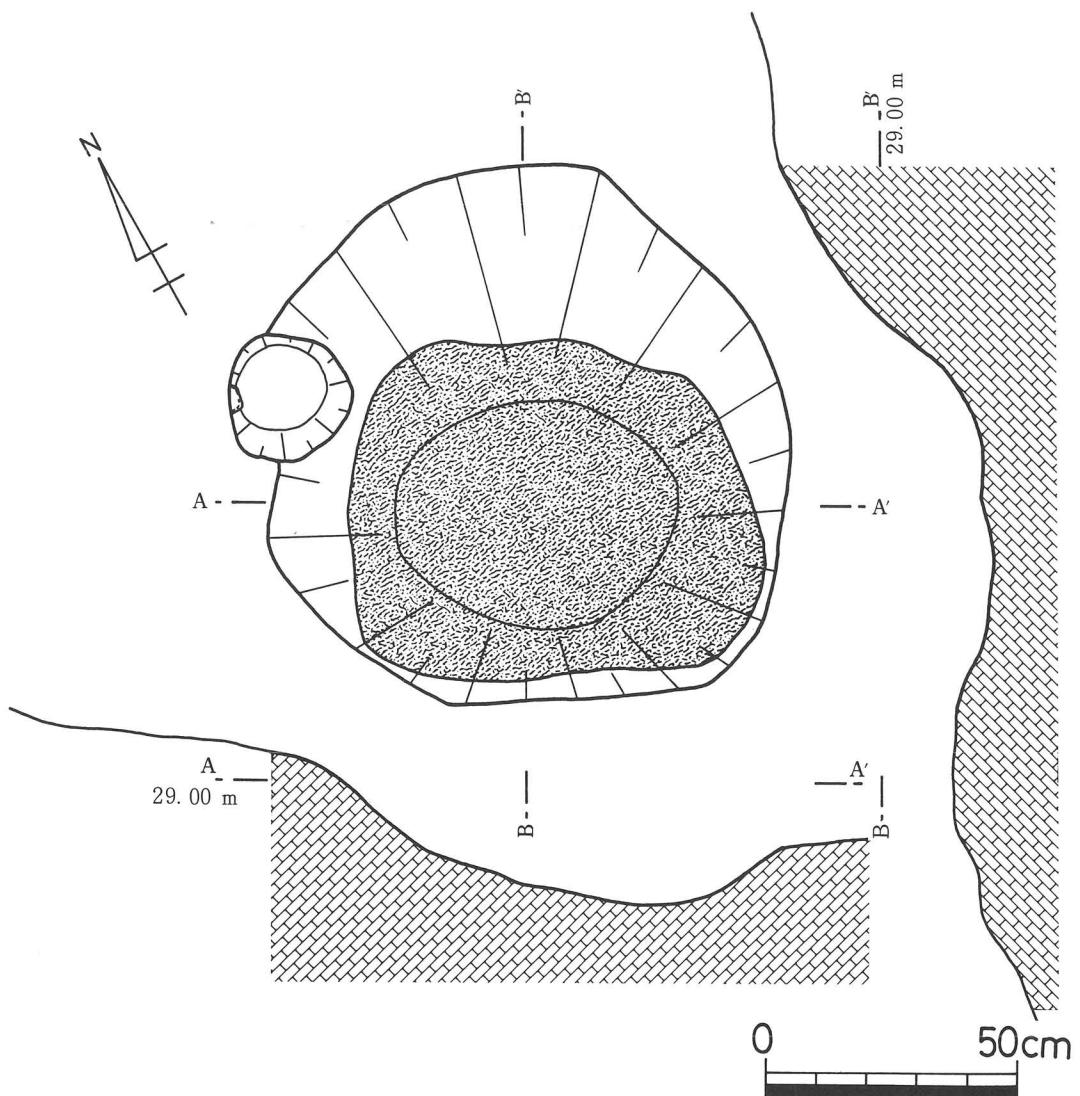
工, e 区

第 1 層・第 2 層 (茶褐色土) には遺構はなかったが、第 2 層中から环身 (東-46), 高台付の环 (東-53), つまみ付の蓋 (東-47~51) 等が出土した (第 119 図)。

第 3 層 (明褐色土) 面では本区の北東隅で焼土壤を 3 基、本区の中央部で柱穴と思われるピットを 6 穴検出し、これと共に多量の遺物が出土した (第 115 図)。1 号焼土壤は、上端径約 1.0 m を計る楕円形を呈し、この底に炭土が堆積していた。また本土壤の上端に

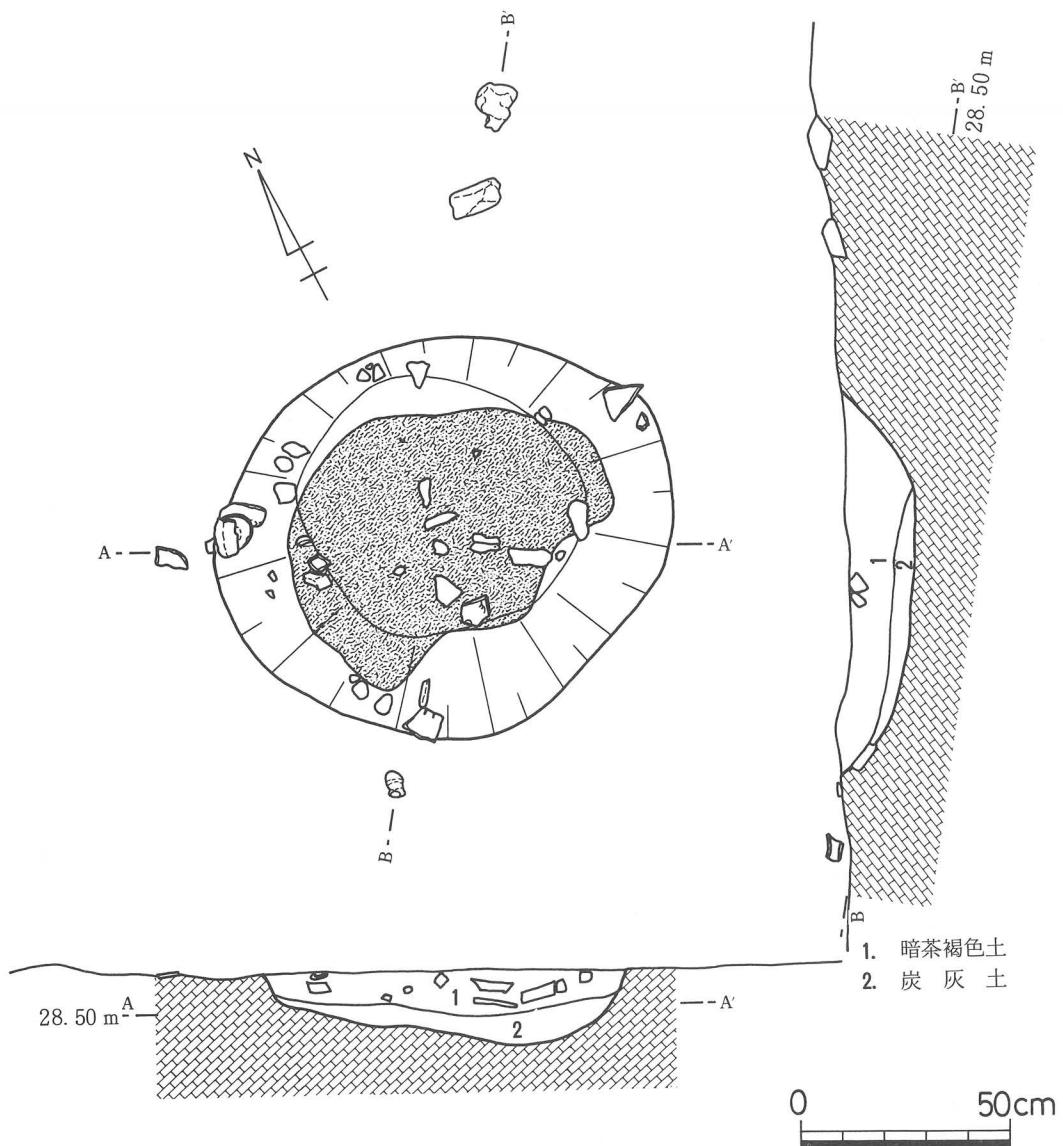


第 115 図 e 区遺物出土状況図



第 116 図 1号焼土壙実測図

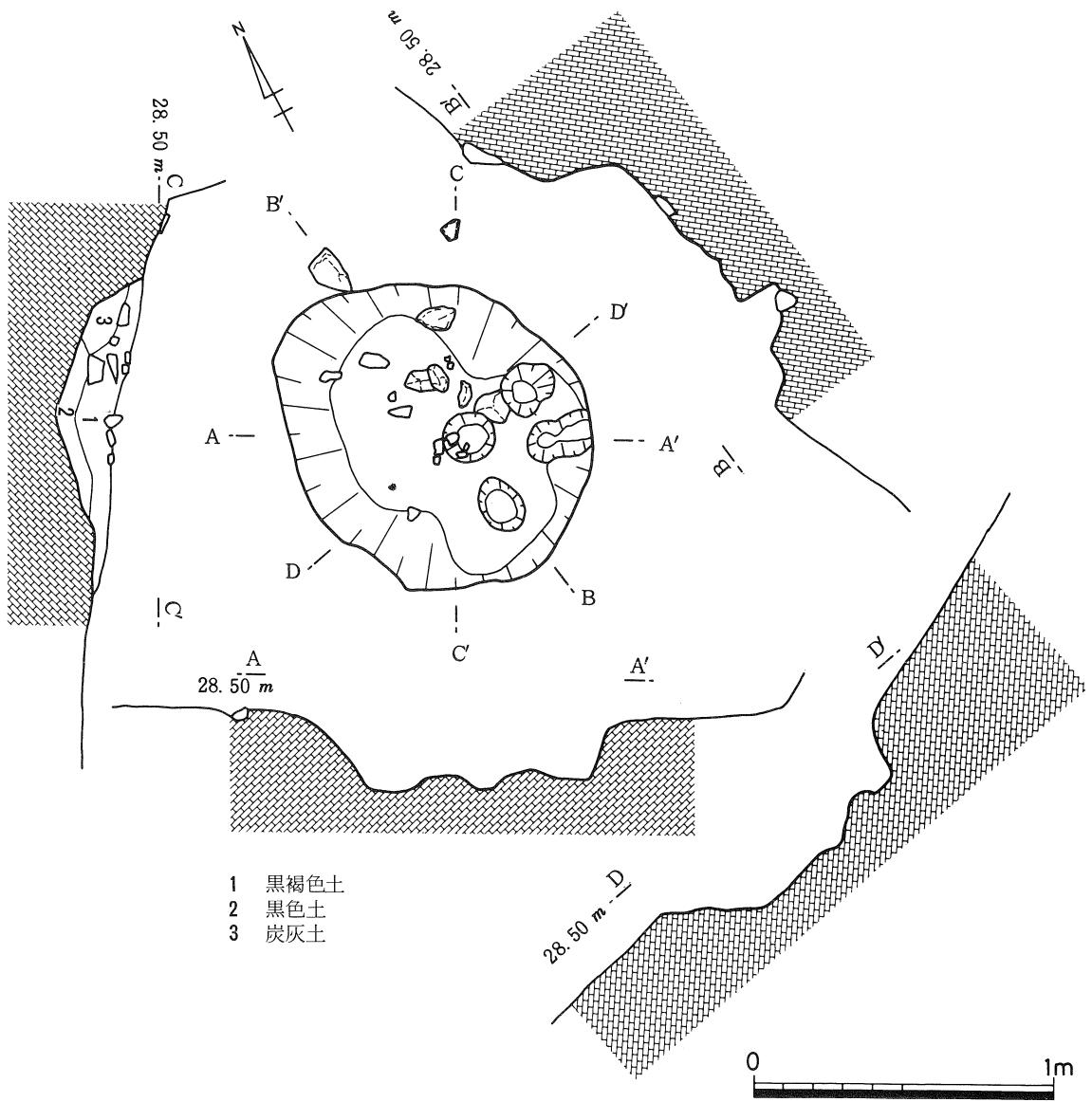
径23cm、深さ約27cmのピットが1穴確認されたが、本土壙に伴う遺物は出土しなかった（第116図）。2号焼土壙は、上端径約1.0m、深さ約28.4cmを計る楕円形を呈し、暗茶褐色土の下に炭灰土が堆積していた。土壙内から多数の小石と共につまみ付の蓋（東-44）や小壺（東-45）が出土した（第117・119図）。3号焼土壙は、上端径約1.0m、深さ約28.4cmを計る楕円形を呈し、黒褐色土の下に炭灰を多量に含む黒褐色土が堆積していた（第118図）。土壙内から須恵器の小片が出土したが、その詳細は不明であった。また、柱穴と思われるピットは、径20～30cm、深さ10～26cmを計るものであるが、柱心距離が一定せず、建物にはならなかった。さて、この層から多量の遺物が出土したが、これらは大小の礫と共に2号焼土壙の周辺を起点としてd区南側に向かって帯状に出土した。そしてこの



第 117 図 2号焼土壙実測図

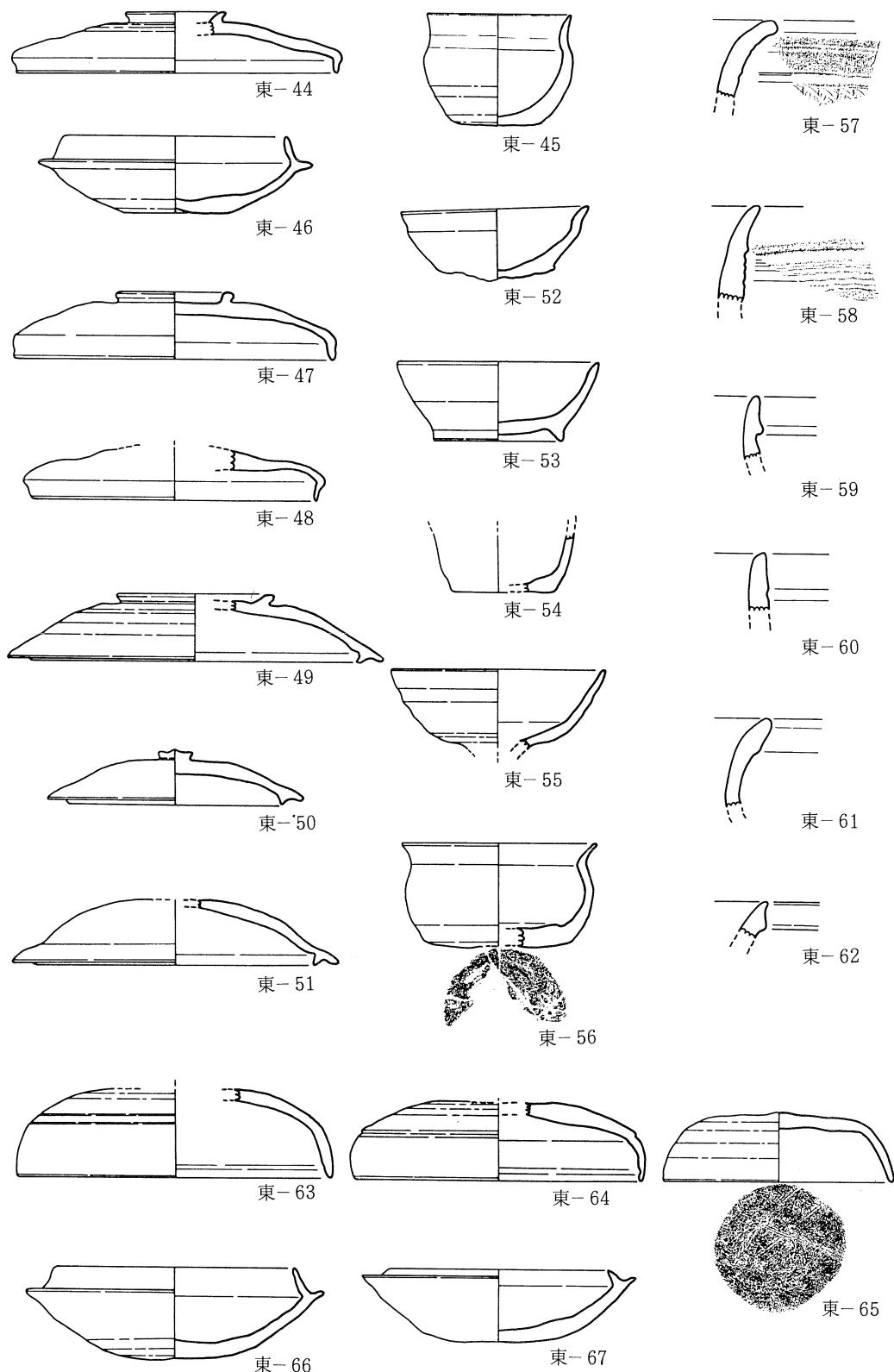
中には蓋坏（東-63～67），つまみ付の蓋（東-68～78），坏（東-79～84），高台付の坏（東-86～96），等の他に陶棺（東-108），土師器の甕（東-110），竈（東-109），土製支脚（東-111・112）等が認められた（第 119～123 図）。

第 4 層（暗茶褐色土）は他の区では見られず，本区でも中央部にのみ堆積していた。この層では遺構は認められず，遺物も坏身（東-113・114）等少量であった（第 123 図）。

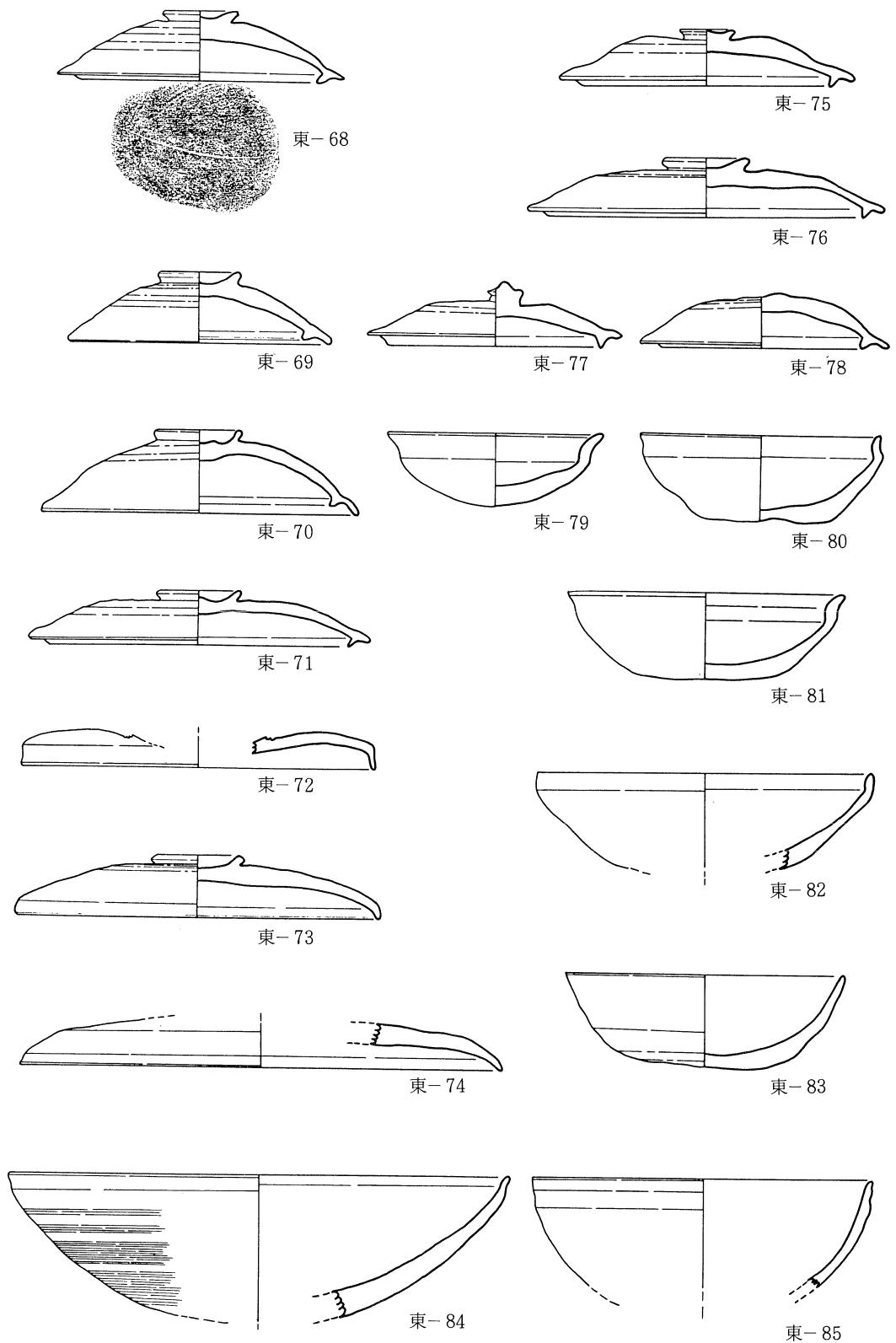


第 118 図 3 号焼土壙実測図

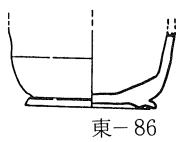
以上簡単であったが、東部調査区の概要を述べた。最後に若干のまとめをしておく。本調査区は4号窯跡の東側に隣接した緩斜面であり、当初工房跡か工人集落があるのではないかと期待された。そして調査の結果、20穴以上の柱穴と思われるピット・7号土壙・3基の焼土壙等を検出し、また出土遺物が多種多様で、中でも竈や土製支脚、土師器の甕等が出土したことは、当時の人々の生活の営みの痕跡をある程度明らかにできたと思われる。しかし、ピットの柱心距離がまちまちなために建物にはならず、また3基の焼土壙は火を焚いた跡とは言え、その土の焼け具合から判断して長期間使用したとは考えにくかっ



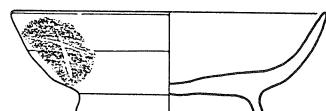
第 119 図 e 区出土遺物実測図①(1/3)



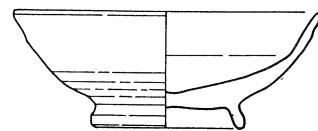
第 120 図 e 区出土遺物実測図② (1/3)



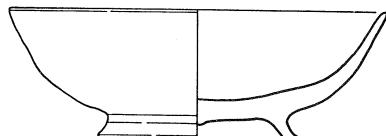
東- 86



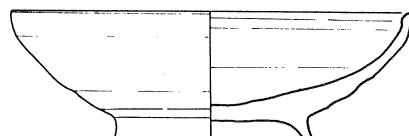
東- 87



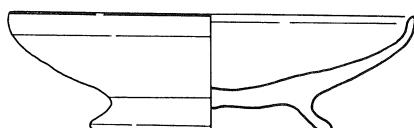
東- 88



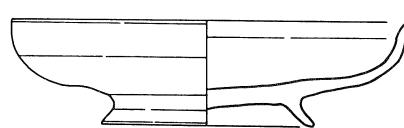
東- 89



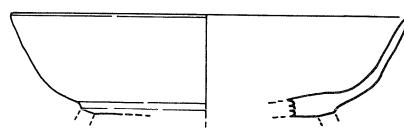
東- 90



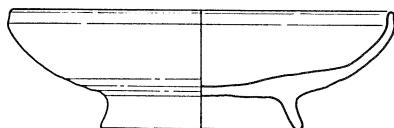
東- 91



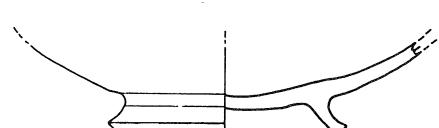
東- 92



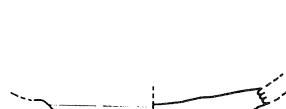
東- 93



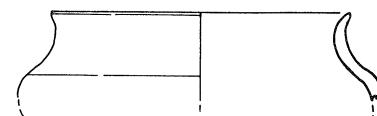
東- 94



東- 95



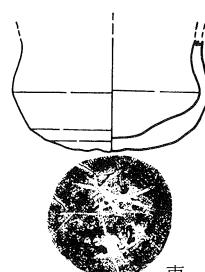
東- 96



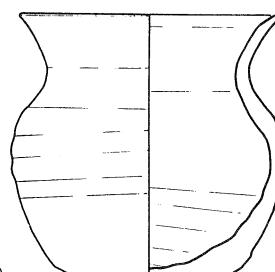
東- 97



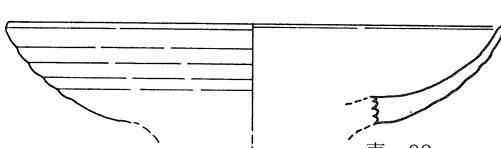
東- 98



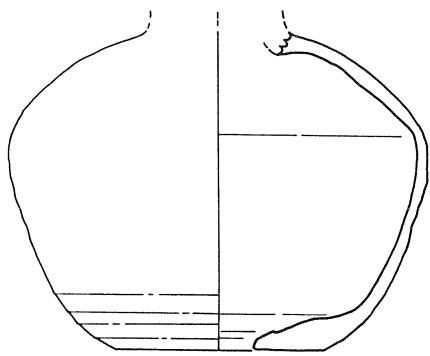
東- 99



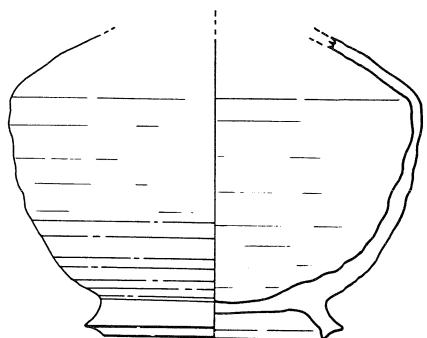
東- 100



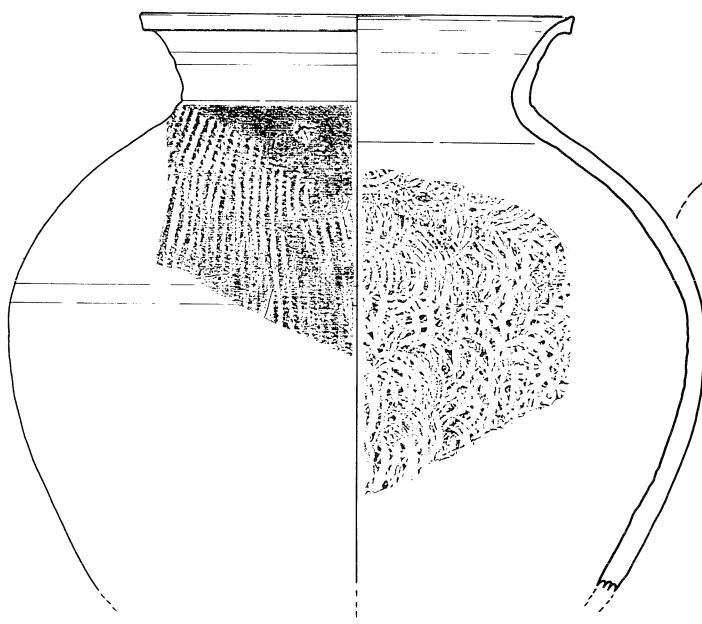
第 121 図 e 区出土遺物実測図③(1/3)



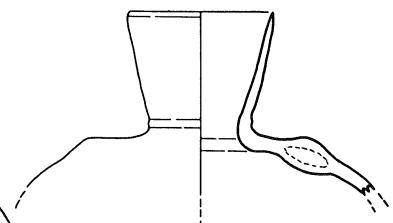
東- 102



東- 103



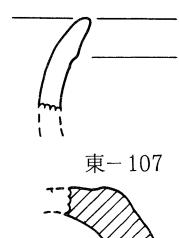
東- 105



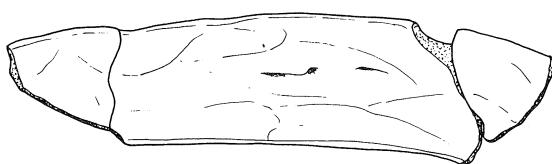
東- 104



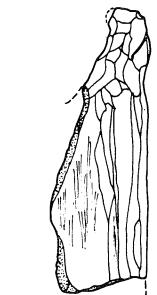
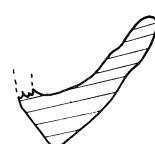
東- 106



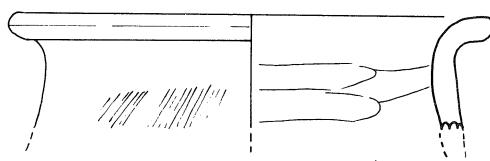
東- 107



東- 109

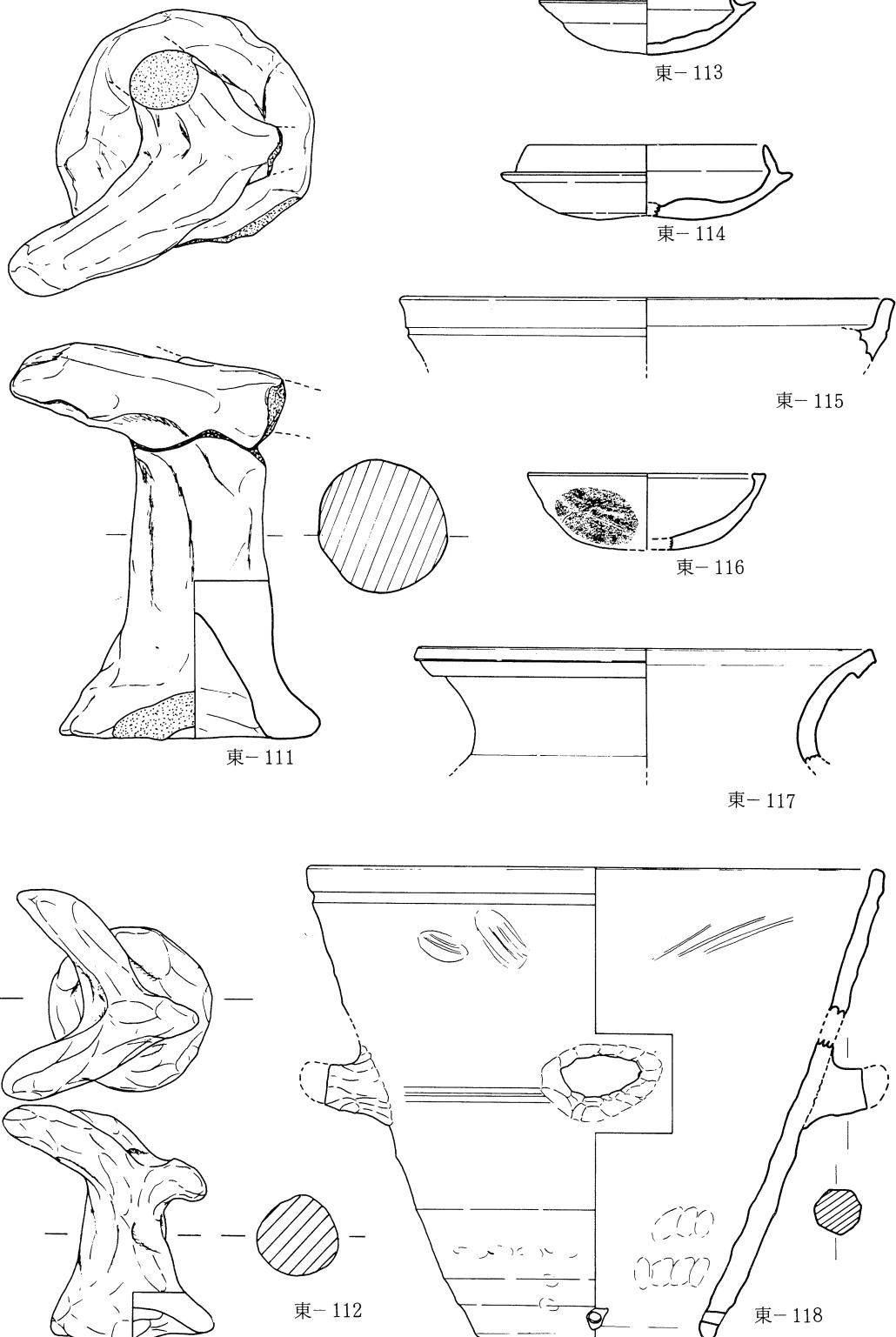


東- 108

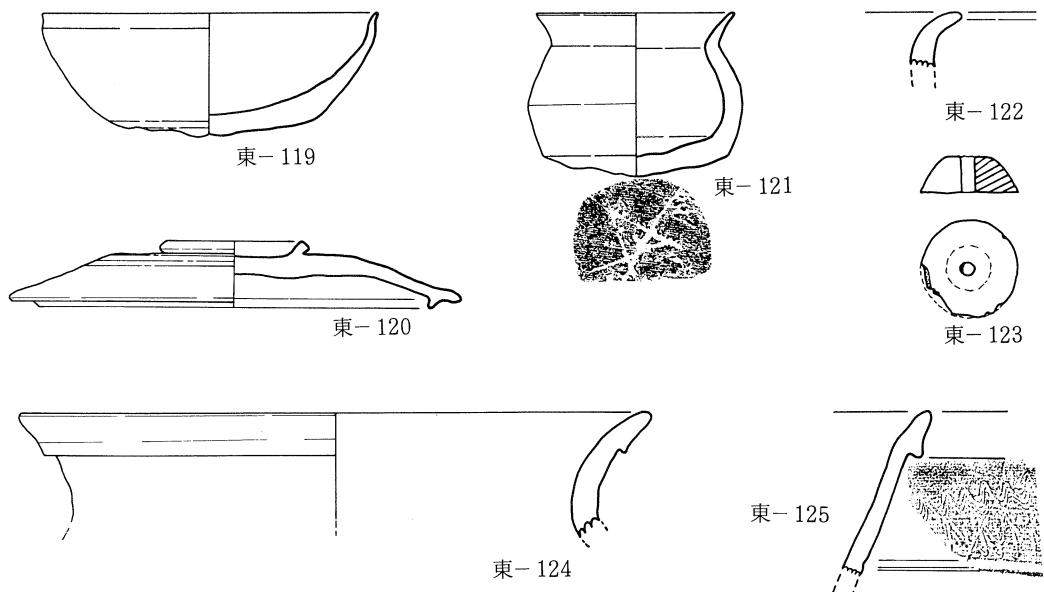


東- 110

第 122 図 e 区出土遺物実測図④(1/3)



第 123 図 e 区出土遺物実測図⑤ (1/3)



第124図 北側斜面・その他出土遺物実測図(1/3)

た。更に出土遺物に時期幅があることや(東-125)が示す接合関係は、本調査区が後世に攪乱や削平されたことを示すと思われる。

さて、4号窯跡・5号窯跡・6号窯跡・3号土壙・灰原調査区・北部調査区・東部調査区共にある程度の後世の攪乱・削平が認められたことは、何に起因するか検討する必要があると思われる。そしてこのことは、今日の“池ノ奥谷”がどのように形成されたかを総合的に検討する中で、考察しなければならないと思う。よって次章で、不完全であると思うが、“池ノ奥谷”的形成・削平等の過程についての我々の考え方を述べてみたいと思う。

4. 小 結

1960年代以降、大阪府陶邑窯跡群等の大規模な須恵器窯跡群が全国的に調査され、窯体構造や出土須恵器等の研究が開始され^{註1}、最近では須恵器製作工人集団の構成組織や供給範囲等、当時の社会構造の一端を解明しようとする動きも認められる。このように全国的には、莫大な資料の蓄積に裏付けられた総合的な研究が日進月歩の速さで進められている。しかし島根県内では、既述のように須恵器窯跡の調査例は稀少であり、このため窯業生産に関する論究が不十分であったり、山本清氏以降の須恵器研究も停滞気味であったと言わざるを得ない。

このような県内の情勢の中で、大井古窯跡群の一支群とは言え、池ノ奥窯跡群が調査され、その結果須恵器窯跡を3基・その灰原を1所・土壌を5基・焼土壌を3基・焼土を8ヶ所・柱穴と思われるピットを多数検出し、それらに伴う遺物も多量に出土した。そしてこれらは、須恵器窯跡を中心としたもので、各々何らかの関係で結ばれていると言える。つまり今回の調査は、一支群とは言え、出雲地方の一大須恵器生産地域である大井古窯跡群に初めて“メス”を入れ、須恵器の研究や窯業生産に関する研究等、停滞気味あるいは遅延している研究分野における数多くの基礎的資料を得たこと、またそれから派生する新たな問題・課題等を提示できたこと、さらにこれらが一遺跡の調査で確認されたことは極めて有意義であったと言える。

以下不十分ではあるが、池ノ奥4・5・6号窯跡を中心に二・三の検討をおこなって、まとめとしたい。

(1) 須恵器窯跡

まず、3基の須恵器窯跡の概要を再度整理しておく。4号窯跡は主軸をN-6°48'40"-Eにとり、全長14.3m、床面最大幅2.0m、床面傾斜角度18~21°を計る「うなぎの寝床」状の細長い平面形を呈する半地下式無段窯で、床面は二重であった。また排水溝・排煙口・上屋の外部施設を設けていた。5号窯跡は主軸N-9°37'28"-Eにとり、残存長6.1m、床面最大幅1.8m、床面傾斜角度18.5~20.5°を計る半地下式無段窯で、床面は一重であった。また排煙口の外部施設を設けていた。6号窯跡は残存長2.75m、床面最大幅1.5m、床面傾斜角度24~26.5°を計る半地下式無段窯で、床面は一重であった。そして6号窯跡は4・5号窯跡のものと思われる“灰原層”を削平して構築されていた。これらのうち、全体的様相が正確に把握できたのは4号窯跡である。よって、4号窯跡を中心にして窯体構造を若干検討してみたい。

まず、4号窯跡の全長と床面最大幅の比率についてみよう。この比率を中村浩氏は「床

幅系数」と仮称され、大阪府陶邑窯跡群のそれを検討された。氏にならって本窯跡のそれを導き出すと 0.14 (少数点第 3 位四捨五入) であり、「陶邑Ⅱ型式」のそれに含まれるところが分かった。また「うなぎの寝床」状の平面形を呈することも「陶邑Ⅱ型式」と同じである。しかし「陶邑Ⅱ型式」の床面傾斜角度を調べてみると、 25° 前後が最も多かったのに対し 4 号窯跡では $18 \sim 21^{\circ}$ 、5 号窯跡では $18.5 \sim 20.5^{\circ}$ を各々計り、かなり緩やかであった。また 4・5 号窯跡と時期的に近い遺物を出土した益田市芝窯跡をみると、全長 ^{註 4} 10.8 m、床面最大幅 1.8 m、床面傾斜角度 30° 、床幅系数 0.17 を計り、陶邑窯跡群と同様で 4・5 号窯跡よりも急である。出雲地方での 6 世紀末～7 世紀前半の須恵器窯跡の調査例が本例のみである現況の中でこれ以上のこととは言及できないが、床面傾斜が緩やかな点は池ノ奥窯跡群のみに認められる特徴か、大井古窯跡群に普遍的に認められるものか、今後検討すべき点であると思われる。

次に、「排水溝・排煙口」についてみよう。既述のように、溝状遺構が 4 号窯跡の煙道部に隣接して認められ、その地山に密着した状態で焼土が集中的に検出された。また(3)の 2 では触れなかったが、5 号窯跡の煙道部に隣接して焼土が検出された箇所もやや凹地状になっていた。この遺構の平面形がコの字状を呈し窯跡を囲むように設けられていたことから、窯を雨水から守るための“排水溝”であろうと考えた。だがその後の検討の結果、いずれも排水溝の地表面に焼土を伴うことから陶邑窯跡群の大野池 (ON) 3 号窯跡と同様な構造であろうと判断した。^{註 5} つまり、このような構造を持つ施設は排水の用途ばかりでなく、窯入れ・焼成段階の煙りの出し方にも何か大きな役割を果したと思われ、この施設を便宜的に「排水溝・排煙口」と仮称しておく。そしてこの類例を探すと、福岡県牛頸ハセムシ 1-Ⅱ 号窯跡・同 12-Ⅲ 号窯跡・同 18-1 号窯跡、^{註 6} 牛頸井手 A-3 地区 4 号窯跡、^{註 7} 鳥取県鳥越山 1-3 号窯跡、^{註 8} 福井県王子保 1・2 号窯跡、^{註 9} 等で認められ、今後本類例は増加すると思われる。

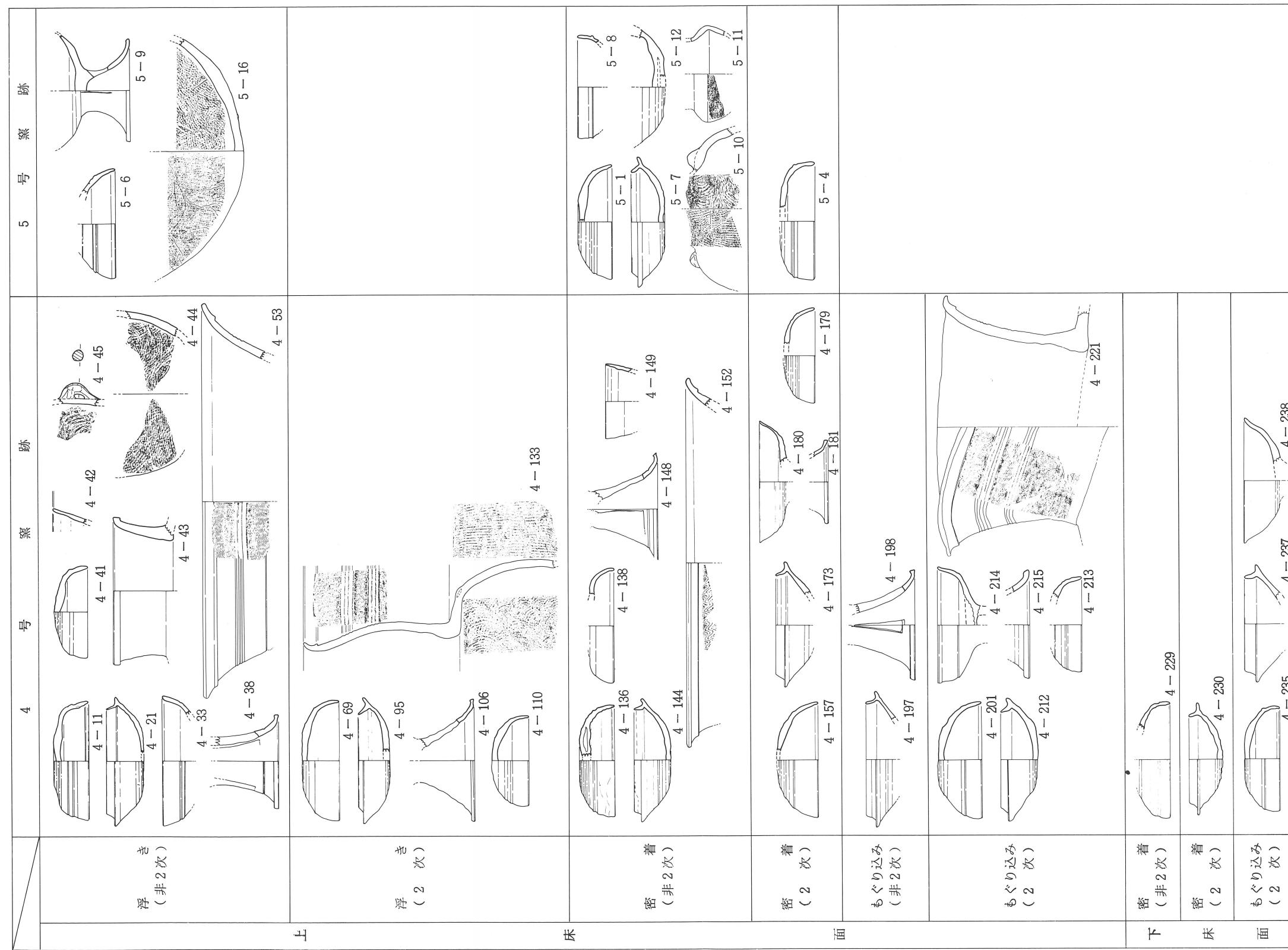
「排水溝・排煙口」を伴う窯跡の調査例が日本海沿岸地域に分布している現段階での傾向は、地域性を示しているのではないだろうか。しかしながら、6 世紀後半代から日本各地に地域性が具現するという傾向の中で、このような広範囲の地域に共通した施設が認められるのは何故か、また池ノ奥 4・5 号窯跡と既述した他の窯跡とは時期的に幅があると思われるがそれは何故か、今後の研究成果に委ねたいと思う。

(2) 窯跡の出土須恵器

既述のように4号窯跡の遺物の出土状況を、上の床面の浮き・密着・潜り込み、下の床面の浮き・密着・潜り込みの6種類と非二次焼成・二次焼成の2種類に区分して検討した結果、いくつかの特徴が認められた。例えば、4号窯跡の層位で最古と最新を示す「下の床面潜り込みの二次の遺物」と「上の床面浮きの非二次の遺物」を対比すると、殆ど同様な特徴を持つことが分かった。更に詳しく調べると、前者が後者よりもやや新しい傾向を持っていることが分かった。つまり、本窯跡の遺物は時期的に一括遺物として取り扱っても良く、それらに認められる特徴の違いはバラエティーの差、つまり製作工人集団の差と把えてよいと考える。また5号窯跡の出土遺物の特徴も本窯跡のそれに極似することから、4・5号窯跡の出土遺物はほぼ同時期として把えて良い。さらに4号窯跡は上下二枚の床面であったが、既述のように上下の床面に関係なくほぼ同時期の遺物を出土したことから、本窯跡と5号窯跡は遺物に時期差が認められないほどの短期間に操業が開始されそして終焉したと考えられる。

このように、4・5号窯跡出土遺物を時期的一括遺物としてもよいことが分かった（第125図）。そしてこれらの特徴を持つ出土遺物を山本編年案に照らしてみると、Ⅲ期に該当すると思われる。しかし最近では、山本編年のⅢ期を二細分する方向も出されており、この考え方を採用すると“Ⅲ期の新”になるであろう。この“Ⅲ期の新”に於ける蓋環の特徴を見ると、環蓋には、形骸化が進みながら、稜がある程度残っており口縁端部が段状を呈していたり沈線を周回させる等、古式須恵器からの伝統的な傾向がまだ残っているものが認められる。これに対して环身は、口縁部に見られる古式須恵器の伝統的傾向が失われて単純化し、かつ底がやや浅くなっている。このことは、4号窯跡の环蓋（4-201）と环身（4-212）がセットで出土したことから確実に言えることである。このように形骸化が進みながら环蓋に古い様相的傾向が認められるのは出雲地方の地域性のようでもあります¹⁴、今後山本編年Ⅲ期を考えていく上で环蓋だけでいろいろと言及することは避けねばならないと考える。

さて、“山本編年Ⅲ期の新”とした池ノ奥窯跡群の出土遺物をより詳しく検討するため¹⁵に、器種的に網羅されている高広遺跡の編年案を取り上げる。この遺跡では山本編年Ⅲ期を「高広ⅠB期」に該当させ、実年代として「6世紀末～7世紀初頭」を当てている。一方、池ノ奥窯跡群では考古地磁気の分析を実施しその結果を第Ⅳ章に掲げているが、4号窯跡は下の床面で 615 ± 25 A.D、上の床面で 620 ± 15 A.D、5号窯跡は 615 ± 10 A.D、6号窯跡は 780 ± 15 A.D、 1010 ± 20 A.Dとの結果が出た。つまり4・5号窯跡の時期



第125図 4・5号窯跡出土遺物一覧図

は6世紀第4四半期（末頃）～7世紀第2四半期（前半）となり、「高広ⅠB期」の実年代ともほぼ重複するので、この考古地磁気の分析結果はあながち否定はできないと思われる。

しかしながら池ノ奥4・5号窯跡と高広遺跡とでは大きく異なる点があり、次にその点について触れたい。蓋坏は二遺跡とも同様な特徴を持っているが、高坏を見ると底が浅く外面に稜もつかない無蓋高坏の坏部や透かしの下に沈線が施されない脚部のものが認められるし、壺の口縁部ではやや外方に緩やかに立ち上がり端部で屈曲し外面に平坦面を持つものが認められる。これらの特徴を高広遺跡に照らすと「高広ⅡA期」に該当すると思われる。つまり、高広遺跡では「高広ⅠB期」・「高広ⅡA期」と時期分類されているものが、池ノ奥4・5号窯跡では一括資料として出土していることになる。この結果、高広遺跡の側に立脚すればかなりの時期幅が認められるということになり、逆に池ノ奥4・5号窯跡の出土状況を肯定すれば高広編年案をはじめとして全ての編年案の再検討を余儀なくされることとなる。発掘調査担当者としては池ノ奥4・5号窯跡の遺物の出土状況は信頼できると考えており、このことから考えて從来の島根県内の須恵器の研究史に一石を投じることになると考える。

しかし既述のこととは池ノ奥4・5号窯跡だけのことかもしれないが、高坏（第126図）・甕の口縁部の断面形態と波状文（第127図）・壺や甕の叩き目（第128～137図）を基礎的資料として掲げ、結論的なことについては将来の研究成果に委ねたいと思う。ただ今後は各器種やセット関係における時期的・形態的变化を考慮しながら編年することを志し、蓋坏とか高坏などの一器種のみ、あるいは特定器種における時期的・形態的变化のみに基づく編年等は極力避けるべきであろう。

一方、6号窯跡の出土遺物の特徴を見ると、4・5号窯跡とは大きく異なり、回転糸切り底の坏を中心に外面にかなり幅広い平行タタキと内面に放射状の当て具痕を持つ壺等が認められる。この特徴を高広遺跡の編年案に照らすと「高広Ⅴ期」、つまり9世紀中頃～後半代に該当すると思われる。しかし、本窯跡の考古地磁気の分析結果では既述のように8世紀第3四半期（後半）～8世紀第4四半期（末頃）か10世紀第4四半期（末頃）～11世紀第2四半期（前半）となり、考古学の成果とは実年代が大きくずれることになった。このような自然科学分析と考古学との大きな年代的な“ズレ”を理由に科学的分析結果を捨象するのではなく、今後は両者の“ズレ”を相互の研究成果の蓄積に基づいて縮めてゆく地道な作業をする必要を感じるのである。事実、平安時代の遺物についての研究は最近^{註16}緒についたばかりであり、今後の研究成果の充実に期待したい。ただ現段階では松江市古^{註17}曾志平廻田窯跡を10世紀代と考えており、6号窯跡と古曾志平廻田窯跡の遺物の検討の結

果、本窯跡が古曾志平廻田窯跡よりも一段階古く、宍道町小松窯跡から同様の特徴を持つ
坏や鍋や壺等のタタキが認められることから小松窯跡とほぼ同時期に当たると思われる。^{註18}

最後に今回の調査では、¹⁴C分析・熱ルミネッサンス法など他の自然科学分析を用いず
に熱残留磁気の分析のみを実施した。このため測定年代をそのまま鵜呑みにすることは避け
ねばならない。しかしながら、距離的に離れた2基の窯跡での測定結果が期せずして一
致したという興味深い事実に着目すれば、池の奥4・5号窯跡と同時期とした「高広Ⅰ
B期」の実年代比定はほぼ正しいという科学的な根拠をひとつ得たことになる。今後は熱
残留磁気等多くの自然科学的分析の成果を取り入れて考古学の各分野の精度をより高めて
ゆくことが肝要であると考える。

(3) “池ノ奥谷”について

ここでは以上のことと総合的にまとめて、“池ノ奥谷”について若干検討してみたい。
そのために、これまでに判明したことを箇条書きで再度整理してみる。

- 1) 調査開始当初、上段の崖断面で側壁が左右より立ち上がる状態で、4号窯跡の窯体
を検出した。5号窯跡は、削平された状態で窯体断面を露出させていた。
- 2) 4号窯跡の焚き口部分の天井部は削平・消失しており、焚き口部分より南側では灰
原は検出できなかった。5号窯跡は窯体面より深いレベルまで削平されており、焚き
口・燃焼部は完全に消失しており、その痕跡はなかった。
- 3) 4号窯跡の焼成部の天井部はほぼ完全に遺存していたが、煙道部には大穴が開いて
おり、この前後の天井部は後世の攪乱を受けて消失していた。5号窯跡の焼成部・煙
道部の天井部は後世の攪乱を受け消失しており、窯体片を含む攪乱土が堆積していた。
- 4) 4・5号窯跡は共に半地下式無段窯で、「排水溝・排煙口」を設けていた。
- 5) 6号窯跡は4・5号窯跡に関係する“灰原層”的東端部分を削平して構築され、焼
成部以外は削平され天井部も崩落していた。天井部の上には“2次堆積層中の灰原層”
が認められた。
- 6) 調査当初、遺物や大小の礫を含む黒色炭化物層が下段の崖ライン上にほぼ
等間隔で検出され、これを1・2・3号窯跡（土壙）と仮称したが、調査の結果これらの
窯跡はその崖によって削平され半分程消失していた。更に1・2号窯跡の黒色炭化物層は
“灰原層”に続いており、また波状文を持つ甕口縁部片の接合関係の検討の結果、4
号窯跡出土の破片や“灰原層”出土破片と接合した。よって1・2号窯跡（土壙）は
4・5号窯跡に関係する“灰原層”的一部と判断した。また、3号窯跡（土壙）は性
格不明の土壙状遺構であった。

- 7) 灰原調査区では，“表土”直下に“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”をほぼ均等の厚みで検出したが、この傾向は下の北区で著しかった。これに対し上の北区でも“表土”下で“2次堆積層中の灰原層”を検出したが、東側の一部でしか認められなかった。また上の南区の“2次堆積層中の灰原層”は純然たるものではなく他の土と混在しており、全体的に赤味を帯びていた。
- 8) 下の北区北側の崖断面下では“表土”的下に“2次堆積層中の灰原層”があり、それを除去すると明褐色土（地山）が平坦面として検出された。この平坦面が落ち込み始める箇所から“灰原層”が始まっている、従ってこの地点では“表土”直下の“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”と“灰原層”は一つになっていた。
- 9) 明黄褐色の大小の礫を含む“攪乱層”を“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”的下に検出したが、これは明らかに南側斜面から客土した土として、下の南区を中心に認められた。
- 10) “2次堆積層中の灰原層”とこの下に堆積した“中間層”は水平方向に堆積していくのに対して、その下の“灰原層”は概ね北から南へ急速に落ち込む形で下降していた。“灰原層”をB-5区にごく近いA-5区の深い所で検出しており、この傾向は下の北区、上の北区で顕著であった。
- 11) 灰原調査区の各層の堆積状況、遺物の出土層位・形態的特徴・接合関係の四面から検討した結果、灰原調査区はかなりの広範囲で、ある程度の攪乱・削平を受けていると判断した。
- 12) 上の南区では“2次堆積層中の灰原層”から2m余り下の“灰原層”で、回転糸切り底の壺の重ね焼きが4個体程出土した。
- 13) 北部調査区A-2・3区第4層で据置きの竈を検出すると共にこの層の出土遺物の時期は4・5号窯跡とほぼ同じであったことから、この層位は攪乱されていないと判断した。しかしA-2・3区第4層以外の遺物の出土状態や接合関係の検討の結果、本調査区の殆どの層は後世の攪乱を受けていると判断した。
- 14) 東部調査区a・b区の土壤は多数の転石（礫）の集積を除去して検出されたものであり、また本調査区で検出された柱穴と思われるピット・遺物・焼土塊は、当時の人々が生活を営んだ証拠である。しかし、4号窯跡を境にして西と東とでは遺物の出土状況が異なり、前者では少なく後者では多かった。
- 15) 全調査区の出土遺物の時期について、高広遺跡編年案を参考にして表にまとめてみる。

調査区	中心の時期	備考	
4号窯跡	山本Ⅲ期・高広ⅠB～ⅡA期 (6世紀末～7世紀前半)	地磁気	下の床面 615 ± 25 A.D 上の床面 620 ± 15 A.D
5号窯跡	山本Ⅲ期・高広ⅠB～ⅡA期 (6世紀末～7世紀前半)	地磁気	615 ± 10 A.D
6号窯跡	高広Ⅴ期 (9世紀～10世紀代)	地磁気	780 ± 15 A.D 1010 ± 20 A.D
3号土壙	高広ⅡA～ⅢB期 (7世紀初頭～8世紀前半)	高広ⅠB期～高広ⅣB期の遺物が出土 (6世紀末～9世紀前半)	
灰原	高広ⅠB～ⅣB期 (6世紀末～9世紀前半)	山本Ⅱ期～常滑焼きの遺物が出土 (6世紀前半～13世紀後半)	
北部	高広ⅢA～ⅣA期 (7世紀中頃～8世紀後半)	縄文時代～江戸時代(寛永)の遺物が出土	
東部	高広ⅢA～ⅣA期 (7世紀中頃～8世紀後半)	高広ⅠB期～高広ⅣB期の遺物が出土 (6世紀末～9世紀前半)	

以上、これまでに判明したことを箇条書きで整理した。これらを基にして我々が、“池ノ奥谷”について考察したことを述べてみたい。

- (1) “池ノ奥谷”は元々急斜面であり、谷底はかなり深かったと思われる。
- (2) 灰原調査区の出土遺物の検討の結果、4・5号窯跡構築以前に、少なくとも窯跡が1基構築された可能性が認められる。
- (3) 既述の4)より、4・5号窯跡の構築直前に、少なくとも窯跡を中心としたある範囲が削平されたが、この時は未だ上段・北部調査区・東部調査区・下段の区別は、できていなかった。そして、4・5号窯跡が北側緩斜面に構築されたと思われる。
- (4) 既述の1)・2)・3)より、上段・下段の崖断面の形成や北部調査区・東部調査区の削平は、4・5号窯跡の廃棄若しくは放棄の後であったと思われる。
- (5) 既述の5)より、6号窯跡の構築時には未だ灰原が露出しており、本窯跡放棄(廃棄)後に“2次堆積層中の灰原層”が堆積して現在の水田面が形成されたと思われる。
- (6) 既述の6)より、1・2・3号土壙は各々別の時期に削平されたのではなく、同一の時期に削平されたと思われる。また、上段崖と下段崖の削平、崖断面と緩斜面の形成の前後関係を考察することは、灰原調査区の全土層の堆積状況・各遺構の削平に関連して重要であるが、結論としての絶対的な確証は未だ得ていない。
- (7) 既述の6)より、3号土壙の“灰原層”は5号窯跡に關係すると考えた。つまり、粘土採掘場であった本土壙から粘土が採掘された後に“灰原層”がここに堆積した。更にこの後に、何らかの理由で一部の“灰原層”を残して新たに削平されたと考えた。

しかし、5号窯跡との距離関係を考えると5号窯跡の焚き口・燃焼部の横ぐらいになり、このような所に“灰原層”が形成されるか疑問である。

- (8) 既述の7)～11)より、“表土”直下の“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”・“中間層”的堆積状況は、“灰原層”的上に客土したことを示すが、それだけの大量の土は、北部調査区・東部調査区の他に南側斜面の削平に伴う客土がなされなければ出てこないはずである。つまり、灰原調査区の客土の状況は調査区全体から出土した遺物の接合関係からみるとかなり大規模であると共に、上の北区・上の南区・下の北区・下の南区とそれぞれに客土過程・時期が異なり、複雑であったようである。更に“2次堆積層中の灰原層”を他の堆積土と区別して敷き詰めた状況は、水田耕作と何らかの関係があった（例えば水捌け等）と思われる。
- (9) 既述の12)より、上の南区南側斜面の周辺には2基以上の窯跡（これを「7・8号窯跡」と仮称する）があった可能性が非常に強いと思われる。何故ならば池ノ奥4・5・6号窯跡とは明らかに別の窯跡で生産された須恵器が、灰原調査区・北部調査区・東部調査区や池ノ奥古墳群などから出土した。これは、7・8号窯跡が4・5・6号窯跡の灰原を共有する場所、つまり灰原調査区の南側斜面に構築されていたと考えられる。このことを示すように7世紀後半代と8世紀後半代の二つの異なる時期の重ね焼きの須恵器が出土している。
- (10) 第Ⅳ章に掲げた胎土分析の結果、4・5・6号窯跡産の須恵器とは明らかに異なり、鉄分の非常に高い胎土を持つ須恵器（7～8世紀代の糸切り底の坏が大半）が灰原調査区をはじめとする周辺の遺跡から多数出土したことが分かった。この鉄分の高い須恵器は既述の7・8号窯跡と時期的に重複すると思われ、この胎土分析の結果は、須恵器生産に適する原料粘土について大きな問題（例えば、鉄分の高い粘土は大井地域以外から搬入したものか等）を提起することになり、今後注目していかなければならないだろう。
註19

以上、我々が考察したことについて簡単にまとめてみた。6号窯跡と灰原との関係や1・2・3号土壙がどのように形成されたかなどについては、疑問な点がまだまだ残っているが、ご容赦戴きたい。

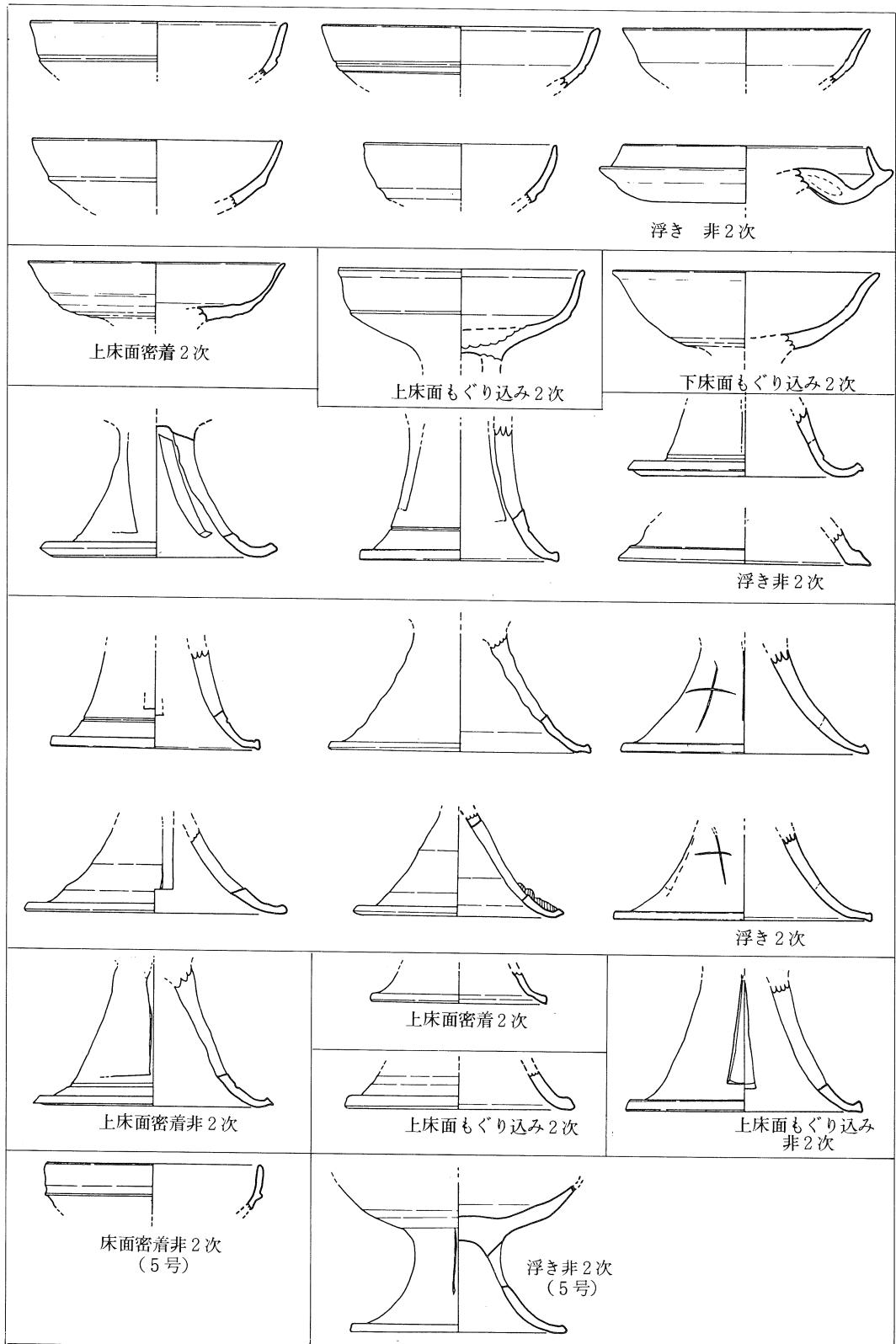
さて、我々は“池ノ奥窯跡群”的狭い領域でしか考えることができなかつたが、本窯跡群周辺の“イガラビ遺跡”や“池ノ奥A遺跡”では、“池ノ奥窯跡群”的北部調査区・東部調査区・7・8号窯跡とほぼ同時期の7世紀中頃～8世紀後半代の遺物や窯体片等が出土した。このことから本窯跡群周辺のこれらの遺跡は、工人集団の集落跡・工房跡等、須

恵器生産に何らかの関係がある遺跡と思われ、今後は総合的に考察する必要があろう。

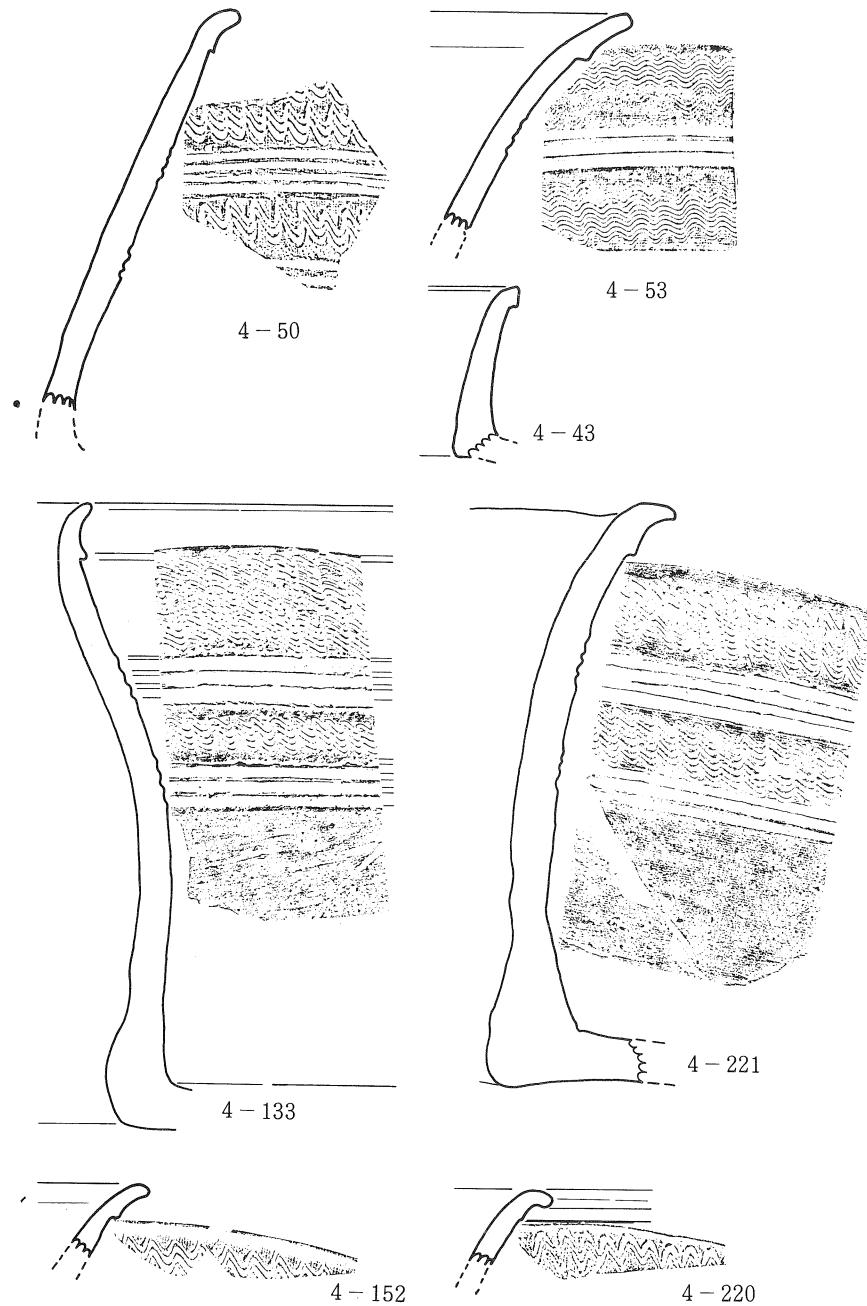
また既述のように、本窯跡群では熱残留磁気・胎土分析等の自然科学的分析を実施し、須恵器の粘土の供給源は窯跡周辺のみか、窯跡と周辺の遺跡とはどのような関係か、等の大きな課題を多く残したと言える。そして我々が提示したこの基礎的な資料によって、今後の総合的な考古学的研究が一步でも前進し未だ不明瞭な事象が少しでも解明されれば幸いと考える。

註

- 註1 例えば、（財）大阪府文化財センター『陶邑』I～VI 1976～1987 がある。
- 註2 例えば、中村浩氏『和泉陶邑窯の研究－須恵器生産の基礎的考察－』 1981 がある。
- 註3 中村氏は「I型式の窯跡の床幅系数は0.18～0.31, II型式のそれは0.13～0.22, III型式のそれは0.26～0.3」等とされ、II型式の窯跡は、“うなぎの寝床”状の平面形を呈し、床面傾斜が急になること、床幅系数が低くなること、などの特徴を示すと指摘しておられる。中村浩「窯体構造の時期変化」（『和泉陶邑窯の研究－須恵器生産の基礎的考察－』 1981）
- 註4 田中義昭「益田市西平原窯址群の意義について」（『ふいーるど・のーと』3号 1982）
- 註5 （財）大阪府文化財センター『陶邑』I 1976
- 註6 大谷女子大学 中村浩助教授の御教示によるところが大きい。
- 註7 大谷女子大学『大谷女子大学資料館報告書第23冊 牛頸II一ハセムシ窯跡群発掘調査報告書－』 1989
- 註8 福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告書第80集 牛頸窯跡群I』 1988
- 註9 鳥取県宍道町・日野琢郎氏、倉吉市教育委員会・根鈴輝雄氏の御教示による。
- 註10 武生市教育委員会『武生市埋蔵文化財調査報告Ⅳ 王子保窯跡群第1次発掘調査概要報告』 1986
- 註11 この他に中村浩氏は「石川県小松市調査例でも認められる」としておられるが、管見では確認できなかった。前掲 註5・7
- 註12 山本清「山陰の須恵器」（『島根大学開学10周年記念論文集』 1960）
- 註13 浅沼政誌・宍道年弘「島根県東出雲町堤谷1号墳出土の須恵器」（『古文化談叢』第18集 1987）
・島根県教育委員会『岡田薬師古墳 淳北台第二団地造成に伴う発掘調査報告』 1986 等である。
- 註14 このことについては、今岡一三氏も指摘しておられる。今岡一三「出土遺物の検討」（松江市教育委員会『薦沢A遺跡・薦沢B遺跡・別所遺跡』 1988）
- 註15 島根県教育委員会『高広遺跡発掘調査報告書－和田団地造成工事に伴う発掘調査－』 1984
- 註16 広江耕史・片岡詩子「島根県における古代末～中世にかけての須恵器について」（『中近世土器の基礎研究Ⅳ』 1988）
- 註17 島根県教育委員会文化課主事 広江耕史、丹羽野裕両氏の御教示による。
- 註18 島根県八束郡宍道町教育委員会『宍道町埋蔵文化財調査報告書3 小松古窯跡群範囲確認調査報告書』 1983
- 註19 このために現在、補充資料の胎土分析を奈良教育大学三辻利一氏にお願いしており、後日、その成果を公表する予定にしている。



第 126 図 4 号・5 号窯跡出土高坏実測図



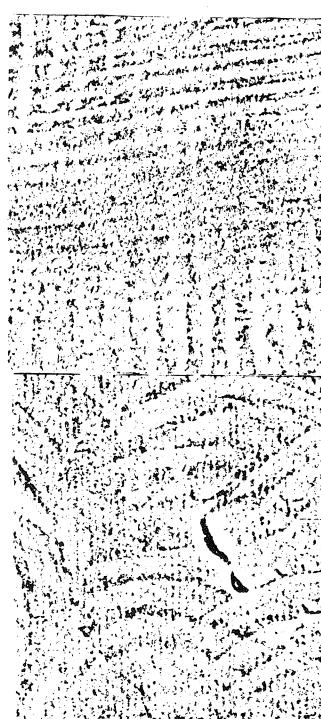
第 127 図 4 号窯跡出土甕口縁部形態図



4-44



4-46



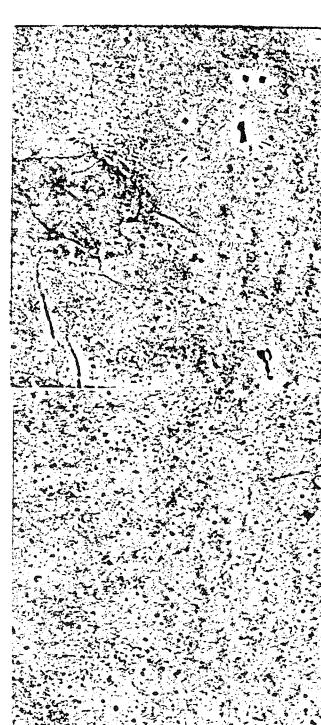
4-47



4-52



4-64



4-54

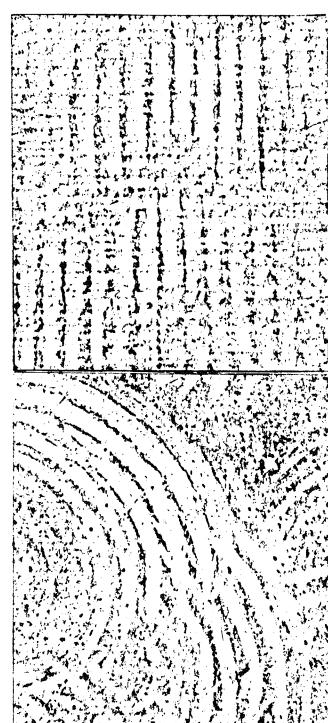
第 128 図 4 号窯跡出土甕拓本（浮き・非 2 次）①



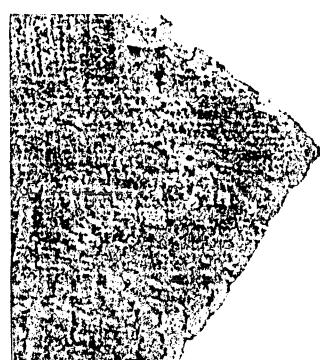
4-55



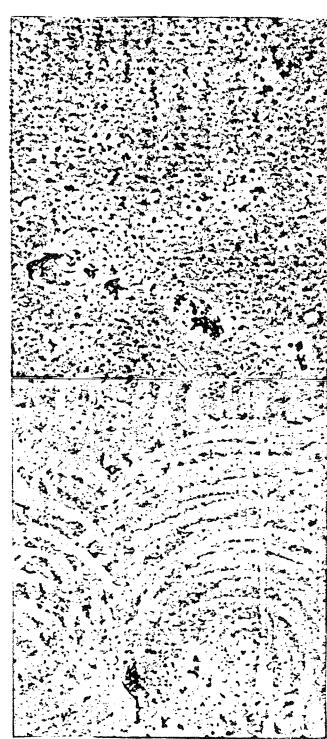
4-63



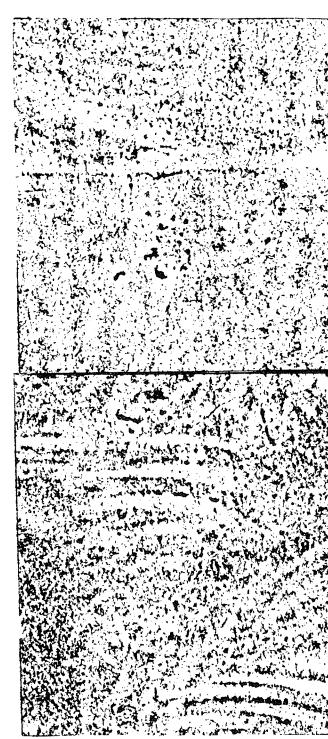
4-62



4-66

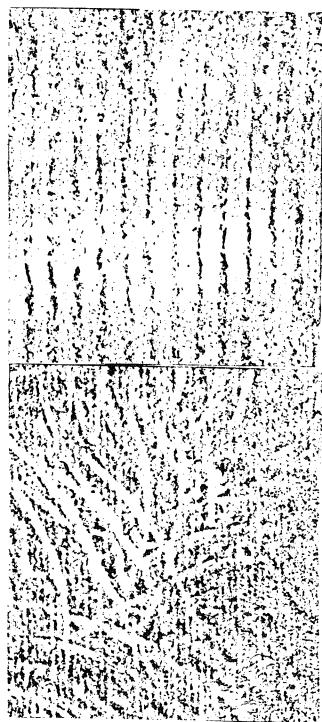


4-119



4-121

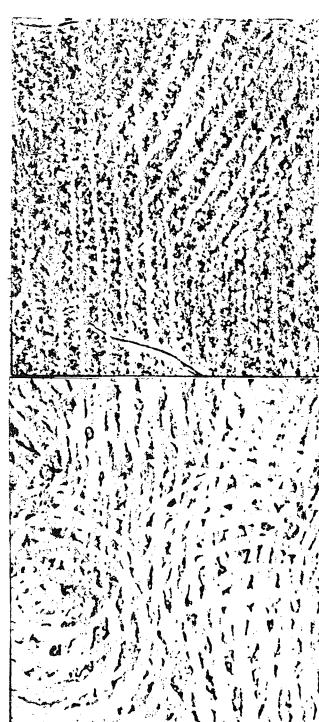
第 129 図 4 号窯跡出土甕拓本（上：浮き・非 2 次，下：浮き・2 次）②



4-128



4-133



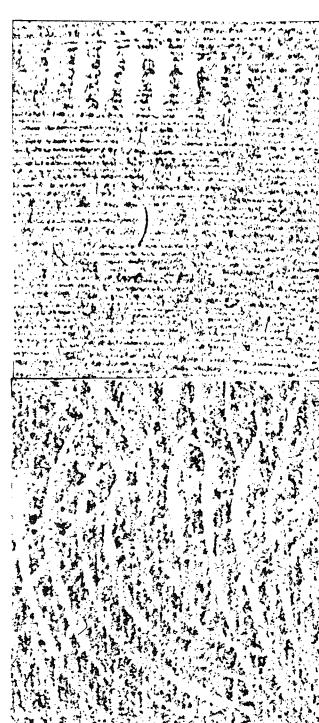
4-126



4-132



4-111

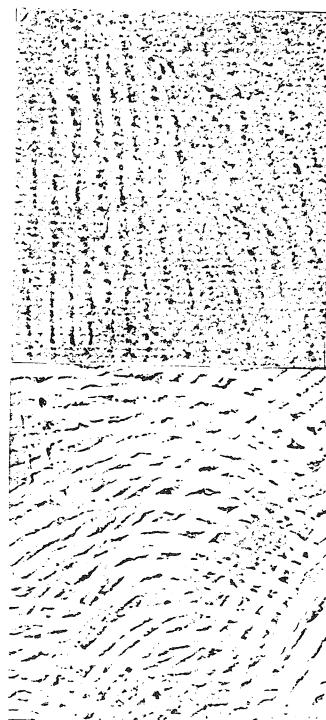


4-112

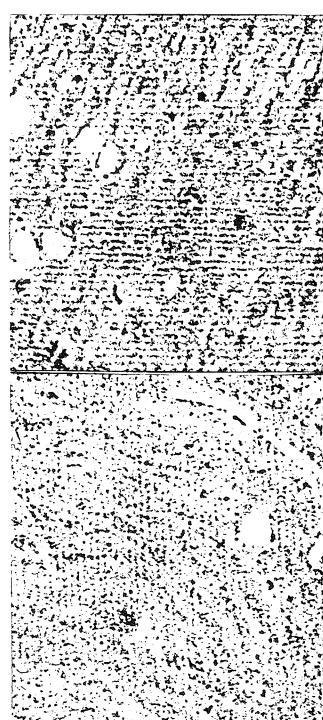
第130図 4号窯跡出土甕拓本(浮き・2次)③



4-113



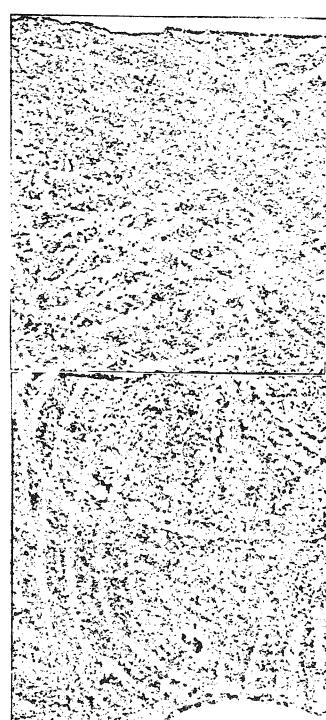
4-117



4-127



4-131



4-118

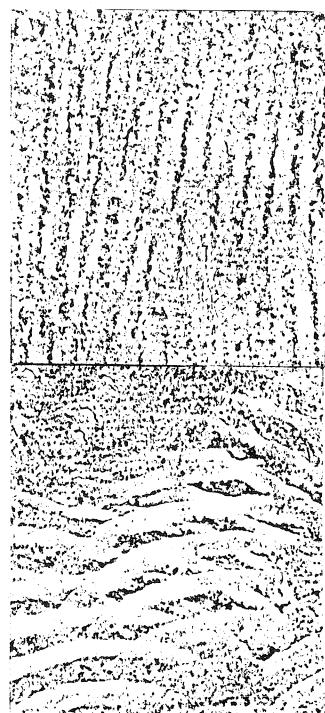


4-124

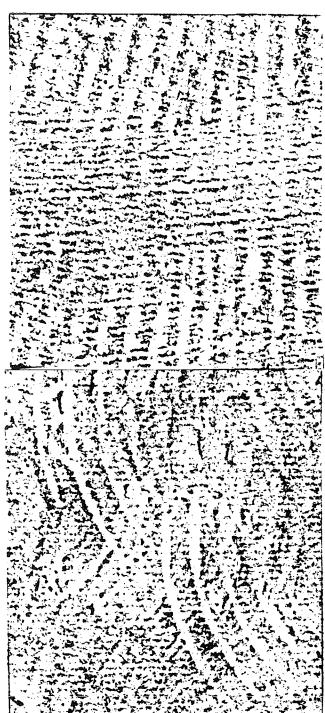
第 131 図 4 号 烟跡出土甕拓本(浮き・2 次)④



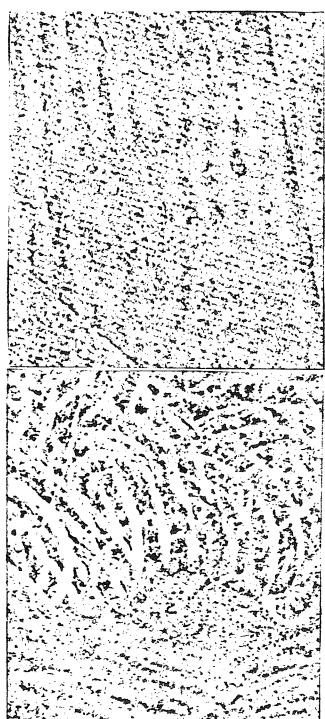
4-120



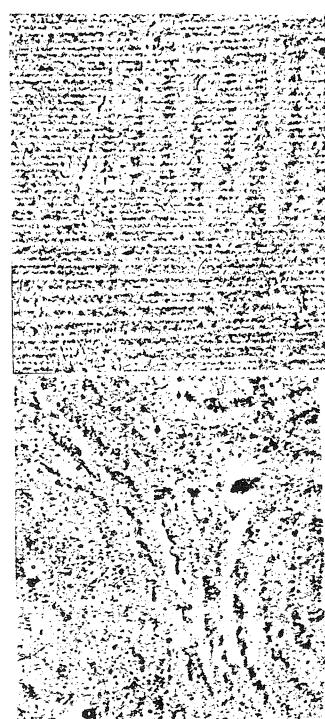
4-153



4-184



4-195



4-183



4-182

第 132 図 4 号窯跡出土甕拓本（左：浮き・2 次，中：密着・非2 次，右：密着・2 次）⑤



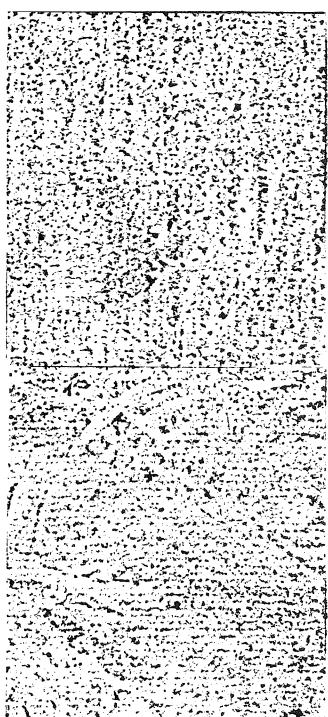
4-191



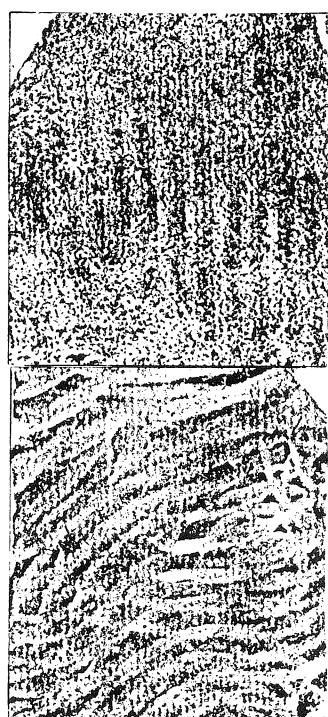
4-194



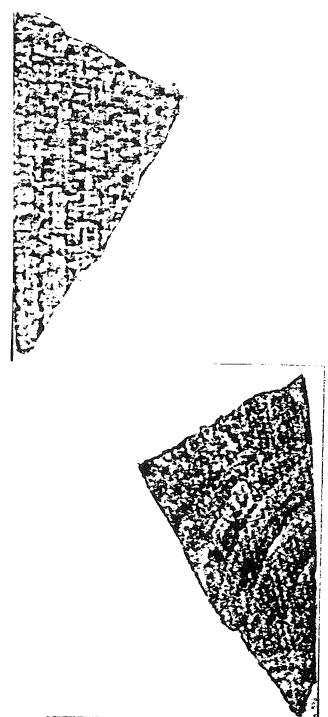
4-189



4-196

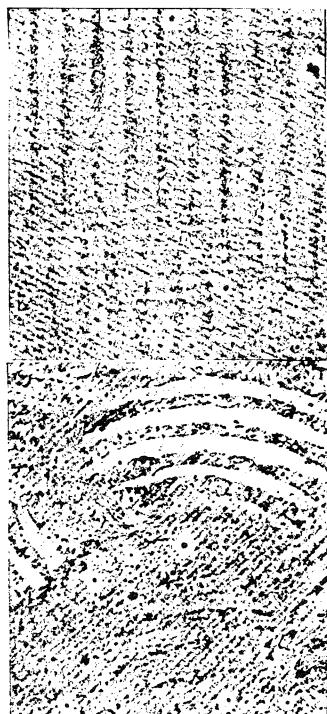


4-188

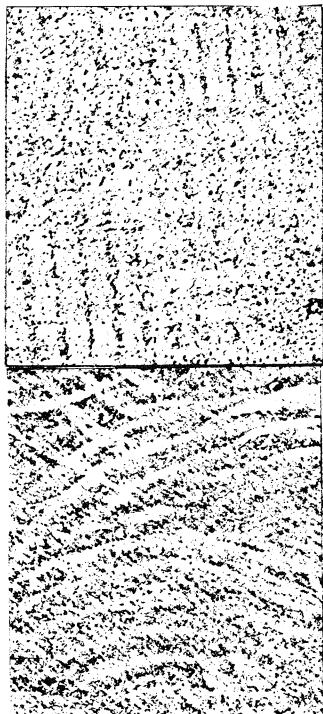


4-187

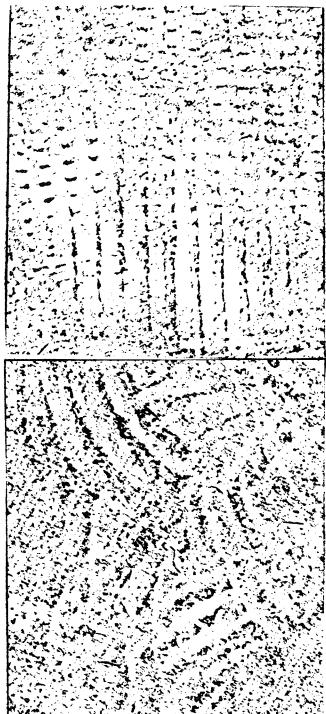
第 133 図 4 号窯跡出土甕拓本（密着・2 次）⑥



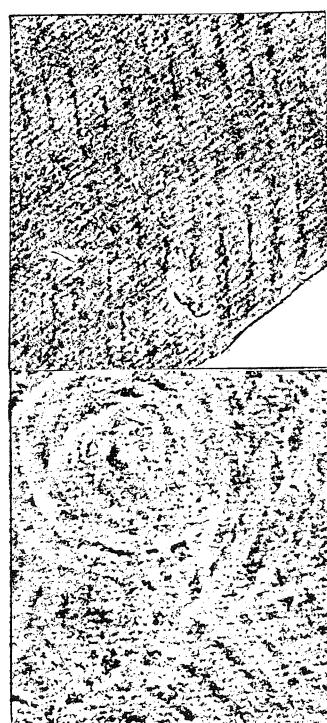
4-199



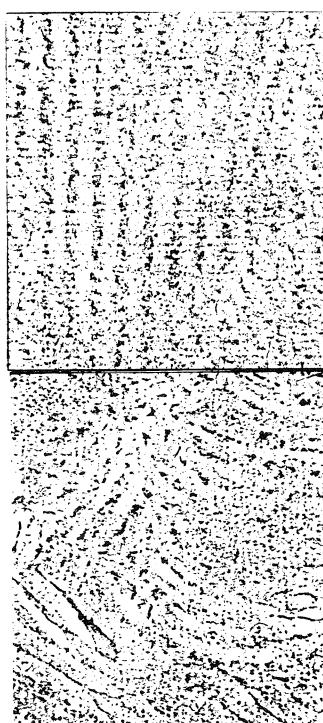
4-216



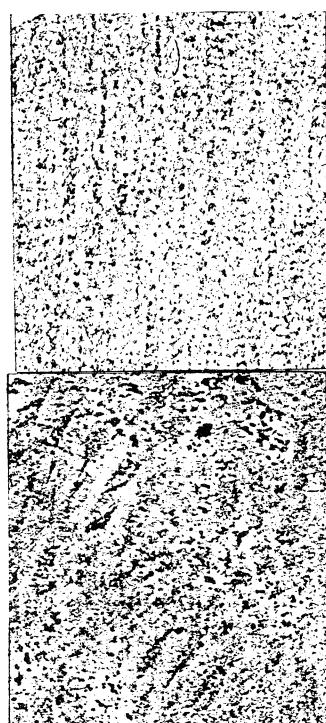
4-217



4-218

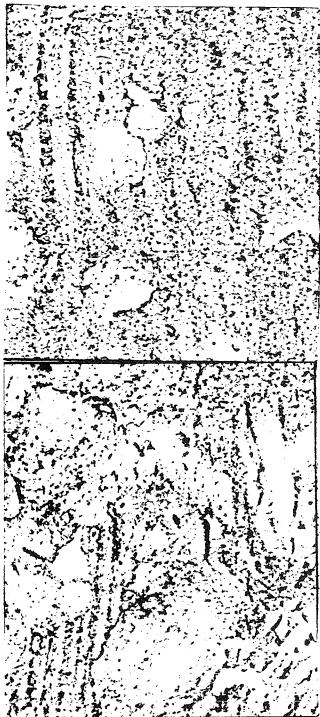


4-219



4-224

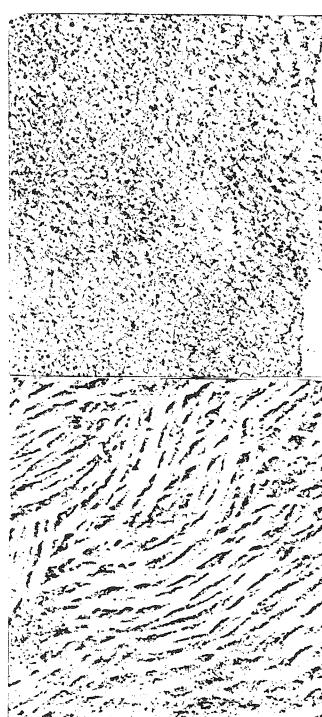
第134図 4号窯跡出土甕拓本(上:もぐり込み・2次, 下:下床面浮き・非2次)⑦



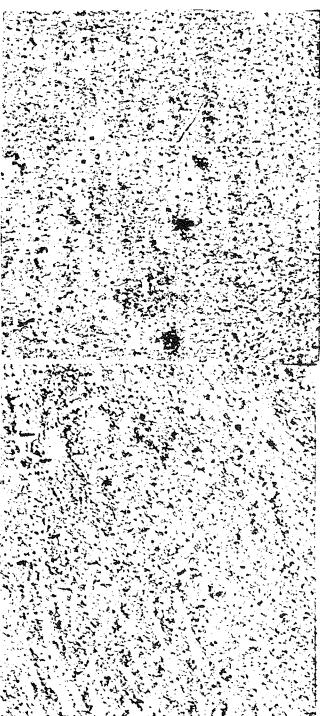
4-225



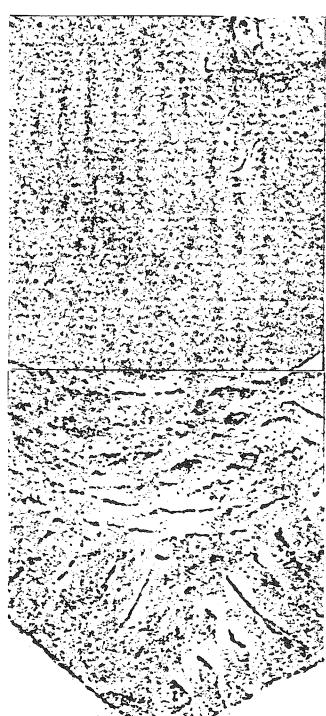
4-226



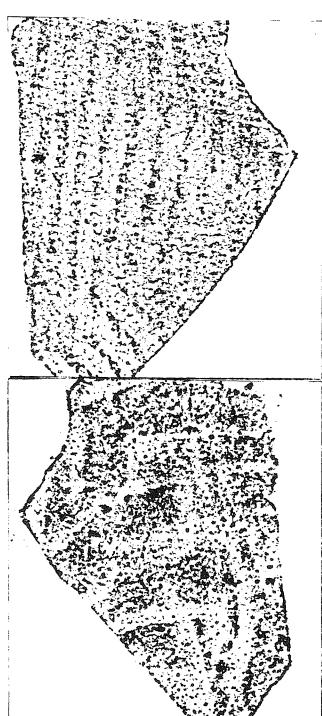
4-228



4-227



4-231

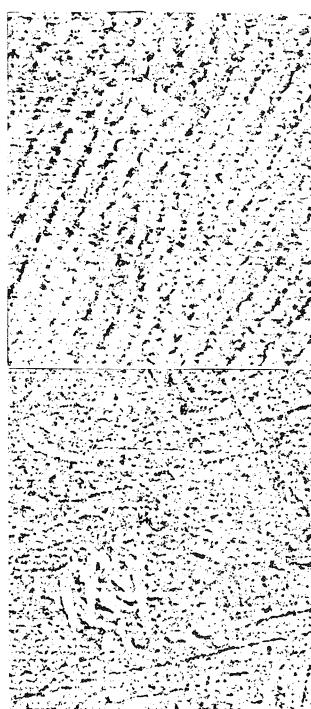


4-232

第135図 4号窯跡出土甕拓本(上:下床面浮き・2次, 下:下床面密着・2次)⑧



5-10



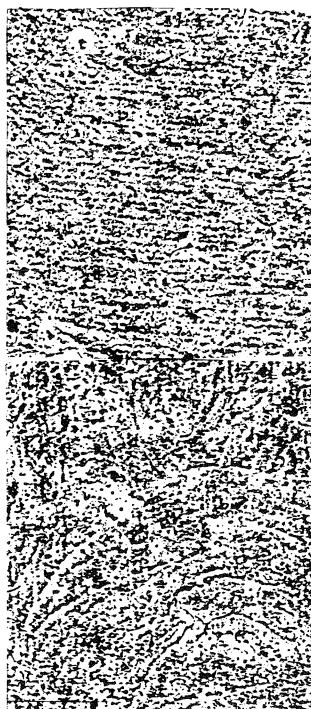
5-13



5-14



5-16

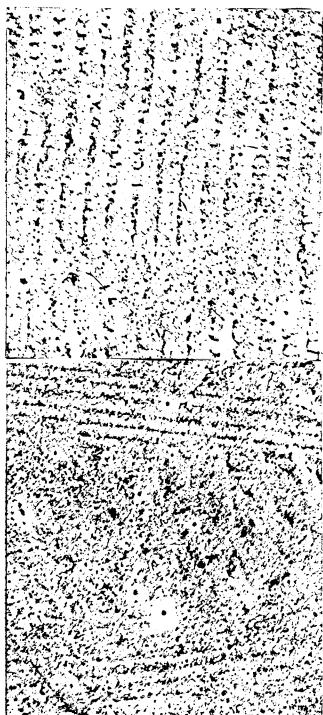


5-15



6-8

第136図 5・6号窯跡出土甕拓本



第 137 図 4 号窯跡下の熱変化層
出土の甕拓本

4-239

4号窯跡出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-001	床面上より浮き	壺蓋	12.8		非2次焼成	4-031	床面上より浮き	無蓋高壺	12.8		非2次焼成 壺部
4-002	床面上より浮き	壺蓋	13.8	4.7	非2次焼成	4-032	床面上より浮き	無蓋高壺	13.2		非2次焼成 壺部
4-003	床面上より浮き	壺蓋	12.6		非2次焼成	4-033	床面上より浮き	無蓋高壺	14.6		非2次焼成 壺部
4-004	床面上より浮き	壺蓋	12.6		非2次焼成	4-034	床面上より浮き	無蓋高壺	13.0		非2次焼成 壺部
4-005	床面上より浮き	壺蓋	13.0	3.4	非2次焼成 瓢記号	4-035	床面上より浮き	無蓋高壺	10.0		非2次焼成 壺部
4-006	床面上より浮き	壺蓋	13.8	3.1	非2次焼成 瓢記号	4-036	床面上より浮き	有蓋高壺	12.4		非2次焼成 壺部
4-007	床面上より浮き	壺蓋	12.6	4.2	非2次焼成 瓢記号	4-037	床面上より浮き	高壺			非2次焼成 脚部 2 方透かし
4-008	床面上より浮き	壺蓋	12.8	2.9	非2次焼成 瓢記号	4-038	床面上より浮き	高壺			非2次焼成 脚部 2 方透かし
4-009	床面上より浮き	壺蓋	13.2	4.1	非2次焼成	4-039	床面上より浮き	高壺			非2次焼成 脚部 透 かし
4-010	床面上より浮き	壺蓋	14.0		非2次焼成	4-040	床面上より浮き	高壺			非2次焼成 脚部
4-011	床面上より浮き	壺蓋	13.2	3.9	非2次焼成 瓢記号	4-041	床面上より浮き	壺の蓋	10.0	3.7	非2次焼成
4-012	床面上より浮き	壺蓋	13.0		非2次焼成	4-042	床面上より浮き	直口壺			非2次焼成 口縁部片
4-013	床面上より浮き	壺蓋	11.3	2.6	非2次焼成	4-043	床面上より浮き	壺	17.0		非2次焼成 口縁部
4-014	床面上より浮き	壺蓋	12.4	3.8	非2次焼成	4-044	床面上より浮き	壺			非2次焼成 脊部
4-015	床面上より浮き	壺蓋	12.4	4.1	非2次焼成	4-045	床面上より浮き	提瓶の把手			非2次焼成
4-016	床面上より浮き	壺蓋	12.6	4.4	非2次焼成	4-046	床面上より浮き	横瓶			非2次焼成 脊部片
4-017	床面上より浮き	壺蓋	13.8	4.1	非2次焼成 瓢記号	4-047	床面上より浮き	横瓶			非2次焼成 脊部片
4-018	床面上より浮き	壺蓋	13.0	4.4	非2次焼成 すのこ状痕	4-048	床面上より浮き	甕			非2次焼成 頭部片
4-019	床面上より浮き	壺身	11.1	4.1	非2次焼成	4-049	床面上より浮き	甕			非2次焼成 頭部片
4-020	床面上より浮き	壺身	10.6	4.3	非2次焼成	4-050	床面上より浮き	甕			非2次焼成 口縁部片
4-021	床面上より浮き	壺身	11.6	4.1	非2次焼成	4-051	床面上より浮き	甕			非2次焼成 肩部片
4-022	床面上より浮き	壺身	10.6		非2次焼成	4-052	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-023	床面上より浮き	壺身	11.4		非2次焼成	4-053	床面上より浮き	甕	53.5		非2次焼成 口縁部
4-024	床面上より浮き	壺身	11.6		非2次焼成	4-054	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-025	床面上より浮き	壺身	10.6	4.2	非2次焼成	4-055	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-026	床面上より浮き	壺身	11.6		非2次焼成	4-056	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-027	床面上より浮き	壺身	11.4		非2次焼成	4-057	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-028	床面上より浮き	壺身	8.2		非2次焼成	4-058	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-029	床面上より浮き	壺身	10.2		非2次焼成	4-059	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
4-030	床面上より浮き	壺身	12.2		非2次焼成	4-060	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-061	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片	4-091	床面上より浮き	坏蓋	10.8	3.9	2次焼成
4-062	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片	4-092	床面上より浮き	坏身	11.0	4.4	2次焼成
4-063	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片	4-093	床面上より浮き	坏身	10.8	3.7	2次焼成
4-064	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片	4-094	床面上より浮き	坏身	11.0		2次焼成
4-065	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片	4-095	床面上より浮き	坏身	10.2	3.5	2次焼成
4-066	床面上より浮き	甕			非2次焼成 脊部片 坏身熔着	4-096	床面上より浮き	坏身	10.6	3.6	2次焼成
4-067	床面上より浮き	陶棺			非2次焼成 口縁部片	4-097	床面上より浮き	坏身	11.2		2次焼成
4-068	床面上より浮き	坏蓋	13.5	4.2	2次焼成	4-098	床面上より浮き	坏身	9.8	3.1	2次焼成
4-069	床面上より浮き	坏蓋	13.2	4.1	2次焼成	4-099	床面上より浮き	坏身	11.4		2次焼成
4-070	床面上より浮き	坏蓋	12.8	3.7	2次焼成	4-100	床面上より浮き	坏身	12.0		2次焼成
4-071	床面上より浮き	坏蓋	12.3	3.6	2次焼成 篓記号	4-101	床面上より浮き	坏身	12.7		2次焼成
4-072	床面上より浮き	坏蓋	12.4	3.2	2次焼成 篓記号	4-102	床面上より浮き	坏身	11.6		2次焼成
4-073	床面上より浮き	坏蓋	13.2	3.3	2次焼成	4-103	床面上より浮き	坏身	11.7	3.4	2次焼成
4-074	床面上より浮き	坏蓋	12.9	3.8	2次焼成 篓記号	4-104	床面上より浮き	高坏			2次焼成 脚部 3方透かし 篓記号 赤色顔料
4-075	床面上より浮き	坏蓋	12.2	3.7	2次焼成 篓記号	4-105	床面上より浮き	高坏			2次焼成 脚部 3方透かし 篓記号 赤色顔料
4-076	床面上より浮き	坏蓋	12.2	3.3	2次焼成	4-106	床面上より浮き	高坏			2次焼成 脚部 3方透かし
4-077	床面上より浮き	坏蓋	13.6	3.8	2次焼成	4-107	床面上より浮き	高坏			2次焼成 脚部 2方透かし
4-078	床面上より浮き	坏蓋	11.8		2次焼成	4-108	床面上より浮き	高坏			2次焼成 脚部 3方透かし
4-079	床面上より浮き	坏蓋	13.2	4.2	2次焼成	4-109	床面上より浮き	高坏			2次焼成 脚部 2方透かし
4-080	床面上より浮き	坏蓋	11.1	4.1	2次焼成	4-110	床面上より浮き	壺の蓋	10.0	4.1	2次焼成 篓記号
4-081	床面上より浮き	坏蓋	13.0	3.7	2次焼成	4-111	床面上より浮き	壺			2次焼成 脊部片
4-082	床面上より浮き	坏蓋	13.0	4.1	2次焼成	4-112	床面上より浮き	壺			2次焼成 脊部片
4-083	床面上より浮き	坏蓋	10.8		2次焼成	4-113	床面上より浮き	壺			2次焼成 脊部片
4-084	床面上より浮き	坏蓋	12.8	4.1	2次焼成	4-114	床面上より浮き	壺			2次焼成 脊部片
4-085	床面上より浮き	坏蓋	12.2	4.0	2次焼成	4-115	床面上より浮き	窯道具壺			2次焼成 脊部片
4-086	床面上より浮き	坏蓋	14.0	4.1	2次焼成	4-116	床面上より浮き	窯道具壺			2次焼成 肩部片
4-087	床面上より浮き	坏蓋	12.0	3.2	2次焼成	4-117	床面上より浮き	窯道具壺			2次焼成 肩部片
4-088	床面上より浮き	坏蓋	14.2		2次焼成	4-118	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-089	床面上より浮き	坏蓋	12.0	4.0	2次焼成 篓記号	4-119	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-090	床面上より浮き	坏蓋	11.2		2次焼成	4-120	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-121	床面上より浮き	窯道具			2次焼成 脊部片
4-122	床面上より浮き	窯道具			2次焼成 脊部片
4-123	床面上より浮き	窯道具			2次焼成 脊部片
4-124	床面上より浮き	窯道具			2次焼成 脊部片
4-125	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-126	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-127	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-128	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-129	床面上より浮き	窯道具			2次焼成 脊部片
4-130	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-131	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-132	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-133	床面上より浮き	窯道具			2次焼成 口縁部片
4-134	床面上より浮き	甕			2次焼成 底部片
4-135	床面上より浮き	甕			2次焼成 脊部片
4-136	床面上密着	坏蓋	12.3	3.9	非2次焼成
4-137	床面上密着	坏蓋	11.4		非2次焼成
4-138	床面上密着	坏蓋	12.6		非2次焼成
4-139	床面上密着	坏蓋	11.8		非2次焼成
4-140	床面上密着	坏蓋	13.0		非2次焼成
4-141	床面上密着	坏蓋	13.0	2.5	非2次焼成
4-142	床面上密着	坏蓋	14.2		非2次焼成
4-143	床面上密着	坏蓋			非2次焼成 口縁部片
4-144	床面上密着	坏身	11.0	4.1	非2次焼成
4-145	床面上密着	坏身	13.4	4.0	非2次焼成
4-146	床面上密着	坏身	12.0		非2次焼成
4-147	床面上密着	坏身	10.8	4.2	非2次焼成
4-148	床面上密着	高坏			非2次焼成 脚部 2方透かし
4-149	床面上密着	直口壺	8.2		非2次焼成 口縁部
4-150	床面上密着	甕			非2次焼成 脊部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-151	床面上密着	甕			非2次焼成 脊部片
4-152	床面上密着	甕	41.0		非2次焼成 口縁部
4-153	床面上密着	甕			非2次焼成 脊部片
4-154	床面上密着	坏蓋	12.0	4.1	2次焼成
4-155	床面上密着	坏蓋	12.0	4.0	2次焼成
4-156	床面上密着	坏蓋	12.6	3.8	2次焼成
4-157	床面上密着	坏蓋	12.7	4.7	2次焼成
4-158	床面上密着	坏蓋	14.6	2.7	2次焼成 篓記号
4-159	床面上密着	坏蓋	12.6	3.8	2次焼成 篓記号
4-160	床面上密着	坏蓋	13.2	3.5	2次焼成
4-161	床面上密着	坏蓋	13.6	3.1	2次焼成
4-162	床面上密着	坏蓋	11.8		2次焼成
4-163	床面上密着	坏蓋	12.0		2次焼成
4-164	床面上密着	坏蓋	12.5	2.7	2次焼成 篓記号
4-165	床面上密着	坏蓋	12.2		2次焼成
4-166	床面上密着	坏蓋	12.8	3.9	2次焼成
4-167	床面上密着	坏蓋	12.4		2次焼成
4-168	床面上密着	坏蓋	12.4		2次焼成
4-169	床面上密着	坏蓋	10.6		2次焼成
4-170	床面上密着	坏身	11.5	3.9	2次焼成
4-171	床面上密着	坏身	12.0		2次焼成
4-172	床面上密着	坏身	12.3		2次焼成
4-173	床面上密着	坏身	10.8		2次焼成 篓記号
4-174	床面上密着	坏身	11.3		2次焼成
4-175	床面上密着	坏身	10.4	4.0	2次焼成
4-176	床面上密着	坏身	10.2	2.3	2次焼成 烧き台か?
4-177	床面上密着	坏身	10.2		2次焼成
4-178	床面上密着	坏身	12.6	4.5	2次焼成
4-179	床面上密着	壺の蓋	10.5		2次焼成
4-180	床面上密着	無蓋高坏	13.4		2次焼成 坏部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-181	床面上密着	高坏			2次焼成 脚部
4-182	床面上密着	壺			2次焼成 胴部片
4-183	床面上密着	横瓶			2次焼成 胴部片
4-184	床面上密着	横瓶			2次焼成 胴部片
4-185	床面上密着	甕			2次焼成 頸部片
4-186	床面上密着	甕			2次焼成 頸部片
4-187	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-188	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-189	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-190	床面上密着	窯道具壺			2次焼成 胴部片
4-191	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-192	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-193	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-194	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-195	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-196	床面上密着	甕			2次焼成 胴部片
4-197	床面上もぐり込み	坏身	12.4		非2次焼成
4-198	床面上もぐり込み	高坏			非2次焼成 脚部 2方透かし
4-199	床面上もぐり込み	甕			非2次焼成 胴部片
4-200	床面上もぐり込み	坏蓋	13.2	4.0	2次焼成
4-201	床面上もぐり込み	坏蓋	12.8	4.9	2次焼成 4-212とセット
4-202	床面上もぐり込み	坏蓋	11.3	3.4	2次焼成 瓢記号
4-203	床面上もぐり込み	坏蓋	11.6		2次焼成
4-204	床面上もぐり込み	坏蓋	13.2	4.0	2次焼成
4-205	床面上もぐり込み	坏蓋	13.0	3.5	2次焼成
4-206	床面上もぐり込み	坏蓋	12.6	3.2	2次焼成
4-207	床面上もぐり込み	坏蓋	12.8	3.7	2次焼成
4-208	床面上もぐり込み	坏蓋	10.6		2次焼成
4-209	床面上もぐり込み	坏身	10.6	2.8	2次焼成
4-210	床面上もぐり込み	坏身	9.0	3.8	2次焼成

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-211	床面上もぐり込み	坏身	12.0		2次焼成
4-212	床面上もぐり込み	坏身	10.6	4.1	2次焼成 4-201とセット
4-213	床面上もぐり込み	壺の蓋	10.4		2次焼成
4-214	床面上もぐり込み	無蓋高坏	12.6		2次焼成 坏部
4-215	床面上もぐり込み	高坏			2次焼成 脚部
4-216	床面上もぐり込み	壺			2次焼成 胴部片
4-217	床面上もぐり込み	甕			2次焼成 胴部片
4-218	床面上もぐり込み	甕			2次焼成 胴部片
4-219	床面上もぐり込み	甕			2次焼成 胴部片
4-220	床面上もぐり込み	甕			2次焼成 口縁部片
4-221	床面上もぐり込み	甕	39.9		2次焼成 口縁部片
4-222	床面下より浮き	甕			非2次焼成 口縁部片
4-223	床面下より浮き	甕			非2次焼成 頸部片
4-224	床面下より浮き	甕			非2次焼成 胴部片
4-225	床面下より浮き	窯道具壺			2次焼成 胴部片
4-226	床面下より浮き	甕			2次焼成 肩部片
4-227	床面下より浮き	甕			2次焼成 胴部片
4-228	床面下より浮き	甕			2次焼成 胴部片
4-229	床面下密着	坏蓋	12.6		非2次焼成 口縁部
4-230	床面下密着	坏身	9.4	3.8	2次焼成 瓢記号
4-231	床面下密着	甕			2次焼成 胴部片
4-232	床面下密着	甕			2次焼成 胴部片
4-233	床面下もぐり込み	坏蓋	13.6	4.0	2次焼成
4-234	床面下もぐり込み	坏蓋	12.8		2次焼成
4-235	床面下もぐり込み	坏蓋	11.4	3.9	2次焼成
4-236	床面下もぐり込み	坏身	10.2	3.1	2次焼成
4-237	床面下もぐり込み	坏身	10.3		2次焼成 口縁部
4-238	床面下もぐり込み	無蓋高坏	13.8		2次焼成 坏部
4-239	床面下直下の熱変化層	甕			2次焼成 胴部片

5号窯跡出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径cm	器高cm	備考
5-001	床面密着	坏蓋	12.4	3.8	非2次焼成
5-002	床面密着	坏蓋	14.0	4.0	非2次焼成
5-003	床面密着	坏蓋			2次焼成 口縁部片
5-004	床面密着	坏蓋	12.6	3.8	2次焼成
5-005	床面密着	坏蓋	12.4		非2次焼成 口縁部
5-006	床面より浮き	坏蓋	11.8		非2次焼成 口縁部
5-007	床面密着	坏身	11.0	3.7	非2次焼成
5-008	床面密着	無蓋高坏	11.0		非2次焼成 壁部
5-009	床面より浮き	高坏			非2次焼成 2方透かし
5-010	床面密着	提瓶			非2次焼成 把手付
5-011	床面密着	短頸壺			非2次焼成 脊部
5-012	床面密着	壺			非2次焼成 底部
5-013	床面より浮き	甕			2次焼成 脊部片
5-014	床面より浮き	甕			非2次焼成 脊部片
5-015	床面密着	横瓶			非2次焼成 脊部片
5-016	床面より浮き	横瓶			非2次焼成 底部片

番号	地区・層位	形態	口径cm	器高cm	備考
6-013	床面密着	甕			2次焼成 脊部片
6-014	床面密着	甕			非2次焼成 脊部片
6-015	床面密着	窯道具			2次焼成 脊部片
6-016	床面密着	窯道具			2次焼成 脊部片
6-017	床面より浮き	窯道具 (陶棺)			2次焼成 突帯状の稜 有り
6-018	床面より浮き	窯道具 (陶棺)			2次焼成 突帯状の稜 有り

3号土壙出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径cm	器高cm	備考
3-001	崖面表採	坏蓋	11.8	3.9	籠記号
3-002	崖面表採	坏蓋	12.0	4.6	
3-003	崖面表採	坏蓋	12.8	3.8	
3-004	表土	坏身	9.0	3.0	
3-005	表土	高台付壺			底部
3-006	表土	甕	13.8		口縁部
3-007	2層	擬宝珠つまみ付蓋	7.2	2.4	かえり
3-008	2層	土馬			須恵質 赤色顔料塗彩
3-009	2・3層	土馬			土師質 赤色顔料塗彩
3-010	3層	坏蓋	12.7	3.9	
3-011	3層	坏蓋	12.8	3.9	
3-012	3層	坏蓋	13.0	4.5	
3-013	3層	坏蓋	11.8	4.3	籠記号
3-014	3層	坏蓋	11.4	4.2	
3-015	3層	坏蓋	10.2	3.5	
3-016	3層	坏蓋	9.4	3.4	
3-017	3層	坏蓋	8.2	3.4	
3-018	3層	坏蓋	11.2	4.1	
3-019	3層	坏蓋	11.0	3.6	
3-020	3層	坏蓋	10.5	4.0	
3-021	3層	坏蓋	9.6	3.4	
3-022	3層	坏蓋	11.0	4.0	

6号窯跡出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径cm	器高cm	備考
6-001	床面密着	坏	13.0	4.0	非2次焼成 底部回転 糸切り
6-002	床面密着	高台付坏			非2次焼成 底部回転 糸切り
6-003	床面密着	坏			非2次焼成 底部回転 糸切り
6-004	床面密着	坏			非2次焼成 底部回転 糸切り
6-005	床面より浮き	高台付坏			非2次焼成 底部回転 糸切り 底部
6-006	床面密着	坏			非2次焼成 底部回転 糸切り 底部
6-007	床面より浮き	高台付坏			非2次焼成 底部回転 糸切り 底部
6-008	床面より浮き	壺			2次焼成 底部
6-009	床面密着	鍋			2次焼成 脊部
6-010	床面密着	坏身			2次焼成
6-011	床面密着	高台付坏			2次焼成 底部回転糸 切り 底部
6-012	床面密着	壺	11.7		2次焼成 口縁部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
3-023	3層	环身	10.4	4.3	
3-024	3層	环身	12.3	4.4	
3-025	3層	环身	9.5	3.8	
3-026	3層	环身	11.2	4.2	
3-027	3層	环身	10.0	4.0	
3-028	3層	环身	10.8	3.8	
3-029	3層	环身	10.0	3.9	
3-030	3層	环身	9.6	3.7	
3-031	3層	环身	8.6	3.1	
3-032	3層	环身	7.6	3.2	箇記号
3-033	3層	环身	10.0	3.5	箇記号
3-034	3層	环身	10.0	3.4	
3-035	3層	环身	9.8	3.2	箇記号
3-036	3層	輪状つまみ付蓋	14.7	2.4	かえり
3-037	3層	皿	16.0	3.4	
3-038	3層	皿	15.0		
3-039	3層	低脚环	10.6	6.0	
3-040	3層	低脚环	8.8	4.6	箇記号
3-041	3層	高台付环			底部
3-042	3層	高台付环			底部
3-043	3層	無蓋高环	15.0	10.1	ラッパ状
3-044	3層	高环			脚部 2方透かし
3-045	3層	高环			脚部 2方透かし
3-046	3層	無蓋高环	16.0	11.7	2方透かし
3-047	4層	長頸壺	7.4	17.6	
3-048	3層	甌	9.8	12.9	
3-049	3層	甌	15.8		口縁部
3-050	3層	甌	13.0		口縁部
3-051	3層	甌	20.5		口縁部
3-052	3層	甌	35.2		須恵質 口縁部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
3-053	3層	甌	42.0		土師器 口縁部
3-054	3層	甌	31.2		土師器 口縁部
3-055	3層	甌	31.2		土師器 口縁部
3-056	3層	土製支脚			土師質
3-057	3層	土製支脚			土師質
3-058	3層	竈			土師質
3-059	3層	竈			土師質
3-060	1・2・3層	环身	11.0	4.2	
3-061	2・3層	环身	8.2	2.6	

灰原調査区（上の北区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-001	B・C-12 2層	甌	13.8		口縁部 円形刺突文
灰-002	B・C-12 2層	甌	19.1		口縁部
灰-003	C-12 2層	甌			肩部片
灰-004	C-12 2層	甌			肩部片
灰-005	B-12 2'層	皿	14.6	2.2	底部回転糸切り
灰-006	B-12 2'層	甌			胴部
灰-007	C-12 4層	蓋環			セット（重ね焼き）
灰-008	C-13 4層	把手			須恵質
灰-009	B・C-10 5層	环蓋	13.0	4.0	
灰-010	C-12 5層	环蓋	13.2	3.9	
灰-011	C-12 5層	环蓋	13.5	4.4	
灰-012	B・C-10 5層	环蓋	13.4	4.3	
灰-013	C-12 5層	环蓋	13.0	4.7	
灰-014	C-12 5層	环蓋	13.5	4.0	
灰-015	C-12 5層	环蓋	13.6	4.5	
灰-016	C-11 5層	环蓋	12.8		
灰-017	C-11 5層	环蓋	13.8	3.8	
灰-018	C-12 5層	环蓋	12.0	3.4	
灰-019	C-12 5層	环蓋	13.8	4.0	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-020	C-10 5層	环身	10.8	4.1	
灰-021	B・C-12 5層	环身	11.0	4.4	
灰-022		5層	环身	11.2	4.5
灰-023	C-12 5層	环身	12.6	4.0	
灰-024	C-12 5層	环身	12.4	4.4	
灰-025	B・C-10 5層	环身	11.4	3.3	
灰-026	B・C-12 5層	环身	11.2	3.9	
灰-027	B・C-12 5層	环身	11.5	3.6	
灰-028	C-10 5層	环身	10.8	3.9	
灰-029	B・C-12 5層	环身	11.0	3.8	
灰-030	C-12 5層	环身	10.0	3.4	籠記号
灰-031	C-10 5層	蓋坏			セット(重ね焼き)
灰-032	C-12 5層	蓋坏			セット(重ね焼き)
灰-033	C-12 5層	蓋坏			セット(3個体熔着)
灰-034	C-10 5層	無蓋高坏	19.0		坏部
灰-035	C-11 5層	無蓋高坏	10.8		坏部
灰-036	C-10 5層	有蓋高坏	12.4		坏部
灰-037	C-10 5層	有蓋高坏	13.0		坏部
灰-038	B・C-10 5層	有蓋高坏	12.0		坏部
灰-039	B・C-12 5層	甕	20.8		口縁部
灰-040	B・C-10 5層	甕	20.2		口縁部カキ目籠記号
灰-041		5層	甕	16.8	口縁部
灰-042	B・C-10 5層	甕	47.2		口縁部
灰-043	B・C-10 5層	甕	45.0		口縁部
灰-044	B・C-10 5層	甕	44.0		口縁部
灰-045	B・C-10 5層	甕	40.0		口縁部
灰-046	B-12 5層	甕			口縁部片
灰-047	C-11 5層	甕			肩部片
灰-048	B・C-10 5層	甕			肩部片
灰-049	B・C-10 5層	甕			肩部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-050	C-11 5層	甕			肩部片
灰-051	B・C-10 5層	甕			胴部片
灰-052	C-11 5層	把手			土師質
灰-053	C-11 5層	土玉			土師質

灰原調査区(上の南区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-054	A-11・12 1層	甕			口縁部片
灰-055	A-11 2'層	坏蓋	11.8	3.5	
灰-056	A-11 2'層	輪状つまみ付蓋	13.2	1.8	天井回転糸切り
灰-057	A-11 2'層	蓋	11.7		天井窓削り
灰-058	A-11 2'層	擬宝珠つまみ付蓋	14.4	2.1	天井回転糸切り
灰-059	A-11 2'層	擬宝珠つまみ付蓋	13.8	3.1	天井窓削り
灰-060	A-11 2'層	擬宝珠つまみ付蓋	13.8	3.7	天井回転糸切り
灰-061	A-12 2'層	蓋	13.8		天井窓削り
灰-062	A-11 2'層	蓋	16.0		天井窓削り
灰-063	A-12 2'層	皿	14.2	2.5	底部回転糸切り
灰-064	A-12 A-12S 2'層	皿	14.8	2.3	底部回転糸切り
灰-065	A-11 2'層	皿	15.4	2.1	底部回転糸切り
灰-066	A-11 2'層	皿	12.8	2.7	底部回転糸切り
灰-067	A-12 2'層	皿	13.8	2.2	底部回転糸切り
灰-068	A-11 2'層	皿	14.0	2.5	底部回転糸切り
灰-069	A-11 2'層	坏	12.0	4.1	底部回転糸切り
灰-070	A-11 2'層	坏	11.1	4.1	底部回転糸切り
灰-071	A-11 2'層	高台付坏	16.0	3.3	底部回転糸切り
灰-072	A-12 2'層	高台付坏	15.6	3.2	底部糸切り 底部
灰-073	A-12 A-12S 2'層	高台付坏			底部回転糸切り
灰-074	A-12 2'層	高台付壺			底部糸切り
灰-075	A-11 2'層	高坏			脚部 2段透かし
灰-076	A-11 2'層	直口壺	14.0		口縁部
灰-077	A-11 2'層	甕	22.4		口縁部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-078	A-11 2'層	鍋	20.0		口縁部
灰-079	A-11 2'層	器種不明			須恵質
灰-080	A-12 2'層	把手			須恵質
灰-081	A-12 2層	甕			常滑焼 口縁部片
灰-082	A-12 2層	甕			頸部片
灰-083	A-11 2'層	紡錘車			石製
灰-084	A-12 S 2'層	石鑓			黒曜石製
灰-085	A-11 4層	坏蓋	13.4		
灰-086	A-12 4層	坏身	11.5	3.7	
灰-087	A-12 4層	坏身	10.6	3.9	籠記号
灰-088	A-11 4層	輪状つまみ付蓋	13.0	2.3	天井糸切り
灰-089	A-12 4層	蓋	12.9		天井糸切り
灰-090	A-12 S 4層	蓋	18.9		
灰-091	A-12 4層	坏	12.0	3.7	底部回転糸切り
灰-092	A-12 4層	坏	11.4	4.6	底部回転糸切り
灰-093	A-11・12 4層	坏	10.6	3.9	底部回転糸切り
灰-094	A-12 4層	坏	11.0	4.4	底部回転糸切り
灰-095	A-11 4層	坏	12.3	4.7	重ね焼き（2段）底部窓切り
灰-096	A-12 4層	坏	12.4	4.2	重ね焼き（4段）底部回転糸切り
灰-097	A-12 4層	坏	11.0	3.5	重ね焼き（5段）底部回転糸切り
灰-098	A-12 4層	坏			重ね焼き（8段）底部回転糸切り
灰-099	A-12 4層	高台付坏			底部
灰-100	A-12 4層	高台付坏			底部
灰-101	A-11 S 4層	高台付坏	16.0	6.8	底部回転糸切り
灰-102	A-11 4層	高台付坏			底部回転糸切り 底部
灰-103	A-11 S 4層	高台付坏	13.4	4.3	底部回転糸切り
灰-104	A-12 4層	高台付坏	12.6	4.7	底部回転糸切り
灰-105	A-12 4層	高台付坏	12.0	4.1	重ね焼き（4段）底部回転糸切り
灰-106	A-12 4層	高坏			2方透かし（3角・切り込み）
灰-107	A-12 4層	高坏			脚部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-108	A-12 4層	甕			
灰-109	A-12 4層	広口壺	10.4	6.1	底部窓切り
灰-110	A-12 4層	短頸壺	7.2		
灰-111	A-11 4層	壺	11.0		口縁部
灰-112	A-12 4層	小型壺	5.2	6.6	底部窓切り
灰-113	A-12 4層	甕	19.2		口縁部
灰-114	A-11 4層	甕	20.6		口縁部
灰-115	A-12 4層	甕	18.2		口縁部
灰-116	A-12 4層	鍋	20.0		口縁部
灰-117	A-11 4層	甕			口縁部片
灰-118	A-11 4層	甕			頸部片
灰-119	A-12 4層	甕			頸部片
灰-120	A-12 S 4層	竈			土師質
灰-121	A-11 5層	坏身	10.4		
灰-122	A-11 5層	坏身	11.4	4.0	
灰-123	A-11 5層	坏身	11.0	4.3	
灰-124	A-11 5層	坏身	8.8	3.3	籠記号
灰-125	A-11 5層	無蓋高坏	16.8	11.5	2段2方透かし カキ目
灰-126	A-11 5層	甕			頸部 篠記号
灰-127	C-12 5層	甕			口縁部片
灰-128	A-11 5層	甕			頸部片
灰-129	A-11 5層	把手			須恵質
灰-130	A-11 6層	坏蓋	13.0	3.6	
灰-131	A-11 6層	坏蓋	12.8	3.8	
灰-132	A-11 6層	坏蓋	13.4	3.7	
灰-133	A-11 6層	坏身	10.8	3.9	
灰-134	A-11 6層	坏身	12.0	4.4	
灰-135	A-11 6層	坏身	11.2	3.9	
灰-136	A-12 6層	高台付坏			底部 底部回転糸切り
灰-137	A-12 6層	壺			底部 篠記号

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-138	A-12 6層	甕	22.6		口縁部
灰-139	A-13 S流れ込み	壺身	8.0	3.1	
灰-140	A-13 S流れ込み	壺身	8.6	3.6	
灰-141	A-13 S流れ込み	壺身	8.8	3.8	
灰-142	A-12 S流れ込み	高台付壺	14.9	4.5	底部糸切り
灰-143	A-13 S流れ込み	高壺			脚部 2方透かし(円孔)
灰-144	A-13 S流れ込み	無蓋高壺	15.4		壺部
灰-145	A-13 S流れ込み	無蓋高壺	15.2	10.3	2方透かし(切り込み)
灰-146	A-12 S流れ込み	短頸壺	9.4		
灰-147	A-13 S流れ込み	甕			
灰-148	A-13 S流れ込み	甕	11.3		
灰-149	A-13 S流れ込み	甕	16.6		口縁部
灰-150	A-13 S流れ込み	甕	20.6		
灰-151	A-13 S流れ込み	甕	28.6		土師器
灰-152	A-13 S流れ込み	甕	26.0		土師器
灰-153	A-13 S流れ込み	甕	20.4		土師器
灰-154	A-13 S流れ込み	甕	20.2		土師器
灰-155	A-13 S流れ込み	土製支脚			土師質
灰-156	A-13 S流れ込み	土製支脚			土師質

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-166	AB-8 2'層	高台付壺	16.3	3.9	底部回転糸切り
灰-167	AB-8 2'層	高台付壺	16.8	2.6	底部回転糸切り
灰-168	AB-8 2'層	高台付壺	10.8	4.3	底部回転糸切り
灰-169	AB-8 2'層	高台付壺	16.2	5.4	
灰-170	C-6 2'層	甕			頸部片
灰-171	2'層	甕			口縁部片
灰-172	B-6 2'層	甕			口縁部片
灰-173	C-5 2'層	甕			口縁部片
灰-174	C-5 2'層	甕			口縁部片
灰-175	2'層	甕	38.4		口縁部
灰-176	AB-8 2'層	把手			須恵質
灰-177	C-5 B-6 2層	甕	12.6		口縁部
灰-178	2層	甕			口縁部片
灰-179	C-6 2層	甕			口縁部片
灰-180	BC-6 3層	壺蓋	12.6	3.8	範記号
灰-181	BC-6 3層	壺蓋	13.0	4.1	
灰-182	3層	壺蓋	12.2	3.4	
灰-183	BC-6 3層	壺身	11.8	4.1	
灰-184	C-5 3層	壺身	9.0	4.0	
灰-185	B-7 C-8 3層	壺	11.2	3.9	底部回転糸切り
灰-186	B-C-6 3層	高壺			2方透かし
灰-187	3層	甕	13.6		口縁部
灰-188	AB-5 3層	甕			口縁部片
灰-189	C-5・6 3層	甕	51.3		口縁部
灰-190	C-6 4層	壺蓋	11.8	4.0	
灰-191	B-7 4層	壺蓋	12.4	3.6	
灰-192	C-8 4層	壺蓋	12.7	3.8	
灰-193	B-7 4層	壺蓋	11.2		
灰-194	C-6 4層	壺蓋	11.6	4.6	
灰-195	C-6 4層	壺身	10.3	4.3	

灰原調査区（下の北区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-157	1層	擂鉢			
灰-158	1層	直口壺	8.6		底部窓削り
灰-159	1層	直口壺	8.6	11.4	底部窓削り
灰-160	1層	甕	17.8		口縁部
灰-161	1層	土馬			須恵質
灰-162	1層	窯道具			円孔
灰-163	AB-8 2'層	輪状つまみ付蓋	13.4	2.7	天井部回転糸切り
灰-164	AB-8 2'層	皿	14.0	2.9	底部回転糸切り
灰-165	AB-8 2'層	壺	10.4		底部回転糸切り

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-196	B・C-6 4層	坏身	10.8	4.2		灰-226	C-8 5層	坏蓋	12.6	4.6	
灰-197	B-7・8 4層	蓋	12.2		天井部糸切り	灰-227	C-6 5層	坏蓋	12.6	4.1	
灰-198	B-7・8 4層	擬宝珠つまみ付蓋				灰-228	C-6 5層	坏蓋	12.0	4.5	
灰-199	C-8 4層	輪状つまみ付蓋	17.2	3.5	かえり	灰-229	C-6 5層	坏蓋	11.8	4.1	
灰-200	4層	坏	10.8	4.1	底部回転糸切り	灰-230	5層	坏蓋	12.6	4.1	
灰-201	C-6 4層	坏	10.8	4.2	底部回転糸切り	灰-231	B-7 5層	坏蓋	13.2	4.0	
灰-202	B・C-5 4層	坏	12.8	4.0	底部回転糸切り	灰-232	5層	坏蓋	11.8	3.9	
灰-203	B・C-5 4層	高台付坏			底部回転糸切り	灰-233	D-6 5層	坏蓋	12.8	4.2	
灰-204	C-5 4層	高台付坏			底部 底部糸切り	灰-234	5層	坏蓋	13.0	3.1	
灰-205	C-6 4層	高台付坏	19.8	3.4	底部糸切り	灰-235	C-6 5層	坏蓋	12.6	3.4	
灰-206	B-6 4層	高坏			脚部 2方透かし	灰-236	5層	坏蓋	12.8	3.8	
灰-207	C-6 4層	甕	18.4		口縁部	灰-237	C-6 5層	坏蓋	13.0	4.1	
灰-208	C-6 4層	甕	33.8		口縁部	灰-238	5層	坏蓋	11.6	3.4	
灰-209	C-7 4層	土玉			須恵質	灰-239	B-7・8 5層	坏蓋	13.8	3.9	範記号
灰-210	C-6 5層	坏蓋	12.2	4.4		灰-240	D-5 5層	坏蓋	12.8	3.5	範記号
灰-211	5層	坏蓋	12.3	4.4		灰-241	5層	坏蓋	13.0	3.8	
灰-212	5層	坏蓋	13.2	4.4		灰-242	C-9・10 5層	坏蓋	14.0	4.1	
灰-213	C-6 5層	坏蓋	12.5	4.1		灰-243	C-6 5層	坏蓋	10.8	3.5	
灰-214	5層	坏蓋	12.3	4.1		灰-244	C-6 5層	坏蓋	12.8	4.5	
灰-215	C-6 5層	坏蓋	12.8	4.1		灰-245	C-6 5層	坏蓋	12.0	4.4	
灰-216	C-6 5層	坏蓋	13.0	4.6		灰-246	5層	坏蓋	12.0	3.7	
灰-217	C-9 5層	坏蓋	12.4	3.9		灰-247	B-8 5層	坏蓋	11.5	3.5	
灰-218	B-9 5層	坏蓋	12.6	4.4		灰-248	C-6 5層	坏蓋	12.0	3.3	
灰-219	C-6 5層	坏蓋	12.2	4.5		灰-249	5層	坏蓋	11.6		
灰-220	C-10 5層	坏蓋	14.4	4.7		灰-250	D-7 5層	坏蓋	13.2	3.7	
灰-221	5層	坏蓋	12.0	4.1		灰-251	5層	坏蓋	12.0	4.2	
灰-222	B-7・8 5層	坏蓋	13.0	4.4		灰-252	C-6 5層	坏蓋	12.6	4.3	
灰-223	B-9 5層	坏蓋	12.2	4.4		灰-253	B-7 5層	坏蓋	13.0		
灰-224	B-6・7 5層	坏蓋	12.1	4.4		灰-254	B・C-7 5層	坏蓋	13.0	4.0	
灰-225	C-5 5層	坏蓋	12.8	4.4		灰-255	B-9 5層	坏蓋	12.4	3.9	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-256	C・D-8 5層	坏蓋	13.0	4.6		灰-286	B-7・8 5層	坏身	10.8	4.5	
灰-257	C-6 5層	坏蓋	12.8	4.3		灰-287	B-7・8 5層	坏身	10.5	4.6	
灰-258	C-6 5層	坏蓋		3.8		灰-288	C-6 5層	坏身	11.0	4.8	
灰-259	C-6 5層	坏蓋	12.7	3.5		灰-289	D-5 5層	坏身	10.4	4.3	
灰-260	C-8 5層	坏蓋	12.2	3.0		灰-290	B-7 5層	坏身	10.3	4.0	
灰-261	5層	坏蓋	12.8	4.0		灰-291	B-9 5層	坏身	10.8	4.1	
灰-262	5層	坏蓋	12.6	4.2		灰-292	B-9 5層	坏身	10.0	3.1	
灰-263	B・C-10 5層	坏蓋	13.5	4.2		灰-293	C-6 5層	坏身	10.8	3.9	
灰-264	C-6 5層	坏蓋	12.2	4.3		灰-294	C-5 5層	坏身	11.0		
灰-265	5層	坏蓋	13.4	4.4		灰-295	C-6 5層	坏身	10.6	4.2	
灰-266	C-6 5層	坏蓋	12.4	5.2		灰-296	C-5 5層	坏身	10.6	4.3	
灰-267	5層	坏蓋	13.2	4.6		灰-297	C-6 5層	坏身	10.6	3.9	
灰-268	C-6 5層	坏蓋	13.2	4.3		灰-298	C-6 5層	坏身	11.0	3.4	
灰-269	5層	坏蓋	10.8	4.1		灰-299	C-8 5層	坏身	10.6	3.6	
灰-270	B・C-6 5層	坏蓋	11.8	3.8		灰-300	C-9 5層	坏身	11.0	4.3	
灰-271	C-6 5層	坏蓋	12.8	4.3		灰-301	5層	坏身	10.8	4.2	
灰-272	5層	坏蓋	12.6	4.5		灰-302	5層	坏身	11.2	3.4	
灰-273	C-10 5層	坏蓋	11.8	4.1		灰-303	5層	坏身	10.3	3.9	
灰-274	C-6 5層	坏蓋	11.8	3.8		灰-304	C-8 5層	坏身	10.8	4.1	
灰-275	B-7・8 5層	坏蓋	12.5	4.1		灰-305	C-6 5層	坏身	10.2	4.1	
灰-276	C-6 5層	坏蓋	12.2	4.4		灰-306	5層	坏身	9.8	4.1	
灰-277	5層	坏身	10.9	4.3		灰-307	C-8 5層	坏身	11.0	4.1	
灰-278	D-5 5層	坏身	9.8	4.0		灰-308	C-8 5層	坏身	11.2	4.2	
灰-279	5層	坏身	10.8	4.2		灰-309	B・C-7 5層	坏身	11.6	4.1	
灰-280	C-6 5層	坏身	12.0	4.5		灰-310	5層	坏身	11.8	4.1	
灰-281	B-7・8 5層	坏身	11.3	4.3		灰-311	B-9 5層	坏身	10.6	3.7	
灰-282	B-9 5層	坏身	11.8	4.7		灰-312	5層	坏身	11.0	3.9	
灰-283	C-9 5層	坏身	11.6	4.3		灰-313	C-8 5層	坏身	10.6	3.6	
灰-284	5層	坏身	11.6	4.8		灰-314	B-7・8 5層	坏身	11.8	3.9	
灰-285	B-7・8 5層	坏身	10.8	4.3		灰-315	B・C-6 5層	坏身	9.8	2.8	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	
灰-316	B・C-8 5層	坏身	12.2	4.2		灰-346	C-6 5層	坏身	9.8	4.2		
灰-317	D-5 5層	坏身	11.4	3.6		灰-347		5層	坏身	9.9	3.5	
灰-318	5層	坏身	10.4	3.8		灰-348	C-9 5層	坏身	10.0	3.9		
灰-319	C-6 5層	坏身	10.6	3.9	籠記号	灰-349	B-7 5層	蓋坏			セット(重ね焼き)	
灰-320	C-6 5層	坏身	11.2	4.4	籠記号	灰-350	C-6 5層	蓋坏			セット(重ね焼き)	
灰-321	C-6 5層	坏身	10.2	3.6	籠記号	灰-351	C-6 5層	蓋坏			セット(重ね焼き)	
灰-322	C-9 5層	坏身	10.0	3.9		灰-352	C-9 5層	蓋坏			セット(重ね焼き) 籠記号	
灰-323	C-6 5層	坏身	10.6	4.3		灰-353	C-8 5層	蓋坏			セット(重ね焼き) 籠記号	
灰-324	5層	坏身	11.6	3.9		灰-354	C-8 5層	蓋坏			セット(重ね焼き) 籠記号	
灰-325	C-7 5層	坏身	11.0	4.1		灰-355		5層	蓋坏		セット(重ね焼き)	
灰-326	B・C-6 5層	坏身	11.0	4.0		灰-356		5層	輪状つまみ付蓋		天井部片	
灰-327	B・C-8 5層	坏身	10.8	3.6		灰-357	B・C-10 5層	輪状つまみ付蓋			天井部片	
灰-328	C-6 5層	坏身	11.2	3.8		灰-358	C-8 5層	輪状つまみ付蓋	14.0	3.4		
灰-329	D-7 5層	坏身	11.6	3.9		灰-359	C-8 5層	無蓋高坏	12.5		坏部 2方透かし	
灰-330	5層	坏身	10.4	3.6		灰-360		5層	無蓋高坏	10.0		坏部
灰-331	B-9 5層	坏身	11.4	3.5		灰-361	C-6 5層	無蓋高坏	12.8	10.6	2方透かし	
灰-332	B-7 5層	坏身	11.3	3.8		灰-362	C-9 5層	無蓋高坏	13.2		坏部	
灰-333	B-7 5層	坏身	10.2	3.8	籠記号	灰-363	B-9 5層	無蓋高坏	11.0		坏部	
灰-334	C-6 5層	坏身	10.6	4.7		灰-364		5層	無蓋高坏	12.8		坏部 2方透かし
灰-335	5層	坏身	10.0	4.0		灰-365		5層	無蓋高坏	14.6		坏部
灰-336	B-9 5層	坏身	11.4	3.8		灰-366		5層	無蓋高坏	14.8		坏部
灰-337	C-6 5層	坏身	10.6	4.9		灰-367	C-6 5層	有蓋高坏	12.0	11.6	3方透かし	
灰-338	5層	坏身	12.2	4.6		灰-368		5層	有蓋高坏	11.3		3方透かし
灰-339	5層	坏身	10.8	4.4		灰-369	C-9 5層	有蓋高坏	13.8	13.3	3方透かし	
灰-340	5層	坏身	11.0	3.6		灰-370	C-9 5層	有蓋高坏	11.6		坏部	
灰-341	C-6 5層	坏身	11.2	4.3		灰-371	C-6 5層	有蓋高坏	11.0		坏部 3方透かし	
灰-342	B-9 5層	坏身	10.8	4.2		灰-372	C-9 5層	有蓋高坏	11.0		坏部	
灰-343	C-6 5層	坏身	10.5	3.9		灰-373		5層	高坏		脚部 3方透かし	
灰-344	C-9 5層	坏身	11.0	4.4		灰-374	C-6 5層	高坏			脚部 3方透かし	
灰-345	C-6 5層	坏身	9.6	3.5		灰-375	B・C-6 5層	高坏			脚部 3方透かし	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-376	C-10 5層	高壺			脚部 2段3方透かし	灰-406	5層	甕	16.2		口縁部
灰-377		5層	高壺		脚部	灰-407	5層	甕	18.8		口縁部
灰-378	C-6 5層	壺の蓋	10.0	4.0		灰-408	C-6 5層	甕	16.8		口縁部
灰-379		5層	壺の蓋	10.4	4.2	灰-409	B-7・8 5層	甕	20.0		口縁部
灰-380		5層	壺の蓋	10.4	4.0	灰-410	5層	甕	20.2		口縁部
灰-381	B-9 5層	小型壺 壺の蓋			セット(重ね焼き)	灰-411	C-6 5層	甕			口縁部片
灰-382		5層	短頸壺	4.2	5.7	灰-412	5層	甕			口縁部片
灰-383	B-8 5層	短頸壺	5.8	5.5		灰-413	B-7・8 5層	甕			口縁部片
灰-384	D-7 5層	短頸壺	8.0			灰-414	C-6 5層	甕			口縁部片
灰-385	C-6 5層	短頸壺	4.4		櫛状工具による刺突文	灰-415	5層	甕	16.8		口縁部
灰-386	B-8 5層	短頸壺	10.6			灰-416	C-6 5層	甕			口縁部片
灰-387	B-9 5層	短頸壺	12.8		櫛状工具による刺突文	灰-417	B-9 5層	甕			口縁部片
灰-388		5層	直口壺	8.2		灰-418	C-6 5層	甕			口縁部片
灰-389		5層	直口壺	9.8		灰-419	B-7 5層	甕	37.0		口縁部
灰-390		5層	直口壺	9.2		灰-420	B-8 5層	甕	46.4		口縁部
灰-391	C-6 5層	直口壺	9.2			灰-421	C-6 5層	甕	49.2		口縁部
灰-392		5層	直口壺	6.8		灰-422	C-6 5層	甕	53.0		口縁部
灰-393	C-8 5層	直口壺	7.1	8.0		灰-423	5層	甕	47.0		口縁部
灰-394	C-6 5層	直口壺	8.8	11.7	カキ目	灰-424	5層	甕	48.6		口縁部
灰-395	B-9 5層	直口壺	7.4		カキ目	灰-425	B-9 5層	甕			口縁部 剥離部(坏身 接着)
灰-396		5層	甕	12.0	口縁部	灰-426	B・C-8 5層	甕	19.2		口縁部
灰-397	B・C-7 5層	甕	11.2		口縁部 篓記号	灰-427	5層	甕	20.1		口縁部
灰-398	C-6 5層	甕	11.4		口縁部	灰-428	B・C-9 5層	甕	15.8		口縁部
灰-399		5層	提瓶	10.5	把手あり	灰-429	5層	甕	16.6		口縁部
灰-400	B-7・8 5層	提瓶			胴部 篓記号	灰-430	B・C-6 5層	甕	19.6		口縁部
灰-401		5層	提瓶	13.6	把手あり	灰-431	5層	甕	15.0		口縁部
灰-402	C-9 5層	横瓶	12.2			灰-432	5層	甕	17.8		口縁部
灰-403	B・C-8 5層	横瓶	13.8		口縁部	灰-433	5層	甕			口縁部片
灰-404	B・C-8・9 5層	横瓶	15.7			灰-434	C-8 5層	甕			口縁部片
灰-405	B・C-8 5層	甕	14.0		口縁部	灰-435	C-9 5層	甕			口縁部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-436	C-6 5層	甕	21.2		口縁部	灰-466	B-9 5層	窯道具(环蓋)	12.8	3.4	天井部円孔
灰-437	C-8 5層	甕	23.0			灰-467	C-6・8 5層	窯道具(环蓋)	13.6	3.4	天井部円孔
灰-438	5層	甕	48.0		口縁部	灰-468	C-8 5層	窯道具(环身)	10.0	3.7	底部円孔
灰-439	5層	甕	49.4		口縁部	灰-469	C-6・8 5層	窯道具(环身)	12.0	3.3	底部円孔
灰-440	B-9 5層	甕	54.6		口縁部	灰-470	C-6 5層	窯道具(环身)	10.0	3.4	底部円孔
灰-441	B・C-5 5層	甕	43.0		口縁部	灰-471	C-8 5層	窯道具			
灰-442	B-9 5層	甕	44.0		口縁部	灰-472	C-6・8 5層	窯道具			
灰-443	5層	甕	39.0		口縁部	灰-473	C-6 5層	窯道具(環)			
灰-444	B・C-9・10 5層	甕			口縁部片	灰-474	5層	土鉢			須恵質
灰-445	C-6 5層	壺	16.2		口縁部	灰-475	C-6 5層	器形不明			
灰-446	C-9 5層	壺	14.8		口縁部	灰-476	C-9・10 5層	甕	22.2		土師質
灰-447	5層	壺	11.2		口縁部	灰-477	B-7・8 5層	甕	17.4		土師質
灰-448	5層	壺	11.6			灰-478	C-6 5層	甕	13.6		土師質
灰-449	5層	壺	9.4			灰-479	C-6 6層	坏身	10.4	4.2	範記号
灰-450	5層	壺	18.3			灰-480	C-6 6層	高坏			脚部 3方透かし
灰-451	B-7 5層	壺	22.0			灰-481	C-6 6層	甕			口縁部片
灰-452	B-8・9 5層	壺	12.0		口縁部	灰-482	C-6 6層	甕			口縁部片
灰-453	B・C-6 5層	甕			口縁部片	灰-483	C-6 6層	甕			口縁部片
灰-454	B・C-8 5層	甕			口縁部片	灰-484	C-6 6層	甕	19.2		口縁部
灰-455	5層	甕			口縁部片	灰-485	B・C-8 その他	坏身	10.6	4.1	
灰-456	B-7・8・9 5層	壺	17.0		口縁部	灰-486	その他	甕	43.0		口縁部
灰-457	5層	甕			口縁部片	灰-487	その他	甕			口縁部片
灰-458	B-9 5層	甕			頸部片	灰-488	その他	甕			口縁部片
灰-459	B-9 5層	甕			頸部片	灰-489	その他	甕			頸部片
灰-460	C-6 5層	甕			頸部片	灰-490	B・C-5 その他	甕			頸部片
灰-461	C-9 5層	甕			肩部片						
灰-462	B・C-6 5層	甕			肩部片						
灰-463	C-6・8 5層	甕			肩部片						
灰-464	B-9 5層	甕			胴部片						
灰-465	5層	甕			胴部片 6-8と同じ						

灰原調査区（下の南区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-491	A-8 2'層	高台付坏			底部 把手付
灰-492	A-5 2'層	紡錘車			須恵質
灰-493	A-9 6層	坏身	12.0	3.8	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-494	A-9 6層	坏	10.8	3.9	底部回転糸切り

灰原調査区（C-1区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-495	1層	坏身	12.8	3.8	
灰-496	1層	坏身	12.4	3.7	
灰-497	1層	坏身	10.0	3.8	
灰-498	1層	器種不明			須恵質

北部調査区（4号窯跡北側排水溝周辺）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-001	1層	坏蓋	10.0		
北-002	1層	坏身	8.8	3.1	
北-003	1層	坏身	9.4	3.6	
北-004	1層	坏	10.2		
北-005	1層	短頸壺	6.0		
北-006	1層	甕			口縁部片
北-007	1層	皿	7.4	1.1	土師質土器 底部回転糸切り
北-008	1層	皿	7.4	1.3	土師質土器 底部回転糸切り
北-009	1層	皿	7.6	1.3	土師質土器 底部回転糸切り
北-010	1層	皿	7.4	1.6	土師質土器 底部回転糸切り
北-011	1・2層	輪状つまみ付蓋	14.6	3.6	かえり
北-012	1・2層	輪状つまみ付蓋	13.6	3.1	かえり
北-013	1・2層	甕	19.6		
北-014	2層	坏蓋	12.8		
北-015	2層	坏身	13.6		
北-016	2層	坏	12.2	3.6	
北-017	2層	坏	10.6	3.5	
北-018	2層	擬宝珠つまみ付蓋	10.2	2.7	かえり
北-019	2層	輪状つまみ付蓋	12.8	2.4	かえり
北-020	2層	蓋	13.8		かえり
北-021	2層	蓋	19.0		かえり

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-022	3層	坏蓋	9.1	3.5	
北-023	3層	坏蓋	10.8	3.5	
北-024	3層	坏蓋	11.2	3.8	
北-025	3層	坏身	7.6	3.0	
北-026	3層	坏身	8.8	3.2	
北-027	3層	坏身	9.6		
北-028	3層	坏身	8.8	3.2	
北-029	3層	坏身	10.7	3.9	
北-030	3層	坏身	10.8		
北-031	3層	輪状つまみ付蓋	14.2	3.7	かえり
北-032	3層	蓋	15.8		かえり
北-033	3層	輪状つまみ付蓋	12.0	1.7	かえり
北-034	3層	蓋	22.0		
北-035	3層	高台付坏	16.8	5.5	カキ目
北-036	3層	高台付坏	16.4	5.5	
北-037	3層	高台付坏	12.6	4.7	
北-038	3層	高台付坏			底部
北-039	3層	坏	9.2	3.7	
北-040	3層	長頸壺	8.0		口縁部
北-041	3層	壺			底部
北-042	3層	壺			胸部 跪記号
北-043	3層	高台付長頸壺			
北-044	3層	甕	16.0		土師質
北-045	3層	土製支脚			須恵質
北-046	3層	器種不明			土師質
北-047	3・4層	坏蓋	9.8	2.6	
北-048	3・4層	坏身	8.8	3.1	
北-049	3・4層	坏身	11.2	3.8	
北-050	3・4層	擬宝珠つまみ付蓋	10.6	2.1	かえり
北-051	3・4層	無蓋高坏	14.6	9.9	透かし

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-052	3・4層	無蓋高环	17.2	14.0	2段2方透かし	北-082	4層	坏身	7.4	3.1	
北-053	3・4層	無蓋高环	15.1	9.5	2方透かし 篓記号	北-083	4層	坏身	9.2	2.3	
北-054	3・4層	短頸壺	8.0	6.6		北-084	4層	坏身	12.4		
北-055	3・4層	壺	16.0	20.3		北-085	4層	輪状つまみ付蓋	12.4	2.4	かえり 竹管文
北-056	3・4層	横瓶	19.2			北-086	4層	輪状つまみ付蓋	12.2	2.7	かえり
北-057	3・4層	横瓶	11.6		竹管文	北-087	4層	輪状つまみ付蓋	16.0	2.3	
北-058	3・4層	甕			胴部片	北-088	4層	輪状つまみ付蓋	14.8	2.4	籃記号
北-059	4層	坏蓋	14.2	4.0		北-089	4層	蓋	20.0		
北-060	4層	坏蓋	8.8	2.8		北-090	4層	蓋	21.2		
北-061	4層	坏蓋	10.1	3.6		北-091	4層	蓋	13.8		かえり
北-062	4層	坏蓋	10.2	3.6		北-092	4層	擬宝珠つまみ付蓋	6.8	2.5	かえり
北-063	4層	坏蓋	10.4	3.1		北-093	4層	高台付坏	18.0	6.7	
北-064	4層	坏蓋	9.6	3.6		北-094	4層	高台付坏	16.5	4.4	
北-065	4層	坏蓋	10.4	3.8		北-095	4層	高台付坏	15.6	5.7	底部糸切り
北-066	4層	坏蓋	11.4	4.2		北-096	4層	高台付坏	15.0	5.6	
北-067	4層	坏蓋	10.2	4.0		北-097	4層	高台付坏	13.6	5.0	底部回転糸切り
北-068	4層	坏蓋	10.3	4.2		北-098	4層	高台付坏	13.1	4.7	
北-069	4層	坏身	10.6	5.1		北-099	4層	高台付坏	13.8	4.1	
北-070	4層	坏身	9.4	3.1		北-100	4層	坏	12.8		
北-071	4層	坏身	9.4	3.4		北-101	4層	坏	12.0		
北-072	4層	坏身	10.4	4.0		北-102	4層	坏	8.4	3.0	
北-073	4層	坏身	8.4	3.0		北-103	4層	坏	12.8	3.7	
北-074	4層	坏身	9.2	3.5	籃記号	北-104	4層	坏	12.2	3.8	底部糸切り
北-075	4層	坏身	11.7	3.6		北-105	4層	無蓋高环	15.8	12.5	2段2方透かし
北-076	4層	坏身	9.4	3.4	籃記号	北-106	4層	無蓋高环	16.6	12.4	2段2方透かし
北-077	4層	坏身	9.8	3.6		北-107	4層	無蓋高环	16.2	14.0	2段2方透かし
北-078	4層	坏身	8.8			北-108	4層	無蓋高环	16.8	11.1	2方透かし 篓記号
北-079	4層	坏身	9.2	3.2		北-109	4層	無蓋高环	16.2	10.9	2方透かし
北-080	4層	坏身	7.7	3.6		北-110	4層	無蓋高环	15.6	9.8	2方透かし 篓記号
北-081	4層	坏身	8.8	4.1	籃記号	北-111	4層	無蓋高环	16.4	11.7	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-112	4層	無蓋高坏	16.2	11.5	
北-113	4層	無蓋高坏	18.2	10.2	
北-114	4層	無蓋高坏	15.2		坏部 2方透かし
北-115	4層	甌	10.0		口縁部
北-116	4層	短頸壺	6.6	3.5	
北-117	4層	短頸壺	6.2	3.5	
北-118	4層	短頸壺	7.2	6.7	
北-119	4層	短頸壺	8.6		
北-120	4層	長頸壺		19.1	カキ目
北-121	4層	壺			胴部 瓢記号
北-122	4層	壺			胴部 瓢記号 カキ目
北-123	4層	長頸壺		17.7	瓢記号
北-124	4層	壺			胴部 瓢記号 カキ目
北-125	4層	長頸壺			頸部
北-126	4層	甌			胴部
北-127	4層	壺			肩部
北-128	4層	甌	15.2		
北-129	4層	甌			頸部
北-130	4層	甌	23.4		土師器
北-131	4層	把手			土師質
北-132	4層	把手			土師質
北-133	4層	土製支脚			土師質
北-134	4層	土製支脚			土師質
北-135	4層	土製支脚			土師質
北-136	4層	土製支脚			土師質
北-137	6層	坏蓋	13.0	3.8	
北-138	6層	坏身	12.0	2.4	
北-139	6層	竈			土師質
北-140	6層	把手			土師質
北-141	1・3層	直口壺	10.0		

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-142	3・6層	坏身	10.2	3.1	
北-143	4・6層	輪状つまみ付蓋	16.2	4.0	かえり
北-144	3・4・6層	横瓶	14.8		箇記号

北部調査区（4号窯跡煙道部陥没内）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-145	陥没内一括	坏蓋	12.0		
北-146	陥没内一括	坏蓋	13.6		
北-147	陥没内一括	坏身	10.4		
北-148	陥没内一括	坏身	11.2	3.4	
北-149	陥没内一括	坏身	10.0	3.6	
北-150	陥没内一括	坏身	9.4		
北-151	陥没内一括	坏身	12.2	4.1	
北-152	陥没内一括	坏身	12.0		
北-153	陥没内一括	甌			

北部調査区（ア-2・3区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-154	表土	陶棺			
北-155	3層	坏蓋	12.8		
北-156	3層	坏蓋	12.6	3.7	
北-157	3層	坏蓋	13.8	4.3	
北-158	3層	坏身	10.8		
北-159	3層	坏身	9.1	3.5	
北-160	3層	坏身	12.0	3.7	
北-161	3層	坏身	11.4		
北-162	3層	輪状つまみ付蓋	13.6	3.4	かえり
北-163	3層	輪状つまみ付蓋	15.0	3.2	かえり
北-164	3層	蓋	11.0		かえり
北-165	3層	輪状つまみ付蓋	15.2	1.4	
北-166	3層	蓋	14.8		
北-167	3層	蓋	15.8		

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-168	3層	蓋	16.8		
北-169	3層	高台付坏	13.4	4.9	底部回転糸切り
北-170	3層	高台付坏	13.8	5.4	底部回転糸切り
北-171	3層	高台付坏	15.8	4.0	底部糸切り
北-172	3層	椀	13.6	6.1	重ね焼き痕
北-173	3層	短頸壺	7.0	6.2	底部回転糸切り
北-174	3層	短頸壺	6.4		
北-175	3層	短頸壺	8.0		
北-176	3層	短頸壺	11.4		
北-177	3層	短頸壺	11.0		
北-178	3層	窯道具箇			頸部
北-179	3層	甕	21.8		土師器
北-180	3層	鍋	19.0		土師器
北-181	3層	土製支脚			土師質
北-182	3層	竈			土師質
北-183	3層	竈			土師質
北-184	3層	古錢			寛永通寶
北-185	3層	石礫			黒曜石
北-186	3・4層	直口壺	10.2		
北-187	4層	坏身	11.6		
北-188	4層	有蓋高坏	10.2		坏部
北-189	4層	甕			胴部 刺突文
北-190	4層	甕			頸部片
北-191	4層	甕	39.0		口縁部
北-192	4層	竈			土師質

北部調査区（エ-3・4区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-193	SK-04	坏蓋	7.8	3.6	
北-194	SK-04	坏蓋	9.6	3.6	
北-195	SK-04	坏身	10.8	2.6	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-196	SK-04	高坏			脚部 2段3方透かし
北-197	SK-04	坏	17.4	4.6	
北-198	SK-04	短頸壺	4.4	3.9	
北-199	SK-04	甕	16.2	30.3	
北-200	SK-04	甕	22.0		土師器
北-201	SK-04周辺	坏身	8.0	3.0	
北-202	SK-04周辺	蓋	13.2		かえり カキ目
北-203	SK-04周辺	椀	10.8		
北-204	SK-04周辺	有蓋高坏	9.2		坏部
北-205	SK-04周辺	有蓋高坏	9.2	8.5	2方透かし
北-206	SK-04周辺	装飾壺	7.2	9.2	
北-207	SK-04周辺	甕	20.8		
北-208	SK-04周辺	甕	24.2		土師器
北-209	SK-04周辺	甕	21.6		土師器
北-210	SK-04周辺	椀	13.2		

北部調査区（エ-5区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-211	表土	土馬			須恵質
北-212	2層	坏身	8.2	2.9	
北-213	3層	坏蓋	9.0	3.3	

北部調査区（ア・イ-6区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-214	ア-6 表土	坏蓋	10.6	3.4	
北-215	ア-6 2層	坏蓋	12.6	3.8	
北-216	イ-6 3層	蓋	15.4		
北-217	イ-6 焼土	短頸壺	6.0		
北-218	ア-6 表土	壺	10.8		口縁部
北-219	ア-6 表土	高台付壺			底部
北-220	ア-6 3層	甕	31.6		土師器

北部調査区（ウー1・2区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-221	ウー1 表土	环身	8.0	2.8	
北-222	ウー1 2層	蓋	9.8	2.5	かえり
北-223	ウー1 2層	高台付环	12.6	4.3	
北-224	ウー1 2層	高台付环			底部糸切り
北-225	ウー1 2層	高台付环			
北-226	ウー1 2層	壺			胴部
北-227	ウー2 2層	高台付壺			底部
北-228	ウー1 2層	甕	22.0		土師器
北-229	ウー1 2層	磨製石斧			蛤刃形

北部調査区（その他）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-230	アー2区4層・ イー3区3層	环身	10.4		
北-231	アー2区4層・ ウー5区4層	蓋	19.0		
北-232	アー3区2層・ ウー2区表土	窯道具			

東部調査区（b区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-001	2層	高台付环	14.8	4.4	底部静止糸切り
東-002	2層	高台付环			範記号

東部調査区（c区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-003	2層	环	8.8		
東-004	2層	环	20.0		カキ目
東-005	2層	輪状つま み付蓋	18.2	3.3	かえり
東-006	2層	甕	17.9		口縁部
東-007	2層	竈			土師質
東-008	3層	輪状つま み付蓋	20.2	4.6	かえり
東-009	3層	高台付环	10.3	3.9	底部回転糸切り
東-010	3層	高台付环	13.7	4.8	底部静止糸切り
東-011	3層	高台付环	14.8	4.8	
東-012	3層	高台付环			底部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-013	3層	高台付壺			
東-014	3層	把手			須恵質
東-015	3層	竈			土師質
東-016	3層	竈			土師質
東-017	3層	陶棺			

東部調査区（d区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-018	表土	甕			口縁部片
東-019	表土	甕			口縁部片
東-020	2層	蓋	18.4		かえり
東-021	2層	無頸壺	9.6		
東-022	2層	甕			頸部片
東-023	2層	甕			頸部片
東-024	3層	环身	9.0	3.8	
東-025	3層	皿	11.8	1.4	底部静止糸切り
東-026	3層	环	11.2	5.4	
東-027	3層	环	10.2	4.3	
東-028	3層	輪状つま み付蓋	14.4	2.4	
東-029	3層	輪状つま み付蓋	15.2	1.3	
東-030	3層	輪状つま み付蓋	14.8	3.6	
東-031	3層	輪状つま み付蓋	15.0	3.3	
東-032	3層	蓋	15.6		範記号
東-033	3層	蓋	14.2		
東-034	3層	輪状つま み付蓋			
東-035	3層	輪状つま み付蓋	14.2	3.5	かえり
東-036	3層	高台付环	12.8	5.7	底部静止糸切り 範記号
東-037	3層	高台付环	12.8	5.0	
東-038	3層	高台付环	16.0	4.2	底部回転糸切り
東-039	3層	無蓋高环	9.8		環部
東-040	3層	高环			2方透かし

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-041	3層	壺	16.0		
東-042	3層	甕	24.0		土師器
東-043	3層	土錐			須惠質

東部調査区（e 区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-044	2号焼土壤	輪状つまみ付蓋	14.7	2.8	
東-045	2号焼土壤	小壺	6.6	5.1	
東-046	2層	坏身	10.2	3.6	
東-047	2層	輪状つまみ付蓋	14.6	3.1	
東-048	2層	蓋	13.0		
東-049	2層	輪状つまみ付蓋	17.2	3.1	かえり
東-050	2層	擬宝珠つまみ付蓋	11.8	2.5	かえり
東-051	2層	蓋	15.0		かえり
東-052	2層	坏	8.6	3.2	
東-053	2層	高台付坏	9.4	3.6	底部箇削り
東-054	2層	坏			
東-055	2層	無蓋高坏	9.8		坏部
東-056	2層	短頸壺	9.0	4.8	箇記号
東-057	2層	甕			口縁部片
東-058	2層	甕			口縁部片
東-059	2層	甕			口縁部片
東-060	2層	甕			口縁部片
東-061	2層	甕			口縁部片
東-062	2層	甕			口縁部片
東-063	3層	坏蓋	14.4		
東-064	3層	坏蓋	13.2		
東-065	3層	坏蓋	10.6	3.2	箇記号
東-066	3層	坏身	10.8	4.1	
東-067	3層	坏身	10.0	3.3	
東-068	3層	輪状つまみ付蓋	13.4	3.3	かえり 箇記号

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-069	3層	輪状つまみ付蓋	12.4	3.3	かえり
東-070	3層	輪状つまみ付蓋	14.8	3.9	かえり 箇記号
東-071	3層	輪状つまみ付蓋	16.0	2.6	かえり
東-072	3層	蓋	16.6		
東-073	3層	輪状つまみ付蓋	16.8	2.9	
東-074	3層	蓋	22.4		
東-075	3層	輪状つまみ付蓋	13.8	2.7	かえり
東-076	3層	輪状つまみ付蓋	16.8	2.8	かえり
東-077	3層	擬宝珠つまみ付蓋	12.0	3.1	かえり
東-078	3層	蓋	11.2	2.6	かえり
東-079	3層	坏	10.0	3.4	
東-080	3層	坏	11.2	4.0	
東-081	3層	坏	12.8	4.1	
東-082	3層	坏	15.6		
東-083	3層	坏	13.0	4.3	
東-084	3層	坏	23.4		カキ目
東-085	3層	鉄鉢	16.0		
東-086	3層	高台付坏			
東-087	3層	高台付坏	12.4	4.1	箇記号
東-088	3層	高台付坏	12.0	4.6	
東-089	3層	高台付坏	15.0	5.0	
東-090	3層	高台付坏	16.0	5.2	
東-091	3層	高台付坏	16.0	4.6	
東-092	3層	高台付坏	15.6	4.1	
東-093	3層	高台付坏	15.6		
東-094	3層	高台付坏	14.8	4.8	
東-095	3層	高台付坏			
東-096	3層	高台付坏	10.4	4.7	
東-097	3層	高坏			脚部 2方透かし
東-098	3層	無蓋高坏	19.6		坏部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-099	3層	短頸壺	11.8		
東-100	3層	小壺			箇記号
東-101	3層	広口壺	10.2	10.6	
東-102	3層	壺			底部穿孔あり
東-103	3層	高台付壺			
東-104	3層	長頸壺	5.8		
東-105	3層	壺	17.1		
東-106	3層	甕			口縁部片
東-107	3層	甕			口縁部片
東-108	3層	陶棺			
東-109	3層	竈			土師質
東-110	3層	甕	18.0		土師器
東-111	3層	土製支脚			土師質
東-112	3層	土製支脚			土師質
東-113	4層	坏身	7.6	2.6	
東-114	4層	坏身	10.8	3.4	
東-115	4層	器種不明	22.5		
東-116	2・3層	坏身	9.6		箇記号
東-117	2・3層	甕	20.6		口縁部
東-118	2・5層	甕	26.4		須恵質

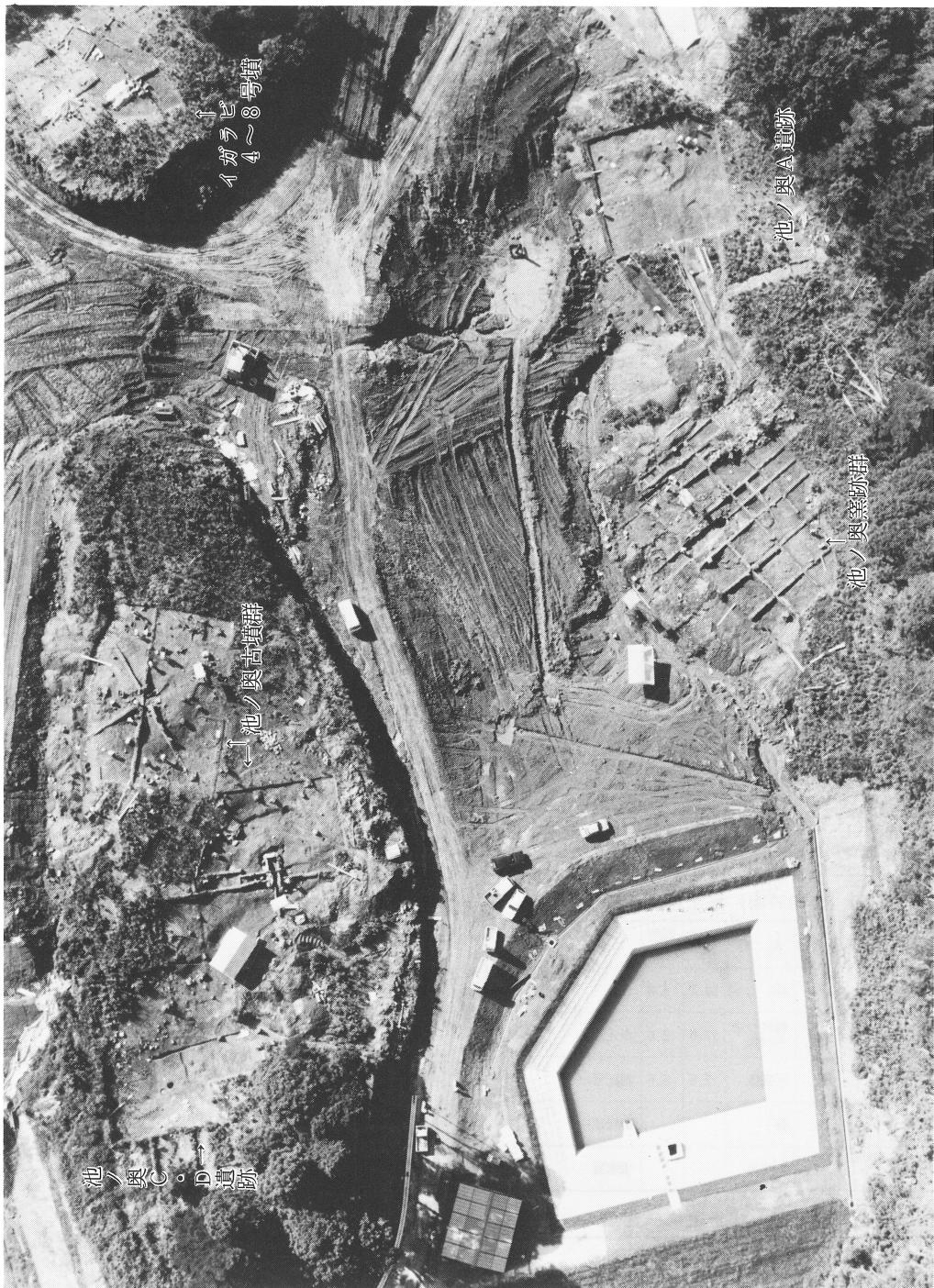
東部調査区（北側斜面）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-119	表土	坏	13.2	4.8	
東-120	表土	輪状つまみ付蓋	17.8	2.6	かえり
東-121	表土	短頸壺	7.8	6.5	箇記号
東-122	表土	甕			口縁部片
東-123	表土	紡錘車			須恵質

東部調査区（その他）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-124	e区2層・d区3層	甕	24.8		口縁部
東-125	e区2層・灰原AB-5(下の北)区2層	甕			口縁部片

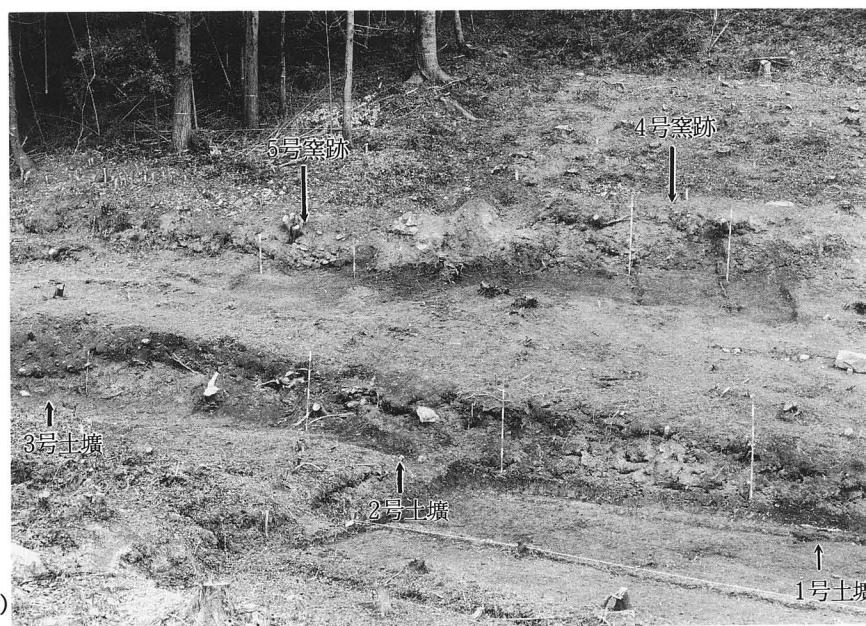
東工業団地内遺跡群航空写真



発掘調査前全景



発掘調査前全景（手前の段
右より1・2・3号土壙
奥の段右より4・5号窯跡）



旧水田平坦面東側A-1区





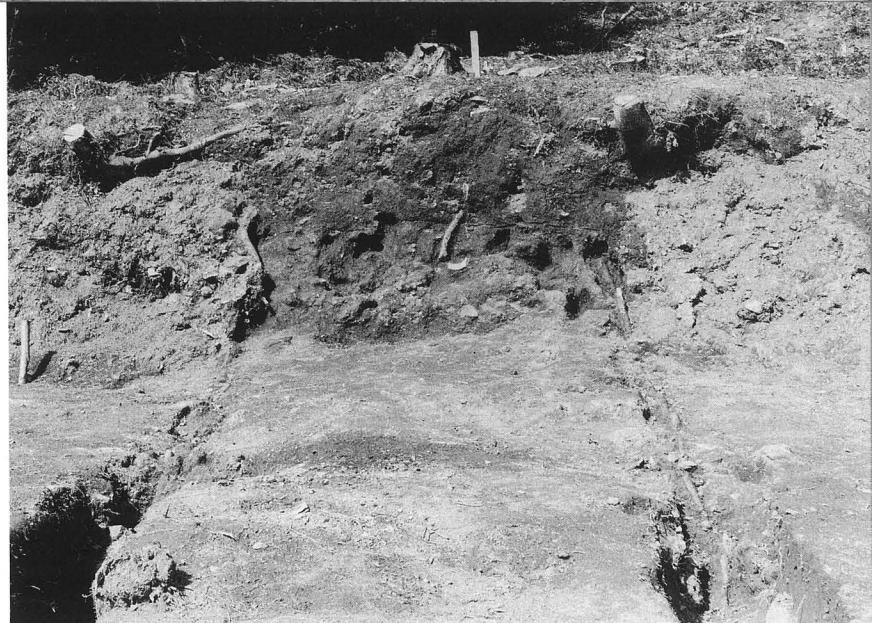
旧水田平坦面東側C-1区



現地指導会風景



4号窯跡調査前
窯体規模確認状況



4号窯跡調査
窯体規模確認状況



4号窯跡天井部検出状況



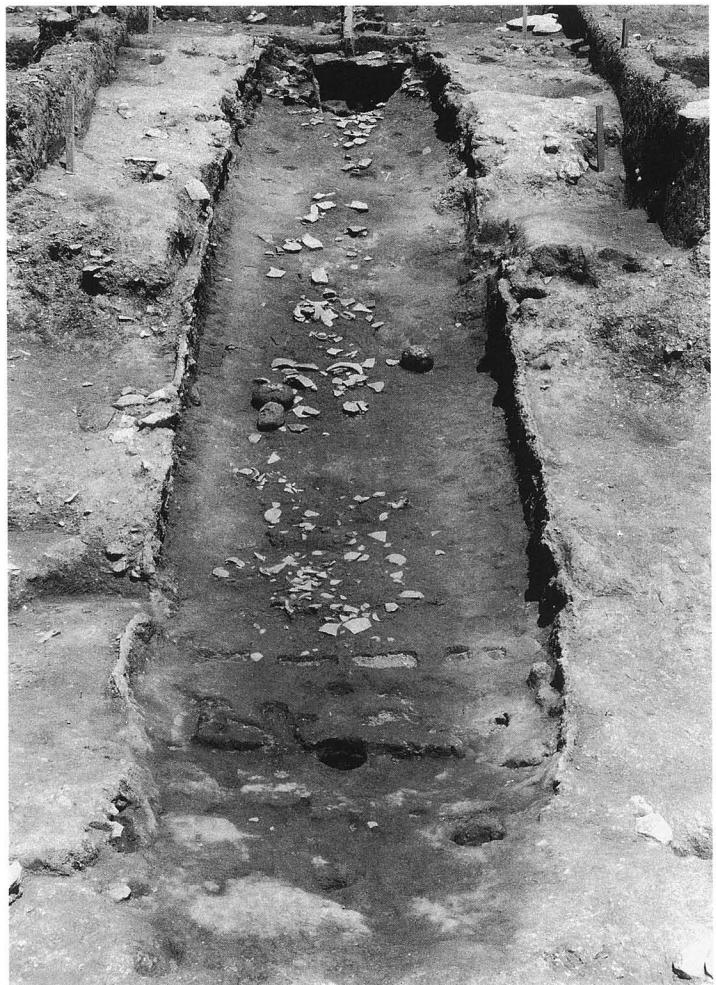
4号窯跡天井部削平状況



4号窯跡床面遺物検出状況



4号窯跡焚き口から燃焼部にかけての遺物・土層堆積状況



4号窯跡床面遺物検出状況



4号窯跡床面の遺物（拡大）



4号窯跡
煙道部陥没と周囲の遺物



4号窯跡窯体床面に
施された補修の跡



4号窯跡床面検出状況